

救助支持して再起獨歩せしめること少からず、一方の指導者としての權威を尊敬せられつゝある人材である。今後の躍進のめざましきは期して待つべきものがある。それを村民は翹望して措かないのである。

### 川東村板山

#### 板山信用販賣組合

當組合は川東村大字板山を區域とし、組合員百餘名を算し、設立以來常に良好なる成績を示して今日に至り、近く出資増額の計畫もあるなど、業績見るべきもの頗る多く、木炭倉庫を有し、特色ある活動を展開してゐる。

最近に於ける事業概況を見るに  
 貸付總額 二〇・〇〇〇圓  
 貯金 二四・〇〇〇圓  
 購買價額 一八・二〇七圓  
 販賣價額 二六・二四七圓

の數字を示してゐる。主唱發起功勞者は佐藏豐次郎氏である。

### 組合長 石井正平



氏は、明治十八年十二月二十日の岳降にして、石井

佐平氏の養子である。

夙に信用組合理事、同監事、村會議員二期、

區長等の要職を歴任して赫々たる業績をのこし、當組合長に就任してよりすでに十數年を閲し、組合切つての偉大なる功勞者である。政友會系の人物にて、資性濃厚篤實である。

家族は七人あり、長男佐平氏（大正元年生）、二男（大正四年生）、三男（大正十五年生）は共に頭腦明晰にして秀才の聞えがある。

因に石井家は村内有數の舊家として知られ、しかもなか／＼の人望家で、養父氏は村會議員、信用組合理事等に任じて貢獻した人である。

### 加治村關妻

#### 關妻土地利用組合

共同苗代地を設けし、これを組合員に利用せしめるを目的となし、明治四十四年五月十八日創立になる當組合は、實に全國に於ける苗代組合の嚆矢である。設立當時は組合員十三名、出資口數三十二口の微々たる小組合であつたが、爾來組合員一致の團結を以て伸展を目指して努力邁進し、その進行は隣保團結の精神を發揮して相互に融和し、春風洋々として組合員一同ますます奮勵を續け、遂に現在の隆盛に至りしものである。

その組織は有限責任にして、出資一口は百圓、組合長の下に理事二名、監事一名を置き、現組合長は猿子善吉氏、理事は川崎與三郎、猿子吉藏の兩氏、監事は川崎定吉氏で、設立許可を得るに献身的盡瘁をなせるは齋藤善太郎氏で、今もその功をたゞへられ、且つ一般から感謝せられてゐる。

### 組合長 猿子善吉



現組合長として努力盡瘁する氏は亦、當組合發起設立の功勞者でもあり、

當組合の現在の隆盛に至るまでの盡力は實に

涙なしでは見られず、尙ほ夙に自治にも關與し當村助役として村勢伸展上に多大の貢獻をなし、また農會副會長、區長、信用組合長、經濟更生委員その他村諸般の公職を歴任し、現任するは消防組頭、六期目の村會議員、學務委員、歴任する區長等の要責にて、自治に産業にと印せる功勞は地方自治史上稀に見る多大なるもので表彰も枚擧に遑がない。

因に當家は代々村勢伸展上に功を效せる家柄にして、先々代氏は村長、村會議員として、自治制施行直後の亂雜なる村政を解決し當村現在の隆盛に至りし先鞭

をつけれ功勞者であつた。

先代吉兵衛氏、また當村収入役として専ら村經濟の事に携はり、努力貢獻をなした。當主は明治十六年三月十一日の出生にして先代の長男である。天性濃厚にして篤實なる人格者であり、三十五歳の折、不幸にも令閨と死別し、以來獨身を以て現在に至る。

令息五人あり、長男吉左衛門氏はいま二十五歳にて役場兵事課に勤務中にて、外四人の令息みな現役軍人にして、稀に見る名譽の一家である。

### 築地村

#### 築地信用販賣購買組合

本組合は大正三年五月一日設立總會を開いて、名稱を有限責任築地信用組合となし、本村大字下高田、築地、築地新、山王の四大字を組合區域とし、事務所を下高田の浮田長須計氏宅に置き、同年九月三十日設立認可を受けたのである。同五年十一月、大字中村濱、管口濱、高畑

宮瀬の四大字を加へ、次で同七年一月大字高橋、中倉、堀口の三大字を加へせしめ、同十一年一月これを全村に擴充し、翌年有限責任築地信用利用組合と改稱、昭和二年五月農業倉庫、作業場を新築し有限責任築地信用販賣利用組合と改稱、同八年一月保證責任築地信用販賣利用組合と組織を變更し、宮瀬支庫及び高畑作業場を買収してこれを第二作業場となし以て今日に及んでゐる。

本組合の出資一口の金額は十圓であるが、本村全戸數八百三十七戸のうち、八百二十戸の加入者を見せてゐる。以て本組合の隆昌振りを察知することが出来る。なほ本組合には牛三十五頭、豚三十頭、羊二十一頭を飼育し、これ等を品種改良のため、進んで農村へ貸付けをなしてゐる。

曾て同六年九月十五日産業組合本縣支會長から、成績優良の故を以て表彰されたことがあるほどで、本組合今後の發展は知るべきである。



組合長

浮須 猪三郎

氏は、明治十九年五月十六日の出生、永らく村自治に關與、曩に村長に在任すること一ケ年また農會長に推されて農耕方面に裨益する甚大なるものがあつた。今、本組合の組合長に任じてゐるが、利益等を度外視し只管組合法を遵守して邁進してゐる。氏は温厚にして學實剛健、また業務に熱心なる態度と人格とは、組合員は勿論のこと、組合員外の人たちからまで推賞嘆美されてゐる。

川東村石喜

川東信用 購賣販賣利用組合

創立以來約三十年、常に赫々たる發展の一路を辿り來りし當組合は、組合員七百八十餘名を算し、出資一口の金額二十圓にして總口數九百二十有餘、保證責任組織にて保證金總額は一萬八千四百餘圓に達してゐる。組合精神の普及徹底せること郡内に冠絶し、一致團結により事業

成績は年毎に向上を呈し、事業量もまた級數的增加を示してゐる。現時、貯金總額は三十七萬六千餘圓に達し、また昭和十二年度中一ケ年間の貸出總額は十四萬五千餘圓にして、その償還高も十五萬六千餘圓に上つた。肥料その他の購買品賣却高は十一萬一千餘圓をかぞへる。次に生産米の情況を見るに、その入庫數量は一ケ年約一萬九千俵、販賣數量は一萬五千餘俵にして、逐年その數量の増加を見つゝあるは、組合員の組合利用の増進を示すものであり、組合の發展は論を俟たざるところである。

組合長理事は宮野眞三郎氏、理事は本間百在門、宮村鶴吉、澁谷市郎兵衛、須藤六之丞の四氏、監事は田卷清治、齋藤貞、秦茂藏の三氏である。

金塚 塚村

金塚信用 販賣組合

當組合は大正二年に創立せられて今や第二十六年度経過中である。組合員の出

資は一口十圓にて千百八十口、出資拂込總額は一萬千八百八十圓に達してゐる。準備金は七千八百六十二圓、借入金は五萬四千四百四圓、餘裕金たる預金は十二萬九千七百十圓、貸出金は八百九十三件、十九萬六千九百二十六圓、最近年度現在に於ける利益金は二萬八千九百八十九圓、損失は二萬七千七百五十一圓、差引剩餘は九百三十七圓である。預金利率は二分二厘乃至三分九厘、貸付利率は六分乃至八分四厘、貯金は四分乃至四分五厘を保持し、特に家庭藥次第にその賣上を増加しつゝある。そのうち二百四十三圓は準備金、五百五十四圓は配當金（出資一口に付五分）九十圓は特別積立金、五十圓は慰勞金として處分した。

役員は、専務理事瀧澤四郎右衛門氏、理事は白勢正員氏、宮下銀六氏、松田政武氏、星野豐次氏、藤間伊兵衛氏であつて、従業員一同一心協力して精勵し優秀なる成績を保有しつゝある、當業界模範の組合である。

組合専務理事

瀧澤四郎右衛門

氏の家はその創始はなほ古くして今日にいたるまでに八代を重ねたる舊家である。代々農を以て業としてゐて、資産亦たすこぶる裕福を以て遠近に著聞してゐる。先代政太郎氏は助役、村會議員等に歴任して貢献したる偉大なる功勞者である。當主四郎右衛門氏はその男として明治十九年九月に生れた。先には村會議員にあげられ、消防組小頭、區長を歴任し特に信用組合役員に選任せられて貢献するところすくなくならず、今や金塚村信用組合専務理事として連續七箇年間勤続して盡瘁し、その功勞顯著にして萬人の敬仰するところである。また農會代議員をも兼任して寄與しつゝある。

氏はまた政友會の黨員として有數の權威者であるが黨臭を脱して公正を私せず見上げたる正理公義の義人である。曹洞宗を奉じて信仰するところきはめてあつたものがある。夫人は菅谷村の出身、國

防、愛國の兩婦人會々員として熱心に活躍してゐる。長男正司氏二十八歳は神奈川県警察官勤務中、なほその他に四男一女がある。一家はつねに圓滿和合のうちに繁昌しつゝある。

新發田町東町

新發田瓦斯株式會社

電話一〇三番

當會社は昭和七年五月二十五日に創立されたもので、株主總數百六十九名、株總數六千株、その資本金三十萬圓也である。瓦斯供給區域を當新發田町及び猿橋村一圓にわたり、副生物は新發田を中心とせる市場一般に向けられてゐる。一ケ年に於ける供給瓦斯量は五〇〇、〇〇〇立方米、瓦斯ボックスは四五〇瓦、コイルタールは四〇軒を算へてゐる。

最近當會社の損益計算を見るに  
收 入  
瓦斯賣上代金 一三・九三五・一五〇  
副生物代金 六・三二七・五三〇

貸附料 一・〇一〇・六八〇  
雜收入 三二六・三六三  
合 計 二・五九九・七二三

支 出  
諸經費 五・七七八・〇三六  
供給費 六四二・五八〇  
製造費 九・一五三・五四〇  
計量器補修償却 五〇〇・〇〇〇  
減價償却 一・五〇〇・〇〇〇  
當期利益金 四・〇二五・五六七  
合 計 二一・五九九・七二三

を呈してゐる。そして當期利益金と前期繰越金とを合して四千二百三十五圓四十七錢八厘の利益をあげてゐる。

現社長は佐藤太郎吉氏で重役十一名、相談役一名、社員職工共十一名あり、工場を本郡五十公野村に設け、長岡及び三條の兩市に關係會社を置いて事業の躍進を期してゐる。

因に佐藤社長は目下出征中につき、重役中野孫四郎氏の長男勝衛氏が全責任を以て社業の衝に當つてゐる。氏は中央大學出身の果斷に富んだ潑刺たる努力家で



ある。

### 新發田町三ノ丸

#### 縣會議員 井伊 誠一

社會大衆黨に屬して、無産大衆の爲に資本家との間に介在して兩者の圓滑を圖るべく、献身的努力をなし、大衆の希望を一身に擔つて尙も活躍を續けてゐる氏は明治二十五年十月一日の岳降である。

氏は幼時より頭腦明敏にして秀才の聞え高く、また俠氣ある少年と知られ、長ずるや、東京帝國大學法學部に入りて専心法律の研鑽をなし、卒業して後、辯護士試験に合格して現地に開業、それと共に法律の眞實味は生活の安定、社會秩序の安寧にあるが故に、大衆に一身を捧げて盡すを決心したといふ。

今や縣會議員二期目、並に町會議員の要責に在り、縣社會大衆黨の重鎮として縣下政界の中堅として尙も活躍中にて、その縣會に堂々論ずる正義の辯論は縣民の等しく感嘆し、稀に見る材幹と稱すと

ころにて、また辯護士として大衆の爲に活躍するところ多大である。その人格は温厚圓満、一面果斷にして剛柔兩面を備へたる高潔の人格者なるが爲に、衆望ますます高く、一舉一動は縣の自治、産業經濟を支配するもの故、縣民注目の的にて、愈々期待を強められ、氏また現時の緊迫せる時局に際しての社會大衆黨の使命を堅く握り占め、愈々大衆のために奔走活躍をなしてゐる。

家庭は春風和樂の家として知られ、二男四女の令息令嬢あり、ツキ子夫人は淑徳の譽れ高く、賢夫人を以て知られる。

#### 神山村天神堂

縣會議員  
元村長  
白龍醸造元

#### 白井 秀吉

白井家はその創立すこぶる古く今日にいたるまで星霜を閱すること五百年に及び、代々庄屋をつとめて令名高く、資産亦た積んで莫大をなした。當白井家は天保年間に新潟市の本家より分家獨立して

當地に定住したるものである。代々農を以て業としてゐたが、祖父の代より酒釀造の業を創めて好評を博し、先代之を繼いで改善向上につとめ、名吟釀『白龍』號を賣り出すや、斷然市場を壓倒して聲價最も壯大を極めるに至つた。

當主秀吉氏は明治二十年の出生にして父祖の業を繼承し精勵大いにつとめ、全村一致の大信望の下に推舉されて村長の任に就き、盡瘁恪勤すること多年にわたる、貢獻はなほだ顯著であつた。今や縣會議員に任ぜられて縣政界に活躍し、また全國酒造組合評議員、および北蒲原郡酒造組合會長を兼任して、最善をつくして盡瘁しつゝある。芳醇『白龍』については年を逐うてその風味と雅趣とに意匠工夫をこらし、色香味に銘吟釀たる品格を備へ、中央一流の間に伍して優るとも劣らず、市場に於ける名聲いよいよ盛大を加へ、その販路自ら擴大され、造酒年額千五百石を突破するの盛況を持續しつゝあるのである。最近に於ては特に新潟

市及びその附近、東京市及び關東一圓に於いて賣上が急進激増しつゝある。

夫人久利子さんは明治二十二年の出生ですこぶる勤勉、殊に貞淑の譽高く慈恵の人として敬慕せられ、長男敏夫氏三十歳は村松中學校を卒業し嚴父を輔佐して家業に勵み、次男哲夫君二十三歳は慶應義塾大學に在學中、長女キツエ嬢十七歳は新潟高等女學校在學中、三男道夫君と次女カツエ嬢とは共に小學校に修業中。

### 中條町中町 丹吳 健吉

電話中條八番

當家は、町内屈指の徳望家である。先代長松氏は、第二代目町長に推舉され、町村施行後幾許もない町政を掌理して發展の基礎を築いた功勞者である。

氏はその男として明治十八年四月十八日に呱呱の聲をあげた。同四十年、日本大學法科を卒業し、直に南滿洲鐵道會社經營の撫順炭礦に入り、勤続七ヶ年の後

北海礦業に轉じ、大正九年、退社した。在勤中は手腕家を以て遇され、先輩同僚の信任厚く、芳名社内に噴々たるものがあった。

その後、中條町に歸り、助役三期をつとめてから名譽町長に擧げられて今日に至り、現にその任にあるほか、町會議員學務委員を兼ね、町のため社會のため盡瘁してゐる。また昭和四年以來三井生命保險會社代理店を經營され、業績頗る顯著を極めてゐる。資性温厚、烏鷺の鬪ひに興味あり、且つ立憲政友會に屬する當地方の重鎮である。夫人は淑徳の譽れ高き人、令息は今次支那事變に出征し目覺しき働きをしてゐる。

### 中條町 概観

本町は明治三十四年、舊中條町、柴橋村、本條村の一町二ヶ村を合併したるものにして、東は黒川村、南は金塚村、北は乙村、西は築地村に接し、二方里の面積を有する。現住戸數凡そ千七百五十にして、人口

は一萬人を越える。町内には町役場、警察署、區裁判所出張所、中條驛、町農會中條煙草販賣所、營林署中條擔當區、穀物検査所出張所等の官公署あり、交通至便を極め、小學校三校、青年學校一校のほか、縣立中條農學校があり、教育程度は一般に高い。

### 中條町 佐藤 傳一郎



佐藤家は創始以來相傳へて今日まで十五代を重ねた舊家にして、

代々農を以て業とし素封の家となつた。先代傳左衛門氏は蠶絲業の研究家としてあらはれ、町會議員に在任して多年にわたつて活躍貢獻するところが多かつた。當主傳一郎氏は先代の男として明治七年の出生である。夙に村治上に活躍する



こととすこぶる熱心にして信望を博すること多大であつた。先きには二期間町長の任に就いて貢献したるを始め、商工會長縣蠶種検査員、北浦原郡蠶種同業組合副會長等を歴任して功勞多く、今は助役、農會長、町會議員、學務委員に推舉され區長、養蠶實行組合長を兼務なし、眞摯全力を傾けて盡瘁しつゝある。

氏は温厚にして崇高なる人格者であり政友會の黨員として熱心なる郷土の重鎮である。その趣味は書畫の鑑賞である。曹洞宗を奉じて信仰があつた。

分田村 上福岡

分田村 養蠶實行組合長 塚野 幸五郎



塚野家は安倍貞任の子孫にして當地に定住して以來すでに相當の年數を経過し、名主庄屋を勤めたる舊家

にして、代々農を以て業とし、巨大なる富力を擁せる名門である。また日枝神社の神官として世襲し來り今日に及んでゐる。

京ヶ瀬 村 長 大橋儀右衛門

當主幸五郎氏は明治三年に生れ、小學校を卒業してより家業に勵み、日枝神社の社官を奉職した。その信望極めてあつて功勞はなほ多大である。さらに擧げられて村長の任につき、連續二期に及んで盡瘁貢献すこぶる顯著である。

今から凡そ三百年前に創家されし當大橋家は村内切つての大舊家として著はれてゐる。代々郷土のために寄與盡力するところ多く、名望あり、地方稀に見る徳望の家である。

氏の資性は温厚にして篤實、寛容にして清濁併せ呑み、謙遜にして和光同塵にかくる。しかしして情誼にあつく涙にもろく、則ち義侠の心に富み、然諾を重んじ窮窮を救ひ、衰徳を勵まし、孤寡を慰めて及ばざることがない。村民を擧げてまします信頼と感謝とを寄せ、尊敬と親慕をかけて深厚なるものがある。

氏はその趣味は書畫、骨董、盆栽にわたつてはなほ深く、すでに支人の壘を摩するに至つてゐる。長男は神戸市役所

現下非常時局に際會して氏の活動はますます顯著を加へ、國民精神總動員の徹底は殊によく行はれ、銃後援護の施設は整ひ、勤勞奉仕等は實に圓滑に運ばれてゐる。而してこれらはいづれも氏の敏腕と人格との然らしむるものであり、本村の發展と非常時克服の重任は、氏によつて徹底的に遂行されてゐるのである。

笹岡村 金谷

笹岡村 消防組頭 荒木 義雄



荒木家は本家より分家獨立してから今日まで七代をかさねてゐる

を賜はり三十分間にわたつて奉答するの光榮に浴したことがあつた。師團長等陸軍の高官名將に交遊多く、殊に元政友會代議士高橋光衛氏とは膠漆の交が結ばれてゐた。

當主義雄氏はその次男として明治二十四年四月十日に生れたが、長男の永逝の後を承けて家督を相續した。早稻田大學に學び、歸郷してより村會議員に任ぜられ、郡制廢止にいたるまで郡會議員を多年にわたり勤續して功あり、また農會代議員も兼任した。今は村長に擧げられて連續三期におよんで在任し、消防組頭を兼任して極力盡瘁し、貢献するところはなほだ顯著なるものがある。また政友會縣支部の書記に任ぜられて熱誠以て黨務につくすところ少からず當地方の重鎮を以て目されてゐる。

長浦村 長場

長浦村 農會 長場 誠

長場家は源氏の系統を承けて久しく筑前の國に住したことがあり、その後當地に轉住して、三百餘年以前からの系圖を傳へてゐる。代々庄屋を勤めたる豪農にして、資産を増大し來り、今や素封家として遠近に著聞してゐる。

氏は滿洲事變に關して盡瘁奮勵して功あり、賞杯を賜はつた。多年消防の事に盡力し經濟更生に寄與し、また自治上に功勞少からず、或は賞杯を授けられ、或

曾祖父十守氏は明治戊辰の大變革に際して飛躍また活躍、大いに勤王の事に奉じて功勞があつた。祖父佐太郎氏はその男にして、帝國議會開設初期時代に代議



士に選ばれ國民黨の重鎮として議政壇上に活躍し、國政協賛の功績は多大であった。先代尙太郎氏はその男にして、村長の任に在つて多年敏腕を揮ひ、その功績きはめて顯著にして名村長と謳はれた。

當主誠氏は尙太郎氏の長男にして、明治二十九年十二月五日に生れ、慶應義塾を卒業した。多年にわたりて村長の任に在りて功績多く、農會長、青年會長、村耕地整理組長、縣耕地整理評議員、賀慶耕地整理組長を兼務し、また新潟縣副産物輸出會社創立委員として奔走中である。氏は嚴正中立にして公明正大を操守し、一意専念全村の福祉のために盡瘁してゐる。村民の信望は絶大にして、つねに感謝稱讃して措かざるところである。ノブ子夫人は保田村齋藤家より出でてすこぶる貞節の人、内助にとめて令名高く、一家はつねに和円満のうちに繁榮しつゝある。氏はまた青年會長として日本主義の徹底を期し、多大なる徳育の實を擧げた。



長浦村土地龜  
長浦村 池田 與司  
助役

當池田家は、長浦村屈指の舊家にして先代榮作氏は永らく村會議員の任にありて、村治の圓滿なる運行に多大の寄與をなせる功勞者であつた。

當主はその長男にして、出生は明治三十一年六月、幼時より明るき性格の人として、人に好感を與へた圓滿なる人格者である。縣立加茂農學校卒業後、家に在りては家業に精勵し、その後軍籍に入りては陸軍歩兵少尉に任ぜられ、歸郷後在郷軍人分會長に推されて現任中。また自治に關與しては、二十八歳の折すでに村會に推擧を受けて歷任する事、實に四期に及び、また村助役の重責にも在りて村民の福祉増進のために、村勢伸展のため



木崎村鳥屋  
木崎村長 小林 達三  
産業組長

小林家はその創始はなほ古き舊家に於いて代々農を以て業とし素封家を以て著聞してゐる。當主達三氏は明治十四年の出生にして家業にいそしんでゐたが、公共の事に奔走周旋することすこぶる熱心にして、多年にわたりて村會議員の任に在りて活躍しその功勞多大

なるものがあつた。今は村長の重職に在つて、村農會長、産業組長をも兼務し全力を傾注して盡瘁しつゝあり、その徳望は全村を盪うて洽きものがある。長男小左衛門氏は陸軍歩兵大尉に任ぜられ、木崎村村長の任に在つて敏腕を以て奮勵活躍中、支那事變に應召出征して奮戦中に名譽の戦死を遂げたのである。次男は新發田歩兵第十六聯隊に、三男は滿洲國にて軍務に精勵しつゝあつて、一家より三人の軍人を出だしたる名譽の家として當家は稱讃敬仰せられつゝある。

松ヶ崎濱村  
松ヶ崎濱村長 平岩 喜代太  
勳七等



氏は先代三郎平氏の三男として、明治十八年十月二十日、商家に生れたものでもと歩兵軍曹、勳七等の勇



菅谷村下寺内  
菅谷村長 宮下 亮治

士、現在は乾物雜貨商を手廣く營み、一村の信望極めて厚い。氏は村役場書記を振り出しに助役に擧げられ、村長の忠實なる輔佐者として重責を果すところあり、信望いよ／＼厚きを加へて、今や村長に就任、白紙を以て一村に見えてゐるが、公正重々たるの一步々々は、村民をしてその堵に安んずるを得しめてゐる。

當主亮治氏はその長男として、明治十八年二月一日岳降せる天性高潔清廉の人格者にて、自治の卓抜なる手腕家である。夙に尊父の衣鉢を襲ぎて自治公共の事に竭し、村會議員、學務委員、教育會長等をつとめて多大の貢獻をなし、尙ほ現任する村長の要責は多年に亘るものにて、青年團長たる青年指導の任は約十ヶ年、また産業方面の重任たる信用組長に歷任するは七ヶ年にて、菅谷村現在の隆盛に至りしは實に氏の努力貢獻に依るといふも過言ならず、特に學校建築、産業方面、宗教に多大の功勞あり、今や菅谷を一身に背負つて益々村勢伸展のために努力中にて、銚後農村にとつて氏の如き人物こそ打つてつけの手腕家と稱され、村民より矚目され敬慕の的となつてゐる。氏はまた明敏なる頭腦を有する材幹にして出身は新發田中學である。



長男惣右衛門氏は、明朗潤達なる資性を有して俊敏の氣性に富み、當年二十五歳である。次男勉氏は慈惠醫大二年に在學中の秀才である。

### 紫雲寺村

紫雲寺村長  
勳八等

### 間藤 康作

八面玲瓏の人格者たる氏は、堅實な手腕家でもある。明治十七年八月三十一日を以て生をこの世に享け、日露戦争に出征し、赫々不滅の武勳を樹てたる皇國の勇士にして、勳八等に叙されるの光榮を有した。凱旋後、家業に精進すると共に國防婦人會分會長等に推され、村内各方面に献策裨益するところ頗る多い。

現時村長の要職にあり、自治の圓滑なる運轉を圖り、村民に自治思想を普及徹底せしめ、また産業の開発に努力し、經濟の充實、教育の振興なども事績大いに見るべきものがある。郡内切つての名村長との定評あり、村民の信頼あつく、村長のほか養蠶實行組合聯合會長並に銃後

會長を兼任し、東亞の平和のため聖戰を進めてゐる現下非常時に、銃後を護つて遺憾なく、令名いよ／＼高きを加へてゐる。誠に氏は紫雲寺村の至寶であり、當地方有数の材幹である。今後の功績はますます顯著となるであらうとは、一般の親るところである。

### 金塚村

金塚村長

### 白勢 正員

氏は、縣下でも有数な資産家、白勢長計家から分家した負けじ魂の持主、すべてに几帳面ながつちり家で、太つ腹でもある。口も八丁なら手も八丁のなか／＼の手腕家、しかもその統制の才に至つては、正に千軍萬馬を御するの將帥にも比すべきであらう。

村民一致の推薦によつて村長の要職に就任して以來、すでに永年にわたつてゐる。是を是とし、非を非とする白紙主義の公平無私、村長としての職分は村勢の伸展向上、村民福祉の増進にありとなし

これ等を妨ぐる惡弊あれば、直ちに根こそぎに艾除して、跡を絶つことに躊躇しない。従つて村治大に舉り、住民何れもその堵に安んじて村長の徳をたゞへ、その功績を稱して止まない。氏がその職に忠實なる反面は、この一事によつても知り得べく他は推して察することが出来る

氏は今、老境に在りとはいへ、「人生は動けるだけは動くべきものぞ」を信條となし、悠々閑日月を食らす、村長の要職に就きながら、實に本家當主の東京に在つて勉學中を、その後見役として家政一切に眼を通しつゝあるといふ、精力旺盛壯者を凌ぐの活躍振りには、儒者もために起つといふことである。由來新潟縣の人はよく働き、さうしてよく富を成すといはれてゐるが、氏の如きは全くその代表的人物である。

且に出で、は村治を見、夕に歸りてはこの家政につくす、八面六臂の氏の働きこそは、これから世に出でんとする青年村政に與る中堅の人々のよき鑑みとなし

て大に學び、これを實地に行ふべきことではあるまいか。かゝる名村長を生み出した事は本村の幸福、本郡の誇りでありまた本縣の名譽でもある。

### 築地村築地

築地村長  
全國米商組合  
聯合會副會長

### 近 寅一郎



電話中條四五番

近家はその創始はなほ古き舊家にし、代々精勵を重ねて豪農素封の家として著聞してゐる先代磯吉氏は敬神の念極めて篤く、崇佛の心甚だ深いものがあつて、社寺への献納金は莫大の額に上つてゐる。當主寅一郎氏はその長男として明治十六年十一月三十日に生

れ、早稻田大學商科を卒業した。爾來家業に勵み公共の事に熱心に奔走し、政治産業等に於ける功勞は顯然として群を抜くに至つた。名門の出身にして俊敏の商學士たり。人格識見と手腕力量とは全村民のことごとく氏に對して信頼と尊敬とを寄せて徳望絶大なるものがある。氏は現に村長の任にあり、全國米穀商組合聯合會副會長、大日本米穀會幹事、新潟縣米商組合聯合會會長、同産米改良協會聯合會副會長、同商業組合協會副會長、北越後米改良協會副會長、中條郷米肥商業組合長等を兼任して盡瘁しつゝある。また新發田稅務署所管内相續稅審査委員、同所得調査委員にも任ぜられてゐて、更にまた下越乗合自動車株式會社取締役社長たる外に、新發田倉庫株式會社取締役、新潟運送株式會社監査役、廻船問屋倉庫株式會社監査役として實業界に躍進しつゝある。

氏は政友會の黨員として重きを爲し、代議士として國政壇上に活躍する日も遠くはなからう。當地方の指導的權威者である。ユミ子夫人は貞節の譽高く長男磯夫氏二十八歳は日本大學工學部出身の秀才にして、一家は至幸至福である。

### 黒川村

黒川村長  
從七位  
勳六等

### 伊藤太郎兵衛

伊藤家はその創立以來數多の星霜を閲し、世代を重ねたる舊家にして、代々勤儉篤農を以て貨殖致富につとめ、累積業成の巨富は莫大の額に上り、當家は五左衛門と稱し夙に遠近にわたり富豪として著聞したる名門である。今日に於ても毎年收納の小作米は二千俵以上に達するといふ。

當主太郎兵衛氏は明治十一年の出生にして、新潟中學校を卒業し、一年志願兵出身の陸軍歩兵中尉である。村會議員にあげられて盡瘁すること二期にわたつて功勞あり、學務委員に任ぜられて貢献すること多年にわたり、すこぶる功績が多



大であつた。いまや村長に推されて在任し全村の休戚を雙肩に擔つて、銳意經營

樞機に執筆して、着々優秀なる治績を示してゐる。二十數年來、黒川信用組合長として奮勵し該組合をして今日の繁榮を招來せしめたのである。また農政協會長に任ぜられて農政諸般の事項にわたつて寄與するところがはなはだ顯著である。

氏は温厚の長者にして、さすがに名門の品格自ら輝き出で、威徳並び行はれて萬その光裕に立つて悦服せずにはゐないのである。高遠なる大理想を持ち、堅實精緻なる具體策を有し、彼此相裨補助長して、適正明確なる措置を講じてあやまらず、全村の福祉は以て確立保持せられて安全和平たり得るのである。氏は曹洞禪に參じて機根すこぶる冴えわたり、悟道味得は深甚であつて、甘露の法雨全家に溢流してゐる。

養嗣子慶太郎氏は三十歳にして、陸軍主計少尉に任ぜられ正八位に叙せられてゐる。父子共に優秀なる將校として名譽

の武門である。一家はつねに至幸至福、安泰圓滿にして和合輯和してゐる。

葛塚町嘉山

町會議員  
學務委員  
消防部頭

上田 六三

當上田家は代を累ねること九代目に及んでゐる。



始祖以來、代々農を主業となして今日至つたもので、先

代正次氏は、疾くから家業に精を出し、家礎をして一層確立鞏固ならしめた。他面また村治に關與し、町會議員として、學務委員として將た區長その他の名、公職に擧げられて滅私奉公の誠を效し、今にたゞへられる業績、甚だ高きものがあ

る。六三氏はその長男、明治三十七月八月一日生れの、正しくこれからの人物、夙

に衆望をあつめて町會議員に推され、現

に町政に與りつゝあるの外、學務委員、消防部頭、六ヶ村水利組合、兩村水害豫防組合副組合長などを兼ねて、縦横に活躍奔走、その業績を累ねつゝある。

黨籍を立憲政友會に置き、同黨當地方の擴張に力をそゝいでゐる。趣味は寫真にレコードであるが、寫真に至つては既に玄人の域に達してゐる。

夫人はリマさん、内治の功に最も努めた譽れ高き賢婦人である。長女のあき子嬢は今、東京市和洋女子専門學校に在學研修に勵んでゐる。

中條町並機

町會議員  
並機區長

羽田忠右衛門



羽田家はその創立はなはだ古く代々農を以て業とし、庄屋をつめ

めたる名門である。先代忠五郎氏は村制時代當地の村會議員として活躍し、功勞はなはだ多大であつたが、日露戰役に出征して奮戦し、二百三高地にて名譽の戦死を遂げた。

當主忠右衛門氏はその男として明治三十四年七月十日に生る。父の遺志をついで村會議員となり、また土地利用組合長に任ぜられて努力し、それぞれ功績があつたが、いまは町會議員に任ぜられ、農會代議員、農區長、區長等を兼務して、寄與貢獻するところははめて顯著である

氏は政友會に屬し有數の賞員として推稱せられ黨務については甚だ忠實をつくしてゐる。

當家は一家のして入營して軍務に服したるもの三人を算し感謝状を授けられたる名譽輝ける武門である。

安田村草水

村會議員  
農會區長

田中早苗

當家は、草水隨一の舊家として聞え、



始祖以來代々庄屋を勤めた名ある家柄、先代豐太郎氏は村會議員、

區長、學務委員、各調査員等を歴任した當村自治の功勞者で、その功績頗る顯著なものがあつた。

當主はその男で、明治十四年十月二十二日の岳降である。聰明にして沈毅の氏は、夙に石材組合の創立者として令名高く、現に組合長の重職の外、村會議員、農會區長として村民の信望絶大なるものである。また曩には信用組合評議員、消防組頭、學務委員等の公、名譽職を歴任し、産業に、育英に力を盡し、消防組の改善、發展に就いては功績偉大なるものがあり、その統制手腕卓抜なるものがあつた。

温厚にして篤實、圓滿なる人格者の氏は、當村の重鎮としてその存在益々重き

を加へてゐる。氏は信仰心篤く、曹洞宗に深く歸依し、家庭はまた頗る圓滿で、春風洋々たるものがある。

京ヶ瀬村城

村會議員  
實命丸本舖社長

關川宗徳

當家は今から四代前に創家されたものにして、先代宗徳氏は、村會議員の要職にあること二十有餘年の長きに及び、村治に盡せる功績は一々枚舉に遑あらず、自治功勞者として表彰さるゝと共に、木杯一個を贈られ、一代の面目を施したが昭和十年十月、多幸なりし生涯の幕を落した。誠に得難き人物であり、村民のこれを惜しむこと多大であつた。

當主は先代の長男にして、明治二十九年十一月三日の岳降である。合名會社實命丸本舖代表社員として實命丸の製造販賣に格勵し、その名天下に知られると共に、第一徵兵保險株式會社代理店を經營し、地方稀に見る活動家として令名が高。村會議員並に區長たることいづれも



二期、現にその職にあるほか、水害豫防組合議員として活躍貢献するところが多い。政黨は政友會である。

夫人チヨさんは國防婦人會城支部長に任じて銃後の後援に寧日なく、長男闕氏は新發田中學校を卒業せる俊英にして、劍道初段の達人である。

笹岡村笹岡

郵便局長 小林 豊次郎  
正七位勳七等



小林家は笹岡屈指の舊家と稱される家柄にして、三代前までは當地に於て劍道師範をなせる名門である。

家業として今、醤油醸造業を営み、頗るの盛業を極めてゐる。先代石之助氏は家業に勵むと共に公共事業に意を用ひ、殊に郵便局を創設せる當地方通信界の恩人である。

當主豊次郎はその長男にして、生れは明治十一年三月十一日、剛毅磊落なる資性を有し、且つ英邁を以て聞え、その一面書畫骨董、小鳥、盆栽に趣味を有して濃厚、稀に見る清廉高潔の人格者と稱せられる。青年時より家業に精進して、愈愈家運の興隆をはかり、殊に、その産する「小豊」は高き聲望あり、今や斯業界の重鎮として小林の名を知らぬ者はない

氏はまたその家業に精勵すると共に自治公共に意を注ぎ、現在笹岡區長として盡瘁中、尙ほ尊父の志を嗣いで郵便局長の任にあり、各方面に貢献するその功勞すこぶる多大である。曾ては日露戰役に参加して赫々たる武功を樹立、正七位勳七等に叙され、表彰も數度に及んでゐる。

家庭は圓滿、十人の家族ありて春風洋洋たる觀あり、信仰は眞宗に歸依してゐる。

金塚村城塚

金塚郵便局長 兼田 作次郎

兼田家はその由緒すこぶる久しき舊家にして、代々農を以て業としてゐた。勤儉を以て築積達成したる資産が莫大に上る素封家として遠近に著聞してゐる。先代豊治氏は明治八年に生れた。夙にあげられて區長の任に就き盡瘁貢献するところはなほ多大であつた。今や當主に家督をゆづつて逍遙自適してゐるがすこぶる壯健である。

當主作次郎は、その長男にして明治三十年の出生である。中條農學校を卒業してより家業に精勵してゐたが、昭和五年金塚郵便局取扱所を創設してその所長に任ぜられた。七年昇格して金塚三等郵便局となり、今やその初代局長として公務に執掌しつゝあるのである。

氏はその資性は溫良恭順にして謹嚴、禮讓にあつく堅忍熱誠の人である。よく責任をつくして本務を果し、統率よろしきを得て執務成績きはめて優秀である。禪宗を奉じて位伯があつた。夫人は貞淑にして内助につとめ、國防

婦人會員として活躍はなほだ熱心である。長男利左衛門君十一歳と次男とがある。一家はつねに圓滿和合のうちに繁榮をかさねてゐる。

岡方村平林

村會議員 元村長 品田 幸政  
農會總代



品田家は當村隨一の舊家とうたはれてゐて、代々農をはげみ資産を築成増大してきた素封家である。先代

は町村制發布後の初代村會議員として選ばれて以來、努力活躍して寄與するところ多大であつた。當主幸政氏はその男として明治二十八年十一月十九日に生る。さきには村長、助役に歴任して功勞あり、二十四歳にして特に収入役に任ぜられて四期十六年間

勤續し、名収入役とうたはれた。いまは村會議員に任ぜられて盡瘁中であつて、農會總代を始め耕地整理組合議員、新江用水普通水利組合會議員、新發田區裁判所金錢債務調停委員等を兼任してゐて寄與貢獻するところは、なほだ顯著である。

氏は勤勉節儉を勵行し率先その範を示してこれが普及につとめてゐる。また海外移民を奨勵し、すでに村長在職時代に三百五十人を滿洲等へ入植移住させたがさらに一層これが實行の促進につとめてゐる。不偏不黨を以てその本領とし高處大局から洞察達觀せる氏の名論卓説は、時弊を指摘し一世を警世するのが常である。國勢調査員としての功により表彰され、また在郷軍人分會に對する功により會長鈴木莊六大將より功勞章を授けられた。氏は雄辯にしてその性明朗、至誠一貫よく人を動かして正義を全うしてゐる。全村の信望絶大なる所以である。今後の雄飛は期して待つべきである。

長浦村上堀田

村會議員 區會長 石栗 祐七  
農會代議員



石栗家は其の創始がきはめて古く、世代をかさねること七代にして今日におよんでゐる。代々農を以て業

としたる舊家にして、勤儉力行の篤農者として知られてゐる。先代勘平氏は多年にわたり區長をつとめて功勞があり、さらに村會議員を四期間勤續して村自治上に於ける功勞すこぶる多大であつたが、昭和八年全村痛惜哀悼のうちに永眠したのである。當主祐七氏は勘平氏の長男として明治二十三年二月に生れた。亡父の遺志をついで自治産業のために奔走活躍すること久しく、その功勞はなほ甚大である。



則ち推されて村會議員に當選して在任し土木委員に選ばれ、區長に勤続三期間におよび、新江川水普通水利組合會議員、村農會代議員を兼務して盡瘁してゐる。その貢献すこぶる顯著であつて村民の信望絶大なものがある。

氏は民政黨に屬してその最も熱心なる黨員であつて、當地方の重鎮として敬服せらるゝところである。その資性は誠實にして勤勉、熱烈にして眞劍、公理正義に基き、全村永遠の福祉を念として、一切の私情を抛擲してかへりみず、精力的活躍を以て奮進し、至誠至眞を以て事に處しあらゆる人を動かさざればやまず、必成を期して勇躍するところ、あらゆる障害をも潰滅して目的を達成す。熱と誠の人として全村民の信頼敬仰するところである。淨土宗を信じて敬虔眞摯をきはめてゐる。

### 佐々木村

村會議員 野本 靜治  
從七位

謹嚴の中に溫雅な風格を有し、郷黨の敬慕あつき氏は 明治十二年十一月の出生である。嚴父次平氏は村會議員その他の必職に就き、村のため献身的に盡力した功勞者として有名である。氏は夙に早稲田大學に學び、日露戦争に従軍して勲功あり、その後、新發田中學校に十三ヶ年間、加茂農林學校に三ヶ年間、新發田女學校に十ヶ年間等、縣中等教育界に活躍して聲望あり、名教育家と謳はれ、その徳を慕ふものは今も非常に多い。教育界を引退後は、悠々自適の日を送りしが、先年村會議員に選出され、村政に參與貢獻されてゐる。

長男は明治四十三年生れにて新發田中學校の出身、現時南滿鐵道會社に勤務中二男は大正二年生れ、東京帝大出身の俊才、今次支那事變に應召し、中支方面に活躍中である。また三男は大正三年の出生にして目下東京高等商船學校に勉學中である。孰れも頭腦明晰秀才肌の人物にして將來の大成を期待されてゐる。



先代繁一  
氏は明治辰の役に從軍せし人にて昌二氏はその男、生れは明治十六年一月七日でなる。幼時より頭腦明敏にて才童の聞え高く、長じて後は育英界に身を投じ多年奉職した。亦日露の戦役に際しては勇躍出征して各地に轉戦、常に一命を投げ出して活躍し、遂に赫々たる武功を樹立し勳八等に叙され、白色桐葉章を賜つた。現在は専ら自治公共の事に關與、村會議員、消防部頭の責に在り、献身的な勞を執りてその寄與また尠なくない。家庭は圓滿、長男武夫氏は俊敏の氣性

### 中浦村大傳

村會議員 山崎 昌一  
勳八等

當家は溝口藩に仕へた武家より出たる家柄にして當主を以て七代目とする舊家である。

に富む才幹にて、新發田農業學校出身、二男英夫君は同校在學中にして、尙ほ長女さんは女子工藝學校卒業の才媛である

### 本田村岡屋敷

村會議員 齋藤 政太郎

齋藤家は代々農を以て業とし、精農家として謳はれてゐる。



當主の政太郎氏は先代刀次郎氏の二男として

明治二十八年十二月十六日に生れた。いまや村會議員に當選してその任に在り、また區長に選任されてそれぞれ盡瘁しつつあり、その貢献いちじるしきものがある。氏は精進主義の人にして研學修養につとめて多年にわたり、二十日間斷食修行を成就したことさへある。數年の精神運動作興と、養兎事業の普及奨励を以て宿年の持論として熱心に奔走しつゝあ

る。昭和五年人命救助の功により縣より表彰せられた。曹洞宗を奉じてその信仰が極めてあつた。家族六人つねに圓滿和合である。氏は地主として令名あり所有地は相當の廣大なる面積に上つてゐる。

### 松浦村上中山

村會議員 赤澤 根次  
區長 學務委員



赤澤家は創立以來今日まで四代を重ねて業としてゐる。當主根次氏は先代彌藏氏の男として、

明治二十五年八月三十一日に生れた。先代彌藏氏は區長に就任して多年にわたりその功勞が多かつた。當主根次氏は大正九年收入役に就任して精勵し、昭和九年に退職した。その後は引きつゞいて村政界に活躍し、今や村會議員に任ぜられ、

學務委員、區長、信用組合理事および村會惣代を兼ねて、全力を傾注して盡瘁しつゝある。氏はその資性溫厚にして篤實、謹嚴にして端正であるが、その一面はすこぶる明朗にして磊落であるといふ、寛容にしてよく人を容れ人望高大である。曹洞宗を奉じてその信仰はなほだあつた。夫人たみさんは貞節勤勉にて内助につとめ、長男淳二氏二十五歳は加茂農林學校を卒業し今は家業に従つて嚴父を輔佐してゐる。なほ二子があつて、家門は平安和樂のうちに繁榮しつゝある。

### 五十公村江口

村會議員 遠藤 光雄

今や村會議員の任にありて議員中の白眉と稱され、青年間の信望を一身に擔つて村勢伸展のために、村政の圓滿なる運の爲に一身を捧げて活躍努力をつゞけて、村諸般の上に多大の功を印し、いよいよ才能ある材幹と呼ばれて一舉一動を



囑目され、その將來は、村を背負つて立つべき人物として期待されてゐる。氏は明治四十三年四月五日の出生である。當遠藤家は、もと村戸長として村政開拓に功を効せる家柄にして、詳かならざるも相當の家歴ある舊家として知られ、家業とするは農業である。

なほ光雄氏は、はやくより家業に精勵して、家運の隆盛につとめ、勤勞愛郷の青年篤農家として普く知れてゐる。

赤谷村

村會議員  
信用組長

杉原 莊司

杉原家は十二代の家系を連絡と傳へる



當村屈指の舊家である代々公共の事に功多く先代廣太郎氏は村會議員、區長その外を永らく勤めて村勢伸展の功勞者であつた。

當主はその男として明治二十年九月二十八日に呱呱の聲を擧げ、温厚にして剛毅なる剛柔の両面を備へる人格者である。今や當村産業の中心たる信合組合の組合長の要責にあり、兼ねて村會議員二期目の任にあり、その盡瘁寄與する功勞すこぶる多大にして、最も缺くべからざる重要人物として村民敬慕の的になつてゐる。曾ては消防部頭、農會長、區會議員、區長等を永らくつとめて效を奏せし事がある。

家庭は極めて圓滿にして三女がある。氏はまた植木に興味を有してゐる。

聖籠村道賀新田

村會議員  
蠶種製造業

水戸部猪八郎



當家の家業とする蠶種製造業は村會議員、學務委員として功を奏

し自治功勞者と讃はれた先考垣之助氏の創めしものにて、當主、尊父の衣鉢を襲ひて益々家運の隆盛に努め、今や大倉製絲場と特約をむすび、佐渡國二ツ見村に分場を設け愈々盛業を極めて、各共進會にて二等三等と賞を受けてゐる。

氏はまた家業に精勵すると共に公共方面にも意を用ひて村會議員、乾繭組合理事、蒲原蠶種業組合副組合長の要責に在り、曾ては加治川水害豫防組會議員、信用組合理事をつとめし事あり、その多年に亘る功勞は實に多大にして村民一同感謝してゐるところである。

長男氏は父君を輔佐して家業に精勵し愈々盛業への途上であり、次男氏はまた京都蠶種學校に修學中である。

南濱村

村會議員

伊藤 又之助

當家は代々篤農家を以て稱されし家柄にして、累代農事改良改善に努力寄與するところ多く、開祖以來當主を以て七代

目とする。先代又七氏は村會議員並びに區長に任じ、誠心誠意、一身を忘れて村のため、部落のために盡した自治界發達の恩人である。

氏は先代の長男として明治二十一年五月七日を以て生を當地に享けた。夙に祖業を繼いで父祖同様篤農家と呼ばれ、傍ら譽望を擔つて方面委員たること約三ヶ年、貧窮民より慈父の如く仰慕され、公平無私の態度は普く郷民の賞讃して已まざるところであつた。その後、選ばれて村會議員となり、現にその要職にあるほか、村農會代議員、加治川普通水利組合會議員を兼任し、いよく公共のために犠牲的精神を發揮してゐる。誠に氏の如きは村の大恩人であり、地方農業發展改發の大功勞者といふべきであらう。しかも宗教心に富み、至信心樂の境地に悠々の日を送るといふ。凡人の得て眞似し得ざるところである。家庭は圓滿、和氣霽々として繁榮の道を進み、氏の業績不滅にして村民の忘れ得ぬ處である。

龜代村

村會議員  
勳八等

堀 常吉



氏は明治十七年十月に生れて、先代末太郎氏の養子となり家督を相続した。日露戰役に出征して第三軍に

屬し、各地に轉戦して武勳を樹て、勳八等を賜はつた。今や村會議員にあげられて全力を傾注して盡瘁し、また養蠶實行組合議員を兼務して寄與貢獻するところ多大なるものがあつて、全村の信望を博して絶大である。

氏はその資性きはめて温良にして柔和謙遜にして禮讓に篤い。しかも義侠に富み情誼が強い。氏はすなはち全村の福祉を念として己を捨て、公共に奉じ、活躍奔走大いにつとめ、村政界の一方の重鎮を以て目されてゐる。眞宗大谷派を信奉

してはなはだ熱心である。一家はつねに和樂安泰にして繁榮してゐる。

川東村大友

村會議員

小野 三治郎



温厚にして篤實、質朴剛健の氏は、また精農家として著聞し當家十二代目の當主である。氏は先考故三九

郎氏の男で、本年六十二歳、その自治的手腕は曩に區長として區政の向上に素晴らしい業績を残して、衆庶の信頼を博した。

現時推されて村政の中樞に參與する氏は、永年の豊富なる體験と、熱誠燃ゆるが如き愛郷心をもつて村會に臨み、常に村勢發展に獻身的に盡瘁してゐる。氏の長男武三氏(三十九歳)は、當村の中堅人物で、熱心に家業に精勵し、そ



の夫人との間に愛兒(二歳)をもうけて頗る圓滿である。

### 菅谷村下松川

村會議員  
在郷軍人分會長  
正八位

### 武者 孫介

武者家はその祖先が加治山城主の家老



をつとめて  
わたが、主  
家の没落に  
より當地に  
定住して農  
に入りたる

ものにして、連綿として相傳へて今日まで七百餘年間を閑してゐて、今に至るも頼國作の名刀を寶藏してゐる。代々農業とし營々勵んで巨富を擁してゐる。

當主彌介氏は明治十九年に生れ、新發田中學校を卒業し、陸軍歩少尉に任せられてゐる。今は在郷軍人分會長の榮職に在りて、村會議員、學務委員を兼務し盡瘁しつゝあり、また菅谷自動車株式會

社長として活躍してゐる。

氏は不偏不黨にして嚴正中立の人であつて、その資性は濃厚篤實である。長男氏は明治大學に在學中にて、次男君は新發田中學校に在學中、なほ令嬢三人がある。一家つねに和合圓滿である。

### 加治村草荷

村會議員  
勳七等

### 植木 勇吉

明治三十七年の日露戰役に際し、勇躍



從軍して常  
に各戰線の  
第一線に於  
て活躍勇戰  
し、遂に赫  
々たる功を

樹立し、それと共に名譽の負傷を受け、勳七等に叙されたる氏は、先考安次郎氏の養嗣子にて、當年五十六歳である。

氏は幼時より學業成績優秀にして、才童の譽高く、また獨力獨行の氣性を有する才幹にて、高等小學校を卒へるや家業

を輔佐しつゝ、獨學を以て勉學をつゞけ、

遂に小學校教員檢定試験に合格し、二十五歳の折、聖籠村小學校に奉職せしを振り出しに、各地の小學校に二十有餘年間奉職、紫雲寺村米子小學校を最後に、退職せる教育功勞者にして、退職後は専ら自治公共の事に關與し、村内各公職を歴任、現在は村會議員二明目の任にあり、兼ねて經濟更生委員農區長として自治、産業の伸展に意を用ひ、尙も努力に努力を重ねて多大の寄與をなしてゐる。

因に當家はその家歴詳かならざるも、相當の舊家にして、家業は代々農業を營み來たつた。

長男喜衛氏は俊敏の氣性に富む材幹にして、いま二十九歳、家業に従事して父君を輔佐してゐる。

### 紫雲 寺村

村會議員  
學務委員

### 伊東 直次

當家は舊幕時代には庄屋の役をつとめたる家柄にして、始祖以來約九代をかぞ

へる名門である。先代俊太郎氏は戸長役場時代には戸長を、自治施行後は村長に擧げられたる徳望家である。

氏はその男、明治六年一月八日の出生である。夙に臺灣警察界の人となり、警部補として勤続二十一ヶ年に及び、功績頗る顯著なるものがあつた。退職後、郷里に錦を飾り、推されて紫雲寺村助役たりしことあり、後、村會議員に當選、現にその職にあるほか、學務委員の要職を兼ね、村治に盡瘁してゐる。資性温厚にして人格高く、書畫に興味を有し、その鑑識眼は相常高い。

長男は小學校教員に任じ、次男は北海道住友鑛山に勤務する。

### 金塚村相馬

村會議員  
信用組合理事

### 松田 政武

松田家は當村屈指の舊家にしてまた名門の家柄である。先々代與造氏は村會議員、區長等の公職を二十年以上もつとめ村勢伸展のために一身を挺して活躍努力



し、多大の  
貢獻を村治  
の上に印せ  
る自治功勞  
者であつた  
家業は代々

農を營め、先代彌五郎氏は温厚の人と聞えた。

當主政武氏はその長男として生を享けし天性篤實圓滿の人格者にして、人に接するに温和を以てし、衆望すこぶる高き徳望家である。夙に自治に關與して村會議員として村治上に效を奏し、現任中であり、兼ねて區長の責に在ること十數年の永きに亘るもの、また産業方面に於て努力する信用組合の理事も十數年の永きに及ぶ。會では消防部頭、農會代議員調査委員、軍人分會長等村内各方面にわたつて盡瘁せし事あり、その多年執掌して效せる功勞は、燦然として輝いてゐる。表彰も枚舉に遑なく、村内屈指の自治功勞者にして、當村に缺くべからざる人物

と稱され、愈々村民敬慕の的となつてゐる。また政友會に屬し、金塚村の重鎮として重きをなしてゐる。

長男政晴氏も父君の衣鉢を襲いで夙に自治に關與、會て農會幹事として努力し現在是在郷軍人分會長として銃後の護りに活躍奔走しつゝあり、その將來に多大の望を囑されてゐる。

### 松塚村藤塚濱

村會議員  
酒造業

### 小林 政太郎

先々代より酒造業を家業として創業せる當家は、今や『ふじの井正宗』を八百石も醸造なし、當地方屈指の酒造家として聞えてゐる。新發田町の知名人士からは勿論、秩父宮殿下よりも御買上の光榮に浴してゐる。その主なる販路は新潟縣下一圓に及び、新發田聯隊、所澤飛行隊等にも納入して聲望を博し、全國品評會優等賞を二回までも授與され、六縣品評會優等賞は數回に及んでゐる。中條町に支店あり、従業員は十五名にて、全員一致





和氣齋  
々のう  
ちに益  
々努力  
業績の  
發展に  
努め、  
愈々伸  
展の途  
上を辿  
りつゝ  
ある。  
經營

者として専心家運の隆盛に精勵する氏は亦、自治公共方面にも功多く、いま村會議員の任にあるが、歴任する事すでに四期の永きに及び、その多年盡瘁する貢獻たるや實に村史に記録さるべき多大なるものあり、明治二十八年六月七日の出生なれば、今後に益々期待を持たれ、その一舉一動は強く囑目されてゐる。  
因に現在の家業たる醸造業は三代前よ

りであるが、家歴は相當古く、村屈指の家柄である。先代政太郎氏は家勢を興隆せしめし人にて、また村會議員を歴任せる自治功勞者でもあつた。

築地村高橋

村會議員  
綿羊組合長  
陸軍歩兵中尉

中倉州一



中倉家は創立よりこのかた七代をかさねて今日におよんでゐる舊家であつて、代々醫業としてゐたが、

數年前より酒造業をいとんでゐる。主洲一氏は先代第一郎氏の男として明治三十年四月十三日に生れ、新發田中學校を卒業した。いまは村會議員に任ぜられ在郷軍人會會長および、信用組合幹事、築地綿羊組合長を兼任して全力を傾けて盡瘁してゐた。

多年にわたり氏の功績は拔群にして、昭和八年四月在郷軍人會に對する多年の功により總裁閑院宮載仁親王殿下より有功章を授けられ、また功勞章をも授けられた。同十二年二月陸軍大臣杉山元氏より銀盃を授けられた。同年九月、綿羊事業の功によつて農林大臣有馬頼寧氏より銀盃を授けられた。

氏は温厚にして謹嚴、愛國崇祖の志は人に秀れてゐる。すなはち一言一行は盡忠報國の赤誠の流溢せるものに非るはない。その人格は崇高にしてその情誼は懇篤である。全村民の深く敬慕し悦服する所以である。今や召され陸軍歩兵中尉として支那事變に出征して某方面に奮戦中である。村民ごとくその武運長久を祈つてゐる。

氏は曹洞宗を報じてその信仰きはめてあつく、れい子夫人は貞節を以て令聞たかく、四子を擁してその養育に力め留守宅を守つてゐる。まことに武人の妻として萬人より敬仰せられるところである。

黒川村鼓岡

村會議員  
學務委員

高橋勸兵衛



先代久治平氏は日露の役に逸早く應召し、勇躍して出陣各地に奮戦

し、拔群の功績を立てたが、遂に負傷した名譽の戦士で、軍曹に昇進した。

當主勘兵衛氏は、明治三十四年七月二十三日久治平の長男として生る。長じて新潟縣立加茂農林學校を卒業す。産業組合理事として十二年間勤続したる後、現在は村會議員、學務委員、部落農區長の要職にある。

資性質實剛健にして、剛毅果斷、徳義心に富み、その豊富なる體験と、明敏なる透察、穩健妥當なる判斷とを兼ね備へて、常に負ふところの使命を全うしつゝ

ある。氏は報徳精神に則つて部落農區の更正指導等に率先し、萬全を期しつゝ努力してゐる。村民は氏のその努力を多とし、氏の將來に多大の囑望を抱いてゐる。氏は政友會に籍を列ね、言々聽衆の肺腑を刺す底の雄辯家である。曹洞宗を奉じて信仰心深く、不動不拔の信念を持つてゐる。

名家出の才媛であり、賢夫人の譽高き靜江夫人は容姿端麗にして性温雅である三男二女あり、長男政隆君、次男史朗君三男正幸君、長女七々子嬢、次女章子嬢にして一家は眞に圓滿そのものである。

岡方村長戸呂

郵便局長

小林良三

小林省吾氏の後を承けて岡方郵便局二代目局長として、當地方通信網發展のために努力しつゝある氏は、明治三十年十二月七日出生の、資性すこぶる清廉温厚にして篤實なる人格の持主である。その一面剛毅果斷にして、剛柔兩面を具備

する謹嚴なる風格は村民の人望を一身に集め、推されて村農會總代に就任、産業伸展のために盡瘁中にて、銃後の護に奔走しては尙武會評議員の任にあり、消防組第七部頭として村警備の任にも當り、その各方面に献身的盡力をなす功勞は實に多大にして、今やその一舉一動は期待を以て囑目され、當村に缺くべからざる人物の一人として、愈々村民敬慕の的となつてゐる。

岡方村高森新田

村會議員

佐藤幸吉



時當家五十二

て五代である代々農を以て精農家

の譽が高い。前には擧げられて新江用水普通水利組合會議員に任ぜられて活躍し



て功あり、今や村會議員に選ばれて現任中である。氏は裸一貫の奮闘者であつて無産者を代表する政黨たる社會大衆黨の熱心なる黨員として盛に活躍中である。氏はまた區長に任せられて連續四年目に在職中である。支那事變出征將士の遺家族に對する慰問を徹底せしめること、當村は經濟更生指定村なるを以て可及的迅速に負債を整理すべきこと等の主張を堅持して、極力盡瘁中である。浄土眞宗を奉じて信仰があつた。

### 川東村石喜

川東 郵便局長 **本間金三郎**



明朗潤達なる氏は、先代政次郎氏の養嗣子として迎へられたもので、本年五十六歳分家以來、三代目を以てかぞへられてゐる。

質實剛健を旨とする氏は、新潟通信練習生養成所を卒業後、永年郵便事務に執掌せる有能練達の才幹である。

當局は明治七年に開局し、當時は郵便取扱所として事務を掌り、昭和十二年七月三等郵便局に昇格したものである。氏は三代目の局長として就任以來、銳意通信事務に盡瘁してその業績また燦然たるものがある。

家庭は養父政次郎氏頼る健在であり、また内助の功多き令閨との間に子實に恵まれて九人の大家族なるも、常に和氣霽々として笑聲門に溢れ、附近の羨望をうけてゐる。

### 川東村板山

村會議員 **佐藤三右衛門**

佐藤家はその創立よりこのかた今日までに星霜を閲すること二百五十年に餘りたる舊家であつて、代々農を以て業とし

てゐる。

當主三右衛門氏は先代八十二氏の長男として、明治三十五年に生れ、加茂農林學校を卒業した。さきには區長に選ばれてその任に就き奔走して功があり、信用組合監事に任ぜられて寄與するところが多かつた。いまは村會議員に當選してその任に就き、全力を傾けて最善をつくし盡瘁貢献しつゝある。

氏はその資性はきはめて濃厚にして堅實、事に處して熱烈眞剣、しかも高遠なる理想を抱いて雄志鬱勃として抑へがたきものがある。よく新古の典籍に眼をさらして天下の大勢を察知し、専門技能の研究工夫に資しつゝ徐ろに他日に備へつゝある。圓滿にして玲瓏たる人格、高邁卓出の識見、圓轉滑脱の權略才幹は、全村の絶大なる信望を博してゐる。不偏不黨の嚴正中立にして八方美人の長所を發揮し忠實勤勉なる周旋奔走は、村治百般に對する貢獻を顯著ならしめてゐる。曹洞宗を奉じて信仰はなはだあつく、氏は

その前途なほ春秋に富んでゐる。今後の活躍は明して待つべきものがある。

夫人は米倉村の出身でつとに貞節をうたはれてゐる。愛國および國防の兩婦人會の會員として重きをなしてゐる。長男三彌君十三歳およびその外に二男三女がある。一家はつねに圓滿和合のうちに繁榮してゐる。

### 葛塚町

町會議員 **菅井謹藏**

菅井家は創立以來今日にいたるまで六代をかさねたる舊家にして、代々農業を以て主業としてゐる。先代藤松氏は町會議員、區長等の公職に任ぜられて、多年にわたり貢獻し、その功勞はなはだ多大であつた。

當主の謹藏氏は藤松氏の男、明治二十八年九月三日に生れた。嚴父の志をついで自治産業のために熱心に奔走し、いまは町會議員に當選してその任に在り、區長、信用組合信用評定員等を兼任して盡

瘁し、全力をかたむけて活躍してゐる。氏は政友會の最も忠實なる黨員として推稱されてゐる。園藝に堪能にしてその造詣すこぶる深いものがある。

### 安田村渡場

村會議員 **釣卷新一郎**

渡場部落に於ける最舊家たる當家はまた、代々村内の公、名譽職をつとめて村勢伸展上に鈔なからざる功を效せる家柄でもある。先代新太郎氏は濃厚にして篤實なる資性を有せる人格者にて、永年に亘り村會議員、區長をつとめて村治上に貢獻をなせる自治功勞者であつた。

當主新一郎氏はその男として、明治三十年十二月十五日生を享けた。勤勞愛郷の篤農家にして俊敏の氣性に富み、自治に竭して手腕ある材幹である。曾て消防小頭、軍人分會班長等をつとめて多大の效を奏し、その秀でたる手腕は自ら衆望を高めて村會議員に推輓を受けて現任中兼ねて消防部頭、軍人評議員、區長、土

木委員等村各般の公職に在りて献身的努力をなしてゐる。

因に兵役は陸軍衛生上等兵である。

### 京ヶ瀬村駒林

村會議員 **芋川正治**

芋川家は、當村に於ける大舊家であり曾ては戸長などを勤めた名ある家柄として知られてゐる。先代の作次氏は村會議員、學務委員に歴任、村治の上に多大の功勞を遺して、昭和十二年九月この世を去られた。

當主は明治三十三年一月、その三男に生れ、夙に公共方面に參與し、現在は三期目の村會議員であるの外、京ヶ瀬信用購買販賣組合監事、新江用水普通水利組合議員、駒林消防組頭、上阿賀販賣利用組合理事、水原乾藪組合理事等の數々を兼ねて、それら盡瘁功勞を高めてゐる趣味は蘭の栽培。

夫人キンさんは内助の譽れ高き人、國防婦人會評議員を現任、銑後に立つて活



躍奔走してゐる。

笹岡村

村會議員 新田 加造



才能と識見を具備する紳士と稱せられる氏は新田家六代目として、

明治三十八年五月の出生である。

新田家は分家以來六代の家歴を有する家柄にして、代々農を家業となし、父君は村會議員を永らく勤めて村政の中堅として活躍努力をつづけ、村諸般の上に多大の寄與をなせる功勞者であつた。

當主はその衣鉢を襲いで夙に自治に關與し、學務委員として教育方面に效を奏し、現任するは村會議員、消防部頭にて村自治に、村警備に功すくなくない。氏はまた明朗なる性格を以て極めて多趣味

である。その趣味とするは犬、寫眞、獵

陶器の蒐集等にわたり、特にその愛犬振りは稀に見るものにして、現在當家にあるは英國産、獨逸産の名犬の他數匹の優秀犬である。氏は寢食を忘れて研究と訓練に没頭し、その名は全國愛犬家中に知らぬものなく、飼育中のそれら名犬數匹は奈良、四國、大阪等より買ひ求めしものにて、全國に二匹と求め難き優秀なるもの、亦その飼育方法は他の愛犬家の及ぶところなく、愛犬家の機關紙にも幾度かその方法を發表せる程の識者である。また寫眞に於ては「クローム・コンタツクス」機（時價壹千貳百圓）を所有しその技術は斯界驚異の的にて、特に移動物體の撮影に於てその優秀なる技術現はれ、當地方に並ぶものなき技術家である。なほ氏は彼の人命救助四度に及ぶ名犬タマ公の碑を建立の際、率先して寄附をなし、その後も數回に互つて援助をなしたるが、それを以て見ても氏の愛犬振りは察知出来る。その名犬タマ公の碑は全國

岡方村長 戸呂

村會議員 小林 豊作

小林家は、岡方屈指の舊家にして、また名門の家柄である。明治二十九年十一月二十七日生の氏を以て十代目とする。氏は明敏なる頭腦を有し、且つ博大な識見と、力量と、才能を具備し、幼時には學業成績優秀にして神童と稱され、縣立加茂農學校を卒へて後は、専ら家業たる農にいそしみ、亦夙に村治に意を注ぎ自治に進出するや、その豊富なる識見力量、才腕は忽ちにして村政諸般上に多大の功を效し、村民唯々驚異を以て迎へ人望高まり、遂に村長に推輓を受けた。

氏はその任に就くや、村内諸政の改革に乗り出して村政の圓滿なる運行をはかり、産業を伸展せしめ、交通をひらき、教育をひろめ、實にその事績枚舉に遑なく、人望ますます高まり、歴任三期の永きに及んだ。その間教育會長として専ら

長浦村長 場

村會議員 阿部 武



一身を挺して村治の圓滿なる運行に、村勢伸展に努力貢獻なしつゝ、

ある氏は、明治二十八年九月二十一日の出生にして、天性すこぶる濃厚、人に接して好感を與へる圓滿なる人格者である。幼時より智慮衆に勝れたる材幹にして、長じて後は家業に精勵すると共に、夙に自治公共の事に竭し、推されて區長を三期、區會議員四期、新井用水組合會議員等を歴任し、軼掌寄與なせし事がある。現在は村會議員の外に信用組合理事、長場堰用水組合會議員、大沼排水組合會議員、耕地整理組合會議員等の重責にあり、その自治に、産業に、各方面への多

中浦村下 飯塚

村會議員 鈴木 甚十郎

鈴木家はその創立よりこのかた世代を

育英界に盡瘁寄與をなし、現在は四期目の村會議員、青年團長、消防組頭として益々村民の爲に努力活躍を續け、産業方面に於ては信用組合理事、組台長、村農會評議員、耕地整理組合副組台長、新井郷川組合會議員、同常役委員、その外的重要にあり、銑後後援に活躍しては尙武會長となるなど、實に村内の重要責はみな氏一人が兼ね、これを以て見ても氏の如何に手腕家であるか、人望家であるか、察知し得られる。今や岡方村を一身に背負つて益々盡瘁をつづけてゐるが、氏の如き人物こそ最も現時の時局に際し村政を處理するに適當なる材幹と稱すべく、愈々令名高まり、近隣に知らぬ者がない。氏は、當村民政黨の重鎮にして、趣味は旅行に寫眞である。家庭また頗る圓滿で和樂に富み、内助の功多大にして、貞淑の譽れいや高き夫人もまた國防婦人會班長の任にあり夫君と共に銑後の護りに奔走、活躍をつづけてゐる。



重ねること、十一代星霜を閲すること三百餘年に今日に及ぶ舊家であつて、當家こそ鈴木同族の宗家としてその總元締である。代々農を以て業とし代々篤農の譽が高い。先代甚十郎氏は村會議員に選任せられてから多年にわたつて勤続盡瘁し、自治産業等村政諸般の上に顯著なる功績を重ね、村會よりその功を表彰せられて銀盆を賞呈せられた。

當主は先代の長男として明治十二年一月三日に生れ、先代の名を襲いで家督を相續した。村會議員に擧げられて先代の遺志を繼承し、また産業組合理事を兼任して、それぞれ最善を傾倒して使命の達成に努力して貢献するところきはめて多大である。農事研究の作振と、産業組合精神の普及徹底とをその持論として、つねにこれが實行實現を念願として活動して怠らず、著々としてその効果をあげつゝあるのである。

氏はその資性淡泊にして酒脱、しかも誠實にして熱心、堅忍不拔意力に秀でた

る人、その思想は穩健にして中庸を外さざるの達士である。曹洞宗を奉じてその信仰あつく、家族は八人をかぞへてつねに圓滿和合のうちに繁榮してゐる。

#### 松浦村荒川

村會議員 五十嵐千代次

氏は明治二十一年十一月五日に生れ、



先代久太郎氏の養子となつて家督相續をした農を以て業とし精勵してゐる。先には區の代議員及び消防組員として功勞があつた。今はあげられて村會議員の任にあつて活躍中である。

養女シヅエさんは新設田高等女學校を卒業した才媛である。婿養子の榮氏は今北支那事變に出征中にして、温厚しかも明敏なる資性を有し、村民の信望ある人材である。

#### 聖籠村

村會議員 長谷川喜一郎

長谷川家は、聖籠村屈指の舊家にして代々村開拓に功多く、先代寅三氏は人格高潔にして當村村長に、村民一致の推轡を受け、一身を挺して村勢伸展のために努力盡瘁、多大なる貢獻をなし、村史の上に偉大な足跡を印せる功勞者であつた。内治の功勞に依り勳八等を賜り、その外また表彰を受くる數回、村民の範として仰がれた。

當主はその男、當家七代目にして明治十四年の出生である。天性すこぶる醇厚にして潔白、また明朗潤達なる一面を有し、その温容圓滿なる風格は村民の等しく敬慕するところである。氏はまた才能と識見を備へる當代稀に見る材器にして夙に村治への進出を懇請され、民政黨に屬して出馬、さすが長谷川寅三氏の血を享けるだけに、その活躍は到底凡人の及ぶところではなく、村政各般の上に多大

の效を奏してゐる。

現在は四期目の村會議員たるの外教育に關與しては學務委員の任にあり、産業では蠶絲調査員、養蠶實行組合副組長等の要責に在り、また加治川水害豫防組合議員として功すくなく、殊に蠶絲調査員は一村一名のものにて、その努力は村民一同の感謝するところ、今や村政の中堅に在りて益々活躍しつゝあり、その功績は清廉温厚なる人格と相俟つて愈々高めつゝある。

#### 岡方村大瀬柳

村會議員 木村惣三郎

木村家は創立古く、今日まで六代を重ねてゐる。當主惣三郎氏はさきには區長に任せられて四箇年勤続し、いまは村會議員に當選して、その任に在り、また岡方村信用組合信用評定委員、新江用水普通水利組合議員連續三期、岡方村耕地整理組合評議員七箇年勤続、負債整理組合長を兼任盡瘁してゐる。

氏は剛毅にして果斷、明敏にして精確しかも寛容にして懇篤である。實行力に富み、理想はきはめて高遠である。全村の信望を博すること大である。日蓮宗を奉ずるときはめて敬虔その信仰は熱烈眞剣である。

#### 岡方村大久保

村會議員 高橋勝三郎

高橋家は創立以來今日まで六代をかさねたる舊家にして、代々農を以て業とし篤農を以てあらはれる。氏は明治十一年十二月七日に生れて、先代善七氏の長男として六代目を繼いでゐる。

氏はつとに公共世務のために活躍することはなほだ熱心にして、さきには土木委員、村農會總代、區長、新井郷川水害豫防組合議員、家屋稅調査委員、第一第二團勢調査委員等を歴任して功績が多く、いまは村會議員に勤続して三期に及び、また耕地整理組合議員、新江用水普通水利組合議員、岡方村教育會評議

員等に任せられて盡瘁してゐる。

氏は政友會の最も有力なる黨員として活躍し、淨土宗を奉じて信仰があつた。

#### 南濱村

村會議員 此村良太郎



北村家は創立以來代を重ねて今日に至り六代目である。代々農を以て業としてゐる當主良太郎氏は先代文

吉氏の長男として明治二十七年一月二日に生れた。村治財政上に活躍すること久しきにわたつてすこぶる熱心にして、今や村會議員、區長、信用組合評議員、消防組頭等に任せられて、折角盡瘁しつゝあつて、その功勞は顯著である。曹洞宗を信仰することがあつた。氏は極めて徳氣に篤く、質實敦厚なる人格者として信望がある。



川東村上岡田

村會議員 羽賀 傳助



當家は代々農を以て家業とし、先代金藏氏は、村會議員、區長等の要職を歴任した。當村自治の功勞者として、その功績顯著なるものがある。

當主はその男で、明治十三年一月五日の岳降氏を以て分家以來實に七代目となす。資性濃厚篤實にして人望高く、夙に村治に意を注ぎ、これに貢献寄與する處甚大なるものがある。曩に區長の公職を十年勤め、献身的に區政の向上に盡瘁しまた農會代議員を四ヶ年、國勢調査員等の名、公職を歴任し、その識見才腕は好評噴々たりで、現時推されて村會議員として、村政の中樞に執筆し、夙夜これに淬勵し、その業績顯著なるものがある。

氏は曾て土地賃貸價格調査員を勤めたことあるが、その功に依つて長野稅務局より表彰された。

氏の男傳之助氏（三十四歳）は農區長を勤め、當村中堅人物として、將來を囑望されてゐる。外に米太郎氏、三令孫を加へ、一家は益々繁榮し、至幸至福を極めて和氣藹々たるものがある。

龜代 村

村會議員 度邊 理吉

渡邊家は創立以來今日まで五代をかさねたる舊家にて、代々農を以て業とし、旁ら漁を營んでゐる。氏は先代の休藏氏長男として明治十七年十月二十日に生れた。日露戰役に出征して武勳をたて白色桐葉章を賜つた。さきにはあげられて漁業組合幹事の任につき、奔走周旋大いにはげみ貢献するところはなほ多大であつた。今や擧げられて村會議員の任に在り、一身を挺して公務につくし使命の達成のため全力を傾けて傾注してゐる。

氏は政友會の最も熱心にして、また最も有力なる黨員であつて、當地方に於ける重鎮を以て目されてゐる。その資性は剛毅にして豪放、しかも磊落にして洒脱高邁なる識見はよく時勢を透察し、該博にして實際的なる學識は時勢に剴切であつて、玉成渾熟の人格はいよいよ洗練されて風韻を發し、人情に明るく情誼にあつく義侠に富める氏は、その徳望あまぬくして全村の信頼をかけられてゐる。曹洞宗を奉じてその信仰があつく、意志力ますます盛にして練磨を加へられてゐる。今後の氏の活躍と功績とはめざましきものがあるだらうと、刮目して期待せられてゐる。

川東村上羽津

村會議員 秦 茂藏

秦家は、その創立がきはめて古く、村内に分家が六軒ある。代々農を業としたる素對家である。先代隆松氏は村會議員



會代議員等を歴任して、それぞれ貢献するところが多大であつた。

當主茂藏氏は、隆松氏の長男として、明治二十四年に出生した。嚴父の志を繼いで公共のために活躍することすこぶる熱心にして、さきには在郷軍人分會評議員をはじめ消防組小頭、農會代議員、同評議員、青年會長等を歴任して功勞すくなからず、いまは農區長の任に在り、信用組合監事をかねて寄與するところあり久しきにわたつて村會議員、區長に重任勤続して盡瘁することきはめて熱誠である。國勢調査に關して功勞あり、内閣より賞状を授けられ、川東村より賞品壹個（鐵瓶）を授與せられた。氏は、その資性明朗にして洒脱、謹直

に當選すること連續三期、誠意誠心をもつて盡瘁し、また區長、農

にして端正、誠實にして勤勉である。禪宗を奉じて、その信仰がきはめてあつた。長男七藏君十九歳のほかに五男二女があつた。一家はつねに和樂圓滿のうちに繁榮してゐる。

岡方村十二新田

村會議員 高橋 治郎



農事に精勵して令名が高い。氏は先に消防組頭、區長等を歴任して

功勞少からず、また家屋稅調査委員にあげられて熱心に勉勵し、今や村會議員に重選して二期目に在任して活躍し、土木委員にあげられ、また村農會評議員に任ぜられて盡瘁するところ多大である。さらに氏は耕地整理組合代議員、新井郷用水普通水利組合代議員等を兼任して奔走

すること誠實を極め一村の絶大なる信望を博してゐる。不偏不黨にして嚴正中立を操守し公明大なる立場にあつて村政に貢献すること顯著である。氏はまた佛教を奉じて信仰がはなはだ篤い。一家はつねに和樂平安にして至幸の光明に輝きわたつてゐる。

加治村高山寺

村會議員 松田 岩松



民政黨系にして、區長を九ヶ年間の永きに互つてつ歴任し、區民の福祉増進のために盡瘁をなし多大の寄與

をなせる氏は、その外水利組合、信用組合等にも關與して努力せる事もあり、現在村會議員として専ら村勢の伸展、村治の圓滿なる運行に意を用ひ、村民の福祉を村會に論じて献身的活躍をつづけ、



兼任するは經濟更生委員なるが、この任に在りてもまた盡力功勞尠ならず、村治各方面に重きをなしてゐる。

當松田家は分家してより既に二百年を閱する舊家にして、代々農を家業となし先代森三郎氏は家業に勵みて篤農家の聞え高かりし人にて、自治に與つては區長を多年歴任し、區民の感謝と信頼を一身に集め、また村會議員として效を奏し、その名を謳はれた。

當主はその長男として明治十五年三月十日出生せる、天性篤實温良なる徳望高き人格者である。温和を以て人に接し、圓滿なる人と稱され、その清廉なる人格は功勞と相俟つて村民の等しく敬慕するところにして、村政の元老格とし愈々期待をもたれてゐる。經濟更生委員として努力し、表彰を受けた事がある。

家族は八人にして、常に和樂を極め、長男三衛君はいま二十三歳の好青年にして、家業たる農に勵むこと頗る熱心、學を農學校に修めた。次男末吉君は商業學

校三年に在學中である。

### 紫雲寺村米子

#### 村會議員 石井象太郎

石井家はすでに七代の家系を傳承する

舊家にして

代々村開拓

に功多く、

先代彦藏氏

は村會議員

區長等の要

責を歴任して效を奏せる功勞者であつた

當主はその男、明治九年七月二十一日

の出生である。温厚にして篤實なる資性

を有し、家業たる農に精進して篤農家の

聞え高く、自治公共の事に竭せば、消防

第一部門を二十一年の永きに互りて歴任

役場に入りては收入役より助役にと多年

つとめ、村會議員の任を歴任すること三

期に及んで現任中、兼ねて養蠶實行組合

米子支部長の任にあり、實に寄與せる功

勞燦たるものあり、表彰も枚舉の遑なく

今や村政の元老として益々村治の上に重きをなしてゐる。

長男清吉氏は、加茂農林學校の出身、青森縣廳に奉職して勤務中、次男政男氏は滿鐵に奉職してゐる。

### 金塚村大野

#### 村會議員 須貝與一

現在村會に樞要なる位置を占め、議員中の白眉と謳はれ、村勢伸展の爲に獻身的の勞を執つて、村政諸般の上に多大の效を奏してゐる。

氏は兼ねて學務委員の任にもあり、その村教育の爲に盡瘁する貢獻もまた妙からぬものがある。曾ては區長として區民の爲に盡し、消防部門として村警備の任に當り、信用組合理事として、産業伸展の上に寄與をなせし事あり、多年に亘るその盡力功績は、村民一同驚きの眼を見張り、感謝するところにて、いまだ明治三十六年十月生れの三十六歳なれば、その將來は愈々矚目され、一舉一動村民注

目の中にある。

當須貝家は、大野部落屈指の舊家にして須貝姓の本家と稱せられる。先代廣吉氏は資性穩健にして潤達なる人格者である人望すこぶる高く、遂に推されて區長の任に就き、一身を挺して區民の福祉増進に、區内の圓滿和合に貢獻せる自治功勞者である。當主はその長男にして夙に篤農家の聞え高く、家運を興隆せしめ勤勞愛汗の人、天性明朗にして潤達、俊敏の氣性に富む材幹である。

家族は十一人にしてすこぶる圓滿和樂を極め、長男廣衛君(十八歳)は農林學校在學中である。

### 築地村

#### 村會議員 浮田長太郎

農會長

氏は温厚なる人格者として、信望極めて高いものがある。明治十七年、長次氏の男、當家三代目として出生した。父君は村役場收入役に在ること三期、村會議員、郡會議員、産業組合理事、農會長等

に歴任、著大なる功績を遺して七十歳を以て長逝した。

當主はその後を繼いで、公共方面にも進出した。現に村會議員であるの外、産業組合理事、農會長などを兼ねて鋭意努力し、以て民衆の心に副はんことを念となしてゐる。

長男長一郎氏は加茂農林學校の出身、滿洲守備隊に現役を了へて後、北支事變に出征したが、名譽の負傷のために後送新發田聯隊附屬病院に入院加療中であつたが、全快歸郷してゐる。

### 黒川村持倉

#### 村會議員 水澤千代美

水澤家は約二百年前の開祖に係り、當



主を以て十一代目とする當村に指の舊家である。先代權藏氏は自治

方面に卓越せる手腕を有する材幹にして郡會議員として多年郡政の圓滿なる運行のために努力活躍をつづけ、多大の功を効せるの外、村内各名譽職を歴任、區長の任を歴任すること三十年の永きに及ぶ即ち當區をして今日あらしめた恩人にして偉大なる自治功勞者である。

當主は、その次男にして明治二十三年五月二十五日の出生である。穩健着實なる資性を有して衆望すこぶる高く、今や村會議員、農區長、信用組合理事、選舉肅正委員等の自治、産業各方面の重責にありて、農村の更生を目指して自力更生を旨とし、村民の先頭に立つて活躍盡瘁をなしつゝあり、その貢獻極めて多大曾ては區長を二期もつとめし事がある。また氏は幼時より明敏なる頭腦の人と聞えたが、長じて獨學し、檢定試験に合格して二十三年間の永きに互り教員を奉職し、兒童よりは慈父の如くに慕はれて兒童教育のために努めた育英界の功勞者である。人望は功勞と人格と相俟つて益々



高く、愈々その動きを期待されてゐる。家庭は圓滿にして三男三女あり、ヨシ子夫人は淑徳の譽れ高く、春風和樂の家として知られる。

### 葛塚町

町會議員 中川 敬藏  
勳七等功七級



氏は富吉氏の男である。明治十三年の二月二日、この世に生を享けた人で、今は書籍商を營業とし、商況

ますく隆昌を致してゐるが、曾ては三十七八年の役に出征した歩兵曹長でありまた、赫々たる勳功によつて勳七等に叙し、且つ功七級を賜はつてゐる。

氏の性格は何處までも竹を割つたやうな軍人肌で、これを自己の營業の上にも社交の上にも通じて、未だかへたことがない。この氣つ風がまた人氣を呼んで、

信頼の度極めて高きものがある。曩に在郷軍人分會長、消防組頭、村役場助役等を歴任して、その功勞至大なるものがあつた。殊に二ヶ年間の助役時代に於ける精勵恪勤と、村長輔佐役とは一層村民に「この人ある哉」の念を増さしめるに至つたのである。

氏は今、町會議員であり、學務委員であるが、町會議員としては實に連續四期目、町會に於ける元老を以て自ら任じてゐる。當年五十九歳なれど腕には年をとらせず人生は五十からを念頭にますます邁進、大に成すところあらんとして活躍これ努めてゐる。

### 京ヶ瀬村深堀

村會議員 佐藤 益四郎

赤心奉公を旨とし、眞摯誠實をモットーとして、國民精神の作興に寄與するところ多き氏は、また本村切つての自治功勞者であり、烈々たる意氣の人である。明治二十七年十二月を以て健かな呱呱の



一聲をあげ家業に精進努力すると共に早くから自治公共のことに竭

し、村會議員に任ずること現在を以て三期目とするほか、深堀消防組頭、農區長等の重責を帯び、村民の信望を一身にあつめて颯爽たるものあり、正に本村の指導者たるに足る人材である。政友會に屬し、當地方屈指の鬪將との定評がある。熱と力と意志の人だ。その一言一句は宛も火を吐くが如く、郷土を愛し、村を愛し、國を愛するの情は、譬へんとして譬へるに物なきを奈何せんである。稀有の村幹と稱揚すべきであらう。

因に當家は約三百年を経る舊家にして先代益次氏は村會議員を四期間つとめた人格者、且つ人望家なるも、昭和八年惜しくも他界された。氏はその次男にあたる。

### 笹岡村大室

村會議員 太田 富一



太田家は當村に於ける屈指の舊家にして代々農を以て業とし勤儉精勵を重ねて巨富を造成し素封家として

遠近に著聞してゐる。當家は數多き太田同族の宗家である。

當主の富一氏は先代良作氏の長男にして、新發田中學を卒業す、さきには長岡銀行水原支店に奉職し、精勵して優秀なる成績を擧げた。また村會議員に選ばれてその任に活躍し、信用組合に入りて理事を経て専務理事となつて敏腕を揮ひ、いまは村會議員に當選してその任に在り全力を傾けて盡瘁してゐて、その貢獻はなほ顯著である。氏は不偏不黨にして嚴正中立である。

その資性は濃厚にして篤實、全村の人望はきはめて高大である。禪宗を奉じてその信仰はなほだ懇篤である。夫人は安田村の出身にして貞節をうたはれ、長男は光衛君と呼び小學校修業中であり、なほ令嬢が二人ある。一家はつねに和合圓滿のうちに繁榮してゐる。

### 岡方村大迎

村會議員 後藤 徳平  
軍人分會長 勳八等

大正七・八年のシベリヤ事變に際して陸軍歩兵上等兵として勇躍出征、駐屯一ヶ年にして、燦たる軍功あり、勳八等に叙され、瑞寶章を賜つた氏は、明治三十二年三月二十五日先代徳三氏の長男として生を享けた。

剛毅果斷なる資性を有し、事に當りて眞摯なる材幹、後藤家七代目にして尊父早逝の爲に夙に家を嗣ぎて、家運の隆盛に意を用ひて努力、家業は農なるが現在その傍ら富士生命保險株式會社代理店を

營み、成績見るべきものがある。才能あり、力量ある才幹として衆望すこぶる高く、はやくより自治公共の事に竭して三期間の永きに亘つて區長をつとめる外、國勢調査員二期、貸賃價格調査委員一期、家屋税調査委員二期等の責を果し、現在なほ在郷軍人分會長、村會議員二期目、村農會副會長、消防組第八部頭の重責にあり、その自治に、産業にと各方面に一身を挺して努力する功勞は實に多大にして、村諸般の上にその足跡を印し、人望ますます高まり、一舉一動期待と感謝を以て注目されてゐる。趣味は運動にして特に馬術に秀で、馬術の達人としても令聞がある。

夫人イツ子さんは淑徳の譽れ高く、國防婦人會部落班長の任にあり、終日銃後の護りに奔走の勞を執つてゐる。

### 長浦村浦木

村會議員 小泉 正次

曾て村長の重任を三期歴任して、村民





の福祉増進のために献身的なる努力活躍をなし、多大の效を奏せる

氏は、明治九年二月の出生にして、當家四代目に當る。資性すこぶる謹直、温厚にして篤實、村民間の信望甚だ厚く、現在三期目の村會議員の任にあり、村産業自治經濟に貢附するところ頗る多大、兼任する耕地整理組合會議員としても寄與尠からず、その任は組合創立當初よりのものである。政友會に屬し長浦村の重鎮と稱せらる。小島、釣に趣味ありその和かなる人格は村民の等しく尊敬するところである。

家業は雜貨商、村内に信望厚く、繁榮を極めてゐる。なほ自治に關與して多年努力する功勞は村當局その外より表彰されしこと數回に亘る。氏の家庭は圓滿にして、美望されてゐる。



松浦村松岡  
村會議員  
湯淺 秀作  
當地屈指の舊家と聞える當家は、二百年以上の家歴を有する家柄にして家業は代々農を營み、また當地開拓に功多き家柄にして、殊に先代佐太郎氏は村長及び村會議員、學務委員、信用組合理事、その外の重任を果せる松浦村

當主はその男、明治十五年九月十日の出生にして、資性穩健、篤實なる人格を有する篤農家、長じて後は専ら家業に精勵してゐたが、日露戰役起るや勇躍應召第一軍に屬して出征、各戰線に於ては常に第一線に活躍、燦たる功勞を樹立して勳八等に叙され、白色桐葉を賜つた。凱旋歸郷後は専ら家業に勵むと共に自治



令息佐久太郎氏  
村會議員  
田邊 陳平

公共の事に意を注ぎ、現在村會議員、區長等の任に在る外學務委員、農會副會長信用組合理事の重責にあり、その各方面に献身的努力をなせる功勞は、實に多大にして村民等しく感謝し、尊敬するところである。

長男佐久太郎氏は俊敏の氣性に富む材幹にして、父君を輔任し、家業に精進し

傍ら軍人分會長として活躍してゐたが今次の事變に際し、新發田聯隊機關銃隊の中隊長として勇躍出征し、いま活躍中である。尙ほ令弟氏は南米ブラジルに在りて農業に従事してゐる。

聖籠村  
村會議員 田邊 陳平  
當家は今より二百五十年前に西蒲原郡

より移住せるものにして、代々農業に従事して精農家の開え高く、先代敬太郎氏は助役、収入役、村會議員、産業組合理事等、地方自治産業の重要職務を歴任せる土地開發の大恩人である。

氏はその男にして明治二十三年十月八日の出生である。加茂農林學校に學びし逸材にして、大正九年以來村會議員として現在に至るほか、同十年より産業組合理事の任にあり、加治川水害豫防組合會議員、村農會代議員を兼ね、自治産業に盡瘁貢獻してゐる。政黨は立憲民政黨に屬する。

また氏は資産家ニノ宮孝須家の執事たること十餘年に上り、資性英邁なる人格者として知られる。

南濱村太郎代濱  
村會議員 吉田 由一郎

明治二十六年七月生れの氏は、先代由吉氏の男で、氏を以つて四代目とする。代々農をもつて家業とし、篤農の開えが

高い。先代由吉氏は、區長、學務委員、村會議員等の各要職を歴任した、當村自治の功勞者である。

質朴にして、温厚篤實の氏はまた夙に村治に竭し、産業に、育英にその功績尠ならず、村民の信望翕然として氏の一身に集り、現時推されて村會議員の要職にあり、夙夜村勢發展に盡瘁してゐる。

政黨は嚴正中立を持してゐる。その重厚圓滿なる人格は、當村最有力者として存在益々重きを加へてゐる。

家庭は春風臨瀟、和氣霽々たるものがあり、附近美望の的になつてゐる。

川東村大友  
村會議員 星野 敬吾

星野家は創立以來今日まで世代を重ねて六百餘年を経過せる舊家にて、村内多數の同姓星野家の總本家である。代々農業とし來れる豪農の家であつた、素封家として遠近に著聞してゐる。氏は全く一村の長者にして明治十八年に生れ家業



星野醫院長  
星野 守衛  
野敬吾氏の令嗣子として明治四十年に生れた。

醫學專門學校を優秀なる成績を以て卒業した醫學士にして昭和十一月北浦原郡川東村上村に内科、小兒科を開設して、開業したる新進有爲の醫師である。氏の學理に精通せると、實技に練達せると、不休不忘の研究に據れると、更に温雅にし



て鄭重、親切にして情味あつく、まことに仁術の木鐸たるべき人、患家の信頼感謝は絶大であつて、星野醫院の門前はつねに市をなしてゐる。氏は小學校々醫に任ぜられ、在郷軍人會分會副會長を兼任なして、名聲噴々たるものがある。貞節にして内助の功高き夫人は佳人としての令聞があり、愛息一人があつて理想的な幸福な家庭を營み、日に日に繁榮を加へつゝある。

### 金塚村小中山 村會議員 森谷 俊平



分家以來七代目である當家は舊家、また名門の家柄として聞えてゐる。祖父榮八氏の如きは助役、村會議員等を経て、村長に推薦せられ、しかも永年にわたつて盡瘁貢獻せる功勞は多大

なるものがあり、本村自治の功勳者としてたゞへられ、また内治の功によつて勳八等を賜つてゐる。

當主は明治三十四年一月十六日の誕生である。氏また、祖父の血を繼承せる烈々たる愛郷家で、資性果斷にして明敏達識、謙讓の美德を備へし才幹である。夙に村治に進出し、曩に區長の公職を勤めて區政の向上に盡瘁して好評噴々たるものがあつた。また消防後援會員としてこれに關與すること十六ヶ年餘、その功績顯著なるものがある。現在衆望を擔つて村會議員として村政の中樞に參與して夙夜村勢發展に力を致してゐる外、農會議員（三年目）を兼ねて、その將來を益々囑望せられてゐる。

令聞また内助の功多く、琴瑟相和して頗る圓滿、長男俊文君（九歳）の他五人の子寶に恵まれて、春風洋々たるものがある。尙令聞は氏を扶けて子女教育の外國防婦人會員として社會の公共事業に活躍してゐる賢婦人である。

### 岡方村高森

村會議員 外山 彌市



外山家は氏を以て始祖とし創立新しき家庭であるが、一門はことごとく舊家名門である。氏は明治十六年五月二日に生れた。つとに家業たる農業にいそしんでから、區代理二箇年勤績、および負債整理組合理事等に歴任して功勞があつた。いまや村會議員に當選して現任し、全力を傾けて盡瘁中である。氏は民政黨の有力なる黨員であつて、熱心に活躍してゐる。浄土眞宗を奉じてその信仰はすこぶるあつたものである。

### 築地村竹島

村會議員 岩本 長次郎

現在村會議員、農會副會長、上竹島聯



合養蠶實行組合長、川越土地改良組合長、中條乾繭組合代議員、學務委員、消防小頭兼部頭等の自治、産業教育各方面の公職をつとめ、一身を挺して村勢伸展の爲に盡瘁努力をなした。あつる氏は、温良なる人格者にて村民の信望すこぶる厚く、村政の重鎮と稱されてゐる。これまで表彰さるゝこと數次に及び當村に缺くべからざる存在である。

當家は、古く庄屋をなしたる當村屈指の名門にして、氏を以て六代目とする。先代忠三郎氏は、村會議員を勤めし當村開拓の功勞者にて、當主はその男、兵役は近衛歩兵軍曹にて、在營中の成績拔群であつた。

### 葛塚町大田古屋 町會議員 川崎 吉三

川崎家はその創立以來今日にいたるまで、世代を重ねること十一代に及び、代々農を以て業としたる舊家にして令名が高い。先代達太郎氏は學務委員、社寺總代等を歴任して功勞がはなはだ多大であつた。

當主吉三氏は先代達太郎氏の男として明治二十五年一月八日に生れた。いまや町會議員に選ばれて在任し、農會代議員をはじめ、北部耕地整理組合理事、養蠶實行組合長、太田古屋信用組合理事、畜産組合葛塚町支部副會長等を兼務して、全力を擧げて最善をつくし盡瘁貢獻するところつねに顯著なものである。

氏はその資性はきはめて温厚にして篤實、誠實にして勤勉、しかも明朗にして洒脱である。特に園藝に興味が深く名手と謳はれてゐる。曹洞宗を奉じてその信仰は甚だ篤い。氏の今後の活躍は全町民のことごとく刮目して待望するところである。一家はつねに圓滿にして和樂のうち繁榮しつゝある。

### 京ヶ瀬村下里

村會議員 杉山 市三郎



當家は三百年を數ふる當村切つての舊家にして、代々村開拓の功多く、先代彦三郎氏は當年七十二歳を以

て頗る壯健、曾て村治に専念貢獻をなした偉丈夫である。爲に當村の種々なる名公職に選ばれ、その功勞、枚舉に遑なしである。

當主市三郎氏は、その長男にして明治十六年生れ、先代の衣鉢を繼いでまた熱烈眞摯、稀に見る人格者である。村發展の爲に一意力を注ぎ、大正九年陸村會の組織に當り、資財を投じて努力奔走し青年の指導に已れを棄て、立ち、隨つて郷黨の敬慕あつく、青年の畏服するところである。



現在、村會議員は二期目にして、また區長の重任を兼ね、その村政各般にわたるりて多大の盡力をなし、尙下里青年睦友會の名譽會長として、徳望を一身に集めてゐる。

國家非常時に直面するや、直ちに立つて國防婦人會下里支部建設のために、側面援助者として盡瘁し、その成立を容易ならしめた名士でもある。

### 笹岡村須走

村會議員 飯野 春藏

當家は開祖以來約百年を閱する名門である。氏は先代米藏氏の長男にして明治二十七年を以て生をこの世に享けた。幼時より頭腦明敏の聞え高く、郷費に勉學中は常に拔群の成績を維持してゐた。その後家業に従事すると共に社會公共の事業に關與し、現時村會議員として噴々たる名聲を馳せてゐる。

性温厚明朗、近代的進歩的思想を有し反資本主義、反共產主義、反ファツシズ

ムの三反主義を以て進む社會大衆黨に籍を置き、私利私慾を忘却の彼方へ捨て、一意大衆生活の向上と郷土の發展に努力盡瘁し、その功績は一々枚舉の繁に堪へない。一般村民からは絶大の信頼と期待とをかけられ、從來の功績に徴しても、今後の活躍は期して俟つべきものがあらう。

### 岡方村森下

村會議員 原 市太郎  
消防組頭 原 市太郎  
信用組合監事 原 市太郎

先代要松氏は區長四期間を勤続し、その他の公職、名譽職を多く在勤して盡瘁しその功勞きはめて多大であつた。

當主市太郎氏は先代の長男として明治二十七年に出生した。先代の志を繼いで公共のために熱心に奔走した。則ちいまは村會議員に當選してその任につき、信用組合監事、農區長、新江川水普通水利組合會議員、連續二期、消防組第二部頭等を兼務して努力貢獻してゐる。消防組

に多年勤続の功により、縣消防義會より表彰せられた。  
氏は民政黨の最も熱心なる黨員として活躍してゐる。淨土眞宗を奉じてその信仰はなはだあつた。

### 聖 籠 村

村會議員 阿部 平次

明治二十年五月一日この世に生を享けたる氏は穩健篤實なる資性を有する圓滿なる人格者にして村民間の



たる氏は穩健篤實なる資性を有する圓滿なる人格者にして村民間の

人望すこぶる厚く、當村に缺くべからざる人物の一人とされてゐる。

因に當家は二百五十年以上の家歴を有する舊家にして、先代平五郎氏は村會議員、區長をつとめて衆望を博せし自治の功勞者であつた。當主はその養嗣子、尊父の衣鉢を襲ぎて夙に村治に進出、いま

村會議員及び區長の任にあり、その村勢伸展に部落融和に、盡瘁寄與する多大なるものあり、現在ますます以て献身的活躍をなし着々成果を擧げつゝある。

### 築地村笹口濱

村會議員 八幡 慎平

八幡家は築地切つての舊家にして、家系を傳承すること八代に及ぶ。代々公共の事に關與して功多く、庄屋をつとめし名門である。先代金次郎氏は温厚篤實なる人格者にして、多年に亘つて村會議員及び區長として盡瘁し、村勢伸展の上に勤なからぬ功を効せる自治の功勞者である。當主は、その男として明治十四年三月

瓜々の聲を擧げた。資性すこぶる勤直、而して清廉潔白、人に接するに温顔を以てし、村民より稀にみる人格者と敬慕されてゐる。若冠にして篤農家の聞え高く

長ずるや尊父の衣鉢を襲いで自治産業の事に關與、會て農會長として産業の發展改良に意を用ひた事あり、村會議員に推舉されては歴任すること三期、現任中にて議員中の元老として益々活躍をなしてゐる。兼任するは産業組合理事、笹口濱聯合會實行組長、農業實行組長等の村内産業方面の重責すべてに關與、その寢食を忘れて活躍盡瘁する功績は實に多大にして、今や當村に缺くべからざる人物の一人として、村民の衆望を一身に集めてゐる。政黨はいづれにも關係して居らずたゞ村民の爲に奔走するを我が使命なりとして努力してゐる。

長男氏は今、新發田聯隊に屬して、今次の支那事變に出征し、活躍中である。

### 葛 塚 町

町會議員 佐藤 藤美衛

當家は木崎村、須戸藤左衛門家より分家せる家柄にて、藤左衛門氏は多年に亘り村長、村會議員、區長その外村内各公

### 京ヶ瀬村窪川原

村會議員 能勢山 義平

氏は氣概の人である。温厚の中に稜々たる氣骨を含んでゐる。開祖以來八代目にあたり、先代道二郎氏の長男として明治十六年に生をこの世に享けた。現時、



村會議員の要職にありて村勢の發展に盡力するところ頗る多く、議員中の活動家として知られる外、村農會總代、水害豫防組合議員、水原乾繭組合總代、區長等の諸職を兼ね、殊に區長は十年來その任にあり、部落の繁榮融和を圖り、功績顯著にして、名區長と謳はれ、普く人望を博してゐる。氏が公事にあたつては一身を忘れ、寢食を忘れ、一意公益の増進と郷土の發展を考へるばかりで、その献身的努力は何人と雖も眞似し得ざるところである。

笹岡村發久

村會議員

中山哲令



濃厚篤實なる人望家として知る我が中山哲令氏は、當地方に於ける民政黨系

の重鎮として尊敬されてゐる。先代治郎衛門氏の次男に當り、明治十九年十月の出生である。祖先中には庄屋その他の要職を勤めたる人有り、先代は戸長を初め収入役、村會議員を勤めし功勞者である。氏は新發田中學校に學び、在學中は學業、操行共に良好にして模範生といはれた。社會に出てから後も、人格と智識の人として漸次興望をあつめ、村會議員、區長、消防組部長、信用組理事等を歴任すること多年、功績頗る多く、本村自治史上に燦たる光芒を放つてゐる。現時村會議員三期目の任にあるほか、約十年來水利組合議員の要職を兼ね、一意専心公共に盡瘁してゐる。

長男英治氏は東京農業大學を卒業せる秀才にして、現在は新發田農學校教諭をつとめ、生徒の尊敬厚く令名普く及ぶ。

岡方村灰塚

村會議員

小田島六太郎

小田島家は創立以來今日まで二十代を



重ねたる舊家であつて代々農を以て業としてゐる。先代

氏は村に於けるあらゆる公職、名譽職を歴任してそれ／＼功勞が大であつた。當主六太郎氏はその男として明治十一年十二月に生れた。つとに農區長、新江用水組合議員および、消防組部長等に歴任して功勞があつた。いまは村會議員に當選して連續二期目に及んで盡瘁してゐる。

氏は忠實にして勤勉、人望次第に高きを加へつゝある。民政黨の熱心なる黨員として活躍してゐる。浄土眞宗を奉じて信仰があつた。老來玉成してゐる氏はその人格識見に於いて、その實力才幹に於いて、一村の指導者たる賞祿を示し、今後の活躍盡瘁はめざましいものがあるべしと、全村民の刮目期待しつゝあるところである。

龜代村

前村長 堀慶次郎



堀家は今、六代目に及んでゐる。代々農を主業となし且つ當地方の素封家を以て名を馳せて來た。先代は

市五郎氏で、熱心祖業に精を出すと共に村内公共のことに邁進して村民の意に副うところあり。更に人望を加へて村會議員に選ばれ、進んで村長に推され、しかも村長の要職に在ること二十二年の久しきに及び、その功また絶大なるものがあり、厚く表彰された。

當主慶次郎氏はその長男に生れた人、父君の衣鉢を繼いで疾くより村治方面に與り、曾て加瀬川豫防組合員として活動し、村役場収入役として村長を輔くること三ヶ年、その遺憾なきを得せしめ、ま



長男 市太郎 氏

長男 市太郎 氏は當年三十一歳、陸軍歩

た村長に座すること七ヶ年、父君に劣らぬ業績を效して今は滿期退職後の身を、家業に専念すると同時に、村内のことに注目してゐる。

兵少尉で 大正六年龜代村在郷軍人分會長となり、引續き今日に至つてゐるが、その功勞また決して尠少ではない。

築地村

教育會長 元村長 勳七等

佐藤龍太郎

曾て明治三十八年村長に推舉され、續いて六期の永きにわたつて在任、また農會長に任ぜられること二十四ヶ年、當村公設消防組頭たること二十二年、それぞれ盡瘁貢獻せる功勞に至つては、眞に算ぶべくもなかつた氏は、明治二十一年

葛塚町

町會議員

山田忠太郎

月四日、古くから庄屋等を勤めた當家に生れた。

日露戰役當時は村長の要職に在つて、しかも内治の功顯著なるものがあり、その功に依つて勳七等を下賜されたことをはじめ各方面よりの表彰さるゝ多數に及んでゐる。

氏は政黨等には一切關係せず、すべてに白紙を以て接衝して來た。現在は教育會長、方面委員、産業組理事、農會顧問などを兼ねて盡力しつゝある。

山田家は創立よりこのかた五代をかさねて今日にいたりたる舊家であつて、代大工職を業としてゐたが、その後商業に轉じた。先代彌惣次氏は油製造業をいとなんで盛業を來し、町會議員、區長等に選ばれて活躍し功勞すくなからず、町民の稱讃を博した。

當主の忠太郎氏は先代の長男として明



治十八年十一月に生れた。いまや嚴父の志をついで町會議員に選ばれ、その任に在つて全力をかたむけ盡瘁中である。不偏不黨、嚴正中立である。日蓮宗を奉ず長男久一氏は三十六歳にして、高田農學校を卒業してから、葛塚町豊名小學校教員をつとめてゐたが、支那事變の起るや召募に應じて、今は新發田聯隊に勤務中である。

### 京ヶ瀬村 駒林

#### 村會議員 佐藤 彌助

當家は始祖以來九代を累ねる名門にして、代々郷黨の信望をあつめた家柄である。先代貞作氏は村會議員に選ばれること四回、村内切つての人望家にて、村治に竭せる功績も甚だ多かりしが、今より二十有餘年前他界せられた。

當主彌助氏はその長男に當り、明治十六年十一月の出生である。村會議員たること二期、現にその重責を帯び、村政に献策頗る多く、議員中での活動家であり

聲望高き敏腕家である。住友生命保險株式會社代理店を經營する。

長男進氏は水原農學校を卒業せる俊英にして、目下家業に従事精勵しつゝありその將來は多大の期待をかけられ、本村が有する若き材幹中の第一人である。

### 笹岡村 笹岡

#### 村會議員 星野 熊太郎

今より凡そ三百有餘年前に開かれたる當家は、村内有數の舊家たると共に、また村内切つての名門である。始祖以來代名譽ある役に推されて郷土發展につくすところ多く、當地方發展の裏面史に當家祖先の名を没することは出来ない。されば代々名望家として知られ、今も衆庶村民の敬仰の家である。

氏は先代松太郎氏を父とし、明治三年四月十日、その長男として呱呱の一聲をあげた。郷費を卒へて後、専ら家業に精勵してゐる中、人格と手腕と明敏なる頭腦とに滿腔の信頼を寄せられて、村會議

員に擧げられること二回、その他、衛生豫防委員、笹岡第一部消防小頭、農會長

郡農會代議員等を歴任して幾多の功績を積み、また南部消防研究會を創立してこれが會長たること二十九年、當地消防の改善發達に寄與するところ頗る多く、昭和五年、水原警察署長よりその功を表彰された。

資性温厚、諾否に明かにして、一度引き受ければいかなる障害をも突破してこれを遂行せずんば止まずといふ意志の人でもある。現時、三期目の村會議員をつとめる。趣味は盆栽、家庭はヨシノ夫と家族八人である。

### 葛塚 町

#### 町會議員 五十嵐 康治

五十嵐家は創立以來今日まで五代をかさねた舊家であつて、祖父氏の代より雜貨商を營んでゐる。先代三藏氏は學務委員として功勞が大であつた。

當主康次氏は、その次男として明治二



十年二月に生れた。新發田歩兵第十七聯隊に入營した。先には在郷軍人分會長の任に在り、また消防組部頭を兼ねて功勞があつた。今は町會議員に選ばれ、方面委員を兼務して盡瘁しつゝある。俳句に造詣が深く俳味に獨特の清新さがある。眞宗を奉じて信仰があつた

### 京ヶ瀬村 京ヶ島

#### 村會議員 高橋 常雄

氏は新進の活動家として衆望を集め、將來京ヶ瀬村を脊負ひ立つべき人と定評がある。明治三十七年五月十三日を以て生をこの世に享け、性温厚にして誠實、義に堅く情に厚く、現時村會議員に選ばれて活躍しつゝあるほか、京ヶ島消防組頭並に青年學校指導員の要職を兼ね、寢食を忘れての努力盡瘁は村民の等しく感

謝措く能はざるところである。政黨は政友會に屬する。

また氏は、會て軍役に服し、歩兵上等兵に任じたる模範兵にして、除隊後、郷軍の一員として皇運の扶翼に竭すところが多い。誠に氏は郷土のホープであり、新人中の異彩である。部落民の氏を遇すること、宛も父兄に接するがごとくである。

### 笹岡村 笹岡

#### 村會議員 小熊 正伍

今や笹岡村の中堅として、その一舉一動は、期待と驚異とを以て矚目されてゐる氏は、明治三十八年呱呱



の聲を擧げし資性温厚にして磊落、明らかなる性格の持主である。そも、當小熊家は三百餘年の家歴を

有する笹岡村屈指の舊家にして、代々自治公共の事に關與、當村開拓に功を效せる家柄である。その家に生れし氏も亦、夙に公共の事に竭して村勢伸展上に村民の福祉増進に多大の寄與をなし、功績は人格と相俟つて人望益々高まり、その將來は笹岡を背負ふ人物として期待を持たれ現在も村會議員の任にある。少壯議員としての名聲、でに高く、その一言一句悉く郷を想ふ眞心より出でたるものにて多數議員間には驚異を以て迎へられ笹岡に缺くべからざる一人として重きを措かれてゐる。

### 葛塚 町

#### 町會議員 石川 力松

石川家はその創始きはめて古く、代をかさねること五代にして今日にいたつてゐる舊家である。代々農を業とする。當主の力松氏は明治二十九年九月に生



れた。つとに家業にしたがつて精勵し、篤農家としての譽れが高い。また公共世務のことに奔走してすこぶる熱心をきはめさきには農區代議員にあげられて活躍し、貢献すくなくならず、いまは町會議員に當選してその任に在り、全力をかたむけて盡瘁してゐる。全町民の幸福と平安と町勢の發展とを念願として、誠心誠意活躍中である。

氏はまた佛教の信仰があつく、はなはだ熱心なる門徒宗の一人である。

### 笹岡村折居

村會議員 長谷川啓三郎

明朗潤達にして、溫和圓滿なる人格者と稱され、盆栽に興味を有し、しかも村民衆望の的となつてゐる氏は、明治二十五年先代皆次氏の男として生を享けた。抑々長谷川家は三百有餘年前の創家に係り、當村長谷川姓の本家たる舊家名門である。代々家業たる農に勵み、篤農の家と謳はれ、逐次財をなして現在の隆々

たる家勢を爲すに至つた。啓三郎氏はまた勤勞愛汗を旨とする篤農家として普く知られ家運ますく隆盛の途上にある。

兵役は歩兵にして、在營中の成績拔群、上等兵として除隊し、歸郷後は家業に勤むと共に軍人會議員、及び班長等を勤めてすくなく貢献を印した。人望自ら高まり、遂に推舉を以て今次村會議員に當選、今や一身を挺して村勢發展のために、村民の福祉増進のために盡瘁活躍なしつゝあり、その村治各般上に寄與せる功勞すこぶる多大にして、益々衆望高く、笹岡に缺くべからざる人物の一人として、その一舉一動は期待と、驚異と尊敬とを以て村民注目の的となつてゐる。家庭圓滿にして、家族は十一人、満圓和樂の家として知られ、附近羨望の的となり、長男氏は今次の支那事變に應召出征中にて旺んに活躍しつゝありと聞く。

### 笹岡村山崎

村會議員 石黒 一造

氏は明治十六年に生れ、先代林三郎氏に迎へられて養子となり家督を相続したのである。先代の創業したる瓦製造を以て業とし、旁ら搾乳業を營んでゐる。小學校を卒へてより日露戰役に補充兵として出征し、奮戦中に右腕に名譽の戦傷を負ひ、傷痍軍人として赫々たる武勳が輝いてゐる。

夙に公共の事に奔走することすこぶる熱心にして、その信望はなほ高大にして、擧げられて村會議員の任にあつて活躍すること多年にわたり、その功績多大にして枚擧の追がない。氏は温順にして寛厚、苦勞人のことよて人情に富み、仁侠の心が深く、よく人の世話をなし、家庭本位の紳士である。夫人十子さんは貞節の人で内助につとめ、なほ家族七人がある。禪宗を奉じて信仰があつい。



### 葛塚町

學務委員 山田友四郎  
元町會議員

當山田家は、二百年の家系を傳へる本家より先代藤太氏が分家して創家せる家柄である。藤太氏は資性温厚篤實にして才能と、識見と、力量とを具備せる材器であつた。温顔を以て人に接し、事に當りては眞摯なるその風容はすでに青年時より衆望を集め、推されて村治に進出して村内あらゆる公、名譽職を歴任せし後當村助役に推舉された。その盡瘁せる功勞はすこぶる多大にして、卓越せる手腕家と稱せられ、人望いよいよ高まり、遂に村民一致の推輓を以て村長の要責に就任、その任に就くやまずく努力に努力を重ねて村政諸般の上に大なる效を奏し偉大なる自治功勞者として令名頗る普く及び、郡會に出馬するや高點を得て當選郡政上にも妙なからぬ貢献をなした。

當主友四郎氏は、その長男として生を享けた。廉潔温厚なる資性を有し、尊父

の衣鉢を襲いで夙に自治公共の事に關與町會議員に推されて献身町治に盡瘁、すくなくからぬ功を效せし事あり、氏は専ら教育方面に意を注いで會て學區員を勤めし事あり、現在なほも學務委員として努力奔走をつゞけ、多大の寄與をなしてゐる。

### 松浦村荒川

荒川區長 學務委員 武藤 田三

わが大日本帝國は未だ會て國史に見ざる非常時局に際會し、民心一段と緊張の要ある時、わが武藤田三氏の如き逸材を自治界に有することは、郷土人の等しく意を安んずるに足るところである。

氏は明治十五年十月を以て笹岡村に呱呱の聲をあげ、後、名刀圭家と謳はれた武藤泰齋氏の養子となりしものにて、夙に村役場に職を奉じ、収入役たること約八ヶ年、その自治財政的手腕は村民の深く畏敬信賴するところであつた。氏の在任により本村財政の基礎は固められたの



### 葛塚町

學務委員 五十嵐 誠治

當五十嵐家は、今より六代前に始めて一家を創立したものに於て、主として農業を營みつゝ今日に及んでゐるが何れも一家の基礎を鞏うすべく家業に精進努力し、遂に當葛塚町に於ける代表的資産家として指を屈せられてゐる。當主は正に七代目、明治二十二年十二月三十日、先代直治氏の男に生れ、父祖の業を襲ふて守成よく今日をなさしめてゐる。他面また町治に參與、現在は學務



委員として在任、特に教育方面に精力を伸ばして盡瘁、夙にその功勞を誦はれて敬仰されてゐる。

また氏の長男三郎氏は至孝の人として他に範を垂れ、その將來に多大の望みを囑せられつゝある。今、消防第四部長として火防、警備のことに活躍を見せてゐる。

### 笹岡村大室

軍人分會長  
元村長  
從七位勳六等

### 横山 富作

當家は木村横山家より分家した家柄である。當主



は明治十年九月に生れ日清日露の兩役に應召し、勇躍し

て出征、各地に轉戦してよく困苦奮戦し遂に敵弾に當つて後送されたほどの功勞顯著なるものがあり、從七位に叙され、

勳六等を賜はつた。平和復活後農業に従事し、村長二期を勤続するの外、軍人分會長、村會議員、郡在郷軍人聯合分會副會長、學務委員、區長の重職を歴任、現に軍人分會長、軍友會長を兼任する。日支事變に當り、よく軍人分會長の重責を双肩に擔ひ、繁忙な事務を處理し、銃後國防の第一線にその完璧を期して執筆なしその功また尠くない。

身は既に老境にあるも、元氣矍鑠、壯者を瞻若たらしめてゐる、永年に亘りて在郷軍人分會長を勤めし功勞、眞に顯著にして曩に表彰されたことがある。

資性質實剛健、責任觀念強く、事に當るに綿密細心にして、何處までも目的完徹せずばやまさざるの人である。

政黨色のない全くの白紙の人として活動しつゝあるだけに公平にして無私、人望のあつまるもまた當然である。禪宗を信仰し、その敬神の念厚きこと村民の範とされてゐる。

長男士郎氏は農業大學實科に學び、優

秀な成績を以て卒業するや歸郷して父君を助けて農業に努力す。氏は亦村内自治のため、將た農業發達のために腐心してゐる。

### 京ヶ瀬村京ヶ島新田

信用組長  
理事

### 圓山 信一

當家は木村第一位の資産家である。先



代琢左衛門氏の男として明治四十年生れの氏は、本年二十八歳の

少壯氣鋭の士、早くも當村信用組合理事の重職を擔つて、その卓越せる機略と縦横の手腕とを以て産業方面に努力しつゝあるが、夙に定評のあるところで、聲名は噴々として四方に喧傳されてゐる。

氏はまた、藝術的才能豊かな人である新潟中學を優秀なる成績で卒業するや、進んで美術學校に學び、同校を了へるを

待つてフランスに遊學すること一ケ年、

春秋に富み將來を囑目された新進であつたが、現在ではその専門の畫も、趣味として畫く程度で、今や銳意して組合の發展に盡瘁してゐる、氏が一村の樞軸となつて雄飛するは正にこれからで、大に刮目して俟つべきであり、又田園畫家として新しき奮動を期待されてゐる。

氏の家族は信仰心篤く、淨土宗に深く歸依してゐる。家庭また和樂に富み、和氣霽々たるものがある。

### 笹岡村山崎

學務委員  
信用組長  
方面委員

### 岩野 松三郎



岩野家は新發田町より出でて、創始以來相つたへて今日まで三百有餘年を閑したる舊家であつて、代々農

以て業としてゐる。先代常太郎氏は夙に公共のことに奔走することすこぶる熱心にして、戸長、村長、村會議員、區長等に歴任して功勞があつた。

當主松三郎氏はその男として明治二十六年二月に生れ、新發田中學校を卒業した。先には信用組合理事に就任して組合の基礎を確立して、今日の發展を招來し遂に事務理事に榮進して盡瘁活躍大なる處があつた。又、村會議員二期、區長三期、助役等を歴任してそれぞれ功績あり、今は信用組長に任ぜられ、學務委員及び方面委員等を兼務してゐる。奔走活躍はなほだ熱烈にして眞剣、貢獻すること多大なるものがある。村民のひとしく信任且つ感謝すること深甚をきはめてゐる。

氏は民政黨のもつとも熱心な黨員であつて當地方で重きをなしてゐる。その資性は温厚にして篤實、眞宗を奉じて信仰があつた。長男菊男氏二十四歳は東京府立園藝學校の出身である。

### 岡方村高森新田

學務委員  
長谷川醫院長

### 長谷川 康三

明治二十三年二月十一日先代源太郎氏の三男として生を享け



し氏は、資性温厚にして篤實、また清廉高潔

なる人格者にて、幼時には頭腦明敏を以て才童と謳はれ、學業成績すこぶる優秀であつた。

京都府立醫學專門學校に學を修め、卒業後も専心實地の研究をなし、遂にその蘊奥を究めて今より二十三年前に開業した。爾來卓越せる技術と、圓滿なる人格を以て患者に接し、自ら一般の信頼高まり、現在當地方屈指の名刀圭家として著聞する。氏はまた政友會に屬し、會て村助役一期をつとめて盡瘁せし事あり、現在は學務委員、消防組十四部頭として専



ら教育方面及び村警備の任に當つて努力しつゝあり、その功勞尠からず、自治功勞者としても廣く聞えてゐる。

中浦村下中ノ目

中ノ目區長 齋藤庄右衛門

當主を以て七代目とする齋藤家は、當區屈指の舊家にして代々農を家業とする家柄である。

氏は先代庄作氏の男にして、明治二十八年三月四日に呱呱の聲を擧げた。幼時より才童を以て聞え、優秀なる成績にて新發田中學に入り、卒業後は専ら家業にいそしみ、兵役は歩兵科、その在營中の成績良好にて歩兵上等兵に昇進した、除隊歸郷後早速在郷軍人分會役員に推されて永年盡瘁、その貢獻すくなく、村民より才能ある材幹と謳はれて衆望を集め、現任する區長、農會代議員、信用組合理事、消防小頭等に推擧された。その自治に産業にと各方面に關與して效せる功勞は實に多大、村中堅の一人である。

家族は十一人、長男庄衛君は國士館専門學校に在學中である。

本田村本田

本田區長 佐藤 三郎

明治三十九年九月二十日、先代幸市氏の三男として生を享けし氏は、穩健なる資性を有して俊敏の氣性に富み、勤勞愛汗の篤農家と稱せらる。

夙に家業に精勵して家運の興隆をはかり、また當村産業伸展に意を用ひて種々の計畫を樹立、その貢獻すこぶる大にして、現在は、農種苗の標本と品評會、飼料共同購入等の計畫あり、遂次實行にうつしつゝある。また村治方面にも寄與多大にして、區長の要職にあり、村民の福祉増進の爲に努力盡瘁して、多大の功勞がある。いまだ三十三歳の若さなれば、これからの人物として、精氣發刺たる材幹として、將來に多大の期待をもたれてゐる。

家族は八人、すこぶる圓滿至福を極め

てゐる。

五十公野村五十公野

郡聯合青年會 長 相馬 恒二

快活にして明朗、潑刺たる氣概を有していま、郡



聯合青年會 長の重大なる任に在り 一身を挺し 非常時日本

を背負ふべき青年の指導に當つて、青年間に多大なる信望を博しつゝある氏は、明治二十四年の出生にして、先代武氏の養嗣子である。

抑々當家はもと新發田町の出にて、代農を家業となし、當地方屈指の地主と聞える家柄、その家の六代目の當主として益々家運の興隆に努力する氏は、夙に頭腦明敏を以て聞え、疾くも青年時より自治公共の事に竭し、曾て大正十四年より小作爭議委員として繁發せる小作爭議

の圓滿なる解決のために努力貢獻せし事あり、郡聯合青年會長の重責は昭和六年よりつとめるもの、兼ねて五十公野青年會長、消防組頭、村會議員その外の重責にあり、消防方面にも異數の功勞あり、氏のその存在こそ當村の誇りと云ふも決して過言でなく、今や地方稀に見る材幹としてその一舉一動期待を以て矚目され村民殊に青年仰慕の的となつてゐる。

鴻沼村桑ノ口

學務委員 小山 貞助

小山家は創立以來代を重ねる事七代にして今日に至る。代々農を以て業とし豪農として著聞してゐる、先代儀一郎氏は信望あつく、村會議員に當選して多年在任し、その功績多大であつた。當主貞助



息一喜 氏

氏はその男として明治九年四月二十六日に生れた。先きには村會議員にあげられ耕地整理組合役員として十三箇年間勤續し収入役に就任し、村長、農會長、農會



相談 役等 歴 任し 功 勞 あり 今や 學務 委員 信用 組合 監事

聖籠村蓮野

蓮野區長 二宮 敬太

に任せられ、加治水害豫防組合員、家屋調査委員等を兼任して盡瘁中である。氏はその資性濃厚にして篤實、責任を重んじ、公正且つ懇切丁寧である。家庭にありては、長男喜一氏三十六歳は消防組部頭、信用組合分場主任に任せられて精勤しつゝある。一家はつねに和合圓滿にして繁榮しつゝある。

當地方切つての大資産家たる二宮孝須家の分家たる當家は、分家以來六代をかぞへる。本家孝須家は當地方のみならず新潟縣指折りの資産家にして、その名は遠く縣外にまで響いてゐる。當家先代敬三郎氏は永らく村會議員たりしほか、區長に擧げられて村のためにつくし、その他公、名譽職多數を歴任した功勞者にして、稀有の人望家であつた。當主はその男として明治二十一年九月二十日に生をこの世に享けた。現在九年



來の區長をつとめて部落民の信頼深く、區の圓滿なる自治の運行を圖つて効果を擧げ、寢食を忘れ、熱心に部落の行政に任じてゐる。温厚なる人格者にして徳望家である。園藝に興味深く、特に菊の栽培には特技を有する。  
夫人は内助の功多く、長男は大正二年の誕生にして目下家業に精勵しつゝあり家庭圓滿、福徳が多く、傍の見る目も羨やましいほどである。

### 猿橋村富塚

富塚區長 **富田 岩太郎**

當家は當村有數の舊家にして、今より約二百餘年前創家され、爾來當地に於て代々農を營み、篤農家として知られ、當地方に多大の貢献をして來た。

當主岩太郎氏は、先代忠七氏の三男として明治十八年五月三日に誕生した。資性温厚篤實、寡言實行の人である。常に黙々として耕す姿は、まことに人の心を打つ何物かである。土に生き、土に死ぬ

と言ふのが氏の心境であらう。

氏の着實さは人の信頼する所となつて現に區長、農會副會長として、よく其の職責を果して居る。氏は眞言宗を信奉しまた敬神の念が厚い。家族は五人皆氏を長と仰いで、和氣霽々として家庭は圓滿である。

### 松ヶ崎濱村下山

農會副會長 **今井 倉藏**

今井家は創立以來代を重ねること三代にして當主にいたつて



ひるが、篤農家の興望すこぶる高く農事に通

曉精練し一方の權威として敬仰せられつゝある。當主倉藏氏は先代助次郎氏の長男として明治十四年に生れ、小學校を卒業してより家事に没頭して嚴父の指導を受け、精勵勤勉久しきにわたつて家資を

増大しその基礎を鞏固にして安泰なるに至つた。先には擧げられて村會議員の任に在ること一期、その功勞少からず、今や農會長の任に就いて盡瘁するところ極めて熱誠である。また産業組合理事も兼務してゐる。多年にわたり實務を以て實地の體驗豊富なる氏は、廣く關係各方面諸般の情勢に精通してゐるが故に、その畫策その措置は共に機説を得たるものであつて、常に村治全般について優秀なる成績を擧げつゝある。氏はその資性温厚篤實にして、誠心精勵、明敏なる頭腦と俊英なる手腕とは、卓抜なる識見と高邁なる識見と相俟つて、すでに一家の見を有し、一村の興望をその雙肩に擔ひ、全村民の福祉の向上に任じ益々奮勵活躍してゐる。村民の信望絶大にして父老を以て氏を待つのもまことに宜なる哉である。氏はよく家を齊へ身を修め、全員十人一の大家族はつねに和樂圓滿し、歡喜安泰のうちに、至幸至福、いよいよ繁榮を極めつゝある。

### 菅谷 村菅谷

農會副會長

消防組頭 **高橋幾左衛門**



菅谷屈指の舊家と稱される高橋家は、亦代々庄屋名主等を勤めて村開拓に多大の貢献をなせる名門の家柄

でもある。先代幾左衛門氏は家業たる農に精勵して篤農家と謳はれ、また村自治の事に竭しては衆望を擔つて村會に出で村勢發展上に尠なからざる寄與をなした功勞者である。

當主幾左衛門氏は明治二十九年一月の出生にて、幼時より智慮衆に勝れて、學業成績優秀、のち先代氏の懇望に依りて當家を繼ぎし人である。穩健にして著實なる天性を有し、村民の人望すこぶる高く推されて農會代議員、信用組合理事二期をつとめて産業伸展上に功を効し、ま

た自治に關與しては村會議員、區長を勤めて活躍努力し、村政に足跡を印した。

現在三期目の農會長として村産業界の要責にあり、また消防組頭の重責にもあり多年努力活躍する功勞は實に多大にして殊に農會長としての貢献は村産業史の上に燦然と輝いてゐる。今や當村に缺くべからざる人物の一人として、衆望ますます高く、愈々その一舉一動に期待をもたれてゐる。

家庭は圓滿にして春風洋々たる感あり附近美望の的にて、長男鐘太郎君はいま十八歳の頭腦明敏なる俊才である。

### 加 治 村

農會副會長 **佐藤 祐吉**



開祖以來十七代を閱する當家は本村屈指の舊家として聞えてゐる

先代は區長、村會議員、收入役等の要職を歴任した自治の功勞者で、氏はその男として明治五年六月十九日に岳降した。資性温厚にして篤實、圓滿なる人格者として村民の信望絶大なる氏は、曩に信用組合理事、大日本肥料會社試驗員、青年會副會長等を歴任した本村の有力者でまた加治倉庫株式會社取締役を十八年間歴任し、現在は農會副會長(六年目)區長、用水組會議員、耕地整理組會議員等を兼ねて、その存在は氏の高邁なる識見卓越せる手腕と共に、愈々重きを加へてゐる。氏の當村に残せし功績は、頗る顯著で、多方面より幾多の表彰を受けてゐる。

長男庄治郎氏は、農區會議員を経て經濟更生實行委員の要職にあり、當村の中堅人物として、その前途を囑望せられてゐる。家庭に三令孫あり、頗る圓滿、春風駘蕩たる和樂の家庭として附近の羨望をうけてゐる。



金塚村城塚

農會會長  
元村會議員  
勳七等功七級

近 爲 吉

曾つて郡畜産業組合副組合長、郡家畜



保健組合副  
組合長、村  
會議員、區  
長、農會評  
議員、病院  
評議員、軍

人分會長、消防部頭等自治、産業その外各方面に亘つて献身的盡瘁をなし、自治諸般上に多大の貢献を印せる氏は、明治十四年三月三日先代徳吉氏の長男として呱呱の聲を擧げた。天性濃厚にして篤實頭腦明敏にして才能あり、また力量あり手腕あり、地方稀に見る材幹と稱され、衆望すこぶる高く、現在なほも三期目の農會長、區長、土木委員、負債整理委員村教育會幹事、軍友會長等の重責にあり多年に及ぶ活躍努力は、燦然と村史の上

に輝くものあり、表彰も各方面より數回に及び、自治功勞者として村政上缺くからざる人物の一人としてその一舉一動いよ々々期待を以て注目を浴び、信頼と敬慕の的になつてゐる。氏はまた明治の日露戦役の際、勇躍出征して第一線に於て活躍し、赫々たる軍功を樹立し、勳七等功七級に叙されたる國家の功勞者でもある。

尊父氏は村會議員、學務委員、區長、農會評議員等を多年勤めて村政伸展上に多大の貢献寄與をなせる自治の功勞者にて、父子二代に亘る努力盡瘁に當家は村民感謝の的となつてゐる。

家庭圓滿にして春風洋々たる感あり、家族は十一人にして長男一英氏は二十四歳にて俊敏の氣性に富む材幹、その將來に多大の期待を囑されてゐる。

黒川村持倉

持倉區區長  
養蠶實行組合理事

水澤彌治兵衛

水澤家はその創家はなほ太古く今まで



四百年を閱したる舊家である。傳家の重寶として名刀及び古文書の

類を秘藏してゐる。當主彌治兵衛氏は先代嘉吉氏の長男として明治二十三年五月十五日に生れ、高田歩兵第十七聯隊の一等兵である。先に青年會長たること十二年間にわたり、村會議員一期間、在郷軍人分會班長を歴任して功勞があつた。今は區長に任せられ、農會議員、養蠶實行組合理事、消防組部頭を兼務して、全力を擧げて盡瘁しつゝある。造林事業の普及と發達とを念願としてこれが宿望の達成を期せんとして奔走しつゝありて、實行第一主義の氏は活潑なる活動をなして止まらず、政友會の黨員としても重きをなしつゝある。曹洞宗を奉じてその信仰は篤い。

長男薫君十九歳、長女ヒサノさん十八

京ヶ瀬村窪川原

窪川原區區長  
消防組頭

貴舟 辰衛

當家は今、三代目を承けてゐる。先代



太三郎氏は村會議員に在ること三十餘年、加ふるに村役場助役に就

任して村治に多大の貢献をなし、その功績顯著なるものがあつた。また資産家圓山家の支配人として敏腕を振ひ、當家になくてはならぬ重要人として待望極めて多きものがあつたが、昭和六年、惜まれつゝ長逝された。

當主辰衛氏は明治二十四年の七月、その長男として出生したもの、郷校卒業後養蠶講習所に學び、卒業と共に家業に従

事し、他面また村内公共のことに大なる關心をもち、陰の人として盡力した。部落の有望は翕然としてあつまり、區長に在ること二十一年間、その他水原町滿組合監事、窪川原消防組頭(二十年以上勤続)上阿賀生産販賣購買組合總代、水害豫防組合會議員等を兼ねて、それら活躍盡瘁してゐる。

なほ長男正信氏は水原農學校の出身、現在熱心家業に従事し、しかも將來に多大の望みを囑せられてゐる。

笹岡村今板

消防組頭

今津 高詮

當家の開祖は今から凡そ三百餘年の人にて、舊幕時代には庄屋等の役をつとめたる名家である。先代氏は家業に精進努力すると共に傍ら區長、消防組頭等を歴任し、部落のために貢献渺なからざる功勞者として著聞する。

高詮氏は先代の長男にして、明治二十八年の出生である。笹岡小學校卒業後は

祖業に従事して尊父を扶け、その後推されて村内公、名譽職に就任、現時消防組頭の要職にあり、政友會に屬する材幹と稱されてゐる。資性濃厚明朗、農事に熱心なること他にその比渺なく、その改善改良に幾多の功績を遺してゐる。實に區民の模範たるのみならず、郷土全員の仰いで以て手本となすべき人物である。

神山村瀧澤

消防部頭

中川 喜惣太

當家は開祖以來約三百五十年を數へる



當村屈  
指の舊  
家こそ  
の祖は  
代々名  
譽職を

勤めて土地開拓のために貢献して來た。先代三太郎氏は、曩に山林代表者、村會議員、家屋税及び土地賃賃價格調査委員を歴任し、本村に於ける有力者を以て囑



り當年六十三歳なるも頗る健在である。當主はその長男、明治三十八年生れの三十四歳、まさしくはこれからの人として多大の期待を囑せられてゐる。資性實剛毅、長じて加茂農林學校に學び、同校を卒業した。卒業後は専ら家業に精勵し、當村の中堅人物として、氏の圓滿なる人格と高邁なる識見は、農村青年層は申すに及ばず、その信望隆々たるものであり、現在は推されて消防部頭の要職を占めてゐる。

嚴父慈母共に健在であり、令閨ヤエ夫人(三十一歳)は才色兼備の貞女、舅姑に仕へて孝養怠りなく、氏を扶けて後顧の憂ひをなからしむるなど、内助の功、また甚大である。尙、ヤエ夫人は新潟縣立女學校を卒業した才媛である。

### 岡方村灰塚

學務委員 近田 與惣治

自治界に多彩な足跡を印し、功勞顯著なる氏は、明治十三年六月六日の出生に

して、先代與惣治氏の次男、近田家三代目にあたる。徳望の人といはれ、村民の信望は極めて厚い。曾て耕地整理組合會議員、新江普通水利組合會議員、村農會代議員、京ヶ瀬村外三ヶ村水害豫防組合岡方村養蠶實行組合創立委員及び幹事等を歴任し、それ〴〵寄與貢獻するところ多く、また區長勤続十五ヶ年の長きに及び、村會議員として活躍せしことあり、學務委員に擧げられること五回、現にその任にありて村内教育に盡力するほか、村教育會代議員、灰塚水門普通水利組合會議員を兼任して不斷の努力をつゞけてゐる。

### 木崎村

消防組頭  
銘酒日本錦  
醸造元

### 土田 二太次

土田家は木崎に於ける屈指の舊家であつて、先祖代々酒造業を相傳へて、巨大なる家資を擁せる有力者として敬仰せられてゐる。

當家獨特の妙技を發揮し、一子相傳門外不出の奥儀をこらして吟醸せる『日本錦』は、越後米清酒の中で引きぬきの生粹として最高級に列擧せられてゐる。酒杯の間玉觴飛んでなほ未だ酣ならざるに玉山特に頼れんとするが如き訓練と素養とを缺如せる酒商輩には、その風味と品格とを容易に解しがたきも、玉盞敢て奢らず亂れず、禮節に風趣とを以て、自ら氣節を落さざる酒仙の士こそよくその醍醐味を解して妙趣に味到し得るものとして正に中越稀に産す芳醇なりと文人筋の稱揚渴仰して措かざる天下の逸品である。しかも當主の熱心にして誠實なるは、年年その技巧と資料とを洗練し嚴選して、ますます品質と風味の向上卓出に努めてやまず、漸を追うてその聲價上り販路擴大されつゝあるのである。

氏は明治十七年の出生にして公共世益のために奉ずることはなほだ熱列眞劍にしてさきには消防組頭にあげられて活躍貢獻はめていちじるしく、爾來多年に

わたつて盡瘁しつゝあるが、かたはら保險代理店をもいとなんで優良なる成績を保持しつゝあるといふ。老成圓熟の氏の本領を發揮すべきはこれからであると全村の刮目して翹望してやまないところである。

### 中浦村竹ヶ花

竹ヶ花區長

### 齋藤 六次郎



溫柔にして敦厚なる資性を有して人に接するに温顔を以てなし、常に地主小作人間の爭議の圓滿解決に努力して村の平和の爲に盡瘁する氏は、先代松次郎氏の長男にして、明治十一年二月十日の出生である。

抑々當齋藤家は、百五十年以上の家歴を有する家柄にして、當主を以て七代目とする。代々家業として農を營み、六次

郎氏は篤農家をもつて聞え、青年時より専心家業に勵みて家運の隆盛を計る處があつた。なほ當家は敬神崇祖の念強き家として廣く著聞する家柄であるが、氏も曹洞宗に歸依するふる厚く、温厚なる資性の上に、清廉高潔の人格備はり、村民の信頼を一身に集め、遂に推されて自治

公共の事に進出す。その勤めるは村會議員、農會評議員、消防部頭、氏子總代、選舉肅正委員等にして現在は區長、村農會評議員、土木委員等の任にあり、その多年に亘る盡瘁寄與實に多大にして、縣知事より消防功勞者として表彰を受けし事あり、常に中浦を模範村たらしめんと努力中にして、その各方面に印せる足跡は燦たるものがある。今や當村に缺くべからざる人物として、益々衆望高く村自治界の重鎮と稱せられてゐる。

### 川東村大友

産業組合長

### 宮野 眞三郎

農の國新潟に於て縣屈指の産業功勞者

と稱され、産業組合中央會その他より表彰數次に及び、新潟農民敬慕の的となつてゐる氏は、明治十年九月二日先代良造氏の長男として呱呱の聲を擧げた。現在一身を挺して盡瘁する當村産業組合長の重責は、明治四十五年二代目組合長として就任以來歴任する事すでに二十數年に及び、郡産業に關與しては郡産業組合部會長、縣産業に竭しては縣産業組合部會長の要責にて、多年にわたり産業界に寄與する功勞は實に燦然と縣産業史に輝くものあり、その足跡は縣一圓に亘つて印せられてゐる。兼ねて勤めるは耕地整理組合長、經濟更生實行委員にて、その功績また尠ならず、曾ては村會議員二期を歴任し、學務委員もなせる事あり、今や村に、郡に、縣に缺くべからざる人物として重きを置かれ、その一舉一動愈々注目されてゐる。

因に當家は分家以來すでに十一代を閱する舊家にして、尊父氏は青年時より村治の圓滿なる運行に意を用ひて關與し、



村會議員外村内あらゆる名、公職を勤め多大の功勞を遺して長逝せる、自治に一生を捧げし自治功勞者であつた。家庭すこぶる圓滿、令閨は國防婦人會長の任にありて銃後の護りに寢食を忘れて奔走の勞を執り、令息五人ありて長男甚之丞氏は資性剛毅、果斷の材幹にしていま四十歳である。農林學校出身にて農業に關して博大の知識あり、將來に多大の期待をもたれてゐる。三男氏は滿洲國に憲兵を奉職してゐる。

### 川東村大友

#### 宮村 鶴吉

當家は字内宮村家の總本家にして現在分家を出すこと既に九



軒を數へるほどの舊家である。先代龍治氏は

先驅者で、頗る人望高かりし人であつた氏はその男で明治三十四年四月二十日の誕生、幼にして頭腦明晰、智慮衆に勝れ、長じて新發田中學に學び、同校を優秀なる成績にて卒業するや、進んで早稻田大學に修業した。資性温厚篤實、村民の信望また隆々たるものである。而してその自治の手腕は、氏の高邁なる識見、豊富なる力量と相俟つて好評嘖々、信用組合理事、區長などを歴任し、區政の向上に、組合の發展に貢献せらるるものがある。現在推されて昭和八年十二月より信用販賣購買利用組合専務理事の要職に就任し、銳意これに盡瘁、しかも統制運営宜しきを得て、業績また素晴らしいものがある。今後の氏の雄飛こそ刮目して俟つべきである。家庭は、貞淑にして、内助の功多き令閨との間に二男二女を儲けて、頗る圓滿で春風駘蕩たるものがある。常に信仰の念篤く禪宗に深く歸依して、佛籍を繕き佛前に合掌するを常としてゐる。

### 南濱村神谷田

#### 學務委員 五十嵐惣三郎

五十嵐家はその創始以來今日までに八代をかさねてきた舊家である。代々農を以て業としてゐた。先代惣松氏は村會議員、區長等を歴任して活躍し、その功勞はなほだ多大であつた。

當主の惣三郎氏は惣松氏の長男として明治十一年三月に生れた。嚴父の志をついで公共のために熱心に活躍し、村會議員に當選して盡瘁して功績をあげ、いまは學務委員にあげられ、また信用組合理事に任ぜられて貢献しつゝある。氏は民政黨の最も熱心なる黨員として重きをなしてゐる。また曹洞宗を奉じてその信仰はなほだ懇篤である。

### 川東村虎丸

#### 農會長 加藤 源榮門

開祖以來四百年の歴史を有する當家は村内加藤家の總本家である。先代早逝の



資性温厚にして篤實、謙讓の徳を備へし人格高潔の紳士である。

曾ては區長を十一ヶ年、村會議員二期を歴任せる外、村役場助役を一期、經濟更生委員、部落青年會長、私設消防組頭、家屋賃賃格調査委員、新潟縣畜産組合支部議員などに推されて功績頗る顯著で好評嘖々たるものがあつた。現在は、川東村經濟更生生産部長、北蒲原郡農會副會長、本村農會長、養蠶實行組會長、北蒲原郡家畜保健組會長(二期目)、新潟縣綿羊組會議員本、村牧畜改良組會長本、村養兎組會長、酒造米供給組會長、川東村農友會長、農區長、副業組會長等を兼ねてゐる本村の最有力者であり、また牙えわたる手腕家でもある。

ため、夙に家督を相続した氏は、本年四十七歳の活動盛りである。

氏がこれまでの數ある功勞の中でも、殊に農會方面に效せる功績は、實に救學に違あらず、尙文部大臣よりも表彰をうけてゐる。氏は黨籍を政友會に置き、目下同黨新潟支部の幹事としてその存在愈々重きを加へてゐる。禪宗に歸依すること深く、家庭また頗る圓滿である。

### 加治村高山寺

#### 高山寺區長 學務委員 松田 岩松

加治村の松田家として廣く聞える當家は、すでに家系を傳へる事十二代、詳かならざるも相當深き家歴を有し、松田姓の本家にして分家せるは五軒である。代代農を家業として次第に家産を増大し、現在の資産を有するに至りしもの、先代紋三郎氏は永らく村會議員、學務委員の任にありて、村勢諸般の上に少くながらさる功を效せる功勞者、今もその名を謳はれてゐる。

當主岩松氏はその長男として、明治十

七年十一月三日に生を享けし人にて、資性謹直、剛柔の兩面を備へる人格者にして温順を以て人に接し、事に當りては眞摯なる材幹である。夙に父君を輔佐して家業に勵み青年篤農家の評高まり、長ずるや推舉を以て村會議員に就任し、献身的努力をなした。また區長に推されて歴任する事八ヶ年、現任中にて亦學務委員をも兼任してゐるが、これ亦永年に亘るその多年に亘りて各方面に献身的盡瘁貢獻をなせる功績には燦たるものありて、當村樞要人物の一人として、村民尊敬の的となり、その一舉一動いよゝゝ期待を以て注目されてゐる。

長男門三郎氏は、俊敏の氣性に富む材幹にして、父君を輔佐して家業に勵み、愈々家運の興隆をはかり、令孫三人あり家庭圓滿にて春風洋々たるものがある。

### 紫雲寺村小川

#### 消防組頭 長井 慶吉

長井家は創立せられてより今日まで八





代を重ねたる舊家である。先代鐵之丞氏は村會議員及び區長として

### 紫雲寺村 消防組

當消防組は明治四十二年十二月二十一に創設せられ

活躍しその功勞が多であつその名を謳はれた。  
當主慶吉氏は明治二十二年三月二十二日に生れた。大正十年二月一日に消防組頭に任ぜられ、爾來奮勵盡力して引きつづき勤続し、信望はなほあつたものがあつた。また今は村會議員に推舉せられ、區長をも兼任し、それ／＼盡瘁貢獻するところきはめて顯著である。特に消防組に關しては氏の貢獻するところ甚大であつて、郡内に於いて隨一の模範消防組たらしめた。昭和四年一月六日全國消防組代表者御親閱式に於て、氏は代表者として參列するの光榮に浴した。

長男覺雄氏二十八歳は、目下フイリツピンにて製麻事業に従事して活躍してゐる。

二月十一日施設の改善充實と警防の功績とにより金馬雁一條の使用を認許された

### 金塚村大野

大野區長  
元村會議員

### 須貝 與治



當家は當村有数の名門須貝與一氏より分家したものである。代々農業を營み篤農家として著名である。

氏は、温厚着實なる人であつて、村民の厚望を蒙り、夙に村政の上に幾多刷新の要あるを認めつゝあつたが、一度推されて村會議員に就任するや、年來の抱負主張に向つて手を染め着々其の改善を實行化し、村會議員としての獻身的努力をささげ、しかもその職にあること連續三期に及び、よく其の任を果して勇退したのであるが、現在は區長とし餘力を傾注し部落の福祉向上に鋭意努力しつゝある。

大正十二年二月十一日縣知事より表彰され、獎勵金を授けられた。十四年二月十一日金馬雁一條の使用を認許された。昭和四年一月六日全國消防組代表者御親閱式に代表者組頭長井慶吉氏が參列し、八年二月十一日加治川水害防禦の功により金馬雁一條の使用を認許され、十三年

特に區に於ける諸施設の不備の點多きを苦慮し、不必要なる費用を極力節してこれが充實につとめ、大いに其の實績をあげてゐる。また隣保團結は、區の發展に缺くべからざるものであるといふ見地より、機會ある毎に區民の融和を計つて居る。ために動もすれば疎略に陥るの弊がある區公共事業も、今や氏の熱心なる盡力によつて、區民の認識を喚起し、その結果區民等は率先して、喜んでこれに従事するの風をなしてゐる。

家庭には家族六人あり、養子靜三郎氏は當年二十六歳、將來有望の青年である夫人は本村田身の賢婦人で、貞淑温良の譽れの高い人である。

### 乙村 八幡

### 農會長 花野 長次郎

長期戦下の現局にありて、應召兵遺家族の慰問、國力増加の動力たる産業の伸展を強調し、農業の發展に盡瘁寄與してゐる氏は明治十九年の出生にて、村會議

員を多年つとめて多大の貢獻を村治上に遺せる先代長次郎氏の男である。

資性温厚して篤實、その一面剛直磊落にて、剛柔兩面を備へるその性格は人に接して謹嚴を以てなし、村民よりは清廉高潔の士として迎へられ、敬慕されてゐる。人望を集めて夙に村會議員及び農務委員に推舉されて、自治上に、また教育上に多大の功を効し、稀に見る活躍家としての聲望を博した。現在は農村にとりて最も重要な任、すなはち農會長の要責にありまた負債整理組合の指導をなし強化を計り、産業發展の爲めには文字通り寢食を忘れて、村民の先頭に立ちて現在の優秀成績に導きしもの、今や當村産業は益々伸張の途上にあり、その功勞者として氏の存在こそ當村に缺くべからざるものである。

因に花野家は開祖以來すでに二百有餘年を閱する舊家にして、由緒深き名門である。いま令息三人あり、長男龍一氏は二十一歳、次男君は中條農學校在學中、

三男君は小學校に通つてゐる。

### 京ヶ瀬村 森杉

元村長  
縣農務聯合會  
副會長

### 米山 禎吾

明治九年十一月二十三日先代慎太郎氏の長男として生を享けし氏は、今や縣養蠶界の元老として、京ヶ瀬村今日の發展を來たせる功勞者として各方面に重きをなしてゐる。

尊父慎太郎氏は、天性剛毅にして清廉なる人格者であつた。村役場に入りて收入役より累進して村長にすゝみ、永年村勢伸張の爲に努力貢獻し、村各般の上に多大の足跡を印せる功勞者にて、その名は今も村民に謳はれてゐる。

當主はその衣鉢を襲ぎて夙に村治に關與、村會議員に推されて歷任すること實に六期の永きに及び、衆望高まり、村民一致を以て遂に村長の重責に推輓を受けた。歷任する事また十一ヶ年の永きに亘る。現在なほも養蠶聯合會副會長、郡



養蠶業組合副組合長、新江用水普通水利組合議員等の養蠶業重要位置にあり、その貢献はなほ大にして、自治の産業の功勞者としてその名知らぬ者なく、庶民敬慕と感謝の的になつてゐる。氏はまた日露の戦役に出征したる勇士にして、赫々たる軍功に依り勳八等に叙され、旭日桐葉章を賜つてゐる。

因に當家は一家より六名の兵役服務者を出せる名譽の家柄にして、村民より羨望されてゐる。長男慎一氏は三十八歳、幼年時より頭腦明敏を以て著聞し、長じて農業大學に學を修め、卒業して縣園藝試験場技師を奉職、十三年間の永きに亘つて勤務、現在は昨年開局せる京ヶ瀬郵便局長として地方通信界の爲に専ら力を盡してゐる。

### 笹岡村折居

消防組部頭  
信用組合理事  
長谷川 幸一

長谷川家はその創立以來今日で星霜を閱すること前後三百五十年を算ふべき舊

家であつて、代々農を業として精勵し裕福なる資産家として著聞してゐる。先代幸藏氏は村會議員に當選すること二回を重ね、信用組合監事の任にあつて貢献するところ甚大であつた。

當主幸一氏はその長男として明治二十六年に出生す。笹岡小學校を卒業してより家業にいそむること多年、いまや消防組部頭として久しきにわたつてその設備改善充實の功により、また勤続二十年の功により、水原警察署長等より昭和八年重ねて表彰せられた。氏はまた信用組合理事の任に在つて盡瘁寄與しつゝある。その功績きはめて顯著である。

氏はその資性きはめて謹嚴にして篤實熱烈にして眞劍、誠直にして眞摯であつて、明朗爽快よく人心を收攬するの妙手を有してゐる。村民の信望はなほ多である。今後の活躍は期して待つべきものがある。また氏は最も熱心なる民政黨の黨員にして、有爲有能、つねに指導的活動に任じて寄與するところがなほだ顯

著である。

### 神山村熊堂

元村會議員  
元消防組部頭  
太田 三老

太田家は熊堂部落草分けの一に算へらる舊家であつて、歴代庄屋をつとめた名門であり、傳家の重寶三種を秘藏してゐるといふ。先代三郎氏は思想進歩的で先見透察の明があつた。村會議員、學務委員等に歴任して功勞あり、特に當部落に小學校設置を見たのは一に氏の奔走によるものとして今にいたるも全部落より感謝されてゐる。

當主三老氏は先代三郎氏の男として明治十九年一月十日に生れた。つとに公益世務のことを念とし、社會公共のことに周旋奔走することはなほだ熱心であり、その功績もいちじろしいものがあつた。すなはち消防組頭に任ぜられて多年にわたり盡瘁すること多大にて全村の稱讃と感謝を博し、さらに村會議員に當選すること連續三期におよび寄與貢獻すること

きはめて顯著であつた。今は村會議員より勇退して後進に路を譲り、専ら家業にいそしんでゐる。

氏の長男二十八歳は祖父の名を襲ぎ、水原農學校を卒業した。今は家業にはげんで嚴父を助けてゐる。次男勤氏は二十歳にして、新發田中學校を卒業してゐる。三男久君は高等科に、四男亮君は尋常科に、共に小學校に修業中である。

### 岡方村灰塚

灰塚區長  
耕地整理組合  
會 議 員  
阿部 傳次郎



阿部家は創立以來今日まで六代をかさねたる舊家に於て、代々農を以て業とし精農を以てあらはれてゐる

當主傳次郎氏は明治二十年四月に生まれた。さきにはあげられて農會代議員の

任について活躍し、いまは區長四年勤続京ヶ瀬村外三箇村水害豫防組合會議員、長浦岡方耕地整理組合會議員三期勤続、養蠶實行組合灰塚支部長、水原乾藪組合總代、所得税調査委員等に在任兼務して全力を傾けて盡瘁してゐる。氏は桑園施設の改善を念として研究奔走中である。浄土宗を奉じてその信仰が篤い。

### 長浦村上堀田

元學務委員  
曾 我 孝

當家は、當地方に於て曾我姓を名乗る家の總本家として知られてゐる。始祖は今から約二十代以上も前の人である。代々郷土の頭に擧げられ、勤勞多く令名は遠近に轟いてゐた。

當主孝氏は明治九年の誕生、曾て學務委員に任じて村内學事の振興に努力したるほか、公益に盡すところ多々あり、本村發展の恩人として普く尊敬をあつめてゐる。性溫厚である。

長男良三氏は明治三十一年の出生にし

て水原農學校出身の材幹、現時家業に精勵し、今後、自治公共の事業に關與活動されんことを期待されてゐる。因に當家は一家より兵役服務者四名を出したる廉により、昭和七年一月木杯一箇を下賜される光榮に浴した。

### 南濱村鳥見濱

校 醫 石 山 茂



氏は先代有作氏の二男、明治四十一年三月三日、代々醫を家業とする當家五代目の當主として同郡關谷村

に生れた人で、父君は郡會議員、村長として極めて功勞のあつた人だつた。氏は夙に醫に志し、村上中學校を経て大阪高等醫專門學校に學んで初志を果し、後ち關谷村齋藤醫院に在つて更に實地の研修に努め、次で今の地に開業、今



日に至つた多くの將來を約束づけられた刀圭家である。

本村學校醫であると共に、木崎村の校醫をも兼ねて盡瘁貢献してゐる。趣味は運動であるが、特にスキーに水泳をよくする。令夫人との間に四子あり、家庭は常に平和である。

### 内科小兒科

### 石山醫院

本醫院は開業まだ日は浅いが、古くから醫家として當地方に著聞してゐるだけに、隆昌日を逐うて甚だしく、内科及び小兒科患者はまづ本醫院の玄關をくぐるを例となしてゐる。現在本醫院生一人の手では廻診し切れず、他の一人の手を加へて應診治療に従つてゐる。

なほ本郡龜代村に分院を開設して、一層の隆榮の況を呈してゐる。

### 川東村

### 佐藤基樹

當家はこの地方屈指の舊家にして、連



總本家として知られてゐる。

嚴父長治氏は多年に亘り區長として部落の開発、融和に效し、又村會議員に推されて盡瘁する處多大、その温厚篤實の人格は村民の信望厚いものがある。

當主基樹氏はその長男として明治三十三年八月に呱呱の聲を擧げた。幼時より頭腦明晰にして將來を囑目され、現に在郷軍人分會長、軍友會會長、方面委員、區長として、村内銃後の施設に、護りに或は村内青年の指導に萬遺憾なきを期し、其の盡瘁貢獻に寧日なき精勵を致してゐる。氏は陸軍中尉として軍籍に活動せし人、資性嚴正義烈を愛し、而も温厚篤實事に當りて眞摯なるは衆目の歸一する處にして、村民の輿望頗る厚い。曩に青年

綿の家系を傳へ、極めて山緒に富む素封家である。當部落佐藤氏の訓練主任たること十年、又軍人分會副長として十五年、村青年の思想誘掖になせし功勞は尠なくない。現に信用組合委員の席にも在り、將來村治の中樞に閉座すべき材幹として期待される。

家庭は、新潟師範在學中の長男長衛君(十九歳)、新發田女學校在學中の長女(十五歳)さんとの外に三男一女あり、極めて圓滿である。夫人は本村の前村長の長女である。

### 加治村

### 中野久保

當中野家の家歴は甚だ古くして、且つ極めて由緒がふかい。即ち始祖を大織冠藤原鎌足公より發したもので、藤原秀衡公とその祖を同じうする。鎌倉幕府の時信濃國高井郡中野莊に住して始めて中野氏を稱した十一代の義晴は村上義清に屬してしばしば戰功を樹て、義清は上杉氏に仕へて居るため、川中島の戦にも義晴功を樹て、後ち川尻に卜居し、刀劍を捨

て鋤犁を執り、これが當家歸農の祖にして、以來連綿と家系を傳へ、歸農よりすでに三百餘年を閱し、當地方屈指の名門舊家と稱せられる。

先代即ち歸農してより十代目の久衛氏は資性温厚にして博學多才の材幹であつた。久衛氏記せる當家の家歴の一部を左に記す。

……川尻郵釋介胃執鋤犁終隱焉實爲我歸農之祖矣身經百戰體健膽豪凌險難忍孚絶專爲子孫之地所傳系譜刀槍帆檣飯匙尙可以相當時辛勤之狀也

當主久保氏は、先代の男として明治四十二年七月十六日出生せる俊敏の氣性に富める明朗潤達なる材器である。頭腦明敏にして幼時には才童の聞え高く、早稻田大學政治科の出身、いま青年團長として専ら次の時代を背負ふ青年の指導に任じ献身の活躍をなしてゐる。その將來に、はなはだ期待を寄せられ、一舉一動注視の的となつてゐる。

家庭は圓滿和樂を極め、令息久兵衛君

(六才)、義保君(四才)、を中心に春風洋洋々としてゐる。

### 紫雲寺村長島

### 大竹市三郎



在郷軍人分會長 大竹家は創始よりこのかた今日まで八代をかさねた舊家である。先代市右衛門氏は區長に任ぜられて自治

の上に功績が少くなかつた。當主市三郎氏はその男として明治三十二年三月一日に生れ、大正七八年戦役にシベリヤに出征して武勳をたて勳八等を賜つた。先に在郷軍人分會副會長、青年學校指導員に任ぜられて功勞あり、今は在郷軍人分會長、區長に任ぜられ、また信用組合理事および消防組小頭をも兼務して盡瘁し、極力貢献するところが甚大であり氏の家庭は圓滿にして和樂を極めてゐる。

### 金塚村小中山

### 高橋保治

高橋家はその創始よりこのかた六代をかさねて今日にいたつた舊家である。代々農を業としてゐたが、祖父の代には醫師に轉じたことがある。先代鐵五郎氏は村會議員、區長、信用組合監事等に歴任して、多年にわたつてその功績はなほだ多大であつた。

當主保治氏はその長男として明治十八年十一月十六日に生れた。さきには信用組合監事として嚴父の後を襲ぎ、理事を經て、専務理事に榮進して大いに活躍貢獻し、村會議員、區長、農會評議員、消防後援會役員、國勢調査員、土地賃賃價格調査委員等を歴任してそれそれ功績甚大であつた。今は區長勤続七年目にして、教育會評議員を兼務して盡瘁しつゝあつてその貢献すこぶる多大なるものがある。特に土地賃賃價格調査委員として多年精勵しその功勞顯著なるものあり、その功



を表彰せられて木杯を賞與せられたるを  
始め、受賞、被表彰は多数を算してゐる  
氏はその資性篤實にして温順柔和、き  
はめて情誼にあつた。よく人のために奔  
走周旋して支持援助、救済擁護につとめ  
德行はなほだ多大であつて、則ち全村に  
あまねく人望の高大なる所以である。

夫人は夙に貞節のほまれ高く内助につ  
とめ、また出でては愛國婦人會、國防婦  
人會の各理事をかねて熱心に活躍してゐ  
る。養嗣子鐵次郎氏四十二歳は家業には  
げんで両親に孝養をほげみ、長孫君は十  
五歳にして農學校在學中、なほ二孫があ  
る。一家はつねに圓滿安泰、和樂輯睦を  
きはめて繁榮をかさねつゝある。

### 葛塚町前新田

前新田區長  
元町會議員 **水澤 次七**

氏は明治三十一年十月二十五日、先代  
弁一郎氏の長男として生れた人、新發田  
聯隊に入隊し、歩兵一等兵としてシベリ  
ヤ事變に出動し、以て奮戦よく功勞を立

て金一封を賜はつた。在郷軍人組合評議  
員、町會議員、其他村内の諸要職を歴任  
し、現在區長、兩村水利組合委員、軍友  
會新田組合長の要職を兼任しつゝある。  
政友系に屬し、縣政界に活躍し、又繪畫  
に對する造詣はなか／＼に深い。葛塚町  
にて人命救助により表彰され、縣知事よ  
り金一封を賜はる。尙ほ又在郷軍人組合  
評議員十年以上勤続の功により、鈴木莊  
六大將より賞狀を賜はつてゐる。

資性質實剛健、堅忍不拔、よく軍人精  
神を奉戴して、その村内に及ぼせし功勞  
赫々たるものあり、爲に村民の氏の將來  
にかける希望は頗る大なるものである。  
眞宗を奉じて信仰心厚い。

なほ氏の生家は、本家水澤源次氏の分  
家にして、當代は三代目である。父君卯  
一郎氏は、學務委員、兩村水利組合議員  
等を歴任、資性柔和温健にして、清廉潔  
白の人格者、その多年にわたつて盡瘁せ  
る功勞は、村民の等しく追慕感謝して止  
まないとゝころである。



### 京ヶ瀬村金淵 組合長 **小林 清吾**

小林家は、當村有數の舊家で、代々農  
を營み、當  
地方農耕上  
に裨益する  
多大なるも  
のがあつた  
先代清三

郎氏は非常なる活動家であり、當年六十  
六歳の高齡にあるが、老いて益々矍鑠た  
るものありで、其の元氣は壯者をしのぎ  
會て區長を二十年間勤続し、區政向上に  
寄與貢獻する多大なるものあり、また新  
江用水組合議員、村會議員としても村自  
治刷新向上に貢獻をなした人である。而  
も尙ほ現に村農會代議員として、益々村  
内のために盡力してゐる。今や氏は當村  
村政の長老として重き存在をなし、重要  
問題は常に氏の意見を參酌して決せられ  
てゐる。

その長男として生れたる當主清吾氏は  
當年二十九歳の青年にして、質實剛健に  
して、而も霸氣あり、當村青年の良き指  
導者である。氏はまた非常に研究的にし  
て、農村不況の對策は、農業經營の多角  
形的方針にありとし、機會ある毎に、村  
民に對して自己の所見を率直に披瀝し、  
多數の共鳴者を得て、昭和八年茲に養鷄  
組合の創立を見るや、氏は推されて組合  
長に就任したのである。爾來氏は専ら本  
組合事業に其の全力を傾注し、其の成績  
は頗る見るべきものがある。組合員は青  
年組合長の若さと熱意に、多大の期待を  
かけてゐる。

### 笹岡村須走

産業組合  
常務理事 **町田 守治**

氏は自治と産業の向上發達に一身を捧  
げる覺悟を以て公共の事業に盡瘁する奇  
篤な人格者である。明治二十四年六月二  
日の出生にして、尊父は笹岡村産業組合  
の生みの親たると共に育ての親たりし功

勞者にて、組合長の椅子に在つて組合の  
擴充發展に努力せしこと多年に及んだ。  
氏もまた産業組合には長年關係して居  
る。新發田中學校を中途退學後、兵役に  
服し、除隊後は専ら地方産業の興隆と農  
村經濟の圓滑な發展とに意を用ひ、現に  
笹岡村産業組合常務理事として重きをな  
してゐる。音楽に興味を有し、また讀書  
を愛好し、品格頗る高雅である。  
家族は九人あり、夫人トリ子さんは内  
助の功多く、且つ貞淑の譽れ高く、家庭  
頗る圓滿、繁榮と幸福をつとめてゐる。

### 岡方村高森

高森區長 **荒木 平衛武**



荒木家は創立からこのかた七代を重ね  
て今日に至  
れる舊家で  
ある。先代  
平太氏は副  
収入役とし  
て七箇年間

勤続し、各種の名譽職、公職を歴任して  
功績あり、今は耕地整理組合會議員およ  
び評議員に任ぜられて盡力中である。  
當主平衛武氏はその長男として明治二  
十一年五月に生れた。さきには産米検査  
員に任ぜられて七箇年間勤続して功勞大  
であつた。今は區長連續二期間、農會評  
議員、消防組第十二部頭、負債整理組合  
審理委員等に任ぜられて盡瘁しつゝあつ  
て、民政黨の黨員として熱心に活躍中  
であり、淨土眞宗を奉じてその信仰は熱心  
である。その資性は温厚にして、人格は  
圓滿、全村に於ける信望は高大である。

### 長浦村浦木

浦木區長  
勳八等 **大澤 初太郎**

政籍を政友會に置き、區内同黨に於け  
る最も有力者として自他共に許されてゐ  
る氏は、明治十五年十一月二十四日、先  
代氏の長男に生れた人、日露戰爭に出征  
赫々たる武勳を樹て、勳八等に叙し、白  
色桐葉章を賜はつた。





氏は常に  
圓滿なる村  
治の發達に  
至念し、曩  
には統計調  
査委員、農

場調査委員などに推されて盡瘁し、現在は區長として部落のために活動貢獻してゐる。趣味は草花の栽培。

なほ先代氏は區長一期を勤めて、功勞を遺してゐる。

南濱村神谷田

農會代議員  
素封家 此村 清隆

此村家は當村きつての舊家であつて、



當主は  
七代目  
を繼ぐ  
代々農  
業とし

勤儉貨殖の功を積んで素封家として著聞



先代清吉氏は村會議員、學務委員、區長等に歴任して功勞はなほだ顯著であつた。當主清隆氏はその長男として明治三十年七月三十一日に生れ、家業に

はげんでゐたが、青年會長、消防組頭等を歴任して功勞があつた。今や村農會、代議員、木崎村大曲水路組合代議員の任にあつて、全力を傾けて盡瘁しつゝある。氏は養魚の趣味が深い。曹洞宗を篤く信仰してゐる。

笹岡村横山

横山區長  
納稅組合長 加藤 友治

加藤家は笹岡村切つての舊家にして、その家系を傳へること既に二百有餘年に及ぶ。家業は代々農にして、篤農の家として聞え、先代庄八氏は資性すこぶる謹

岡方村大久保

大久保  
區長 原 助次郎

當家は開祖以來六代目、代々農を以て

聞えて來た家柄である。先代の傳作氏は極めて眞面目な、そして家業には熱と汗とを絞つた人だつた。當家現在の基礎は全く氏の努力によるものと斷すべきものである。

當助次郎氏はその長男であり、明治二十一年一月二十日の出生黨籍を政友會に措いてあるが、曾てこれを表面に出したことはない。父君の性格を承けて何處までも眞摯と忠實とを以て萬事に對處してゐる。

區長に推されてより引續き七ケ年目の今日に及んでゐるが、その功勞の尠少でないことは、こゝに改めていふまでもないことであり、當部落に最も重きをなしてゐる。

長浦村長場

長場區長 山川 豊太郎

資性剛柔の兩面を備へて人に接するに温顔を以てし、事に當りては眞摯なる氏は明治二十年八月二日の生れにて、當家



三代目であ  
る。夙に村自  
治の圓滿な  
る運行に意  
を用ひて自

治に進出、曾て區會議員をつとめし事あり、現在は二期目の區長及び農代議員の要職にあり、その寄與する多大なるものがある。また常に今後村民は肥料の自給自足を計らねばならずと強調して、率先畜産の發達のために奔走活躍、村民を指導し、また勸誘をなしてゐる。兵役は野砲兵、朝鮮に派遣され、除隊して後は在郷軍人會分會員として奔走の勞を執り、表彰さるゝこと二回に及んでゐる。今や村政の中堅として愈々活躍しつゝあり、期せずして村民の信望を一身に集めてゐる。

笹岡村折居

折居區長 榎本 清藏

現在區長五期目を勤め、當村區長中の最古參者として人望高い氏は、明治十四年十月五日の岳降である。資性温厚篤實

岡方村平林

平林區長 首藤 鐵平

當家は開祖以來二百五十年餘を経る舊家である。先代宇市郎氏は夙に區長をつとめて部落のために盡瘁するところが多かつた。當主清藏氏はその長男にして明治二十五年の岳降である。資性温順謙恭にして只管に至誠奉公の一路を歩み、衆庶の手本とするに足る人物である。郷校を卒業後、家業に精勤し來りしが、先年推されて區長の要職に就き、區民の福祉増進と部落内の融和、その他種々の方面に努力して功勞多大である。家族は六人をかぞへる。春風の馥郁たるが如く、常に和氣霽々たるものあり、積善の家に餘慶ありの諺の通り、家内ますます繁榮を呈してゐる。





にして質朴  
常に區政の  
向上には獻  
身的に努力  
し、その功  
績頗る顯著

で業より多大の感謝を寄せられてゐる。

氏の長男直太郎氏は四十四歳を一期として、惜しい哉幽明境を異にした當村自治の功勞者で、生前氏は村會議員四期の要職に執掌して村治績向上に盡すの外、あらゆる公、名譽職を歴任した當村の逸材で、その功勞偉大なるものがある。尙ほまた氏は、生産穀物検査員として其の熱誠を認められ、昭和七年縣知事より感謝状並びに銀盃一個を受けた程で、當村に遺せし氏の功績は大きい。  
なほ當家は浄土眞宗に信仰篤く、深く歸依してゐる。

### 長浦村長場

青年團 支部長 長場 秀直



今や我帝國は文字通り東亞の盟主たらんとしてゐるが、その現下の大陸政策の線にそふて「農民は郷土に

のみ執着せず、大陸に進出して活躍すべきである」と海外飛躍を主張する氏は、剛毅磊落なる資性を有し、俊敏の氣性に富む紳士である。

當家は當地方切つての名門たる長場家の分れにして、分家してより當主を以て三代目とする家柄、先代慶太郎氏は昭和八年長逝せるが、その生前は村勢伸展に献身的努力をなせる自治の功勞者にしてそのつとめしは村會議員は勿論、村収入役及び、助役その外を多年つとめた。  
當主はその長男、明治四十一年一月一日の生れにして、幼時より頭腦明敏を以て開えし秀才であつた。學は水原農學校に修め、卒業後は専ら家業に精進した



公共の事に意を用ひては青年團長場支部長、農會代議員、在郷軍人分會長場支部評議員等の任に推され、その一身を挺しての盡瘁活躍は、村民より驚異の眼を以て迎へられ、今後にまゝ、期待を寄せられてゐる。

家庭すこぶる圓滿、夫人は國防婦人會長場組長、長浦國防婦人會評議員の任にあり、夫君と共に銃後の護りに奔走中。

### 笹岡村福井

福井區長 小菅 喜作

小菅家の創立は頗る古く、連綿相傳へること三百餘年の舊家である。祖父氏は村會議員に當選すること前後二回、功勞が多かつた。  
當主喜作氏は先代喜平氏の長男として明治四十二年に生る。水原農學校を卒業

### 笹岡村須走

須走區長 關川 友作

當家の祖先是相當に古く、由緒ある家柄なるも、現在地に住居してからは、當主を以て四代目とし、移住後の初代は、酒釀造業を營み、磊落明快な人物として衆望普ねかつた。

氏は性温厚にして、一方霸氣に富み、現時、家業の傍ら區長の要職に就いて、部落の繁榮と、銃後國民生活の改善、貯蓄獎勵、精神作興等に寄與するところ多く、その一舉手一投足は悉く庶民の安康を圖つてのことである。信望あつく、功績と共に名聲いよ／＼高きを加へつゝあるは、單に氏自身のためのみならず、廣く笹岡村の誇りとすべきものであらう。家族は七人を擁し、和氣霽々として圓滿幸福を極めてゐる。

### 笹岡村大室

青年團 元村會議員 横山 順三郎

横山家は笹岡村切つての舊家にして、横山姓の總本家たる名門でもある。その家歴詳かならざるも、口傳によつて相當深き由緒あることが推察出来る。  
先代重作氏は、資性篤實温厚なる人格者にして、その温容圓滿なる風姿は村民のみな敬慕するところにて、今七十六歳の高齡にあるも、元氣矍鑠としてゐる。  
當主順三郎氏は、その長男として明治二十年七月四日に生れし穩健にして清廉なる資性を有する人格者である。また頭腦明敏なる材幹にして、幼時には才童の聞えあり、長じて笈を負ふて上京、明治大學に入りて専心學にいそしみ、優秀なる成績を得て卒業した。歸郷後、村治に關與して村會議員をつとめ、一身を挺して村勢伸展のために努力活躍、博大なる學識を以て村諸般上に多大の貢獻をなした。現在なほも部落青年會長の任にあり専ら青年の指導に任じ、青年間に多大の信望を博し、慈父の如く仰慕されてゐる。長男文武氏は農大出身にして今二十五

し、陸軍歩兵上等兵として滿洲事變に出征し、奮戦中に名譽の戦傷を受けて勳八等を賜はつた。今は福井區長の任にあつて盡瘁してゐる。當家は軍隊服務者を三名出して昭和七年に表彰されたが、その後更に一人を加へたる軍人の家である。家族十人の賑かさである。

### 岡方村森下

森下區長 乙川千代太郎

乙川家は、創始せられてから今日まで四代をかさねてゐる。代々農を以て業としてゐる。

當主千代太郎氏は、先代敬三郎氏の長男として明治十三年に生れた。いまは區長にあげられて二箇年勤続中であつて、また岡方耕地整理組合會議員として十二箇年勤続中である。

氏は、その資性は温厚にして篤實、浄土眞宗を奉じてその信仰が熱心である。長男市衛氏は消防組員として警防の事に精勵してゐる。



歳現在長岡市産業聯合會に勤めてゐる。次男義雄氏は二十三歳にて日本齒科専門學校の出身、三男の義武君は今、明治藥學專門學校に在學中である。外に二男一女の令息令嬢あり、家庭すこぶる圓滿にて、春風洋々たる觀がある。

木崎村

日華生命 高橋與資治  
保險代理店

そもそも高橋家は開祖以來すでに十代を閉する舊家にして、先代與一郎氏は篤農家の譽れ高かりし人にて、天性濃厚篤實の清廉なる勤勞愛汗の人格者であつた。當主與資治は、その男として明治二十五年五月二日に呱呱の聲を擧げ、幼時より智慮衆に勝れ、また天性穩健にして醇厚、事業方面に卓拔なる手腕あり、その圓滿にして謹嚴なる風姿は夙に衆望高く、溫容の人と謳はる。

現在家業たる農に精勵すると共に日華生命保險代理店を營み、業績すこぶる良好にして、他代理店を凌ぐものあり、氏

の手腕と人格を反映して本社より優秀代理店として推稱され、他代理店の範とされてゐる。

中條町

相馬診療所

明治二十九年に始めて開業せる當相馬



診療所は、内科を専門科目となし、中條町切つての醫院と稱せらる。

設備は最新式、しかもすべてが完全し、院長に相馬杏平氏が任じてゐる。氏は濃厚なる人格者にて、患者に懇切溫容を以て接し夙に大衆醫院の評がある。

杏平氏は慶應二年の岳降にして、いま七十三歳の高齡なるが、元氣豐饒として壯者を凌ぐものあり、技術は卓拔、文字通りの名刀圭家である。公共方面にも意を用ひてすこぶる功多く、中條町共立養

生園設立中にて、また學校醫、衛生組合長郡醫師會長、學務委員、方面委員等の任に在り、その献身的なる努力盡瘁は、多大の效を奏した。表彰も數次に及び、衛生組合長を多年勤績のため、學校醫として縣より、それ／＼表彰を受けてゐる氏はまた書道に堪能、泰東書道院より入選證を受けた。

濁川村新崎

佐藤醫院

當地方屈指の有名醫院たる當佐藤醫院は、佐藤信太郎氏の經營に係る。佐藤家は代々農を以て業とせし舊家にして、氏は明治三十五年十一月二十日の出生、夙に仁術を以て世に立たんことを志し、日本大學醫科を卒業せる俊才である。學識豐富にして技術卓拔を極め、殊に内科及び外科に於ては他に追隨するものが少ない。誠に稀有の刀圭家だ、名國手だ。氏が治を診て治せざる難疾なく、開業以來名聲日毎に高きを加へて遂に今日の如き

流行を呈するに至り、今や佐藤醫院の名は誰知らぬ者なきに有名である。設備は新しく且つ整備し、従業員は二名、木崎村に出張所を設けてゐる。氏はまた學校醫を囑託せられ、兒童保健、衛生には特に熱心に奉仕され、兼ねて青年團長として令名を馳せてゐる。年齢未だ不惑に達せずしてこの人望あり、將來の發展は期して俟つべきものが多い趣味は讀書である。智は古今に通じて深く、人格は高潔を極め、誠に村民の以て誇りとするに足る、逸材といふべきである。

佐々木村佐々木

布施醫院長 布施長三郎



氏は明治二十九年五月十七日に生れ、新潟醫學專門學校を卒業し

大正十五年九月一日に開業した。村青年團長、自治獎勵肅正委員に任ぜられて大いに活躍してゐる。一般診療に従つて親切丁寧を極め、好評噴々として信望を博してゐる。一家はますます和合圓滿にして繁榮しつゝある。

五十公野村下内竹

深野醫院

當院の院長たる深野貞治氏は明治二十六年二月二十七日に生れた。縣立新發田中學校を卒業してより、新潟醫科大學の前身たる新潟醫學專門學校に進入し、大正五年優秀なる成績を以てこれを卒業した。その後三箇年間は研究に従ひ、或は臨床空技の實習につとめ、大正八年深野醫院を開業し、内科、外科、小兒科を開設して診療をはじめ、全村の信頼と感謝とを博し、盛業を見るに至つた。今、氏は五十公野、米倉、赤谷、杉浦の四箇村の村醫を兼務し、方面委員に任ぜられて精勵盡瘁してゐる。高潔なる人

格者にして讀書を趣味としてゐる。ミツ子夫人は新發田市の出身、内助につとめた貞節の譽高く、一男がある。

松塚村藤塚濱

本間醫院

當村附近は勿論のこと、遠く他村にまで令聞高き本院は内科、外科とすべての治療に應じつゝあるが、院長は清廉にして高潔なる資性の持主と言はれ、醇厚潤達の人格者と稱せらる本間玄一郎氏である。本間家は代々篤行多き村屈指の素封家にして、徳川末期の折には寺小屋師匠をなせし事あり、村民敬慕の的となり、依て本間を姓とする者多く、當家は今も御師匠様と稱せられてゐる。その家に明治十年一月十一日生を享けし玄一郎氏は、幼時より頭腦明晰を以て聞えし材幹、長じて千葉醫大に入つて研鑽を積み、卒業して後、開業現在に至る。溫容を以て患者に接し、卓越せる技術を以て地方屈指



の名刀圭家と稱せられ、當村及び紫雲寺村小學校の校醫をも兼ねてゐる。  
長男氏は俊敏の氣性に富む才器、いま陸軍中尉として在役中、三男氏は早大法科に勉學中である。

### 乙村地本

## 河内病院

先代も亦た醫師として令名をうたはれ盛況をきはめたのである。院長河内亦七郎氏はその志をうけて醫學を修め、河内病院を開き、産婦人科、小兒科をまうけた。また中條町にも出張所を置いて診療に従事してゐる。日進月歩の學理の研究に努めて怠らず、實技の實地練磨をつみかさねて、今や名醫と推稱されてゐる。小學校々醫に任せられて學校衛生および學童健康の保持とに盡瘁してその功勞はすこぶる顯著である。

氏は、資性は極めて濃厚で、情誼にふかい、しかも明識篤行の紳士である。全村民の寄せる人望は絶大なるものがある

つひに村會議員に當選してその任に在り誠心誠意をもつて盡瘁し、その功勞はなはだ顯著である。村民ごとく氏を激稱して深厚なる信頼と感謝とをさしげつゝあるのである。村民の保健、衛生、行政の上に獨特の貢獻が燦として輝きわたつてゐる。今後に於ける氏の飛躍活動は正に期して俟つべきである。

### 水原町

## 漆山醫院

水原町近隣に比肩するものなき、技能卓抜の名刀圭家と稱せらる漆山順治氏を院長とする當漆山醫院は、當町屈指の醫院である。

順治氏は、資性極めて濃厚にし篤實、また高潔にして清廉なる人格者にて、その謹嚴なる風姿と剛柔の兩面を備へる性格は、患者に接してよく懇篤をきはめて名醫の稱と共に、高潔なる人格者と謳はれ、町民より尊敬せられ、人望を一身に集めてゐる。

また氏を輔佐してその片腕となり、實際上の經營に當つてゐるは長男柄雄氏にて、氏は今、三十一歳の俊敏の氣性に富む才幹である。幼時より頭腦明敏を以て聞え、長じて尊父の志を繼いで日本醫科大學に學を修め、後ち新潟醫科大學に入學、ますます實地に學術に研鑽を積みて優秀なる技術を得て卒業、今や當院副院長格にありて多年研究の卓抜なる技術を以て青年名醫の評判高く、従つて當院は父子醫院の名を得て、愈々近隣に轟き渡つてゐる。

### 岡方村長戸呂

村社神明宮

## 菅原克正



菅原家はその創立からこのかた今日まで十三代をかさねた舊家である。代々神職を世襲した名門である。

氏は祖父幸徳氏の孫として明治九年十二月に生れた。生來學を好んで、國幣中社彌彦神社禰宜高橋光家翁、同主典國島左内氏及び小千谷町の山本比呂岐翁について皇典を學び國學、神道の學を修めた。三十二年新潟縣第一師範學校講習科を卒業して小學校訓導の職を奉じ、爾來勤続すること二十七箇年にわたつた。四十二年祖父の老衰にて引退の後を承け、岡方郷總鎮守村社神明宮の社掌に就任して今日に至つた。實に三十箇年を勤続して精勵してゐるのである。

明治三十八年より自宅にて夜間教授を以て青年子女の教育にあつたが、二三の夜間教授者を糾合して先づ基礎を作り遂に四十三年青年會を組織し、原常一郎氏と協力して指導經營につとめて今日の完備せる青年團たらしめたのである。原氏は今は新潟縣愛國婦人會主事の任にあつて活躍してゐる。

昭和三年御大典記念として少年團を組織し、自ら團長の任に就いて、敬神崇祖

および社會奉仕の指導訓練に従ひ優秀なる成績を保持し昭和十年遂に十年に至り大日本少年團聯盟に加盟した。

昭和三年十一月御大典記念章を賜はつた。七年一月新潟縣方面委員に任命せられて二期目に現任中、八年學務委員に當選して二期目現任中、十年七月以來選舉肅正委員に選任せられること二回である。氏はまた教育功勞者として村および、村教育會より表彰せられた。すでに教育について實地體驗を有せるが故に、氏はこれに基いて今後は、校外教育の徹底的振興に努力し、殊に神社中心の社會的陶冶、國民的訓練の作振に盡瘁してゐる。

### 葛塚町

織物問屋

## 長谷川政太

長谷川家は開祖以來すでに三百年以上の家歴を閱する舊家にして、また葛塚町屈指の有力家である。家業とするは織物業の問屋にして、當町業界の權威者と稱され、當主政太氏ますく家運の隆盛を

はかりて努力活動を續けてゐる。

政太氏の出生は明治十六年二月二十日にして、先代喜代藏氏の男である。資性清廉にして濃厚、また剛直なる一面あり頭腦は明晰にして事業家としての才能、識見力量すべてを具備する材幹、織物商の傍ら雜貨商を營み、これまた相當の商績を挙げ、長谷川家の家名は遠近に轟き葛塚の長谷川と言へば誰一人知らぬ者がない。政太氏は亦、博大なる識見を以てその論ずる人に領ぶかしめるものあり、町民の等しく敬服するところである。

### 京ヶ瀬村黒瀬

素封家

## 玉木鐵太郎

當家は尠くとも十八代以上をかぞへる京ヶ瀬村切つての大舊家にして、また本村屈指の大資産家である。先考は新潟中學校の出身にして、夙に軍務に服し、陸軍歩兵中尉に陞進したる人、退役後永らく京ヶ瀬村在郷軍人分會長の重責を帯び



て同分會の發展に努力すると同時に、廣く在郷軍人の立場から社會公共に奉仕することが多かつた。

當主鐵太郎氏はその男である。新發田中學校を抜群の成績で卒業し、家督を嗣いで後は、ます／＼家産を増大せしむると同時に公共のために寄與するところ甚だ多く、村民の信頼あつき稀有の人望家である。だが氏に取つて更に特筆すべきは、人格の高潔と、趣味の高雅と、博識多才なることである。例へば白梅の氣品高きにも似た人である。しかも人に接しては懇篤、事にあたつては熱心、京ヶ瀬村に於ける代表的人物の一人として、令名は愈々高きを加へるのである。氏はまた信仰心にもあつた。

### 葛塚町

#### 吳服問屋 齋藤 吾平

齋藤家は其の創始より今日まで、三百五十餘年の星霜を閲し、代々貨殖致富につとめて莫大なる資産を造成し來つた舊

家である。先代吾平氏は吳服問屋を創業してより、専ら苦心經營に努力し、主として山形縣および、縣下では岩船郡方面を取引地盤として盛業を極めるに至つたのである。

當主は先代の男として明治二十一年一月二十五日に生れて先代の名を襲ぎ、その事業を繼承してます／＼奮勵努力し、取引販路を擴張して堅實穩健なる商法を以て絶大なる信用を博し營業成績いよいよ向上卓出するに至つた。従業員は五人をかぞへ隆々たる盛況を呈してゐる。

さらに氏は貨殖の技にすぐれて有力堅實なる資金の放下とその運用とは、著々と効果をあげて資産の増大はまことに顯著なものがある。いまや當地方の業界に於いて財力、信用、人格三絶の紳商として推稱せられ、その令名噴々たるものがある。その資性は温厚柔和にして極めて伶俐敏捷、商機をあやまらず商略に妙を得て天成の實業家として洗鍊されつくされてゐる。しかも公に奉じ功を效す赤誠

は衆に勝れ群に抽んでゐる。よく財を儲くより財を生かして公益の事業を贊助するの人として、村民の信頼感謝するところである。

### 笹岡村上一分

#### 舊家 新田 康二

當家は五百五十年以上も閑したる舊家で、村内新田家の總本家であり、現在は分家十一を算へる。

先代清氏は村會議員をはじめ、學務委員、區長、學校事務取扱等の要職を帯び教育界に於ては特に功勞顯著なるものがあつた。その識見の卓拔さ、圓熟せる手腕は高潔なる氏の人格と相俟つて益々重厚味を加へ、村民の信望翕然として一身にあつまるものがあつた。

當主康二氏は養子にして、先代の遺志を繼いで、村内の繁榮、自治刷新に腐心してゐられる。なほ先代清氏の孫に當る義衛氏は、消防小頭、部落青年會副會長等を兼職し、青年訓育には特に努力せる

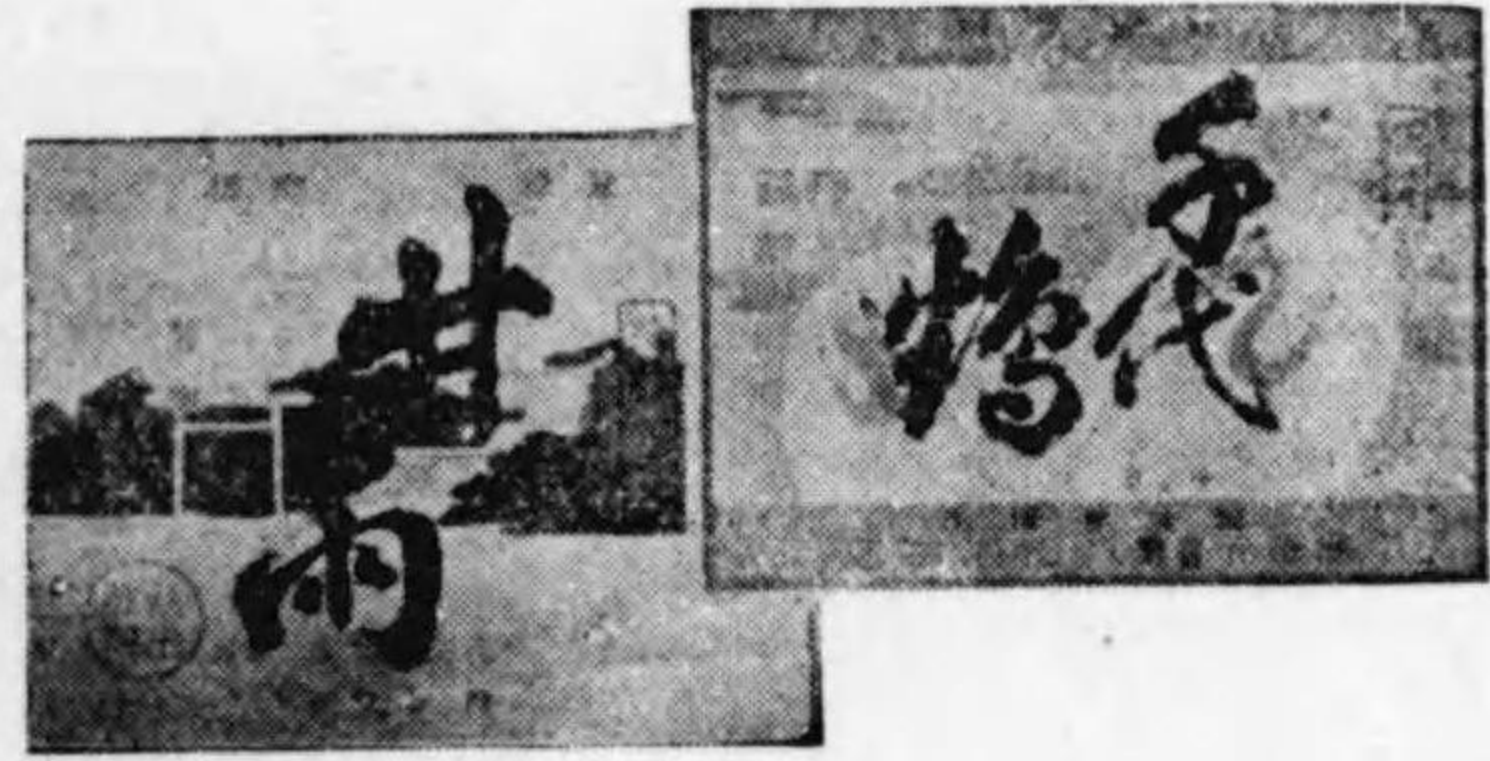
人にして、資性溫柔にして寛容、豪放にして磊落他面堅忍にして熱烈なるものあり、早くも人望を博して未來を囑望される新進有意の人である。

敬神の念深く、また非常に孝養心厚い現在當家には今より五六百年に祖先の使用せる茶釜と銘刀があり、家寶として代々傳つて來たものである。

### 葛塚町

#### 酒造業 八田 健吉

八田家は開祖以來三代目までは織物業に従事し、斯界に相當の貢獻をなすところあつたが、先代の三代吉氏の代に至つて轉業、酒造業を經營、銘酒『千代鶴』『甘雨』とを以て縣下の酒造界に早く令名噴々たるものあり、新潟市、北蒲原郡一圓に、福島縣を販路となし、年産九百石を捌きつゝある。曾て品評會に於て縣



である。

當主健吉氏は三代吉氏の長男で、大正二年一月の出生、廣島縣高等工業學校の出身で、正にこれから世に頭角を現はさんと約束づけられた人物であり、その前途の多望多囑なるを思ふべしである。因に先代三代吉氏は郡會議員として、

一等賞を贈られ、その質に於て、その芳醇さに於て、ます／＼適確たる證明を裏付けられ一層の増石高を算へるに至つた。現在の従業員は八名八田健一氏がその代表者

### 神山村村岡

#### 素封家 齋藤 竹松

齋藤家は村岡部落に於ける最も深き家歴を有する舊家にして、代々庄屋として村勢開拓に功を樹てし當村有數の名門、素封家たる家柄である。家業は農を營み先代助次郎氏は専心家業に勵みし篤農の人、また自治公共に關與して多大の功勞あり、そのつとめるは村會議員、その外村會すべての名、公職に就き村勢伸展上に大なる寄與をなして衆望を高めた人、

當主はその男、明治二十三年九月二十三日に生れた。天性醇厚にして篤實、また清廉潔白にして剛毅の一面あり、地方稀に見る人格者の稱ある。その謹嚴なる風姿は庶民の等しく、敬仰するところである。現在家業に専心して益々家運の隆



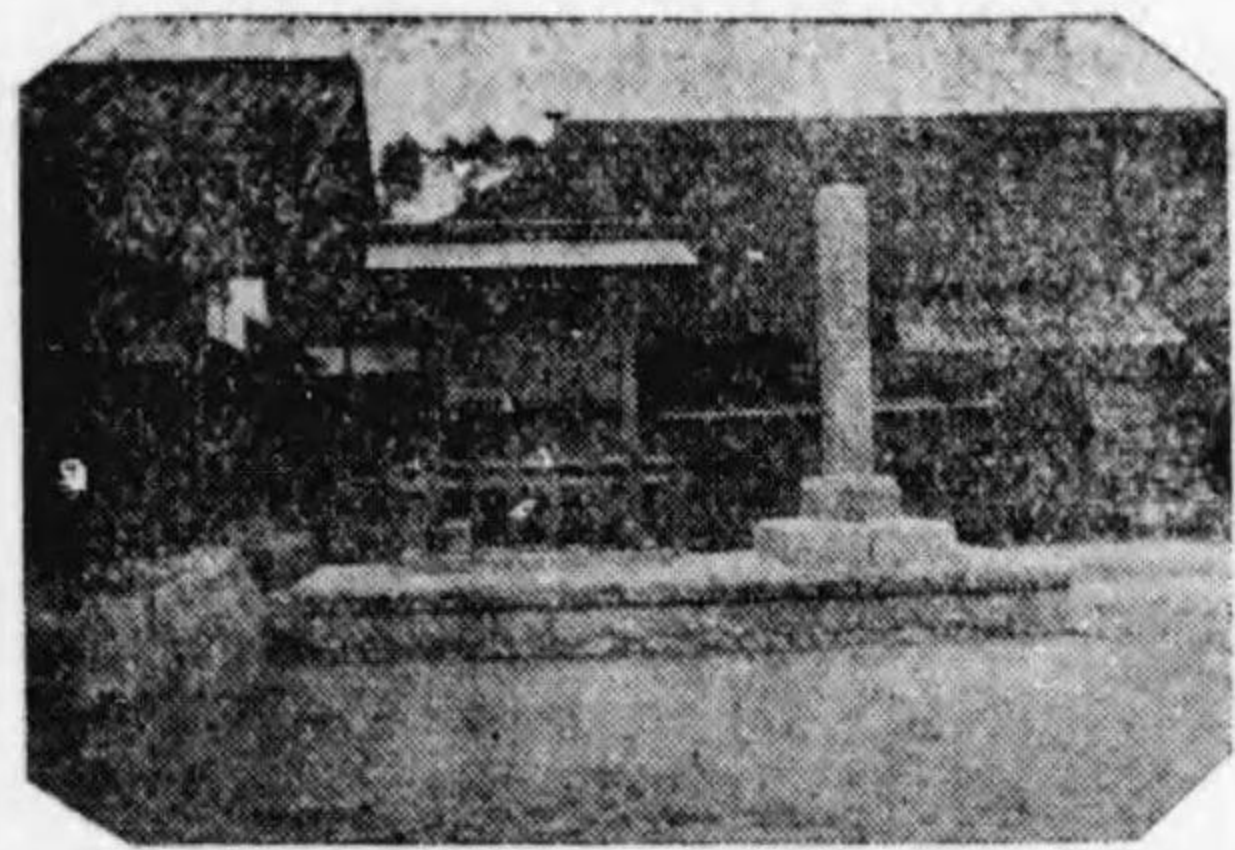
盛をはかり、住宅敷地約壹千坪に及ぶ廣大さにて、下男下女あり、村切つての有力量、資産家として聞える。

長男博強氏(二十四歳)は新發田中學を経て宇都宮高等農林學校に進みし明敏なる頭腦の持主にて、卒業後滿鐵に奉職格勤中であつたが、今、現役兵として入隊活躍中である。次男君は新發田中學在學中、三男君は未だ小學校に學んでゐる

### 松浦村荒川

#### 素封家 武藤 孝徳

氏をもつて十七代目とする當家は、代々庄屋の家柄で、地方屈指の素封家として聞えてゐる。先代郡四郎氏の代、明治十一年、明治天皇北陸東海巡幸の際に當家は御小憩所としての光榮を賜つてゐる。先代郡四郎氏は當村々長、助役等を歴任した農村開發の恩人であり、自治の功勞者としての功績、また頗る顯著なものである。氏はその男として明治十四年二月一日



きを爲してゐる。氏は父祖の血を繼承して夙に村治に進出し、曩に衆望を擔つて村會議員として村政の中樞に參與することも七期に亘り、また常務委員をも兼ねて育英に、産業に、氏の足跡偉大なるものがある。なほ消防組頭たること十八年間、實に氏は消防組の改善發展には獻身的に盡してきた功勞者で、その功績は大きい。現在凡ゆる公、名譽職の第一線か

の岳ら退いてゐる氏は、全く埋もれてゐた當村の誇りとする天然自然に恵まれた荒川山神の名勝地を一般社會へ公開宣傳し、民衆の一大歡樂郷に供すべく、こんど氏が發起人會長として山ノ神保勝會なるものを組織し、郷土の發展に努力する等その烈烈たる愛郷心は村民より多大の感謝の念を寄せられており、また氏は將來この會を財團法人に編入すべく熱心にこれが發展に盡瘁してゐる。

尚ほ氏は曹洞宗に信仰深い。氏の長男正樹氏(三十二歳)、は三條町農會技術員として従事する温厚なる青年紳士で、二男正弘氏(二十八歳)は日本大學出身の才器で、目下冲電氣會社に奉職中三男正富氏(二十五歳)は、農業に精勵し、一家は益々繁榮してゐる。

### 鴻沼村島海

#### 素封家 荻野 精治郎

當家は本村屈指の舊家であり、また有数の名望家でもある。代々農を主業に精



農家として知られてゐる。古くから當村の公職につきて當村々政の爲め貢獻する所洵に多大なるものがあつた。

先代久右衛門氏は温厚にして篤實なる人格者で、夙に人望厚く村長、學務委員として永年勤続し、幾多當村の懸案を解決し、特に學務委員としては、兒童教育の重大性を考慮し、學校施設の充實を圖つた人である。

當主精治郎氏は、先代久右衛門氏の長男として、明治二十七年九月一日呱呱の聲を擧げた。性質直、長じて高田師團に入營するや、よく軍務に精勵し、其の着實格勤振りは、上官の認むる所となり、歩兵上等兵として除隊した。

除隊後は祖先傳來の家業を受け継ぎ、鋭意其の進歩改良に努め、特に其の多角

形的經營方法に依り、大いに其の増收を圖るところがあつた。

氏は誠實なる篤農家にして、村民の等しく信頼する所である。現在學務委員、農會代議會として、氏一流の堅實さを以て、よく公職を果して居り、且つ村民の模範として仰がれてゐる。

氏は曹洞宗を信奉して、信仰頗る篤く又敬神の念に強い人である。

### 聖籠村蓮野

#### 素封家 一宮 孝順

電話新發田三四五番

二宮家は、創始せられてから今日まで六代をかさねてゐる舊家である。代々孝順を襲名して農を業とし、名主、庄屋等をつとめた名門である。勤儉貨殖を以て巨富を築成し、大地主として、その令名をうたはれてゐる。

先代は特に徳望家にして、奇特なる陰徳家であつた。公共のために財を散じて惜しむところなく、窮厄のために救援支

持してよく施し、慈悲は萬人の心魂に徹し、發奮興起せずにはゐない。全村民のことごとく仰止悦服せざるものはない。

當主孝順氏は先代の長男として、明治十九年四月十五日に生れた。慶應義塾大學を卒業した。今や資産數百萬圓に達し縣下有数の富豪である。最近に於ても小學校改築のため十餘萬圓を寄附してこれを助け、以て竣成せしめたといふ。さすがに慈悲仁俠の御家風を傳へ、全村の尊敬推服すること深甚である。

一家はつねに圓滿安泰にして、輯睦和樂し、至幸至福の中にいよく繁榮をきはめてゐる。

### 川東村上羽津

#### 宮本 一二一

宮本醫院長

當家は舊家名門の家柄にして、村内に重きをなしてゐる。先代慶吾氏は村會議員、學務委員、本村の小學校長を三十有餘年間勤続し、夙に名校長として知られた。若くして俊器英才を以て鳴り、初等





教育のため  
に眞摯なる  
格闘をなし  
其の功績は  
喋々するを  
要しない。

仁慈の念厚く、思念ある處悉く私を去り  
公に就き、村民の比肩なき信望と感謝と  
を受け、眞に村内の逸材たりし人であつ  
た。

當主は、明治二十一年八月二十五日そ  
の長男として生る。長じて新發田中學校  
卒業後は、京都に遊學し、醫業を以て身  
を立てんと京都府立醫學專門學校に入學  
し、内科、小兒科を専攻し、優秀なる成  
績を挙げ、在學時代より未來を囑望され  
し秀才であつた。  
歸郷するや大正三年、宮村醫院を開業  
し、その卓抜なる手腕を繼横に振ひ、村  
内の衛生事業を擔當してよく實績を挙げ  
村助役、村會議員、學校醫等は二十餘年  
も勤続せし精勵家であり、現在は宮村醫

院長として、村民の信望を集めてゐる。  
家族は長男秀夫氏の外に、三男一女があ  
る。

京ヶ瀬村金淵

素封家 柄澤源治郎

電話水原一四番

柄澤家は京ヶ瀬村切つての素封家たる  
のみならず、當地方有數の名門として普  
く聞えてゐる。代々土地發展と郷黨の福  
祉増進のため、私財を投じ、寢食を忘れ  
て貢獻して來たことは、郷土史の一頁を  
飾つて光彩陸離たるものがある。

當主源治郎氏は、英邁なる父祖の血を  
享けて人格高潔の士と謳はれ、村民から  
非常の尊敬を受けて居り、自らもまた社  
會公益のため種々貢獻するところ多いが  
表面に立つことを好まず、いつも地味な  
方法に於て盡力してゐる。たゞ一度村會  
議員一期をつとめたことが、氏の今まで  
の唯一の表立つた公職であらう。謂はゞ  
氏は實行の人である。名利恬淡なること

その比喩なく、飾らず装はず、常に質實  
の道を踏んで、村民のために寄與盡瘁す  
るのである。時局は夙に長期にわたる國  
家總力戰態勢の完成、就中國民精神の飛  
躍的作興を要望してゐるとき氏を有する  
ことは村民に大きな心強さを與へるもの  
である。

新發田町上町

材甚旅館

電話新發田四六一番

顧客本位、懇切鄭重をモットーとなし  
經營者宮樫甚平氏以下十五名の従業員一  
同一致協力し、業績發展に邁進努力して  
ゐる當館は、明治初年の創業に係り、創  
業よりすでに六十數年、今や新發田屈指  
の旅館として聲名高く、第二師團、及び  
横須賀鎮守府、東京遞信局、高崎專賣局  
等の指定旅館として、ますます隆盛を呈  
示してゐる。

あらゆる設備完備し、客室は二十四室  
收容人員約五十名、交通すこぶる便を極



旅館全景

めて  
停車場  
場よ  
り約  
五丁  
の地  
に位  
置を  
占め  
市内  
自動  
車の  
便あ

り一度宿泊せる人、再度此地に來らば必  
ず當館に宿泊すると言ふ。今やその聲望  
遠近に聞え、益々發展の途上にある。

館主

富樫甚平

資性俊敏の氣性  
に富みて頭腦明敏  
事業的才腕を有し  
常館主として活躍しつゝある氏は、亦自  
治公共の事に關與して、その手腕を現は  
して功勞多く、いま新發田聯合青年會長

として非常時日本伸展への動力たる青年  
の指導に任じ、すでに歴任する二期に及  
び、青年間に多大の信望あり、その將來  
は新發田を背負ふ人物として多大の期待  
を寄せられてゐる。

本田村月岡

温泉内湯 月岡館

今井貞一

先代慶作氏は長岡市の出身にして、明  
治三年の出生である。夙に當月岡温泉の  
開湯と共に、その源泉四坑中の一を占有  
して内湯ホテル月岡館を創業し、營々と  
して努力して今日の盛況をきたしたる奮  
闘成功の人である。また當温泉開發の功  
勞者である。則ち擧げられて月岡温泉組  
合長の



先代慶作氏

任に就  
き銳意  
盡瘁し  
て優良  
なる成  
績をあげてゐたが、昭和十二年十一月二

月岡温泉

元來當地方は石  
油の産地として油  
田に屬してゐたの



遠く眺ため月岡旅館

で大  
正六  
年油  
源探  
索の  
ボー  
リー  
グの  
地檢  
掘鑿  
をし  
てゐ  
る



ちに深度百二、三十間の所より沸湯噴出したるもので、源泉の湯井は四坑であるこれを検するに苦味、鹹味、澁味があつた。無色透明で、空気に接して多少黄變する。その天然温度は入浴に最適してゐる。内務省衛生試験所長田原良純博士の分析報告によると、クロールナトリウム、クロールカリウム、硫化ナトリウム、重炭酸カルチウム、重炭酸マグネシウム、遊離硫化水素等を多量に含有し、食鹽含有硫黄泉として極めて優秀のものとして證明せられ、浴用として特效ある適應症は次の通りである。

諸麻痺病、神経痛、リウマチス、痛風、冷え性、慢性皮膚病、濕疹、格痒症、諸カタル、腺病、鉛及び水銀中毒症、婦人病一切。

また日本温泉協會推奨の温泉飲用療法の適應症は次の通りである

胃腸病、身體虛弱、痔疾、淋疾、氣管支カタル。

當地は交通至便にして、小高き山脈に圍

まれ杉林を中央にして、新舊温泉を合して旅館二十五軒、共同浴場は三箇所を算してゐる。

### 内湯ホテル

### 月岡館

今井家の先代慶作氏が石油ボーリングの探作中に、その油井より温泉が噴出したるを以て同志を糾合して温泉郷を開業し、月岡温泉を構成したるものである。鐵道は羽越本線の天王新田驛下車、乗合自動車に十分間を以て到着する。月岡温泉神效湯の湯元に於て内湯設備完成され、小高き杉林中に建築されて眺望絶佳である。

宿泊制と自炊制とあつて、宿泊は二圓五十錢から三圓五十錢まで、團體は特に割引する。自炊貸間制は八疊一室夜具と電燈付にて一圓五十錢、六疊一室一圓二十錢、入込室即ち合宿制は四十錢より六十錢までである。

縣下に鴨獵の名所としてうたはれる福島湯は四キロの地にあつて、納涼、舟遊釣魚に適してゐる。

### 新發田町田所町

### 長徳寺

明治十一年九月 明治天皇東北御巡幸の砌り、行在所として指定せられたるを以て近隣に開える當寺は、亦堀部安兵衛の實家中山家の菩提寺として、寺内には



赤穂義士堀部安兵衛の墓

の貝、名士揮毫の額、その他等の義士に關する寶物數多を藏するを以て有名であ

る。

眞言宗大谷派にして、本山は本願寺、その本尊とするは阿彌陀如来である。天正年間の創建に係り、三千坪の廣大なる境内地に並ぶ寺堂は、約百年前の建築物にして、その深き山緒沿革を傳へてゐる檀徒は當町一帯を互り、總代として盡瘁するは鹽瀬正衛氏にして、貢獻多大なるものがある。

### 住職

### 關根 仁應

現住職として専心寺運の隆盛のために努力する師は近隣に比なき高潔清廉の人格者にして、また善知識の譽れ高く、その徳望は普く檀信徒の悉くが敬仰してゐる。師はまた昭和十一年五月より本山本願寺の宗務總長を力め現在に至つてゐる。

長男染應氏は、頭腦明敏の材幹、曾て大正十五年より昭和十一年まで盛岡にある岩手縣立女子師範學校に奉職したことのある教育家で、品行方正、徳望高き人格者である。

### 笹岡村大室

### 洞雲寺 灌澤 禪契

開祖は天文年間の人である。兩來系統連綿として名門の誇りを保ち、當主禪契師は明治八年の岳降である。大正五年、新津町正法寺より移つて洞雲寺住職となり、その後今日まで二十有餘年、法燈いよく輝きを増して燦然たるものあり、大正七年よりは方面委員を囑託され、社會事業への貢獻も少なくない。資性温和の中に烈々たる意氣を有し、殊に宗教的

信念に強い。既成宗教の打破即ち宗教を不遜の徒輩から奪回して、眞實本來の宗教に立ち還へらしむると共に、之を大衆のものとするべく努力して居り、先づ一般信者の信仰心を高めるため、毎月一回三日間づつ寺内に修養講座を設け、大いに効果を擧げると同時に、大衆教化に資するところ多く、この講座は實に一石二鳥の結果を招いてゐる。しかも師は人格高く陰徳多く名僧と呼ぶも何等過言にあら

ず、檀信徒よりの信望は勿論、一般の尊敬をあつめてゐる。

因に洞雲寺は勝屋天樹院の分派にして曹洞宗に屬し、當地方屈指の淨利といはれ、參詣の客が頗る多い。

### 神山村村岡

### 徳昌寺 中野 龍道

徳昌寺は今より三百五十年前の大同年間、若宮王子の鷲狩せられしに始まり、山號を鷲林山と稱し、その後高橋五左衛門氏を開基となした。華嚴釋迦を本尊となし、地方の歸依者をあつめ得て、一時寺運の隆昌を見た。

併し時運は榮枯盛衰を異にし、約三十年ほど前に常山住職と檀徒總代の間に忌はしい紛争を惹起し、終に寶物及びその他の重要物件等悉く行衛不明となり、全くの無財産、加ふるに本堂の荒廢など目をあつべくもなく、たゞ荒れ行くまゝに放任されてゐた。

中野龍道師、當山の住職となるに及ん



で、拮据萍勳、約三十年間の久しきに互つて法蓮の復興を圖り、二萬圓の私財を投じて増築又は修理を加へ、今に見る堂たる伽藍となし、縣下代表的の寺院と稱さるゝに至らしめた。師が多年の功績は當山寺史に永く傳へられるに違ひないなほ師は、方面委員を現任中である。

築地村

蠶種製造 浮須市造

當浮須家は本縣下でも指折りの蠶種製造家であり、且つ有数の資本家として鳴らしてゐる家柄でもある。當家をして斯の如き今日あらしめたのは、實に先代氏の挺身的努力健闘の資であるといふも決して過言でない。先代氏は北越人の傳統的血を承け繼いだ全く不撓不屈の人、一度志を立て、起つや、彼岸に到達するまでは世間の誹謗嘲笑を一切かなぐり棄てて、「今に見てをれ！」とばかりに、ただ一路、目指す目標へと突き進んだ當業界の勇士天晴れ初一念を果し、家礎を萬代

に誇りあらしめた立志傳中の一人である

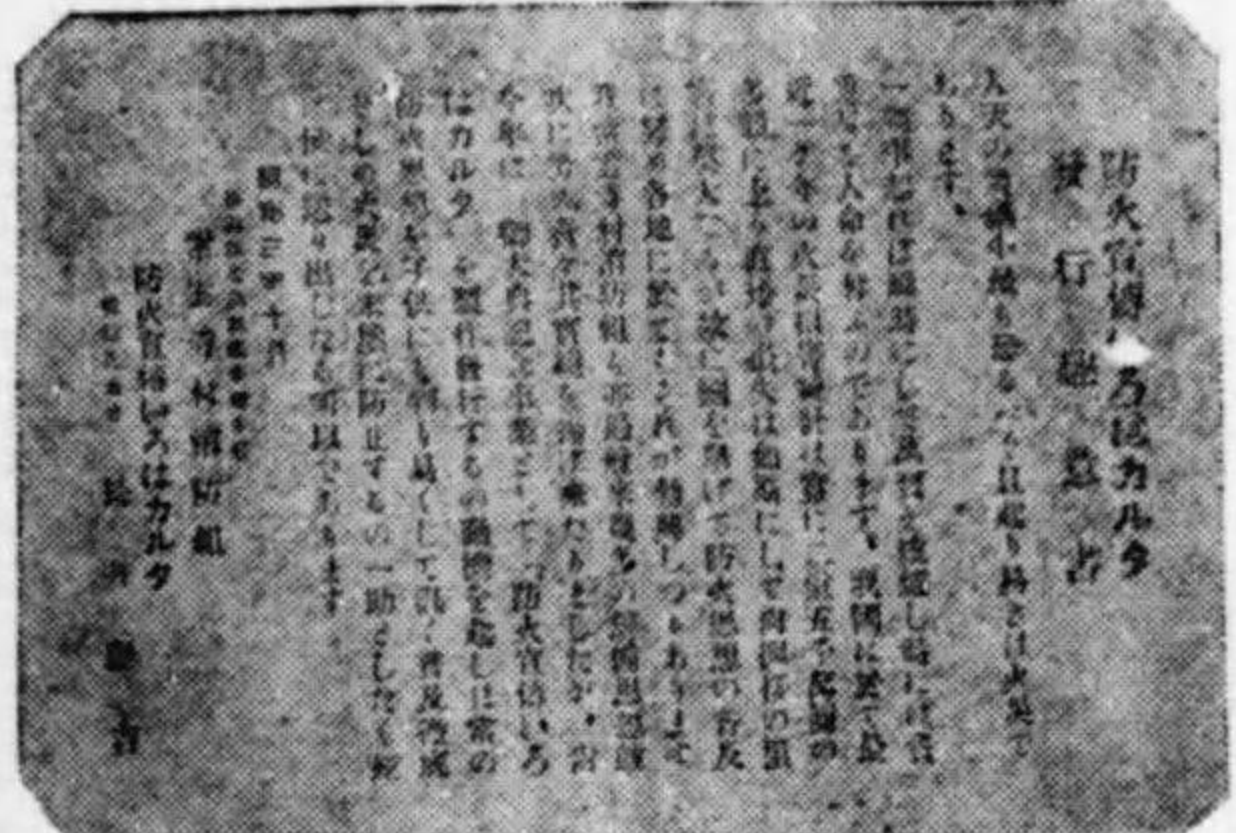
當主市造氏はその男、幼少時代より父君の並々ならぬ商戦場の力闘振りを親しく目撃してゐただけに、人生行路難を味得すると共に、人の操縦法に深く學ぶところあり、家を繼ぐに及んで直ちにこれを商策の上に將た増産の上に應用して奇功を奏し、今や商賣いよ／＼繁昌して、縣下は勿論縣外にまで販路を擴張、先代にも劣らぬ商士よと嘖々たる好評を博し何處まで伸びゆくことかと羨まれてゐる

京ヶ瀬村

村會議員 高橋常雄



氏は本村に於ける新進氣鋭の村會議員（三九頁参照）でその將來に最も多くの望みを囑せられつゝある稀に見るの逸材である。



防火宣傳、乃ほカルタ  
「防  
火宣  
傳は  
ろは  
カル  
タ」  
を創  
案、  
これ  
を製  
作し  
て、  
全村  
の防火、警備のことに任じつゝある篤志家でもある。

紫雲寺村小川

消防組頭 長井慶吉

消防組頭として挺身盡力しつゝある氏は（七四頁参照）夙に防火宣傳に熱中、

古志郡上川西村楨下

長樂寺



阿彌陀 如來、宗派は眞宗大谷派である。

當寺は天和二年の創建に係り、本尊は現堂宇は今より百年前の建築にして境内は三反餘あり、毎年五月二日初夜より五日中までを宗祖大師の報恩講を執行し、信徒參集して盛況を呈する。檀徒總代は廣瀬廣吉、廣瀬權次郎、長谷川勘作の三氏任期中。

現住職藤井正則師は大正三年生れ、當山第十二世である。先代最正氏は金澤醫大卒業後、長岡病院に約四ヶ年間研究勤務してから本村内に獨立開業し、ツ、ガ蟲病治療に切抜療法を發見した偉大な功勞者である。

山本村

前松山甌洞庵



伊藤 三百三 職住 慶長十年八月十日

當寺は元眞言宗に屬し、本福寺と稱し今より四戸丸正福寺と改められた。本福寺と稱した時の開基は、甌澤源藏氏であるが、その後數代の間無住となり、堀丹後守が長岡城主となるに及び、當寺の再建を志し、吉村龍穩五世耕山唱堯和尚を招じて甌洞庵と改號した。開山以來の歴代住職は、

- 二世 天室盛
- 三世 萬靈鐵
- 四世 樹岩雲
- 五世 玉田光
- 六世 大震道
- 七世 靈天光
- 八世 本光源
- 九世 東海洞
- 十世 一道雄
- 十一世 孝頼忠

東谷村泉

龍水山玉泉寺

當寺は寛永年間、栃尾町常安寺より來りし繁國秀茂大和尚を開基として創建され、後年、體岩春金和尚が大宇平に長福寺を營みし時は、當寺の阿彌陀如來を移した。曹洞宗に屬し、地藏尊を本尊とし側立に四天王を安置し奉る。山の中腹にありて靈域廣大にして靜閑、太古の夢の





住職室橋眞頂師

中に歸せるとく、寺堂は正徳二年蘭庭

囑託され、庶民の敬慕をうけ、趣味は生花盆栽である。夫人キタさんは銑後婦人會のために竭し、賢婦人といはれ、淑徳高き人である。

慶芳大和尚が再建したものである。一般行事のほか毎年春秋二回佛式の招魂祭を執行する。三菱の重役二國三樹三氏その他知名人士の参詣する者が多い。

前任職渡邊祖山師は生花宗匠として知られた人、七十八歳で永眠した。現住職室橋眞頂師は南魚沼郡鹽澤町亡室橋政太郎氏の男にして、六歳の時佛門に入り、森田悟由師及び新井石禪師に就き、一時雲水生活をせしことあり、中野俣村東光寺住職を経て當寺に移つた。頭腦明晰にして謙徳に富み、本堂を開放して各種講演會、村内の集會、青年團の會合などに便し、自然のうちに崇祖觀念の培養に努め、また昭和十年より春秋の農繁期には季節託兒所を經營してゐる。方面委員を

# 中蒲原郡

## 村松町

村松町長 茂野誠衛  
元縣會議員



茂野家は創立はなほ古く由緒たゞしき舊家であつて、代々農を業とし勤儉を以て貨殖致富につとめ、いまや巨富を擁して名聲すこぶる高き素封家である。先代恭平氏は縣會議員に當選してその任に就き、ひさしきにわたつて極力活躍し、その功勞はなほ多大にして、縣民、町民の感謝して措かざるところであつた。  
當主誠衛氏は恭平氏の長男として明治三十一年八月三十日に生れた。嚴父の志

をついで先づ縣會議員、縣參事會員に擧げられて功勞あり、いまや村松町長、同町會議員に任ぜられ、新潟縣社會事業協會監事、新潟縣中野財團監事を兼務して誠心誠意を以て盡瘁してゐる。隣接町村の合併を斷行し、町の經濟更生の上に貢獻するところきはめて顯著であつた。

氏は夙より政友會に加盟し、最も有力なる黨員として熱心に活躍し、今や當地方の幹部として同志の指導に任じ、當町會は絶對多數の黨員を集結するに至つたのである。氏はその資性は溫和にして典雅、剛毅にして謹直、明朗酒脱にして寛潤豪奢の性がある。きはめて聰明にして品位を備へ威儀自ら重きものあり、思想は中庸安當にして、理想と現實と何れにも偏頗することなく調和を持してゐる好紳士である。曹洞宗を奉じて信仰がき

はめてあつた。一家に二男二女があつてつねに圓滿和合のうちに繁榮してゐる。

## 金津村中村

金津村長 和氣一郎  
元縣會議員



和氣家は古くから名門の家柄として知られて來たもの、二代前の祖三郎氏は二十大區第小三區長を勤め、亦先代省吾氏は津島中村兩村合併後の金津村長となり、何れも自治功勞者として、今にその徳望を追慕されてゐる。  
當主はその長男である。明治八年九月十五日の出生、同二十三年三月長岡農學校を卒業し、父祖の衣鉢をうけて村政方面に進出、夙に人望を一身に負うて村長に就任して以來、二十四年後の現在まで勤績奉公しつゝある大の功勞者であり、



しかも中浦原郡町村長會長をはじめ消防

組頭、縣信用組合聯合會理事、村農會長  
金津産業組合長を兼務してゐるが、その  
間また縣會議員に推薦されて當選、縣治  
の上にも至大なる功績を樹てゐる。

資性濃厚篤實、極めて決斷力の強い、  
思想堅牢な、そして言語明らかな活動的の  
人士で、盆栽に讀書に趣味を有し、常に  
生涯を村自治にさげ、財政の基礎を確  
立し、教育及び産業等の發達を期し、圓  
満明朗なる理想郷を建設せんことを、念  
願となしてゐる。氏のこの念願に對し、  
誰か敬仰の心を起さぬものがあらうか。

### 金津村

明治三十四年十一月  
一日、津島及び中島の  
兩村合併して金津村と

改稱し、和氣省吾氏、初代村長に選ばれるや、創業時代の事務に忙殺されながらも村民の融和協調、自治行政の基礎建設等に鋭意奮闘すれば、二代目村長中野貫一氏、よくこの意を體して更に土木に、農業に、鑛業にと各般の整備に努力する

ところがあつた。

續いて和氣氏、三代目村長に再任、一  
村平和の上より將た經濟の上より教育設  
備の擴充とその成果を收むる點より一村  
一校制の有利なるに着眼し、あらゆる障  
害を突破し、大英斷を以て津島、中島の  
兩校を統一併合して今の金津尋常高等小  
學校を創立したのであつた。一方また自  
治發展の補助機關としての村農會、信用  
購買組合、村教育會なども設立され、多  
端なる創業時代は、逐次今日の伸展の土  
臺となるべき成績を收めつゝ進んだので  
ある。

現村長和氣一郎氏は、父君の築き上げ  
た一村の長としてその後を襲ひ、致々營  
營、父君に劣るなきの功績を飾るべく活  
躍しつゝある。

### 橋田村尻上

橋田村長  
正八位  
勳六等

### 吉井靜策

勳五等

當家は開祖以來凡そ三百數十年を経る

舊家にして、先代忠次郎氏は郡會議員、  
村長その他の要職に擧げられたる人望家  
であつた。

氏は先代の長男にして、明治十年十月  
二十四日の誕生である。夙に軍務に服し  
累進して陸軍歩兵少尉となり、日露戦争  
にも出征せしことあり、正八位勳六等功  
五級の名譽ある勳位を下賜されてゐる。  
郷土に於ては早くから自治公共のために  
働き、郡會議員並に村助役を歴任、個人  
主義的立場を棄て、村全體のために、そ  
の平和と發展を冀ふこと切なるものあり  
現時、村長のほか、村農會長、村消防組  
頭、在郷軍人分會長、青年團長、産業組  
合長、村會議員、學務委員等、村内の重  
要職は殆ど一人で兼任し、寢食を忘れて  
専心村民福のために努力盡瘁してゐら  
れる。性剛毅にして責任感強く、加ふる  
に實行力に富む手腕家である。明快なる  
言動は人を信頼せしむるに足り、活動的  
な人格者との定評もある。曾て道路問題  
に關聯して政友會系の人物と目されしも

政黨色は皆無である。

家庭には男子四人、女子二人あり、圓  
滿至福を呈してゐる。

### 菅名村石會根

菅名村長  
勳八等功七級

### 戸井田 金藏

戸井田家は今より八百年前の創家で、



平氏の流  
れを汲ひ  
名門家、  
當地に土  
着歸農し  
て以來、

代々農耕に勵精、今日に及んでゐる。

氏は明治十八年二月十六日の出生、も  
と歩兵准尉、日露戦役に従軍、各地に轉  
戦偉勳を樹て、勳八等並に功七級を下賜  
された名譽ある勇士である。歸郷して以  
來は家業に努力し、一面村治に意を注ぐ  
と同時に、衆に率先して當るといふ熱と  
汗とは多大の望みを囑せられ、大正四年  
より同九年まで村松町役場兵事務を勤務

し、同十年より三ヶ年間を村松町縣立中  
學校教練教官を、同十二年より昭和四年  
まで機業を經營し、同四年二月、當菅名  
村役場助役に推され、村長の名輔佐役と  
して、一層、人望をあつむるところがあ  
つた。

斯くて氏は今や全村の輿望を双肩に擔  
つて村長の要職に就き、日夜寢食を忘れ  
ての鋭意精進振りである。外に水利組合  
長、水害豫防組合長、縣傳染病豫防組合  
支部長などをも兼任、それら盡瘁貢獻  
してゐる。

なほ氏の抱負としては菅名村土木十ヶ  
年計畫の實行化、村政は飽くまでも人物  
本位とし、副業獎勵の一助として、「花  
牡丹」の縣外賣出しなどであるが、この  
主張の果實を見るも、近き將來にあるで  
あらうか。

また氏は、黨籍を政友會に置いてある  
が、村治者としては常に白紙主義をとつ  
てゐるところから、村民の信望は濃厚さ  
を加へてゆくばかりである。

### 大蒲原村南田中

大蒲原村長

### 鈴木 嘉久衛

當家の祖は松本藩の出にして、創家以  
來年すでに久しく、當地の名門舊家とし  
て名譽が高い。先代藤藏氏は早くから本  
村自治産業のことに關與貢獻せる人材に  
して、收入役、村會議員、村長等を歴任  
せること多年に及び、村内屈指の重鎮と  
して敬慕された。

氏は先代の二男である。明治二十七年  
一月三日に生を當地に享けた。長岡中學  
校を抜群の成績で卒業し、夙に推されて  
助役に任じ、現時、村長としてその自治  
的蘊蓄を傾けて村のため働いてゐる。自  
己の資材を投じて一材のために盡力せ  
んとする稀有の心意氣と高貴なる人格と  
は、人をして感服せしむるに充分であら  
う。すでに大蒲原村は當地方に於ける模  
範村との評高く、その陰には氏の功績が  
隠然たる原因となつてゐるのであるが、  
氏は更に上層階級その他各層の融和を一



層緊密にすべく、この方面に努力を注いで、物心兩方面からする銃後施設の充實につとめてゐる。賢明にして濃厚篤實、且つ謙讓なる君子的人格者として知られ人に接しては好感を與へる。

### 七谷村

七谷村長 山崎 武二郎

日本は孝道の國であり、自治の國である。氏は自治を國策と結びつけ、未曾有の非常に遭遇せる現下日本の自治をして完璧ならしむべく努力精神してゐる徳望家である。明治十八年九月六日を以て呱呱の聲をあげ、新潟中學校を抜群の成績で卒業せる俊英である。曾て本村助役たること五回に及び、自治に對する手腕はすでに試験済みにして、卓抜の敏腕家との定評を寄せられてゐる。現時、村長の重職を帯びて銃後農村の施設に萬全を期すると共に、戦線の勇士の努力を努力と

し、一死報公を念願し、寢食を忘れて奮闘してゐる姿は、人をして頭を下げしむるに充分である。なほ村農會長、産業組合長を兼任し、殊に産業組合の擴充發展には盡力するところ多く、その他各種事業の發展は勿論、一意村の發展更生に力を用ひてゐる。政黨は立憲民政黨に屬する。資性恬淡にして言語明瞭、活潑なる活動家であり、卒直剛毅の一面を有つてゐる。

### 十全村

十全村長 神保 多工磨

當家は村内神保家の總本家にして、有数の舊家名門である。先代泰一郎氏は戸長、村長、村會議員等をつとめ、自治功勞により勳七等を授けられし十全村の大恩人である。

當主は明治十五年一月岳降にして先代の養嗣子である。新潟中學校出身の逸材として知られ、日露戦争には勇躍出征し單光旭日章並に勳六等を授けられ、金四

百圓を下賜されしより見ても、當時の武勳の赫々たるを偲ぶことが出来る。その後家業に精勵努力し、傍ら夙に自治公共のことに参劃貢獻し、青年團を組織し自ら團長に任じて青年の指導誘掖につとめたり。信用組合を設立しては組合長に推されて村内産業經濟の充實に裨益するなど、功績一々枚舉に遑なく、主なる公名譽職だけを列記しても、中蒲原郡聯合軍人分會副會長、助役、收入役代理、村會議員、村長、村農會長、消防組頭、五泉南市場理事等を歴任し、燦然たる治績を示し、現在は十全村長、所得稅調査員、村會議員、青年團長を兼任し、全村民の信望を一身にあつめてゐる。

昭和十三年自治制五十周年に際し、二十五年以上勤績の功により、縣知事より表彰された。實に本村の誇りたる存在である。

長男は五泉實業學校教諭をつとめ、末子は村松中學校に在學中、なほ家庭には愛孫三名がある。

### 川内村下阿彌陀瀨

川内村長 松尾 治助

當家は當地に於ける屈指の舊家名門にして、開祖以來凡そ三百年を経過する。先代方造氏は、川内村助役並に村長を歴任し、本村自治に貢獻多き人望家として有名である。

氏は先代の長男として呱呱の聲をあげ尊父同様、村助役をつとめて後、村長に推舉せられ、現にその要職にあると共に學務委員及び區長を兼ねて村内發展のため寢食を忘れ、私利私慾を離れ、至誠奉公の一念を以て勵んでゐる。殊に村の經濟的更生に寄與するところ多く、内外の工作に巧みにして、その活動的且人格的な點よりして村民の敬慕をあつめ、郡内有数の優良村たるの面目を發揮すべく努力してゐる。頗る明朗な近代的教養の材幹で、人に接して好感を抱かしめ、一面濃厚にして人情に厚く、陰徳多く、沸然たる人氣を呼んでゐる。國民精神總動

員の叫ばれる折柄、偉大なる材幹たる氏を有することは川内村の大きな悦びと言ふべきで、非常時農村の村長としての適任者である。

### 横越村横越

横越村長 神田 又一

昭和十二年七月、支那事變が勃發してからすでに一年有餘を過し、今や長期戦に入つてゐる。吾々は帝國の嚮ふところに従つて、愈々堅忍持久、今回の歴史的大事業を完成せしめねばならぬ。このために、物心兩様にわたる國民精神總動員が實施されてゐるが、氏は率先範を衆に垂れて、總動員の意義を深く認識せしむると共に、その結果を効果あらしむるやう盡力して、銃後自治界の模範的名村長との評判が高い。

明治七年二月二日の出生なれば年齒杖郷を越え、早くから郡會議員その他の地方自治要職に歴任し、敏腕家と謳はれし材幹にして、現在は横越村長の重任を帶

びて、銃後援護に萬全を期して寧日なく更に村會議員、龜田郷水害豫防組合會議員、阿賀普通水利組合會議員を兼任し、多年の經驗と性來の英俊とを以て、貢獻頗る多く、名聲殊更に高きを加へつゝあり、氏こそ聖戰遂行に全力を傾倒せる帝國が、一村を委するに足る逸材と言ふべきであらう。

### 大江山村細山

大江山村長 佐藤 哲爾



治開拓に盡瘁せる功勞者であつた。風に選ば

れて村長の要職をよく果し、その長男たる哲爾氏は明治二十九年三月二十四日の生れ、父君の性格を享けて高潔眞摯、頭腦英明にして、村民に期せられるところ



多く、長ずるに及んで輝やかしき天性を益々發揮し、新潟中學を優秀なる成績を以て卒業し、次で新潟師範學校を卒へ、直ちに兒童教育に専心努力し、小學校に教鞭をとること十五ヶ年の長きに及んだその教化の及ぼすところ遠隔の地にまで及び、青年子女の敬慕を一身に集めて教育界の重鎮と稱された。退職後は自治に竭しその穩健なる思想と人に對するに懇切丁寧を以て爲すところ、徳望極めて厚く、先には推されて村助役となり、現在は父君の職を承け繼いで村長として一村の圓滿なる發展と經濟更生とを期し、その貫徹のために銳意精進しつゝある名士である。

尙ほ青年團長として村下青年の指導に携はり、民政黨に屬し、意氣益々旺盛である。

因に佐藤家は、開祖以來凡そ三百年を有する當地切つての名門にして、家族は男兒一人、女兒一人の明朗和平の家庭愛に満ちてゐる。

兩川村

兩川村長 安宅久吉



安宅家は、始祖以來二百七十一年を経た當地方に於ける舊家として知られてゐる。代々農を

本業となし、篤農家を出してゐる。先代久平氏は村合併以前より村會議員に擧げられ、盡瘁貢獻すること約二十年の久しきに及び、その功勞は今も一般からたへられてゐる。

當主はその長男である。明治二十五年五月九日の出生、新潟商業學校の出身、夙に村治方面に進出した。その村治に對するや、一村の更生發展に貢獻し、平和の維持を念願とする抱負を持してゐる。主義は嚴正中立、人と爲り濃厚篤實、そして言語明快、活動的人材であり、加

ふるに懇切丁寧な紳士である。曾て學務委員に推され、また村役場助役に擧げられ、村長の補佐役として萬全を期して活動するところがあつた。

今、全村の輿望を擔つて村長の要職に就き、年來の抱負を實現化へと拍車をかけて邁進してゐる。その他村會議員、青年團長、耕地整理組合長等をも兼ね、廢食を忘れてそれ／＼盡力してゐる。

夫人との間に四男三女があり、長男君は目下早稻田大學在學中であるが一家は至極圓滿、春風の和かきを見せてゐる。

村松町

町會議員 加藤久藏



國家非時の折柄、國策産業の線に副はんことを期して、わが加藤久藏氏は現在東京麻紡絲績

に圓滿なる家庭である。

龜田町

町會議員 皆川眞平



皆川眞平氏は、嚴父任忠氏の長男として

て、明治十八年四月一日に生れた。皆川家は三百年の家系を有する舊家にして、分家後二代目の眞平氏は當主である。父君は龜田町の収入役として精勵努力し、町民の福祉増進のため寄與するところ多かつた。

眞平氏は新潟師範卒業後、直ちに教育界に馳せ參じ、偉大なる抱負のもとに専心献身的熱情を以て第二の國民たる小學生の訓陶に當つた。そこに在ること三十一年の長きに及び、半生を小學教育の

ために捧げた人である。其の中校長たること二十四年、名校長として誦はれ、前に大江山村丸山尋常高等小學校長として衆みな崇拜し、普く青年の畏服するところである。現在は町會議員として活躍、既に三回目であり、また學務委員として盡瘁してゐる。

更に氏の事業的手腕は、衆に優れて刮目に値するところ多大にして、現に越後無盡及び第一徵兵保險會社の代理店をなしてゐる。氏こそは當町教育界の恩人とも言ふべきで、また町政發展の努力家でもあり、尙ほ從七位勳八等の帶位帶動者である。

家族は男兒三人、女兒三人、長男は縣保安課に勤務中で、健全平和な一家をなしてゐる。

荻川村結

村會議員 石川彌太郎

名望家との定評ある當石川家は、また名門として知られる。本家石川家より分

株式會社の麻織物の委託製造に従事して職工約五十人を擁してをり、今後益々業績發展の途上にあるを囑目されてゐる。

加藤家は、その家系二百年を數ふる舊家にして、氏は先代久五郎氏の長男、明治十四年十月五日この世に生を享け、資性英敏潤達、剛毅磊落、潑刺たる事業家にして、思想また堅實、幾度か困難に直面しながらも、大望を棄てず、現在の仕事を、將來は全村をして工業地、機業地としての發展に希望をかけ、その爲に一意努力貢獻せんとする偉丈夫である。曾ては日露の戦役に從軍出征せる勇士にして、勳七等功七級の帶動者である、紡績業に従事の傍ら、町會議員として町政に盡し、活動的手腕と共に、また懇切眞面目なる人格者として衆望を擔ふところ甚大である。

氏は産業團體よりおされ、或は民政系と目される、向きあるも、嚴正中立を旨としてゐる。家族は、農林省勤務の子息、(養子)と、二人のお孫さんとがあり、洵





れて五代  
をかぞへ  
先代榮太  
郎氏は郡  
會議員、  
村長、村

會議員等地方自治に關與貢獻し、本村並に當地方の發達に盡したところが多し。謂はゞ村の大恩人である。

當主は先代の長男にあたり、出生は明治二十年十月十九日である。新潟電力株式會社の大株主にして、資性温厚、君士的タイプの人材である。

夙に助役、村長をはじめ、郡會議員、在郷軍人分會長、水利組合長等の要職を歴任して、自治公共の事業に竭すところ多く、現時村農會長、並に第四回目的村會議員をも兼任し、民政黨に屬するが、嚴正中庸を主義として、自治に執掌してゐる。

家族は男子三人の女子三人、和氣霽々たる日々を送つてゐる。



橋田村小熊  
村會議員  
農區長 鬼島市榮

鬼島家はその創立から今日まで三百餘

年を経過し來れる舊家にし、代々農を以て業とし素封家としてあらはれてゐる。先代慶治氏は村會議員、および區長等に任ぜられて活躍し、力をきはめて盡瘁してその功績はなほ多大であつた。

當主市榮氏は慶治氏の長男として明治二十五年一月十九日に生れ、嚴父の志をついで公共のために活躍し、いまや村會議員に當選就任二回目、農區長に在任二回目、區長代理、土木委員、農會評議員および選舉肅正委員、國勢調査委員、産業統計調査委員等に任ぜられ、全力をかたむけて盡力し、その功勞きはめて顯著である。

である。氏はとくに耕地整理の普及獎勵に努力すること多年にわたり、すこぶる熱心である。  
氏は不偏不黨にして嚴正中立である。その活動には何等の黨臭なく、その資性は温良和順、明快にして活動的である。その機略と才幹とは群に抜んでゐる。今後の氏の活躍は正に期して待つべきである。曹洞宗を奉じてその信仰がきほめて厚い。一家はつねに和合圓滿にして繁榮しつつある。

大蒲原村高松

村會議員 熊倉助右衛門

當家は、今を距ること凡そ八百年、即ち、開祖は、土御門天皇の頃の人である。先代吉次郎氏は信用組合監事、村會議員區長二回等を歴任し、本村自治産業並に部落の繁榮に寄與盡力すること多き自治界の大恩人である。

氏は先代の長男にして、明治三十年十月十五日の出生である。夙に加茂農林學



馬場家の  
本家にし  
て、氏は  
その七代  
目の當主  
である。

先代吉太郎氏の長男として明治十七年八月十二日生を享け、當村最有力者の家柄として代々村治發展のために盡瘁すること多大にして、その功績は枚擧に遑なき有様である。

わが八太郎氏は、天性温良にして寛容新鴻中學卒業後は只管村政の凡ゆる方面に意を用ひ、郡畜産組合長として十七年間勤続し、區長、郡會議員、村長、村會議員等、村の要職に携はり、銳意盡力するところがあつた。また學務委員、消防組頭、縣山林組合長をも歴任し、まことに當村發展の恩人として、なくてはならぬ有力なる人物である。

現在農會長、村會議員、學務委員として廣く才腕を揮ひ、業績多大にして今回

川内村水戸野  
村會議員 山崎新治  
元村長 正八位

村會議員二十五年勤続により、縣知事より名譽の表彰を受けたほどである。これまでも表彰を受けたことは數次に及んで居り、それに依つても氏が如何に當村のために貢獻盡力なしたかがうかがはれるのである。また信用組合の理事に推されて、その信望極めて厚いものがある。

長男勝男氏は當年三十一歳にして、當村信用組合に勤続、高等農林學校出身の秀才で、父君八太郎氏の隻腕とし將來を期待されてゐる。その他男兒四人、女兒一人の和氣霽々たる家庭である。  
當家は分家以來三代目にして、比類稀なる名望家である。先代浩七郎氏は自治界に活躍すること多年、村會議員、郡會議員、學務委員等各種公名譽職に歴任して貢獻するところ多かつた。地方自治發達の大恩人である。因に本家は地方有數

校に勉學し、適齡に達するや徴兵検査に合格して兵役に服し、模範兵として上官の信任が厚かつた。除隊後、家業に精勵の傍ら推されて諸種の公名譽職に就任しその主なるものを挙げれば、農區長一回産業統計調査員、國勢調査員三回、在郷軍人分會副會長等があり、現時、村會議員に當選活躍中にして、村内道路工事をして今一層徹底的に完成せんことを望んで折角努力中である。齡やうやく不惑を超え、男としての働き盛りではあり、氏の活躍は庶民の等しく期待するところである。資性温厚にして質實、君子肌の人で、人の信頼を受けることが多い。  
夫人は國防婦人會支部長として銃後の護りに奔走してゐられる。氏との間に一男一女を有し、家庭は頗る圓滿。

十全村上戸倉

農會長 馬場 八太郎  
村會議員 學務委員

古き家系を有する當村切つての舊門閥



の舊家として著聞する。

氏は先代の養子である。新潟中學校を優等で卒業し、軍役に服しては陸軍少尉に任じ、正八位に叙された。除隊後、家業に精勵すると共に社會公共のために寄與貢獻多く、先代は民政黨系の逸材なりしも、氏は村としての事業その他の關係上、政友會に入つた。明朗にして言語明晰、活潑なる活動をつゞけ、人格高潔なる敏腕家である。曾在郷軍人分會長たること十年に及び、また學務委員に推され、村長に就任二回に及び、本村の發展に寢食を忘れて盡瘁した。村全體の更生を期する上には、先づその原動力たる租稅完納をなさしむることが先決問題であるが、現在遺憾ながら川内村の納稅成績は良好といふことが出來ず、從つて各種事業に齟齬を來たす虞れあり、氏はこゝに格段の注意を拂つて、納稅思想の普及徹底、滯納の絶滅を期して奔走し、漸次所期の目的を達してゐる。現時村會議員の重職にあり、議員中でも堅實を以て聞

えてゐる。家庭には四人の令孫あり、圓滿至福、和氣藹々たるものがある。

### 横越村横越

横越郵便局長  
村會議員  
正七位勳七等 市村俊藏

市村家はその創始きはめて古く、今日まで十一代を重ね來れる舊家である。代農を業とし精農家を以てあらはれ、縣下に著聞せる素封家である。

市村俊藏氏は専修大學の前身校たる専修學校理財科に學んだ。歸村以來横越郵便局長に任ぜられた。當局は實に明治六年の開設にかゝり新潟縣下にも屈指の古き郵便局である。

氏はさらに公共のことに活躍することきはめて熱心にして、いまや推されて村會議員の任に在り、また學務委員および耕地整理組合副組合長、阿賀普通水利組合會議員等を兼務し、それぞれ全力を傾倒して盡瘁し、その功勞すこぶる顯著で

ある。

### 大江山村

村會議員 佐藤平七



た先代嘉七氏の長男にして天性頗る濃厚質實その一面

また剛毅なる熱意努力の士である。曾て日露の戦役には郷土を背負つて出征、各地に奮戦よくその任を盡し、勳功多大にして、勳八等瑞寶章を下賜された勇士である。

現在村會議員に選ばれ、また水利組合議員として活躍、村治に盡瘁貢獻するところ甚だ多く、殊に氏自ら出征の経験あるを以て、出征兵士並にその遺家族の爲には並々ならぬ努力を效し、その信頼極めて多きものがある。

佐藤家は、當村切つての舊家にして、

家系は既に二百有餘年を経過してゐるといはれてをり、今の丸山新田に移轉してから六十年の歳月を経でゐる。先祖代々村治に功多く、村民の衆望を擔ひ、政黨は民政黨に屬し、土地の有力者である。氏の眞面目なる人格と、明快潤達な資性と相俟つて、その家庭は頗る圓滿和氣藹々たるものがある。四男、三女の子福者、また令孫は既に九人を有し、實に羨むべき健康平和な一家をなしてゐる。尙ほ一家は浄土眞宗に歸依してゐる。

### 石山村石山

村會議員 山田利一

當家は開祖以來約三百年を経る舊家にして、地方有数の名望家である。先代利喜藏氏は村會議員、區長、學務委員等に擧げられて自治に貢獻すると共に、陰徳願る多く、徳望遠近に普く、人材中の人材と評されてゐた。

常主利二氏はその長男にして明治二十

一年五月二十七日に生れた。新潟中學校の出身にして、早くより尊父にかはつて公職に携はり、収入役、助役を歴任、その手腕と人物とはすでに萬人の認むるところである。名利に奔らず、光風霽月、恬淡たる心境を以て公事に竭し、全力を傾倒して公共のために働いてゐる姿は、崇高そのものである。しかも明朗な活動家である。現時、四期目の村會議員に任ずるほか、村農會副會長、龜田農業倉庫專務理事、農區長、學務委員を兼ね、信用組合設立には特に功勞あり、設立以來十七年間專務理事として今日に及んでゐる。民政黨に屬する當地方の重鎮で、園藝に興味を持つてゐる。

家庭には男子五人、女子三人あり、圓滿にして繁榮を重ねてゐる。

### 曾野木村嘉木

村會議員 富岡兵治

君子的人格者として村民の崇拜の的であるわが富岡兵治氏は、地方稀に見る洗



練された大立物である。寡黙實行、博愛慈悲の人とし

て衆の範たる氏は、嘗つて大正十一年三月より昭和十二年十月に至る十五年の長年月の間、村収入役として盡瘁し、信頼極めて厚く、表彰を受け、現在は信用組合幹事として、また村會議員として活躍一身を賭してよく職務を果し、まことに氏の如き人物を有する本村の大いに誇りとするところである。

富岡家は當村切つての舊家にして、その家系既に二百餘年を數へ、先代吉五郎氏もまた徳望の令名高く、區長の要職を完うした。七代目の當主たる兵治氏は、吉五郎氏の長男にして、明治九年九月二十四日の生れ、彼の日露の戦役には一等看護長として従軍出征、度々危機に瀕しながら赫々たる功績を樹て、勳七等に叙



せられた名譽の士である。  
父君は民政黨に屬してゐたが、氏は嚴正中立の立場を嚴守してゐる。家族は男兒一人、女兒四人あり、氏の人格を映じて圓滿常に春の如く、令息は加茂農林學校に在學中の逸材、氏の薰陶を受けて將來に期するところ大なるものがある。

### 兩川村嘉瀬

村會議員 島津貞吉

當家は開祖以來百八十年に及び、六代



をかぞへる。先代九一郎氏は村會議員に選出されし人

望家にて、本村自治上に多大の貢獻があつた。

氏はその長男にして明治十三年七月三日に生を享けた。日露戰役に出征し、歩兵伍長に陞進、赫々たる武勳により勳七

等に叙された。柔和で、人好きのする人

士であるから、村内は勿論、遠近に衆望普く、村會議員に當選五回、現にその職にあり、民政黨系を以て目ざるゝも絶對中立を旨として、公平無私の信念を以て村政に當つてゐる。また現時區長、方面委員を兼任する。曾ては農區長、産業調査委員、國勢調査委員、等を歴任し、米穀検査員たること十有七年の長きに及んだ。米穀検査、土地賃貸價格調査、産業調査の功勞顯著なりしにより表彰を受けること數次に上つた。

母堂は八十餘歳の高齡にてなほ健在、家庭には他に五人の女子がある。

### 龜田町荻會根

町會議員 石本俊三

石本家は當地屈指の舊家として有名である。即ち今から三百五十年前に創家され、代を累ねること實に二十一代に及んでゐる。先代倉吉氏は村會議員たること四回、ほかに區長、排水器常設委員、



村農會總代等の要職に擧げられる自治功勞者である。

氏は先代の長男として明治二十六年三月十八日に當地に於て呱呱の聲をあげ、少年時代より頭腦明敏を謳はれると共に濃厚實實の人材であつた。しかも寡言にして實行力もあり、人の信を得るところ頗る多く、思想また健實である。

農事に熱心にして篤農家の聞えあり、果樹類の改良獎勵、その他について貢獻が頗る多い。園藝こそ氏の趣味であり、生活である。

また曾ては區長たることもあり、現時町會議員、村農會總代、産業統計委員等を兼ね、功勞いよゝ顯著なるものがある。政黨は立憲民政黨に屬する。

家族は男子一人、女子四人、家庭は頗る圓滿幸福である。

### 福田村小熊

村會議員 廣瀬又四郎

當家はその創始遠く二百年の昔に發し



氏は、八代目である。先代は庄屋、村會議員を

勤め、氏も村會議員、學務委員、氏子總代として活動し、農民會長としては大正十三年創立以來勤続して、多大の功がある。區長を二回、又は青年會を創立し、その會長として、信望を集めたことがあつた。氏は濃厚にして雄辯、しかも活動的であり、發展性に富み、其抱負は實際的であつて、常に現實に着目して村の伸長發展に努力してゐる。大地主對小作の調和及相互扶助の精神により、逐次村の平和を確立してゐる。増産品評會、農區經營共進會より表彰されたのは、氏の抱負

の結實とみて差支へ無いであらう。氏は又日露戰役に出征し、帝國軍人として光榮ある武勳の主である。家庭は一男三女あり、一家を擧げて村の將來に協力せんとしてゐて、つねに和合圓滿のうちに繁榮しつゝある。

### 大蒲原村青橋

村會議員 布施一郎

當家の祖先是相當知名の人にして、元祿年間の創家である。爾來分家を出すこと十數戸、その總本家として繁榮を續けて來た。先々代は戸長をつとめた徳望家である。先代長吉氏は輻重兵軍曹たりし勇士、歩兵第三十聯隊の御用商人をつとめ、また縣の土木請負に従軍盡瘁した敏腕家である。

當主は先代の長男にして明治二十七年四月十九日の出生である。縣立村松工業學校を卒業し、濃厚高潔、言語並に擧措明朗にして、各方面に亘つて令名高く、活動的人格者と稱される。曩に土木委員

を初め、用度組合役員、村會議員等を歴任し、現時二度の村會議員として活躍しつゝある。不言實行を旨とし、當村に於ける道路その他の工事を助成して功績多く、また農業經營の改善に就いては大いに研究をかさね、畜力より動力へ、農業の近代的經營に努力獎勵し、既に動力利用組合を設立運營してゐる。活動的であるばかりでなく、いつまでも若さを失はない發展性のある人材で、思想は堅實である。

令閨は主婦會支部長に推されてゐる。一男五女の子女を有す。

### 横越村小杉

村會議員 長瀬朔治

當家は始祖以來百三十一年を閱した古い家柄で、代々農業及び養蠶を業となして來た。先代榮作氏は熱心に家業に與つた精農家だつた。

當主朔治氏は明治十五年六月十五日、その長男に生れて父祖の業を繼いだ人で





ある。氏は父君に劣らぬ家業精進家であり、常に農業

の多角的經營に腐心しつゝ、あると共に、また村治方面に疾くから關與してゐた。そしてその職に對する忠實なる努力は、逐日人望を加へて、消防組合長たること三十五ヶ年間、その他耕地整理組合委員農區長、農興貯蓄組合長を三十年間も勤めて多大の功を擧げ、現在は選ばれて村會議員として村治に參し、且つ龜田郷水害豫防組合委員、横越養蠶組合長、農會總代等をも兼任して銳意努力してゐる。會て帝國農會、消防義會等から表彰されたことがある。

大江山村丸山新田

村會議員 熊木壹郎

氏は、中蒲原郡龜田町より移住し來つ



新鴻師範學校卒業 後、初等教育に一身を賭し

て懸命努力、確固たる理想と信念とを以て、十二年間盡瘁したのである。また氏は夙に農村産業の發展に力を入れ、大和農園を經營し、新鴻農場長として幾多の功勞を堆積し、篤農家の譽れ高き人材である。農場經營といふ大きな仕事に盡瘁せる傍ら、消防組頭として、昭和十二年四月一日合併當初より現在に至るまで活躍し、また推されて村會議員となり、學

石山村中山

村會議員 石山甚平

務委員となり、其等の要職に就いて、よく任を果し、村民みな等しく尊敬し、畏敬するところである。實に氏は多方面に大いなる手腕を有し、その前途は洋々たる輝きを以て祝福されてゐるのである。氏の如き人材を持つ本村は、まことに恵まれた村といふべきである。政黨は民政系に屬し、家庭は二男二女あり、健全平和なる家庭として羨まれてゐる。

開祖以來三百年を閱する當家は、その姓が示す通り、石山村屈指の舊家であり且つ名門である。代々農を以て家業となし、當地方の開発、産業の進展に幾多寄與するところ多く、徳望家として名聲遠近に普きものがある。

當主は先代由太郎氏を父とし、その長男として明治二十年九月十日を以て生をこの世に享けた。温厚にして着實、言語明快にして人に接すれば必ず快感を與へ



代々村治開拓に意を用ひ、功績大であつた。

先代三

に及び、土地賃貸價格調査委員を始めとし國勢調査に、農業調査に、また村會議員多年勤続の名譽ある表彰を受けてゐる家は住友生命の代理店をなしてをり、この村になくはならぬ有力なる人材である。氏は確信せる自己の信念を以て嚴正中立を表し、家族は男兒一人、女兒一人の圓滿なる家庭愛に満たされてゐる。

龜田町船戸山

町會議員 藤田勝藏

藤田家はそり創立すこぶる古く今日に



三百餘年を閱しきたり、十代をか

るといふ社交性に豊かな人である。志操は堅實である。會て區長に推されしこと五回に及び、部落のため寢食を忘れて努力した功績は、今も人々の記憶の中に瞭り残つてゐる。農會總代としての功勞も没することは出来ない。政黨的色彩は全然なく、一黨一派を超越し、嚴正中立を標榜して社會公共に貢獻すること氏の如く熱心なるは、他に求め難い。十年前より水利組合會議員たるほか、現時村會議員を兼ね、村の大功勞者と評され、名望燦然たるものがある。

家庭は男子二人、女子二人。至極圓滿にして幸福を極めてゐる。

曾野木村天野

村會議員 本間 男三郎

明治十五年一月二十二日呱呱の聲をあげた本間男三郎氏は、先代三次郎氏の三男にして、資性篤實温厚、眞摯また謙讓なる人格者である。本間家は村内屈指の舊家にして、その家系は五百年を數へ、

次郎氏は、徳望高き士にして、推されて區長に就任、よくその任を盡し、自治界の恩人であつた。男三郎氏はまことに高邁なる識見、豊富なる經驗、氏の門閥と相俟つて、村民の厚き信頼を擔ひ、村内の凡ゆる自治行政に奮闘盡瘁したのである。先には消防組頭に推され、土地賃貸價格調査委員たる事二回、その成績優良なるを以て五回表彰され、國勢調査員として活動努力し、穀物調査員、龜田郷職業紹介所議員、水利組合議員となりて、村勢發展のために貢献寄與するところ甚だ多かつた。現在は六期目の村會議員として連續二十一年勤続し、曾野木信用組合専務理事に選ばれ、また農會代議員である。故にその表彰されたことも數度

る舊家であつて、代々農を以て業としてはなほだ裕福なる家門である。先代高次氏は村會議員に當選すること前後三回に及び、區長をも歴任し一身をさへかけて村



治のために貢献することきはめて甚大であつた。

當主勝藏氏は高次氏の長男として明治八年十月十七日に生れた。公共のために奔走することひさしく、熱誠忠實をつくした。町民の信望次第に高大となり、さきには土木委員をつとめて功あり、村會議員及び町會議員に當選すること連續七期に及び、町村制發布五十周年記念に際して縣及び町より自治功勞者として表彰せられ、縣より銀盃を授けられた。更に學務委員及び區長を兼任して活躍し、なほ水利組合常設委員として十箇年勤続し農會評議員として勤続すること十一箇年に達してゐる。

氏は民政黨の最も有力なる黨員として活躍してゐる。その資性は温順敦厚にして眞摯、熱烈眞剣にして篤實、すこぶる徳望が高い。老成渾熟の氏は人格は圓滿玲瓏にして識見手腕ますます卓絶してゐて、村内の信頼を一身に鍾めてゐる。母堂チラ刀自は八十一歳にして、はな

はだ元氣である。長男勝正氏は農學士であつて、その他に一男五女がある。

### 横越村駒込

村會議員  
學務委員  
區長  
阿部

阿部家はその創始が今より五百餘年以



前の事に  
屬せる舊  
家であつ  
て、代々  
農を業と  
して篤農

を以てあらはれたる名門である。先代啓作氏は區長に任ぜられて盡瘁すること多年にわたり、その功績はなほ多大にして區民のことごとく感謝するところであつた。

當主一氏は啓作氏の次男として明治十七年六月二日に生れた。嚴父の志をついで政界に躍進し、いまや村會議員に當選して二期連續し、區長二期勤続、學務委



令一雄氏  
成圓熟  
の氏は  
酒脱に  
して明  
朗、磊

落にして恬淡、しかも熱誠眞摯にして忠實勤勉、多年の體験と研究とは渾然玉成して施措つねに肯綮にあたり、博大なる信頼を全村民より寄せられて、長老としての權威を以て敬仰せられてゐる。

長男一雄氏は三十一歳にて、加茂農林學校を卒業し、正八位に敘せられ、陸軍歩兵少尉に任ぜられてゐる。いまは横越村在郷軍人分會長に任ぜられて、活躍中である。

### 荻川村荻島

元村長 長澤 立太郎

長澤家は創立以來今日まで六百餘年を



開し來り  
當地に移  
轉以來二  
百餘年を  
經て、十  
二代をか  
さねてゐる舊家にして、代々農を業とし精勵貨殖につとめて、いまや素封家として遠近にあらはれてゐる。

當主立太郎氏は先代敬内氏の長男として、明治二年十二月二十四日に生れ、明訓學校に學んでこれを卒業した。つとに自治産業等、公共のごとに奔走することすこぶる熱心にして人望漸を追うて高大となり、明治二十九年村會議員に選ばれてこれに就任し、大正五年にいたるまで盡瘁活躍して怠らず、その功勞はなほだ顯著をきはめた。その間さらに推されて

村長の重任に就き、一村の休戚を雙肩に擔つて全力を傾け最善をつくし、その功勞は拔群にして何人の追隨をも許さざるところである。

氏はその資性がきはめて温厚にして篤實、堅忍にして不拔、眞摯にして熱烈、特に情誼にあつく義侠の心が深い。また寛容にして清濁併せのみ、選ばず捨てず包容力を以て優れてゐる。氏の趣味は讀書であつて晴耕雨讀の清境を持し、新舊の典籍によつて、或は修身齊家に資し、或は治國平天下の政治に裨補してゐるのである。老成渾熟の氏はその一言一行が全村の指標たる今日、元老を以て敬仰されてゐる。日蓮宗を奉じてその信仰がきはめて懇篤である。

家庭はつねに圓滿安泰にして和樂輯睦していよいよ繁榮し、二男五女があつて秀才才媛ぞろひとして稱讚され、長男健雄氏は青年團長の任にあつて、奔走活躍はなほだ熱誠をきはめ、今後の雄飛を刮目して期待されてゐる。

### 川内村川内

元村長 瀧澤 眞五郎

當瀧澤家は開祖以來二百年を経たる舊家にて、先代國一郎氏は村長たりしことあり、自治功勞者として著聞する才幹である。その功績は自治産業教化各方面に亘つて顯著を極め、今も當時の事績が燦爛たる光芒を放つてゐる。

當主眞五郎氏は先代の養子にして、出生は明治四年十一月七日である。資性英邁にして温厚を極め、言語明瞭、舉措快適にして衆望あり、志操堅固なる人格者である。曾て村長に選任されしこと三回に及び、學區の統一に赫々たる業績を示せしほか、村治百般に亘つて幾多の功績を残し、養父同様、本村發展の大恩人と稱される。曾ては政友會に屬せしことあるも、今はこれを離れ、黨派を超越して公益に盡すのみである。

長女幾代さんは明治二十二年の出生、女婿瀧澤司郎氏は現に村會議員として活



躍し、議員中活動的手腕家といはれてゐる。當家は實に三代に亘つて本村自治に貢献して來たのである。因に家庭には四人の孫令がある。



を有し、村内屈指の舊家名門にして嚴父信吾氏は徳望

も歴任してをり、まことに村民の信頼を一身に擔ひ、老いて益々矍鑠たるものがある。また安田生命及び富國徴兵の代理店を營み、氏は民政黨に屬してゐる。一家は一男二女あり、和合圓滿、理想的家庭として推獎されてゐる。

横越村澤海 澤海郵便局長 大町爲作



氏は明治十六年生れの當年五十六歳、澤海郵便局初代局長として通信報國に至誠を傾け、ま

た村に在つては八期目の村會議員で、全く當村の長老として敬仰されつゝある外學務委員、公設澤海消防組頭、龜田郷水害豫防組合常設委員等を兼ねてゐる。

大江山村西山新田

村會議員 山崎順

當家は、三百五、六十年を経たる家系

高の眞面目な人格者であつた。永年龜田小學校の校長となり、教育界に盡すこと實に三十有餘年に及び、その偉大なる功績は、今も教育界に燦として輝いてゐる。當主順氏はその長男である、明治十年十月十七日呱呱の聲をあげた。資性温厚篤實父君の薫育を受け、徳行家の譽れ高く、また穩健なる思想の持ち主である。新鴻師範學校の秀才にして、父君の後を繼いで小學教育に只管に邁進、優れたる教育家として、教育界に重きをなすこと二十有四年にて、校長たること二十年に及び、名校長の名を高めた人である。現在村會議員たること四回目にして、またよく財政にも盡力貢献し、十四年間學務委員として功勞多く、水利組合議員を



宣戰布告 皇軍の出動、日に日に旺んとなるや 氏亦た軍

に従つて第一線に立つて活躍したが、特に奉天の大會戦には赫々たる武勳を樹てそれ等の功に依つて勳八等に叙し、瑞寶章を下賜され、男子本來の面目を躍如たらしめた。

横越村小杉 村會議員 稻村 熊太郎

明治三十七年日露の國交斷絶、續いて

凱旋除隊後は家業に精勵し、他面また進んで村内公共のことに興り、曾て龜田町外三ヶ村傳染病組合議員に推され、大に村民の心に副ふところがあり、人望いよく厚きを加へるに至つた。現在は三期目の村會議員に任じ、當村會に於ける一方の雄として重きをなしてゐる。なほ區長代理をも兼ねてゐる。家は農を主業となし、今より百三十年前の文化九年に始めて一家を起したものだといはれてゐる。

大江山村直り山

村會議員 豊島 五十松



開祖以來二百有餘年を閱し、八代目を相繼ぐ舊家に、明治二十二年三月二十五日、自治界の

先覺者たる吉平氏の長男として生を享け

たる氏は、父君に肖て早くより村内公共のことに進出して盡力するところあり、現に二期目の村會議員として村政に參與して活躍し、青年會長、蔬菜組合長、水稻採種組合長等の要職を歴任せる人望家にして、郷黨の福祉増進のため、夙夜淬勵公事に奔走してゐる。資性温厚にして誠實、人の信頼を得るに足る徳望家である。まことに快活また沈着、赫々たる所信を披瀝し、人をして深く首肯せしむるところである。また家庭は春風駘蕩たり、四男三女を恵まれたる子福者である。

村松町城町

農會會長 田澤伊三郎

田澤家は創立よりこのかた約九十年を閱して今日にいたり、代々農を以て業とし篤農家を以て著聞し、勤儉よく貨殖致富に成功し、素封家として遠近に聞えてゐる。

當主伊三郎氏は先代國松氏の三男とし



て、明治二十七年十月二十一日の出生である つとに公

共のことに奔走することすこぶる熱心にして、人望を博すること絶大なるものあり、昭和六年より十三年二月まで農會評議員の任にあつて功績を擧げ、いまや農會長に任ぜられて重責を擔ひて盡瘁するところあり、また昭和二年より十二箇年間耕地整理組合長として勤績し、現任してさかんに活躍しつゝあるのである。

氏は純粹の農藝技師として、多年の體験と、科學的研究と、綜合的なる工夫創案とを活用して熱誠なる研究をつゞけてゐて、米麥の増收、柿の接木、養豚、養兔等に關しては、その普及、獎勵および技術等の指導向上については、もつとも顯著なる功勞がある。氏はまた農會の擴大と組織改造について主張がある。



氏はその資性はなほ温厚にして篤實であつて、教養高き有爲有能の近代紳士である。特に情誼にあつく任侠の志があつて、好んで困窮を救ひ之を支持激励してゐる。ことに敬神の念深くして伊夜日子神社神樂殿建造に莫大の寄附をさげ、て之が完成に大功あり、神社より感謝状を授けられた。また曹洞宗を奉じてその信仰あつく、禪機すこぶる敏活であるといふ。

家庭はつねに和合圓滿にして、三男四女があり、長男氏は新潟新聞社に勤務して優秀なる社員として囑望されてゐる。



堂の陣を張つて對處する公明正大、高潔の人である。

夫人との間に三男二女あり、長男義雄氏は今、龜田町青年團長として活躍、將來を囑望されてゐる。

龜田町早通

産業組合長 大島 三代治

初対面ではあつたが、とても好感を持つてゐる人だ。温厚にして篤實、思想極めて堅固であるといふことが、對談中にはつきりと察知することが出来る。夙に民政黨に屬し、當地方に重きをなしてゐるが一度村自治に當るや、黨を放れて正々堂々

當大字がまだ村であつた頃、村役場收入役に推され、一村財政の鍵を握つて、至大の功を樹てゐたほどで、やがて合併して町制布かるゝや、産業組合長に就任以來二十一年にて現在に及び、且つ學務委員として八ヶ年、區長を重任すること六回、方面委員たるまた五年、今もこれ等を兼ねてそれゝ奔走、貢献を敢へてしてゐる。



約三百六十年前、當地に移住し來り、當部落の開

氏の家は、その昔加賀の國から移住した古い家柄で、今も當地方に於ける大農家を以て臨んでゐる。父君の三代太郎氏は、非常な手腕家で、現在の家礎を築き上げた人であり、また人望なかくに厚く、村會議員に選ばれるゝこと數回に及んでゐる。この父にしてこの子ありで、氏

庄瀬村庄瀬 川又 平三郎

當家の開祖は三條の浪人彌平太氏にして、約三百六十年前、當地に移住し來り、當部落の開

營の改良に幾多の新機軸を出して令名は四隣に噴々たるものがある。

氏は先代の長男である。明治四十二年の出生にして、昭和二年、加茂農林學校を卒業せる秀才である。若くして輿望あり、曾て國勢調査員を囑託されること二回に及び、その功を表彰された。現時、補充兵でありながら在郷軍人分會長の要職にあるほか、區長、白根郷水利組合評議員、白根郷耕地整理組合代議員、銃後會副會長、新潟縣囑託稻作改良獎勵員等の諸要職をつとめ、各方面に亘つて功績大いに見るべきものあり、將來は庄瀬を背負ひ立つべき人物といはれてゐる。しかも資性温厚にして快活、人に接するに懇篤親切である。



本村屈指の舊家素の封家である。昭和二年火災にかゝり

古記録類一切を焼失したるが故に、沿革等一切の事情は不明である。先代信太郎氏は助役及び、村長に在職して精勤すること前後三十餘年にわたり、自治、産業交通、治水及び教育等の各方面に於てあまねく功勞をたて、全村の福祉を増進するところ多く、全村民の感謝と稱讃とを博することすこぶる多大であつた。

氏はその資性温厚篤實にして謹嚴端正情理兼備はつて學才並び有し、一村の長老として重きをなしてゐる。浄土宗を奉ずることすこぶる篤い。

川内村阿彌陀瀬

産業組合長 石本 隆 多

石本家は當地方に於ける最大の舊家に於て、開祖以來一千年に及ぶといふ。即ち人皇第六十一代朱雀天皇の御宇に創家され、爾來連綿今日に及ぶ、草分けの舊

小林村和泉

農會委員長 田中 吉平

當田中家は上諏訪田中家の分家にて、



家名門として衆望をあつめ、且つ代々郷土のために努力し來りたる家柄にして、今も名望噴々たるものがある。

當主隆多氏は先代吉藏氏の長男として明治四十二年七月二十日に生をこの世に享けた。夙に東京農業大學に學び、優等の成績でこれを卒業した。

若年漸く三十歳ながら、名望全村に普く、産業組合長として勤績すでに三年、名組合長との評判高く、組合發展に盡すところ甚大であつた。

また現時村會議員、青年團長、學務委員、農會代議員、水利組合役員等の要職を兼任し、政黨色を帯びず、環境を主體とせる自給自足を以て本村發展に貢献すべく折角努力してゐる。

資性温厚にして明快、活潑なる活動家であり、且つ賢明なる農村更生の指導者である。將來の活躍こそ、大いに期待される。

家庭には三男一女を有し、和氣藹々たるものがある。

### 兩川村平賀

篤農家 松田三治



現在場主の祖父は、當家中興者にして、三町歩位の自作農、父君松三郎氏の時代は一時自家用の蔬菜畑や糯田位にとゞめられてゐたが、三治氏は松三郎氏の長男として明治八年五月八日生れ、大正十年縣立加茂農林學校を卒業するや、直ちに志を保持して自作地の擴張を計ること二年、その後一先づ村立農業補習學校に教鞭を執りつ一年を過ぎたが、偶々農村問題發生し自力更生に生くべきを信じ、大農場經營者たらん事を決意し、依て昭和二年、荒地を美田に、逐年土地變還を求め、經營面積を擴張し、翌三年係争地を生じ、小作争議の發生を見られたれど、一年にして解決し、稻作を主體とする本縣の農林省指定農業經營調査の擔當者となり、次で一意専心經營改善を計り、有畜を合理的に加味せる現在の有畜農業經營をなすに至つた。

決し、稻作を主體とする本縣の農林省指定農業經營調査の擔當者となり、次で一意専心經營改善を計り、有畜を合理的に加味せる現在の有畜農業經營をなすに至つた。

氏のこゝまで到達したその苦難は筆舌に盡し難く、あくまで初志貫徹に銳意努力せる強固なる意志と實行の力は、剛毅果斷にして温厚な天性と相俟つて、その功績は衆皆敬服し、信頼を措くところである。而して尙ほ斯く理解を有する經營を學ばんとする青年を研究生として養成に盡力してゐるのである。現今農村疲弊の折柄、時代の要求に伴つて松田農場は日に隆盛を極め、將來を囑望されてゐるその發展は當村のみならず、縣農業の發展隆盛に貢献するところ多大である。

長男松意氏は既に村會議員として盡瘁せしこともあり、現在は父君に代りて家業に専心努力してをり、衆望を擔つてゐる。家族はその他に五男五女の圓滿清福たる羨むべき家庭である。

### 庄瀬村庄瀬

資産家川又タノ

萬寶年間に創家されたる當川又家は庄瀬村隨一の舊家にして、始祖は三條の浪人平衛門氏である。爾來連綿二百七十年にして今日に及んだが、舊幕時代には代代庄屋取締として領主の信任あつく、苗字帯刀御免、且つ駕籠を許されし名門にて、當家の紋所は新發田領主より特に拜領せし由緒深きものである。

先代龍太郎氏は地方發展のため種々貢獻するところ多く、徳望遠近に普ねかつたが、大正二年、四十五歳の働き盛りを以て惜しくも永眠せられ、爾來同夫人タノさんは専ら家政を處理し、節婦といはれ、賢婦と讃へられて今日に至つた。當家は村内資産家中、第一に指を屈せられる家にして、庄瀬村の全土地中、三分の一は當家の所有に屬してゐる。家寶としては領主より拜受せし狩野三東並に常信筆三幅、榎田領主より賜はりし香爐など

あり、家柄の高きを物語つてゐる。實に稀有の名門といふべきであらう。

横越村澤海

### 隆明山大榮寺

當寺の開基開山は遠く今を遡ること三百五十年前の古刹である。本尊は阿彌陀如來を安置して、曹洞宗派に屬する。



大榮寺全景

五箇寺がある。境内面積は一町三反餘で、其他に田畑

がある。阿彌陀如來登壇、木庵の書、其他數點が寶藏されて居る。年中行事は七月十五日で、現在檀家は三百餘戸、總代五名である。

現住職は川口賢韻氏で、明治二十五年の出生、當山三十代目の住職として法燈を繼承した師は、人格高潔せる有徳の大智識として、檀徒は勿論、村民一同の信望頗る厚い。



# 西蒲原郡

島上村笈ヶ島興野

元縣會議員 山崎 忠太郎



近江源氏の分れであると言はれてゐる。村内

きつての舊家名門であるばかりでなく、當地に移住して、代々土地の開墾と、農業に従事し、勤勞努力の成果として、巨萬の富を成し、現在西蒲原郡に於ける有数の資産家であり、大地主である。當主忠太郎氏は、明治十年四月の生れであつて、資性潤達、温厚の君子であり

郷土の偉材として貢献多き人である。曩に縣會議員、郡會議員、村會議員として、郷土の名譽と發展向上のため、或は壇上に或は行脚に、行政の中心的活動人として、第一線に實に多くの功績を遺した人であつた。

氏はそののみならず現に笈ヶ島區長外數多の名譽公職に推舉され、部落民の指導的活動をなすばかりでなく實業界に於ての存在はより大なるものがある。現在同氏は銀行の重役及び各會社の理事等十指に餘る繁忙の身で、晝夜休みなく公人の責務を遂行しつゝ、郷土民のよき指導者として、信任最も厚く、厚遇されてゐることは、氏の從來の業績の然らしむるものであると言はねばならぬ。趣味生活に於ても實に高尚なるものであつて、庭

園にまたは書畫の蒐集等、造詣深きものがある。

一方氏の令息綠治郎氏は、地藏堂町に於て製材會社を経営し、實業界にその手腕力量を示し、事業を大成して稀に見る材幹のみならず、村會議員として、村政の樞機に參與し、最良の獻策をなし、或は學務委員として、郷民子弟の育成に努力し、その郷村の中心的人物として、輝しき燦たる功績を遺し、村落にとつての多角的方面にわたつての、甚大なる功勞者である。

## 燕 町 役 場

燕町は徳川幕府創業時代には既に一小部落を形成し、蒲原郡大槻の莊及彌彦の莊に跨り屬してゐたが、慶安二年に村上藩の領地に屬し、其の後、幾度かの變遷を経て、明治四年廢藩置縣となるに及んで、村上縣に屬し、同年十一月新潟縣の管轄となり、同二十二年町村制實施後は

單獨なる燕町として維持經營して來たが昭和二年十月一日太田村を合併し現在の燕町となつたのである。

中の口川の沿岸に臨んだ風光明媚の地勢的利ある町にして、人口約二、三千を數へる商工業地である。工業殊に發達し洋食器、煙管、双鏡、銅器等の生産盛んにして、中でも洋食器は全世界の市場に雄飛し、優に外國製品を凌駕してゐる。又双鏡、煙管、銅器等、その沿革古く全國工業界に重要な位置を占めて居り、當町には金物組合多數有し、金山講と稱する金物製造業者に依つて行はれる年中行事の祭典もある。

現町長として高橋平右衛門氏就任、樞機を握つて吏員を統制指揮、大に町績を擧げてゐる。

## 町 長 高橋平右衛門

當高橋家の祖先は遠く村上藩の時代に發する。

當藩の御殿醫として勤め今より二百年前當町に來りて漆の製造販賣を業とせる當



町切つての舊家である。先代平藏氏は町會議員を三十年も勤続せる功勞者である當主平右衛門氏は七代目にして、明治十七年十月九日

生を享けて天性温厚にして篤實、眞摯

なる君子的人物である。夙に町政に關與町民の信望を擔ひ、推されて町長の要職につき、現在まで町長たること三期、當町の發展は、氏に負ふところ甚大である更にまた消防組頭として町會議員として永年盡力貢獻し、名町長の令聞が高い。氏は政黨關係は、嚴正中立を標榜し、清廉なる人格と相俟つて、家庭もまた一家和平に満ちてゐる。

## 卷 町 卷 信用組合

當組合は大正三年四月の設立に係り、

## 燕 町

玉 川 堂

電話燕一五番

當玉川堂獨特の鎚起器は、文化年間に現主の曾祖父覺兵衛氏によつて創業されたものであり、二世覺次郎氏に至つて、



製品の改善を圖つたが、三世覺平氏に及



んで地方の特産たるしむるため、子弟を

養成し、獨立開業せしめて大いに普及を計るところがあつた。鋸起金銀銅器の製作法は、一塊の金屬を金鋸一つで打ち展しながら花瓶、香爐、一輪挿、湯沸、水注、急須等をつつの織ぎ目もなく一枚板で仕上げるといふ古雅味豊かな美術工藝品である。昭和五年には横濱高工の鈴木校長が率先奔走して横濱市に玉川堂分工場を設立した。

明治三十四年産業創始發達の功勞により農商務大臣より創業者覺兵衛氏が追賞せられ、同四十三年斯業の改善發達並に子弟教導の功績により農商務大臣より三代覺平氏に功勞賞を賜つた。内外博覽會へ出品して大賞牌、金銀銅牌を受くるこ

と數十回、府縣聯合共進會の審査員を囑託せられしこと數回、各博覽會、聯合共進會の出品中、宮内省御買上げの光榮に浴すること數度に及び、畏き邊りをはじめ、秩父宮殿下、高松宮殿下、閑院宮殿下、久瀨宮殿下、伏見宮殿下、朝香宮殿下に献上の光榮を擔つた。

の敏腕家と稱される人材揃ひで、現社長は吉川壽六氏、専務取締役は福田幸一氏、常務取締役が本間金吉氏にして、取締役は長島政吉、大平與三郎氏の兩氏監査役は多卷芳延、本間佐吉、内藤温の三氏である。新潟市には出張所を置き、燕町、十日町、吉田村その他に代理店あり、柏崎、彌産の二營業所を有し、縣下全圓に勢力を持つてゐる。

### 卷 町 卷

#### 第一共榮無盡株式會社

當社は庶民金融機關として設立されしものにして、爾來利用者の激増驚くばかりにて、今や縣内に缺くべからざる重要金融會社となつた。利用者の増加は必然的に事業量の増大を示し、業績大いに見るべきものあり、堅實なる營業方針により今後なほ發展の趨勢を辿つてゐる。重役並に主腦部は、いづれも地方切つ

#### 粟生津村 和 田 悌四郎

和田家はその創始古く先祖は武士で舊家名門の家柄である。すでに開祖以來二十代目であり和田家の總本家として代々農を業としてゐる。悌四郎氏は本年七十四歳、新潟師範乙種卒業後、早稻田大學に學び同校を卒業した。資性温厚篤實縣下唯一の名村長として郷内の信望を集めてゐる。氏は前中學校教員、助役、新潟縣信用組合聯合會監事、縣町村長會評議員又青年團長として二十一年の間青年の

黨育に力を盡し、現在は農會長、圖書館長、尙武會長、郡町村長會副會長を勤め粟生津村長としては就任以來三十五年、産業組合長三十二年の長期に亘りその行く處可ならざる才腕を驅使して村内のみでなく縣内に於てもその人ありと知らるその指導的立場に於ける精神的、實際的業績は大なるものがある。故に大正十三年縣知事より表彰を受け、全國町村長會及自治制五十周年記念に於て内務大臣より表彰を受け、産業組合中央會頭より縣産業功勞賞を受く。又本年長くも高松宮殿下よりも表彰を拜受してゐるのは、實に氏が如何に多年の間自他を超越して公共事業に傾倒したか、之は氏の剛毅不拔なる精神と強靱なる熱意に依つて始めて到達する事が出来たのであらう。同氏夫人ヨキさんは愛國婦人會長として人望あり、氏の忠實なる内助者としても忘れることが出来ない。長男和田慶太郎氏は四十三歳の働き盛りにあり、東京都文館中學卒業後、早稻田大學に修學し、現在村

會議員、學務委員、方面委員、産業組合主事の名譽職に在り、尊父悌四郎氏の二代目として今後を囑目されてゐる。慶太郎氏夫人トヨさんは國防婦人會長として淑徳の譽れ高く、内に外に功多く長男は中學四年に在學中、一家を擧げて郷土發展を目ざして邁進してゐる。

#### 米納津村佐渡山

米納津村長 勳七等功七級

#### 今 井 福次郎



郎兵衛氏の長男として、現住地に於いて呱呱の聲をあ

げた。當今井家は、開祖以來二百餘年續く家柄であつて、先祖以來代々家業として、農業を營んで來た村内屈指の舊家であり篤農の家として名望ある。

福次郎氏は生れ乍らにして、資性頗る温和、頭腦明晰にして、幼時より育英事業に志して、それを實踐された人格者であるのみならず、氏の令息もやはり教育者として、子弟教育の第一線に努力されてゐる。

永年にわたりて小學校教員として、人格教育に主力を注いで、努力をなし、のち後進に道を譲り、村の助役に擧げられて郷村梵のために、盡力するところ多かつた。現在氏の關係して居られる公職として重なるものを擧げてみれば、米納津村長として、農會副會長として、または消防組々頭として、村の行政機構の樞要を掌握してゐるのみならず、我が誇りある郷土村民のため多年にわたる經綸抱負を實踐に移し、もつて、光輝ある郷村文化開化向上のために日夜をわかつた。萬全の努力なしつゝあつて、村民等の尊敬と信任の厚きは甚大なものがある。

また一方に於いては、目下我國は上正を問はず、内外共の非常時に際し、現在



續行されつゝある日支聖戦に就いては、  
統後國民の任の大なること、國民等しく  
痛感するところの重大なる責務であるが  
此の統後に於ける任務の大なるを自覺し  
て、夙に軍友會々長となり、亦國防婦人  
會々長となつて、出征軍人の遺家族のた  
め、その保護施設を考究し、安んじて統  
後の家業をなし遂げさせる爲萬全を期し  
てゐるのみか、又郷村出身出征勇士にと  
つては、後顧の憂ひなく、専心一命を奉  
還して、國家のため忠誠の限りを盡すこ  
とが出来るとやうに激勵をなすつゝあるこ  
とは、出征軍人及其の遺家族、村民の等  
しく氏に對して感謝して敬慕するところ  
である。氏は篤信の士でありその溫和な  
る人格は、政治的にも常に公平なる中立  
な態度を保つて、氏の事に處するにその  
裁斷は誠に立派なるものであると言ふこ  
とである。尙前にも一寸記したが、氏の  
長男太一郎氏は、現在北蒲原郡聖路村小  
學校々長として子弟の薫育に當つてゐる  
盡力は、氏が教育界に身を投じてより既

に二十二年の長期に亘るものがある。  
當福次郎氏は、多年村政に盡した功勞  
を召され、勳七等及功七級の、破格の光  
榮に浴し、氏の感激恐懼は言ふまでもな  
く、今後に於ける、氏の活躍は益々好き  
結實をみると疑はない。

### 漆山村 漆山

勳七等

田中 繁 太

資性剛毅、果斷敏腕にして徳望厚き氏



は、明治  
五年一月  
三日舊家  
名門の家  
柄に生れ  
分家して

新たに一家を創立した當家の初代である  
氏は私利私慾に恬淡、漆山村圖書館長  
信用組合長、農會長、青年團長を兼任し  
且つ村長としては六期目であるが、縣下  
に於ける有数の名村長として令名噴々た  
るものがある。曾ては縣會議員として活

躍し、學務委員、村會議員、殊に郡會議  
員としては九ヶ年の長期にわたつてゐる  
など、寢食を忘れて公共のために奔走盡  
力した。功勞者であるまた曾て日清、日  
露の兩戰役に従軍して、赫々たる武功を  
樹て、勳七等に叙せられた勇士であり、  
また本縣知事並に全國町村長會より表彰  
されるなど、行くとして可ならざるは無  
く、現在の漆山の發展繁榮は、實に氏の  
双肩より生れしもので、氏が幾多の名譽  
職に於て常に多大の成果を納めてゐるの  
は周知の事實である。

その家庭は圓滿、氏の人格を反映して  
内に外に、常に恵まれたる環境に在つて  
縦横に才腕を驅使し、村民より感謝と尊  
敬の念とを以て迎へられてゐる。また青  
年團長としては青年の敬慕厚く、良き統  
制と實力をもつて鳴つてゐる。

### 味方村 山王

味方村長 菊池 仁 六

氏は明治二十九年四月十五日に出生。

その家は分家以來二百五十年間繼續され



し家系と  
して、村  
内有数の  
舊家名門  
と聞え、  
代々家業

としては、農本主義であつて、氏は先代  
庄平次氏を助けて、家業に努力して來た  
篤農家である。

その資性は温厚篤實であつて、志操圓  
満なる紳士であつて、若年の頃より夙に  
村政に興味を有して、今日に至るまで陰  
に陽に、村の開發、伸展等に於ける氏の  
盡力は誠に甚大なるものがあつた。

政治的には民政黨系に屬する人であつ  
て、村落民の政治知識の啓蒙について、  
大いに努めたるのみならず、かつては、  
村の助役として三期間を通じて、村政の  
重要位置に在り、農會長としては農村開  
發、産業改良策に鋭意専念したるのみな  
らず、村會議員としてはまた軍人會分

會長、所得稅調査員、國勢調査員等多く  
の公職に在つて誠に獻身的努力をなした  
ことは、これ偏に、氏の郷土愛の發露で  
あつて、その崇高なる人格は郷土人士の  
よき指導者として、最適任者と言はねば  
ならぬ。

氏は現在味方村の村長として、多年、  
村政に參割して得たる尊い經驗と深い造  
詣とを以つて、指導的立場に於いて、そ  
の計畫を實施し、以つて今日にてはその  
事績多きのみならず村民のよきリーダー  
として、その認識、經驗は、郷土の信賴  
を負つて立つべき偉大な人格者である。

氏の家庭はまた、非常なる篤信の家庭  
であつて、長男武徳氏は加茂農林學校出  
の秀才、現在家事のよき後繼者として實  
務に當つてゐる。他令息四人、令嬢二人  
の圓滿なる家風を成してゐる。

### 大原村 稱名

大原村長 西村 信 吾

開祖以來當主を以て十一代目とする當

家は、由緒深き家柄にして、代々郷黨の  
信望をあつめて郷土のために貢獻し、先  
代咲太郎氏は村會議員に選ばれて村政に  
參與獻策多かつた。

當主信吾氏は先代の長男にして、明治  
三十二年の誕生である。夙に近衛歩兵第  
二聯隊に入營し、勤務成績良好にして隊  
中の模範と稱された。除隊後は一意家業  
に精勵しつゝありしが、推されて村會議  
員となり、現にその職にあり、昭和九年  
には村長に選任、引續き今日に至り、學  
校舎並に役場廳舎の改築に卓抜の手腕を  
發揮し、就任幾許もならずして名村長と  
謳はれた。また方面委員の設立、電話の  
架設等氏の功績は一々枚舉の繁に堪へざ  
るものがある。東洋平和の建設は皇國多  
年の國是であり、今次支那事變の目的も  
ここにあることは言を俟たぬ。この目的  
達成に最も必要なることは、今後情勢の  
變化に對應し得る萬全の國家的戦力を整  
備し、舉國一致、鞏固なる決意を以てこ  
の難局を突破するにある。氏はこの點を



深く理解認識し、これを村民に説いて誤らず、功績いよく顯著にして燦然たる光芒を放つてゐる。

夫人は愛國婦人會會長として銃後の活躍に寧日なく、同分會は銃後援護成績良好の故を以て新潟縣支部より表彰を受けたが、勿論、夫人の功績の然らしめしものである。長男正一氏は卷中學校に勉學中、他に令嬢三人がある。

### 月潟村 釣寄

曾山家は木會義仲の臣、某氏の開祖にして代々

庄屋を勤めて来た名門であるが、現



主より九衛門氏を當家の初代とし代々農業を営み

代前、九右衛門氏の代に現在の處に分家し、一家を創立したのである。以て九右衛門氏を當家の初代とし代々農業を営み

篤農の家として知られてゐる。先代幸吉氏は永年村會議員及び區長として村政に貢献した人である。毅八郎氏はその長男にして、明治二十九年生れ、温厚着實、模範的人材にして夙に村治發展に精進したので、衆望の推すところとなりて村長に選ばれ、既に現在は二期目である。又農會長、青年團長として活躍、支那事變に直面するや出征軍人後援會を組織に盡力し、その會長に推され、その外五ヶ江樋管普通水利組合管理者、西菅場樋管水利組合管理者として敏腕をふるひ衆望を擔つてゐるのである。氏は政友會に屬し、家庭は圓滿である。

### 小中川村 勘新

小中川村長 小柳 十代繁

當家は今より三百年前、隣村小吉村小柳家より分れたるものにして、以來代々農業を営み、本村屈指の舊家として知られ、當主を以て十代目とする。先代太平太氏は夙に收入役、助役、村長等を歴任

し、自治功勞者として村民の信望厚かつた人である。氏は先代の長男として明治二十年十二月十二日に生をこの世に享けた。同四十一年軍務に服し、騎兵上等兵となつて除隊、その後自治公共の事に竭すところ多く、土地賃賃價格調査員、國勢調査員を歴任した。政黨色に染まず、嚴正中立を標榜してたゞ公共の康福のみを圖り、資性温厚にして霸氣あり、村内の信望を一身にあつめてなほ餘りある状態である。

現時、村長に選任、時局多端の農村を双肩に背負つて劃策貢獻多く、更に青年團長、村會議員、教育會長、區長等の要職を兼任する。

名利を超越し、人生に悟入し、高潔なる人格と卓抜なる手腕とは彌が上にもその名聲を高め、庶民の信望計り知れぬものがある。

夫人との仲には三人の子女あり、家庭頗る圓滿幸福である。

### 島上村 熊ノ森

島上村長 山浦 武平太



氏は郡下第二位の古參村長である。就任以來實に二十八

年目、村民の信望頗る厚いまた村教育會會長として教育事業に功多く、信用組合長、尙武會長、消防組頭としても二十八年間の勤績である。曾て村助役、農會長、分會長、島上青年會長、學務委員、村會議員等に歴任、村長就任以來學校建築を始め、運動場の擴張、役場建築等多大功績を有し、水害豫防には寢食を忘れて研究に研究を積み、數多の成果をあげ、村信用組合成立は、氏が發起となり今日の隆昌に導いたものである。故に自治制五十周年記念に縣知事より表彰を受け、全國町村長會よりも表彰を受けた。

當家は分家以來約三百年の歴史を有し土地切つての名望家にして、氏は先代武吉氏の長男である、家庭は養子辰平氏三十才、愛孫二人有り、氏は家庭に於ても善良なる戸主として圓滿篤實なる好紳士であり、夫人はまた愛國婦人會長として時局下に活躍すると同時に、氏の内助者として淑徳の人である。

### 峯岡村 福井

村會議員 齋藤 文三郎



文五郎氏の男にして、また潤達明朗の實行家の人である。

また俊敏緻密の手腕家である。因に當家は本村屈指の舊家として廣く聞えてゐる。

曩に衆望を擔つて消防組頭たること七

年間、その間一身を挺してよく消防組の改善向上に盡瘁した氏の功績は偉大なるもので、氏の識見力量は、統制の才にも卓抜なるものがあり、部下の信賴、衆の信望絶大なるものであつた。

現在は推されて村會議員(二期目)の要職の外、信用組合専務理事として、實質的に組合全般の事務を統轄し、夙夜本村産業組合の發展に努力してゐる本村切つての逸材である。今後の氏の進路こそ刮目して期待すべきである。氏はまた政友會に屬し、淨土眞宗に深く歸依してゐる令閨との間頗る圓滿で、子實に恵まれ長男氏は、父君を輔佐して家業に精勵してゐる。

### 彌彦村 麓

村會議員 林 部 俵 壽

林部家は當代に至るまで實に十一代、家系連綿として、今日に續き積善の舊名家として村内に於ける徳望高き家柄で



ある。當主依壽氏は義七氏の長男として



生れ、當年四十五歳の働らき盛りの人である氏は前に

農會役員及信用組合評議員等に推舉されて、斯界に貢献するところ多かつた。のみならず現在は村會議員として、村政に就いて年來の抱負と經倫を實現し、公正なる高潔の士として信任厚きは言ふまでもない。

尙先代義七氏は村會議員として二十年間、區長として長期にわたる功勞者であつたことは、當氏を知る人の熟知するところである。

現在家庭には、子女二人があつて、夫人は、愛國婦人會、國防婦人會等の會員として銃後に於ける家庭婦人の任務を果し、賢夫人として、人々の讚稱の的となつてゐる。

### 粟生津村

村會議員 星野甚八

星野家は本家より分家獨立して今日に至るまで



二百年来り閑し來り代々農を以て業とし精農を

以てあらはれ裕福なる素封家である。先代の三太郎氏は公共のために奔走活躍して功勞すくなくならず、區協議員に任ぜられて寄與貢獻するところ、はなはだ多大であつた。

當主甚八氏は三太郎氏の長男として、明治十年七月十四日に生れた。つとに嚴父の志をついで公共のことに奔走し、さきには區協議員にあげられ、つゞいて區衛生委員に任ぜられ、農業實行組合獎勵委員を命ぜられて活躍し、いまや村會議員に當選してその任に在り、また區協議

員を兼任して、誠心誠意をつくして盡瘁はなはだ眞劍をきはめ、その功勞は顯著なるものがある。

氏は政友會のもつとも熱心なる黨員にして、當地方に活躍して重きをなしてゐる。氏の資性は豪放磊落、明朗にして洒脱、斷じて起たば鬼神も避く底の熱血的正義の士である。正理公義を以て熱辯を揮ひ、萬人をして傾聴せしめて賛同せしめずんばやまざるの熱と力とは、つねに畏敬し推稱せらるゝところである。味方にては頼もしきこと限りなく、敵に廻せばこの上もなく恐るべき人とは眞に氏のごとき人の謂であらう。

一家はつねに圓滿にして安泰、和合して輯睦し五子がある。長男己生治氏は二十三歳、嚴父を助けて家事にいそしみ妻女と相和して一子がある。

### 米納津村佐渡山

村會議員 渡邊平七

當家は開祖以來四百年以上に亙る舊家

にして、名門の家柄である。先代彦太氏



は村會議員、學務委員とし長年の間勤続し温厚篤實

なる人として信望が有つた。氏はその長男に生れ本年六十四歳にして資性剛放磊

落、高齡なるも尙矍鑠として毎日一升の酒を嗜み、膽力有り壯者をしのぐ旺盛なる精力を持つてゐる。趣味は角力にして日本精神と力の權化たる國技角力は實に氏が愛するにふさわしい。氏は長年の間區長として功績あり、現在は村會議員として三十年の間勤続し、文學務委員としても四十年の長期に亙り勤続して、實績を擧げ、その剛毅にして果斷なる資性は村の發展に多大の功績を擧げた。氏は又毎回數度に亙り國勢調査委員を勤め表彰されたが、畏くもその功勞に依り宮城拜觀を許されるの光榮に浴した。長男定一

郎氏四十歳は現在役場の吏員にして温厚篤實圓滿なる人格の人であるが、その家庭は圓滿にて相和し、和樂に充ちつた模範的家庭として名望家渡邊家にふさわしい明朗なしかも健康な精神をもつてゐる。三男は目下帝國の軍人として出征中であり光榮ある出征軍人の家として光彩を放つてゐる。

### 漆山村漆山

村會議員 花岡喜三郎

氏は、本縣土木業界に於て、大なる存在をなしてゐる。



當年六十歳、土木請負業者として

本縣の斯業界に於て實に大なる貢獻を爲してゐるのみならず、今は、本縣指定土木請負業者として、その信任の誠に厚きものがあはるばかりでなく、現に村會議員

に推薦されて連續三期間に及び、その他信用組合理事、普通水利組合評議員として、氏の淡泊、明快、温厚なる性格は、公職に在つて、事の處理に當り、名指導者であり、達眼の士であり、誠に手腕力量の豊富な人として、村民一同より感服されてゐる。

氏がこれまでの土木界に於ける大なる功績は昭和七年の新川改修工事であつたが、氏の不屈不撓の精神と努力は遂にこの大事業を完成するに至つた。そのことは今も尙ほ郷村民の讚辭の的となつてゐる。

氏はまた政友系に屬する政黨人として圓熟した思想と政治知識とは、後輩のよき指導者として、最適任者である。氏は多年にわたつて、耕地整理事業に盡瘁するところ多く、先般赤縮耕地整理組合、卷耕地整理組合より表彰を受けしほど、その功勞は燦と四隣にかがやくものがある。



和納村上和納

村會議員 池 上 庄 一

剛腹快適にして進取の氣象に富める氏



は、先代庄七氏の男として明治十二年十二月十日に誕生した。

先代庄七氏は舊來の村役として村治に盡してきた農村開發の恩人である。

才氣煥發にして、俊敏剛毅の氏はよく父祖の血を繼承して、村勢の發展に淬勵してきた本村自治の功勞者で、現在推轡をうけて村中樞に執掌し、堂々侃諤の論陣を張つて村治續の向上に献身的に盡瘁し、衆の信望を博すること、絶大なるものがある。尙氏は、西浦原郡積雪組合長をも兼ねて、日夜これに努力し、村民一同より深く感謝の念を寄せられてゐる。

民政黨を支持し、浄土真宗に深く歸依してゐる。

氏の令息富作氏は在郷軍人分會理事として、郷軍人精神の涵養訓練に務め、當村中堅人物として、衆よりその將來を囑望せられてゐる。

母堂八十一歳の高齡にて頗る健在、五令孫を加えて家庭は益々繁榮してゐる。

黒崎村黒鳥

村會議員 阿 部 太 七

氏は明治八年七月十七日太藏氏の長男



として出生。

因に當家は開祖以來五百餘年の連綿たる家系を誇る家柄であつて、農業を營んで來た。

氏は福徳圓滿な士である一方、古文献の蒐集には非常なる興味を有して、その

道の玄人であるばかりでなく、氏の現在

藏する中には、大字黒鳥に於ける二百年前の住民の生活記録を多數冊子を秘藏されてゐることである。

氏は趣味の人であるばかりでなく、常に郷土の向上發展に献身的努力を揮ひつゝあるが、今は第四期に亘る村會議員として、古史實に現代を照合して、適正に専務の處理をなしつゝあるのみならず前には、水害豫防組合委員及び新川普通水利組合委員は各十二年間の任期を経ており、横井水利組合員等の公務中にて、水利事業に就いてはその功績甚大なるものが多い。

氏は抱負として、村會議員に立候補した原因でもあるが、常住地が海面より三米も低地であるため常に道路改良に留意し鋭意盡力した結果は、今は昔日に變る立派な新道に改装されたことは、氏の努力に負ふものがある。

先年横井水利組合より、多年氏が、水利事業に就いての功績に鑑み、表彰され

たのみならず、氏の家庭は十名の大家族であつて、子息中より三名の兵役者を出して、過般陸軍省より、名譽ある軍人の家庭として、表彰されたことは、同家の名譽を一段光輝あらしめたものである。

のみならず、村にとつても名譽なことである。

四ツ合村井隨

村會議員 青 木 高 平



殖を以て富を致し裕福なる豪農として敬仰せられてゐる。

先代の新藏氏は公共のために奔走すること、多年にわたつてすこぶる熱心にして、つひに村會議員に擧げられて村政に參與し、盡瘁貢獻すること久しきに及んで多大なるものがあつた。

當主高平氏は新藏氏の長男として明治十八年に生れた。嚴父の志をついで村政に熱誠をさへげて奔走し、さきには農區長に選ばれて功勞を認められ、村會議員に擧げられて、いまやその任に在りて最善をつくし、味方郷耕地整理組合議員及び、同評議員を兼務して盡瘁してすこぶる熱心をさへめてゐる。また消防組部頭として十年以上勤務して表彰をうけるなど、村民の信望は逐年高且つ大を加へてゐるのである。

氏はその資性はなほだ温和にして篤實である。忿つて發せず憤つて現さず底の持恭の君子人にして、寛容謙抑、何人も春風のごとき徳風に同化せずにはゐられないといふ。眞宗を奉じてその信仰殊に熱心なる同行の妙好人である。

夫人は貞節を以てうたはれ、内助の功が高く、出でては愛國婦人會々員として最も有力なる存在である。長男新一郎君は二十二歳、二男高治君は十八歳、三男芳男君は七歳、なほその他に二女があつ

て多幸多慶の、明朗なる家庭である。

松長村眞木

村會議員 宮 腰 群 司



村民の信望を集めてゐる氏は、村會議員として五期の

永きに亘り、自汗精神の忠實なる使徒として常に變らざる熱意と意欲とを以て幾多の功績を擧げた。また農會議員として、多年の經驗を生かして實績をあげ、かつて農會副會長、上郷水害豫防組合議員として活躍したことがある。

當家は舊家なるも、寺院焼失の爲め、先祖の由來等判明せず、惜しまれてゐるが、代々農業を營み篤農の家として知られてゐる。先代彌六氏は永年村會議員として村自治に盡瘁し、當主群司氏は彌六



氏に望まれて養子となつた人、明治十八年五月二十日の生れにして、明治三十八年兵歩兵として軍務に服し、勤勉よく帝國軍人としての責務を完了した。政黨は民政系であり、終始正義を愛する氏は清廉潔白、代々浄土眞宗を信仰し、朝晩佛前に合掌するなど、祖先崇拜の念に厚くかつて上郷水害豫防組合議員たりし頃、誠心誠意その對策に没頭し、村民の利益村民の更生事業に示す熱意こそ氏をして信望の念を厚くせしめる原因であらう。

村會議員として、才腕を驅使し、壯年の働き盛りに有る氏は、村を生かし、農業の神聖なる業を生かして、村と共に發展せんとしてゐる。

### 小中川村小古津新

村會議員 齋藤 與市

常家は部落内に於ても相當の舊家であるが百五十年前寺院焼失の爲、過去帳其他古記録が灰盡に歸したため、開祖に就ては不明であるが、代々農業を營み精農

家として聞え高い家柄である。



祖父九郎治氏は戸長を勤め先代龍太郎氏は收入役、助役、村會議員として村自治の功勞者として貢獻するところ甚大であつた。當主は龍太郎氏の養子にして、明治十五年一月生を享けた性温良寛大、夙に村治發展に盡力した明治三十四年徴兵に依り陸軍歩兵軍曹として、日露の戦役に出征奮戦し、功によつて勳七等に叙せられた勇士である。村治に於ては、夙に村會議員として、又同村私設消防組を大正十三年公設となし、初代公設消防組頭として、十六年間勤続その在職中に金馬簾を受領し、在郷軍人分會長として在任中に聯隊區司令官より感謝状を受けるなど度々の表彰に接したのである。

現在村民の輿望を擔ひ二期目村會議員

として村政に盡瘁し、小古津新實行組合長として活動努力して居り、當村になくはならぬ有能なる逸物の一人である。民政系に屬し家族は九人、常に和氣藹々たる春風が漂つてゐる。

### 小池村大曲

村會議員 清水 菊治

當家は元祿十三年七月十三日を開祖の命日として祀つてゐる。代々農業を營む村内の名望家であり舊家として村民の信望高い。篤農家としても著名であり、連綿たる家系は層一層光輝を増し、光彩を發揮して前途洋々たるものがある。

氏は明治二十一年四月七日堀川多六氏の令息として生を享け、清水家に養子となりたるものにして大島高等小學校卒業資性温厚にして篤實、謹直しかも直截にして率直、明確なる論旨の持主として村政に重きを爲してゐる。前區長として就任以來、眞實一路信念を以て村の發展に關與し、多大の功績を擧げた。その後村

會議員となるや性來の才腕を驅使して東奔西走席の温まる間無く村自治に盡瘁し今日に及んでゐるものである。水利組合議員としての氏は、一意組合の發展と村民の利益を目的として献身的努力を爲し居るものである。氏は政黨的には嚴正中立、その家庭は長男一人あつて、圓滿である。

### 島上村笈島

村會議員 熊谷 雄平



氏は明治二十三年七月三日、先代龜太郎氏の長男に生まる。當熊谷家は、今を距る三百餘年前、茂左衛門氏に依つて創家し、當主は丁度十六代目に當る、村内有数の舊家名門である。先祖代々農業に従事して今日に至つたのであるが、先代龜太郎氏は、

當主雄平氏は恬淡、明朗な性格の人であつて、意氣衝天の概がある。活動力の旺盛な人であつて、信仰篤く、眞宗大谷派の人として模範的人物である。前に政治教育の普及を痛感し、自ら、政友會系に屬して實踐して來た人であるが、後に感ずるところあり、今は、嚴正中立の立場にゐる人である。

當村助役として永年村の行政の樞要地位に就き、その盡瘁するところ非常に多かつた。當家には數代前に、小齋と號して、人物畫をよくした畫家出で、その藝道に對する熱心と努力は大器を約束されたものであつたが、不幸にして夭折し、大に世に惜まれた。

信任されてゐる人である。家庭には夫人の外に子女四人あり、常に春風洋々たる圓滿を見せてゐる。

### 浦濱村五ヶ濱

浦濱郵便局長 酒井 政吉



浦濱郵便局長 酒井 政吉 氏は慶應二年七月十九日の岳降である。遠藤次兵衛氏の次男に生れ先代甚六氏の養子として當家に迎えられたもので、資性温厚にして篤實、謙讓の美德を備えた圓滿なる人格者である。

氏は夙に村治に意を注ぎ、産業に、育英に、その功績頗る顯著なものがある。曩に區長の公職を勤めて區政の向上に力を致し、好評噴々たるもので、村民の信望頗る高め、推されて村會議員として村樞軸に參與すること二十四年間、氏は



村勢發展に寢食を忘れて盡瘁した當村自治の功勞者で、その功績また偉大なるものがある。全く氏の如き人物は當村の誇りとすべきで、氏の燃ゆるが如き烈々たる愛郷心と、犠牲的精神に、村民は深く感謝の念を寄せてゐる。

現在氏は、浦濱局長として熱心に通信事務に精勵し、衆の信望、部下の敬慕を一身に集めてゐる。尙ほ曩に氏は逓信省より勤績三十ヶ年の功により銀盃を授與されてゐる。因に當局は明治三十六年郵便取扱所として開局し、同三十八年三等局に昇格したものである。

### 漆山村 漆山

郵便局長 樋口 重次郎  
正七位勳六等

當家は、河井の樋口家の分家にして、代々農業を営み來られしが、當家々系の由來は、記録その他の参考資料等がなきため不詳なるも、村内舊家として知らる氏は明治十六年九月十五日先代榮松氏の長男として生まれ、後ち、日露戰役に

出征し、その勳功に依つて勳八等に叙せ



らる。當家は代々村政に盡し、その功績は大であつて

先代榮松氏は村會議員、助役として幾多の輝しき功勞があつた。一方氏は温厚なる紳士として、敬神の念篤く、人に接するに温顔そのものであつて、明治四十年來、漆山郵便局長として三十餘年間を通信事務に關與、氏の盡したる功績はまことに甚大なるものがあつた。尙ほ本年は丁度郵便局開設滿三十週年に相當し、その記念事業として、氏の多年に亘る功績に對して、銀杯及び賞状を授與されたことは、この長期間に於ける氏のいかに努力の士であるか、そのいかに勤直な人格であるかを、窺知することが出来るのである。

一面氏は政黨には餘り關係を有たない

が、併し、宗教々育には夙に意を用ひてゐて、氏子總代として宗門を助けまたその信仰を以て、郷土の青年子女の情操教育に努力されつゝある。

家族は十四名の圓滿なる大家庭であつて、今後共村政のために、氏の活動は郷人の等しく信任待望されてゐるところである。

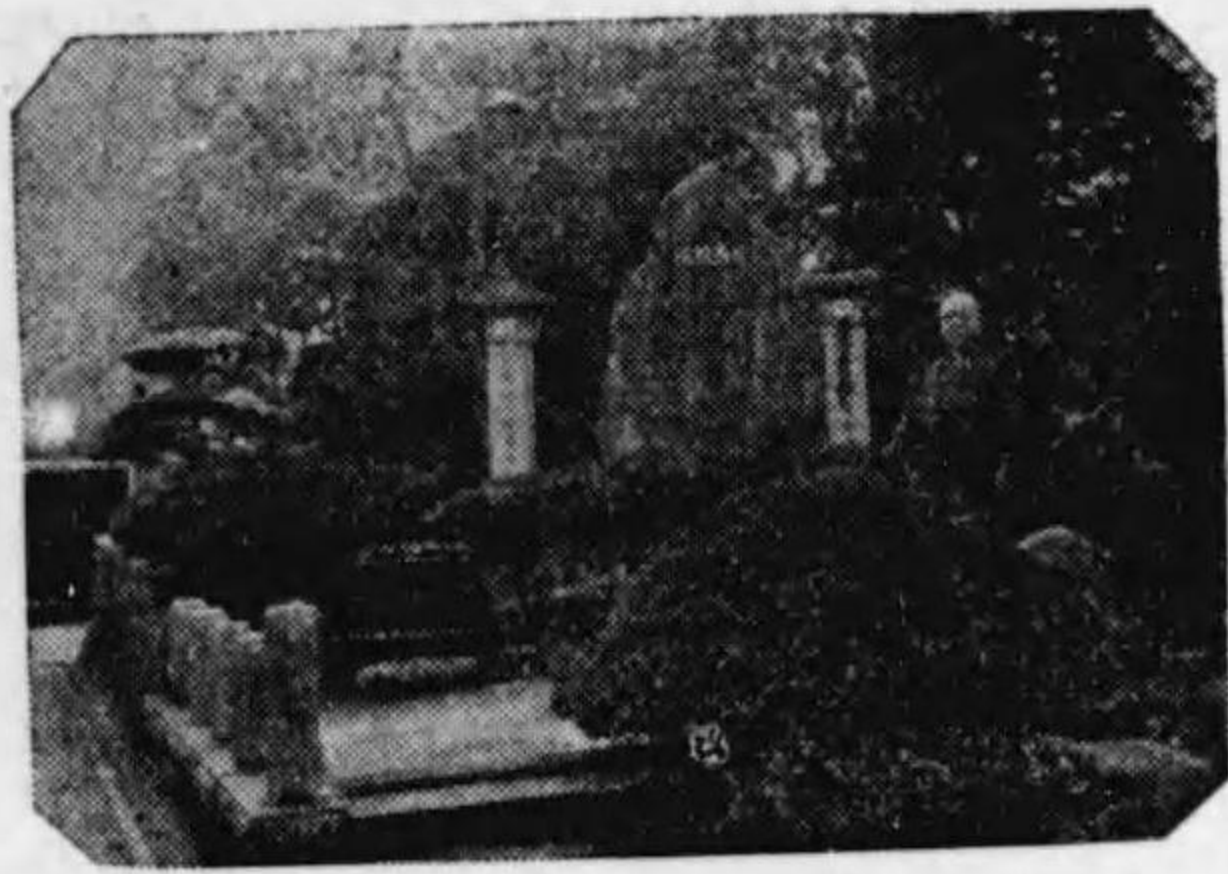
### 味方村 味方

郵便局長 吉田 定一郎  
勳八等

縣下唯一の人情局長として高名なる氏は資性温厚にして情に篤く、徳望高き名郵便局長である。氏は味方郵便局長としては二代目にして、初代局長は氏の尊父熊次氏である。開局は今より約三十六年前にして着々として發展躍進今日に至つたものである。

氏の家庭は村内有数の舊家にして名望あり、代々村政に關與してその功績多大に及ぶ家柄である。先代熊次氏は當郵便局今日の素因を作りたる材幹にして、敏

腕にして先見の明ある逸材であり、村會



議員とし、村政に關與し、自治事に盡瘁し、多大なる功績を

る精力の持主であり矍鑠たる元氣さである。氏は表彰數度にのぼり枚舉に暇なき程であるが特に本年四月、再度表彰を受けると同時に勳八等に叙せられた赫々たる履歴の持主である。

氏の長男一恵知氏は本年三十一歳の新進、農會長として徳望あり又農業の發展と同時に農民の生活向上を劃してその目的に向つて邁進してゐる。氏は又消防組頭として自治事業に功績あり將來を囑目される氣鋭の人物であるが、その資性明朗にして向上心に富み、義氣あつてしかも明敏なる頭腦の所有者として、村民の信望あり、明日を期待されてゐる新人である。一恵知氏に四人の愛孫あり、家庭の良き祖父としての定一郎氏は、和氣霽靄たる家庭を營んでゐる。

### 月瀉村 月瀉

月瀉郵便局長 近藤 孝平  
消防組頭

當家初代は近藤熊七氏といひ、二代目の人より醬油醸造業を開始し、爾來代々

斯業を繼承して今日に及んだ。先代月平氏は、現在村會議員として村政に熱心に貢献しつゝあり、また史蹟研究家として有名である。

當主孝平氏は、先代の長男にして明治三十五年の出生である。縣立新瀉商業學校を卒業した。在學中から秀才の聞え高く、卒業後は、家督を嗣いで家業に奮勵すると共に、新瀉興業貯蓄銀行代理店を經營し、且つ月瀉郵便局長、消防組長を現任し、春秋に富む敏腕家として令名を謳はれてゐる政友會系の人材である。資性は温和明朗、教養高く、寫真刀劍等に趣味を持つてゐる。氏の功績と手腕により、消防組では金馬籠贈られること二回に及んだ。因に家族は嚴父、令夫人のほか八名をかぞへる。

月瀉郵便局は、普通集配三等局にして月瀉村、小吉村、道上村を受持區域とし戸數千三百餘、人口八千九百を有し、全戸數の三分の二は農家である。當初は月瀉驛遞取扱所と稱して設立され、明治十

氏は、公平無私、熱誠以て事にあたるの性格、且つ常に資性温厚にしてしかも果斷なる性情あり村の發展工作に與つてよく今日の進展を爲す起因を作り、献身的努力をなした。

氏はその長男にして生を享け、本年六十歳の高齡に在るも尙壯者を凌ぐ旺盛な



九年現名稱に改めた。集配事務のほか、内外爲替、内外電信、電話事務を取扱ひ職員は吏員七名に傭人六名、一ヶ年間の郵便取扱数は、通常引受一五二七〇〇、同配達三〇四五一三、小包引受二二六七同配達四三三四六、内外電信発信二二三八同著信三〇七八に達し、各種保険年金の成績も良好である。歴代局長は近藤六三郎、野上佐平、野上甲午郎、曾山謙之輔、近藤仁七、近藤孝平の諸氏である。

峯岡村 仁箇

村會議員 水澤 久次郎

當家は連綿繼承すること三百年といふ當村屈指の舊家で、先代榮次郎氏は曩に區長、村會議員等の公職を歴任した當村自治の功勞者で人望甚だ高かりし人である。



當主はその次男にして、明治二十五年七月二十一日の誕生である。溫和篤行の氏は、幼にして頭腦明晰、長じて卷中學校に學んだ。卒業後は家業に精勵の傍らよく父祖の血を繼承して、自治公共に竭し、献身的に村治に盡した功績、偉大なるものがある。特に消防組の發展向上には永年組頭としてその統制宜しきを得て部下の信望極めて厚く、衆の絶讃を博した。現時、氏は村會議員の要職（一期目）にあるの外、區長（四年）方面委員、學務委員、信用組合監事等の公、名譽職を兼ねて、その豊富なる體驗、高邁なる識見を遺憾なく發揮し、その重厚なる人格に加へて、その存在は愈々重きを加へてゐる。今後の氏の活躍こそ、大に刮目して俟つべきである。また氏は淨土眞宗に深く歸依してゐる家庭は頗る圓滿、和樂に富み他の羨望を受けてゐる。

米納津村 佐渡山

村會議員 頓所 四郎八



頓所家は、今より十三代前、信州松本在より移住して、當地の開墾に努力し、子孫永住の地と定め、代々農業を以つて家業とし現在に至る。當主四郎八氏は明治二十九年、四郎治氏の長男として生まる。先代四郎治氏は部落民の惣代として郷村のためには、粉骨碎身、盡力して、村民の信望は實に厚きものがあつた。當主四郎八氏は資性濃厚、明朗潤達の奮闘家であつて、かつては、西比利亞事變に際し、應召出征をした勇士である。氏は現在、農區長及び村會議員二期目の公職にあつて郷土の村政及産業方面に努力するのみならず、政治

的には、政友會派に屬して、村民の政治教育に盡瘁してゐる現狀である。氏は子息の教育に留意し、令息はかつて法政大學に學び、現在は郷里に於いて新潟電氣鐵道株式會社に勤務中の才士である。

漆山村 横岡

村會議員 長谷川 倉治



氏は明治二十三年九月十九日、現住地に於いて又四郎氏の長男に生る。當家は開祖以來百年相繼いで今日に至つたもので、代々農を本業となしてゐる。先代又四郎氏は區長として、永年區政に盡瘁するところ多かつたが、當主倉治氏も、公共事業に盡力して功勞があつた氏は曾つて、新發田歩兵聯隊に入營し、無事奉公を終へ、後に村會議員に推舉さ

れては、村政の樞機に参加して、その抱くところの主張經綸を行ひ、または消防組合の幹事を勤め、三ヶ字開拓組合副組長及び會計の要職に在つては、常に正しき判斷力と、深き造詣とに依つて、多大の貢獻するところがある。氏はまた、眞宗西本願寺派の信仰厚く抱懐するところの、郷村繁榮策としては當字の土木事業に留意してゐて、その改良實現に専念しつゝあることは、村民の等しく感謝感激するところであるのみならず、現在は村會議員としての、氏の多年に亘る功勞は實に大なるものがあつて、これは氏の人格の然らしむところ、人の師表として、指導者として、最適任者である。



治十二年九月一日に岳峰した。濃厚篤實にして質朴眞摯なる精農家として聞えてゐる氏は、家

業の傍らまた公共自治に關與してその功績頗る顯著なるものがある。氏の質實剛健にして、溫和圓滿なる人格は、衆の信望隆々たるもので、現時、村會議員として村政の中樞に執掌する外水利組合員、消防組役員としてその存在益々重きを加えてゐる。信仰心篤く、淨土眞宗に深く歸依してゐる。家庭は頗る圓滿で、春風駘蕩たる感あり、和樂に富んでゐる。

和納村 上和納

村會議員 相澤 寅藏

當主より四代前に相澤本家より分家したもので、氏は先代平作氏の男として明

漆山村 漆山

村會議員 大川 五三郎

當大川家は、開祖以來百年、現當主五三郎氏に至るまで三代であるが、當家は



初代より縣下有数の伯樂として著名な家



柄である  
氏は明治  
三十一年  
一月十四  
日の出生  
當年四十

一歳の働き盛りである。氏は馬匹の畜産改良に就いては非常に造詣深きものがある。主義とするところの抱負としては土地の地形及び地質、風土の關係からみて、馬匹の適、不適の研究をなすつゝあるといふことであるが、現在我が國情に照らして、この種の事業は大いに推奨されるべきであつて、かくの如き研究は前人未踏の世界であつて、容易に入るべくして遂げ難き、この研究の成功は非常に期待されてゐる。現に我が國政府に於ても日支聖戰の繼續されてゐる以上は、一ケ年十萬頭の馬匹畜産に努力されてゐる現狀に鑑み、この風土關係と馬匹の育成適合如何は注目する價值があるのである。

氏はその反面村治にも關與し、現在村

會議員として、村政向上に參劃し、學務委員に推舉されては、好學の士である同氏は、育英事業にも銳意努力され居るが氏の最適任者として畜産組合理事は、特にその事績みるべきものが多々あるは言ふまでもないことである。多年に亘る馬匹に關する研究と經驗は、本組合理事の發展に大きな足跡を印しつゝある。

かくの如く公務多忙の中にも拘らず新潟縣聯合會評議員として、縣の指導精神を遵奉して、協賛に參劃されつゝあることは、氏の高潔なる人格と相俟つて、今後活躍に非常に期待されてゐる人である。

### 味方村味方

前農會長 薄田近次

明治二十五年十月十一日、代々農業を營む、薄田家の辰次郎長孫として生まる。

氏の性格は非常に明朗であり、温厚なる紳士であつて、篤實また勤勉な努力家

である。



氏の祖父に當る辰次郎氏は家業の外に村會議員とし

て郷村の爲非常に努力を爲した人であつて、當主近次氏も祖父の名譽を損はず、より以上の光輝を添え、一家の名譽に努めた。

氏は現在、農會長として農産物の改良擴充、増收計畫等の實施をなし、村の教育會長としては、純眞なる郷土子弟の純良純風の育成に銳意努力され、氏の高潔なる人格は、かくの如き難事業も人の和を得て容易になし遂げつゝある。

かつて氏は、村會議員及區長として、村區の發展に努めたるばかりでなく、東方郷耕地整理組合の創立者として、將亦同組合の育ての親としての功勞は最も大きかつた。此の耕地整理の如く難事業を

なし遂げた、氏の信念と粘着力は不動なもので、一度決斷すれば、後退せぬと云ふ意志強固な人である。

依つて先年、味方郷耕地整理組合より、同組合に盡したる功績に對して、功勞賞を授與されたのは當然なことである。

氏は眞宗を信仰し、その敬神の念は厚く氏の意志の強固なる反面には此の信仰の力があづかつて力らあるものと云はねばならぬ。

當家は子福者の家庭としての圓滿なるは人々の羨望するところであつて、長男近衛氏十九歳を頭として、令息六人、令嬢六人の大家族であつて、當家の繁榮を物語つてゐる。

### 四ツ合村五ノ上

村會議員 富井藏吉

氏は資性明朗にして敏腕、機をみる事敏にして常に郷土の發展發達に關心を有し、自治行政の健全なる發展を希求し、信念に依つて公共事業に邁進してゐる。

嚴父藤八氏は當年六十八才の高齡にあつ



て尙ほ鑿鑿として、村會議員及び部落總代として長

期に互り勤続してゐた自治功勞者である藏吉氏はその長男に生れ、本年四十九歳の働き盛りであるが、曾て學務委員、村會議員、として深く教育事業に關心を持ち、諸事の改革改良に才腕を驅使して大に功績を擧げた。

氏は又四ツ合耕地整理組合の發起人であり四ツ合耕地整理組合が今日の隆盛を示すもの、實に氏に負ふところが多い。

氏は又味方郷耕地整理組合會議員として功績あり、同組合より感謝状を受けた、その他消防組頭、味方郷耕地整理組合評議員、米の検査員等多數の公職に勤め、多年に互り改善向上に盡瘁し來たが、現在も尙ほ消防組頭、村會議員、農會副會

長、農會議員として農業改善、生活改善に力を盡してゐる。

當家は舊家名門の家柄にして、家系は古く正しく、家族は現在九人、長男は二十四才、次男は十九才で、共に父君の血を承け、明朗にして眞摯、勤勉にして將來を矚目せられてゐる秀才である。當主夫人は愛國婦人會、國防婦人會の會員として活躍し、非常時局に有つて銃後の健全なる活動に盡力してゐるが、氏の夫人としては常に貞淑、長年に互つて同氏の良き半身となり、令息の徳育に力を注いで來た。

### 月潟村下曲通

村會議員 星井康平

當家の始祖は孫兵衛氏と稱し、當主康平氏を以て九代目となす。下曲通に於ける第一の舊家として知られ、先々代までは庄屋その他の重職をつとめて郷土に名聲高く、先考常治代は當部落が未だ曲通村と稱してゐた頃村長に推されて永年自



治に盡力し、その後、町村制々定と共に曲通村は月潟村と合併される及び、初代村會議員に當選、村自治に寄與尠なからざる功勞者である。

氏は先代の二男として明治二十五年に生を享けた。夙に新潟中學校に籍を置いたが、不幸、病を得て中途退學の止むなきに至つた。その後、健康も漸次恢復し家業に精勵するやうになり、同時に輿望を負ふて農業倉庫理事に擧げられて本村産業經濟の開發進展に貢獻するところあり、後、村會議員に選ばれて今日に至つた。趣味は讀書、資性温厚着實にして人に接しては懇篤、必ず好感を抱かせずには置かない。政黨は立憲政友會に屬し、當地方の重鎮である。

家庭には母堂健在するも令夫人は賢婦の譽れ高く、愛兒二人を有す。

道上村河間

村會議員 如澤 巖

當家の開祖は不明なるも傳へによれば

信州の住人某氏が、約三百年前當地に移



住し來るものにして、中興の初代を兵衛門と稱し代々

農業を營み、篤農家として聞え高き家柄である。先代兵次郎氏は早くより村治に盡力し、舊木山川八ヶ字組合長として永年治水事業に貢獻裨益するところ甚大にして、又村會議員、收入役となり、村政に邁進執掌せる功勞者であつた。當主巖氏は兵次郎氏の長男にして明治十八年生を享け新潟師範學校を卒業後、大田村小學校、長岡市神田小學校、道上村小學校に教鞭をとること十五年の長きに及び、氏の教育家としての足跡は偉大なるものがあつた。氏は資性温良にして眞摯、確固たる信念を以て教育界に貢獻したのである。現在は學務委員として、村會議員區長二回目の要職を歴任して居り、舊



松長村松橋 村會議員 西村藤吉

當西村家は、全村全字西村玉三氏方より分家したる名家であつて當主を以つて五代目とする

當家は、代々農業を營み、祖父林平氏は區長、村會議員、耕地整理委員として多年郷土の自治及び治水事業に盡力するところ多き篤志の人であつた。

當主藤吉氏は明治二十年一月、林作氏の子息に生まれ快活、機敏、明朗なる資性の持主である。氏は明治四十年、新發

田聯隊に入營し、兵役を無事勤めた、歩兵出身の干城である。

氏はかつて、軍人分會長に二ク年間就任盡力し、その他消防小頭、副區長、生産検査員等の公職にも就いて、青少年の訓育に一意専心、努力するところあつたが、今は村會議員として三期間に亙り、村政の自治發展向上に資するばかりでなく、農會幹事に推擧されては農事の開發生産擴充に多大の貢獻をなしてゐる活動家である。

氏は、民政黨系の人として、政治教育に留意し、家庭には兩親をはじめ氏夫妻子息六名の圓滿なる家庭である。

峯岡村稻島

村會議員 岡崎 久四郎

清濁併せ吞む剛膽さと、明敏達識温情溢れる氏の人望は部落内に隆々たるものである。

明治二十四年九月生れの氏は、先代太七氏の次男にして、當家はまた當部落で

も屈指の舊家として聞えてゐる。その烈々として燃えつ、ある愛郷心は、よく一身を犠牲にし



村治績の向上に残した功績頗る顯著なものがあつた。衆の信望絶大なるものがある

現在衆望を擔つて、村會議員一期目の要職に就任、村政に關與貢獻しつゝあるの外、區長四年目、信用組合理事等の公職を兼ねまた消防組頭としてこの氏の手腕、力量卓抜なるもので、衆の絶讃を博してゐる。本村切つての逸材として令名高い氏は政友會を支持し、その存在益々重きを加へ、今後の雄飛を刮目されてゐる。趣味として書畫に明るく、淨土眞宗を深く信仰してゐる。

嚴父慈母頗る健在、令閨また内助の功多く、兩父母に仕へて氏との間誠に圓滿である。令息夫婦令孫を加へて十二人の

大家族なるも笑聲常に門に溢れる和樂の家庭として、附近の羨望をうけてゐる。

四ツ合村井隨

村會議員 小林 喜一郎



祖以來、農業に従事して來た村有數の舊家名

門である。

喜一郎氏は明治十八年長平氏の長男として生まれ、資性温厚篤實、勤勉努力の士として、人々の信賴厚き人格者である氏は、常に郷土文化開發に多大な努力を傾けて來たが、先に農會總代及び村會議員、學務委員に推挽を受くるや、産業に行政に、育英事業に就いて、縦横に活躍せる功績は、後進のよき師表として誠にみるべきものが多かつた。



そののみならず氏の祖父氏は特に子弟の教育に就いて留意し、永年學務委員の要職にあつて貢献するところ實に大なるものがあつた。

當主喜一郎氏が、現在關與してゐるところの公職は、村會議員として村政に多年の経験と抱負を實施實現し學務委員にあげられては、教育方面に、味方郷耕地整理組合評議員、農評議員に推されては、郷村の生産品の改良、増産の計畫等共存共榮の實を擧げ、奉仕の信念固き、高邁なる人格者として、尊敬されてゐる士である。

氏は、政治教育に就いては、信念と理想を有し、自ら民政黨に屬し、身を以て實踐躬行し、郷民の政治教育に、盡力するところ多大である。

現在氏の家庭には、大原村の舊家名門出身である夫人を始めとし、長男謙太氏の外三男と愛孫一人があつて、圓満平和の家系である。尙ほ二男軍次氏は現在日支事變の聖戰に勇躍出征し、皇軍のため

萬丈の氣焔をあげつゝある、名譽ある一家である。

#### 四ツ合村五ノ上

#### 學務委員 富井文哉



氏は資性穩健着實にして圓満潤達なる人格者であり、夙に村政に關與貢獻せる人である。

當家は當部落内にある富井家の總本家にして、當部落屈指の舊家名門の家柄である代々部落總代として盡力せる家で、先代文藏村も濃厚篤實にしてよく村民の福祉増進のために寄與するところ多かつた人である。

文哉氏はその長男にして、明治二十二年十一月十五日に生を享け、氏もまた氏子總代として村民の信望厚く、更に、四ツ合耕地整理組合評議員に選ばれ、献身

努力をなし、學務委員として教育方面にも多大の功績を遺してゐる。故に村民より尊敬され、衆望を一身に擔つてゐる。

氏はまた先には信用組合理事、組合評議員、青年會副會長など、村政發展の要職を歴任し、一身を賭してよく職責を果し噴々たる名聲を擧げたる功勞者である。

家庭は長男修氏、二十五才にして文哉氏の片腕として活動、深く將來を期待せられてゐる。その他に男子二人、令嬢四人愛孫一人の恵まれたる大家族にして、一家は常に春風洋々、和やかな風景を呈してゐる。

#### 月瀉村釣寄

#### 學務委員 高木政直

當家の祖は三島郡片貝村の人にて、現地に移住してより代々農業を營み、當主政直氏を以て十七代目となし、釣寄部落第一の舊家として知られる。先代鷹次氏は村會議員及び水利組合議員、その他の村内要職に擧げられて、永年村政に活躍

せる自治功勞者である。

氏は先代の二男にして明治二十八年の誕生である。夙に家業に精勵努力すると共に公共の事に働き、學務委員並に樋管水利組合評議員の重責を帯びてゐる。資性温順にして志操鞏固、人望高く、政友會系の人物である。

家庭には母堂豊樂とし、夫人は内助の功多く、子女は七人をかぞへ、和氣藹々として堂に満ちてゐる。

#### 漆山村馬堀

#### 村會議員 大川市太郎



當大川氏は、明治七年、現住地に於いて呱呱の聲を上げた。生れながらにして資性濃厚篤實勤勉

の天品を備へた人である。當大川家は、今より四百八十年前に、

信州の西條山より移住して來た人であつて、代々農業を營んで現今に至つた、當村切つての舊家として知られてゐる。尙ほ當家の住宅は約三百年前の建築に係るものであつて、當村唯一の古代建築物として有名である。

氏は政治的には、政友系に屬してゐる人であつて、村民の政治教育に盡力するところあるのみならず、氏の篤き信仰と濃厚なる人格とは、村民の師表として、指導者として非難なき好適な士である。氏は現在幾多の公職に關與しておられるが、その内最も功績多きものをあげてみれば、先づ第一に列記するべき事柄は四期に亘る村會議員であつて、常に郷村の開發、文化向上に専心努力されてゐるのみならず、學務委員に擧げられては、郷土子弟の育英事業に、氏の人格教育に依る好成績を擧げつゝあり、その業績みるべきものが多い。一方氏は、傳染病豫防委員として、今日最も痛切に叫ばれてゐるところの、農村醫療問題に留意され

てゐて、先づ何よりも健康體でなければならぬと云ふ氏の持論を實現すべく鋭意奔走中であることは、都會住民より、衛生知識の比較的水準の低き村落民にとつては、誠に感謝を以て期待されてゐるのみか、これが著効を擧げてこそ、村の繁榮を招來することを、氏は確信し、努力されて居る現狀である。一方氏は、村字の氏子總代として十七年間の永きにわたつて奉公されてゐることは、如何に氏が敬神の念の篤きかを知るに足りる。

#### 燕町藤曲

#### 農會副會長 金子藤藏



金子家の當主藤藏氏は、創家以來三代目に當る祖父藤藏氏が大字山高村より分家して一家を創立、雜貨商を營み、爾來數萬の財を造



つた。先代藤藏氏の長男として明治三十三年十二月二日の生れ、祖父の業を繼いで雜貨店を営んでゐる氏は、明治三十三年工兵隊二大隊に入營し、同三十六年除隊忠實に軍務に精勵したが、明治三十七八年の日露戦役には病氣のため惜しくも従軍出来なかつた。

併し、氏の帝國軍人としての熱意はよく公共自治事業發展に異彩を放ち、その温厚なる人格は徳望厚く、商人としての才腕を克く生かし、公人としても君子的人物として圓滿、紛争を避け、常に圓轉滑脱、人格者として信望厚く、前村會議員、町會議員を経て町長を勤め、町の發展躍進は氏の功に依るところが多い。氏はまた政友會幹事をなし、その家庭は長男正則君が三條中學卒業後家事を手傳ひ長女さんは、既に嫁し、二女さんは三條女學校卒業後、海軍中尉に嫁してゐるが、その夫君は目下今次の支那事變に出征活躍中にして榮譽ある家庭を營むてゐる。



漆山村赤鎔

長嶋政吉

政吉氏は明治八年三月一日、慶長年代より五百

年間に連綿たる長嶋家に生る同家は累代篤農家として知名であるのみならず、氏は二十八歳の熱血の青年時代より、その信念信條として、社會奉仕に献身することを決心するに至つた。氏はこの信念に忠實であるは、社會公共事業に關與してゐる多くの事績に依つて明らかなる事である。氏は天性聰明、福徳圓滿な人格の持主であつて、過去に於ては郡農會評議員、漆山村農會副會長、郡内各地耕地整理組合長の要職に在つて、郷土文化開發のため、非常に甚大な功績があつた。それのみならず現在に於ては第一共榮株式會社

取締役、福井酒造株式會社取締役、越後

家會社取締役、丸十運送會社取締役、卷産業組合長、村會議員等十指に餘る多數の公職に在つて、一方に於いては産業界に雄飛し、他方にては、村政に關與して、多年の經綸抱負を遺憾なく發揮して、氏の徳望と相俟ち、當地方にとつては氏の存在は大なるものである。上記の如く多方面に互る公職の他、また政黨人としては、政友會に所屬し、同會西浦原常任理事として政治、教育に、または氏が眞宗大谷派に屬するところの信仰人として土地の育英事業に多々努力するところがあつた。氏のこれ等多角的に盡す功績は枚舉に遑がないが、これを説明するに足るべきは、縣知事の表彰等多數に上るものがある。氏の大なる存在は村民の氏に對する尊敬の念と、また特に巻町を中心とする氏に對する徳望は、絶大であつて同土地にとつては誠に偉大なる存在であつて、氏の活躍は今後に俟つべき多くのものをもつてゐる。家族九名外に使用人

三名である。

味方村白根

消防組頭 高橋 一郎

新進氣鋭の村政家として氏は現在、二



先代 幸氏

十五歳の若さである。明敏なる頭腦と實際的と手腕の持主として將來を囑目されてゐるが、現在消防組頭としてその才腕を揮ひ多大なる実績を挙げつゝあり、その發展を來せる努力献身的なる活動家である。氏は又部落總代として一意部落の爲進展を企劃しあり、常に新鮮なる論旨と卓抜なる意見を以て一方の重鎮として既に重大地位を確保し、當村の將來は實に氏の双肩に掛つてゐると云つても過言ではあるまい。當家は近隣に於ても著名なる名門にし、江舊家であり、代々村民の信望をかち得

し名望家であるが、先代幸氏は消防組頭として二十數年の長期に亙り當地消防組

の爲盡瘁、多大の功績を挙げ、又村會議員として村政に盡力すること數期に及び常に大乘の見地より村の發展を劃した逸材であつた。氏は又學務委員として教育に多大の關心を持ち献身的熱意を以て教育界に盡瘁し、部落總代としても良き農民の代辯者として、終始、至誠を以て村民の爲に活躍したる人格者であつた。氏は宰氏長男として大正三年二月當地に呱呱の聲を挙げ、資性温厚なれど熱意の人、常に進展を劃して大局に目を注ぎ、鮮明なる信念の下に行動してゐる將來性ある新進である。氏の家族は六人にして家庭圓滿、益々家運向上、氏と共に發展を續けてゐる。

四ッ合村井隨

農會長 高橋 恭藏

氏は明治十年一月一日、祖先代々庄屋を營んでゐる村内に於いても有數の舊



高橋谷衛氏の長孫として、生性温厚、純潔な性格の持主

であつて社會奉仕の信念厚き士である。多年、郷土の産業開發、村政への關與育英事業への参加等氏の功は大きく、村會議員は四期間を通じて貢獻し、學務委員としては二十餘年間、銳意子孫の育英、薰陶に功勞の多きものがあり、耕地整理組合評議員としても、その熱意と圓熟したる抱負は本事業達成に大なる力となつたことはいふまでもない。氏は現在に於ても農會長及び味方郷耕地整理組合副會長として、農村耕作物の改良改善を計り増産計畫實施等は、永年に亙る氏の經驗と蘊蓄とに依つて、今日着々その實効の現はれつゝあるは誠に氏の力に負ふところ甚大であるといはね



ばならぬ。

氏は信仰の人であり、長男谷衛氏は静岡縣に於いて齒科醫師として開業されて居り、二男は他家へ養子に、三男憲三郎氏のみは親の膝下にて、家事のよき助手として、模範的家庭をなしてゐる。尙ほ氏は現在組合事業にも關與してゐて、信用組合の理事の要職に在る。

月潟村東長島  
學務委員 野田 庄二郎

當家は代々農業を營み、當部落の篤農



の家として知られその家系は四百年間連綿と續いた名

望家にして、氏は先代松太郎氏の長男、明治二十一年に生れ、資性濃厚、されど熱心家にして亦篤農家の譽れ高く、最近當部落に農事研究會を組織し、自らその

會長となり、農事に關する研究並に指導に懸命に没頭してゐる程である。先には私設消防組頭として、總代として福祉増進のために寄與貢獻せること甚大、現在學務委員に就任、また東長島農事研究會會長として活動してゐる。野田家は代名門の上に、先代初め五人の軍人を出したる名譽ある家柄にして、先代松太郎氏は日清、日露の兩役に出征、勳八等に叙せられ、又氏の令弟廣治氏は滿洲事變に出征、名譽の戦死を遂げた陸軍歩兵特務曹長だつた。その弟熊五郎氏は憲兵曹長として現に東京牛込の憲兵分隊に居る實に衆望厚く、村民の信頼を負ひ、氏は當部落發展の恩人である。

松長村館野  
館野區長 川島 幸太郎

當川島家は、開祖由來古き家柄であるが今より四十年前、火災の厄に會ひ、家系記録焼失したるため詳でないが、代々篤農家として廣く知られてゐる舊家名門



當主幸太郎氏の嚴父たる正吉氏は郷村の開發の貢獻者であつて、村會議員及び區長として、多年自治功勞のあつた高潔の人であつて今八十一歳の高齡にも拘らず、壯者を凌ぐの活動をしてゐる。

當主は、明治十九年十一月、正吉氏の長男として生まれ、濃厚篤實の性格は村民の信望厚く、その思想の穩健なるは、人の師表たるべき人物である。氏は前に、二期間にわたつて、村會議員となり、村政に盡力するところ多く、一村文化向上發展に資するところ多きものがあつた。

現に氏は、區長として、區政を管掌し方面委員に推舉されては、隣人愛をもつて隣保事業に、村民の信望を一身にあつ

めてゐる高邁の人である。

氏は他方、淨土眞宗の信仰篤き人であつて、敬神崇祖の念厚きは方面事業の指導最適任者である。

小中川村小中川  
郡聯合會分會 副會長 石田 哲一郎  
從七位

東京麻布中學卒業の氏は、小中川小學校教師として奉職十四年間に及び、その間教育者として良心的立場に於て第二國民の養成に意を用ひ、常に新しき方向に眼を注ぎ、しかも日本精神の根本を理解し德育に意を用ひ、體育の必要を痛感して健全なる身體の鍊磨を奨励するなど氏の薫育は徐々に果を結び、多くの傑出せる人材を排出した。氏は又村分會長として十三年間勤続し、村政に日夜腐心、村民の生活の向上と安定を計るなど功績大にのぼつてゐる。現在氏は學務委員として多年の蘊蓄を傾け、成果を收めつつあり、青年學校講師として、現代青年の健

全なる成長を企劃し、寧日なき中に在つて各々の實績を擧げてゐるは只に氏の勞力に依るものである。氏の資性濃厚にして明朗快活、蒼天の如き潔白清廉なる性情の持主であり、一年志願兵、陸軍歩兵中尉として軍人精神そのもの、卒直なる性情の主であり、果敢にして剛毅、事に當つて冷靜なる資性は青年の師として仰がるゝに足る人格者である。

ある。當主の祖父は戸長その他の要職を歴任せる村勢發展の大恩人である。嚴父雄五郎氏もまた自治公共のため多年勞力盡瘁せる人にして、村長を始め、郡會議員、縣會議員、その他村内の各種公名譽職殆ど全部を歴任し、河川道路等の諸工事、學校舎の改築、殊に教育方面に意を用ひ、滿腔の誠意を以て村政に當り、村の大功勞者として今日なほ村民の敬慕を受けてゐる。

當家は二百五十年前、石田甚六氏の開祖にして當主哲一郎氏を以て第九代目に當る名望家であり、代々村民の信望厚き家庭として知名であつた。氏は明治三十年の生れ本年四十二歳の働き盛りであり益々戦時下の國民として帝國軍人として盡瘁せんとしてゐる。

小池村柳山  
農會會長 熊倉 彌太郎  
勳八等

今より約二百五十年前、小池村淨宮寺住職の子に奉敬といふ人あり、これ當家の開祖にして、獨立一家を創立したので



區長等を兼任する。

フミ子夫人は賢婦の譽れ高くして内助の功が多い。長男二男は惜しくも夭折し三男廣平君は農學校在學中の俊才、他に長女ほか二人がある。

島上村横田

農會長 山崎 五郎

氏は二百年以上の舊家にして名望あり



財力に富む、家柄の當主である。温厚篤實にして

信望厚く、清廉潔白にして責任感に富み崇敬措く能はざるところの人格の所有者である。先代源吾氏長男に生れたもので源吾氏は永年の間村助役として徳望篤く村會議員、學務委員として歴勤した。氏は六週間現役に就きたること有り、村助役二回、分會長、字青年會長、村會議員

學務委員の名譽職に就きたる事あり、常に誠意その職を完うし、現在に於ては農會長、郡農會評議員、學務委員、信用組合理事、方面委員として活躍し常に實績を擧げてゐる。

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

夫人は愛國婦人會、國防婦人會員として活動し、長男力君(二十歳)は今回農會滿洲視察に参加し、將來を約束された秀才である。外に二男四女の家族があり眞宗を信奉し、家庭は至極圓滿である。因に氏が農會長としての幾多の成果は多年に亘る努力と誠意に依る處多く、確固たる不拔の精神を以て益々實績を擧げ比類なき農村建設に一意邁進しつゝある

甲冑及びその他武具類に依つて、推考して見ると



川中島の戦に於て活躍せる武士の後胤である

ことは詳かな事實として判明される。

當主伊三郎氏の先々代氏は八十九歳の天命を全うし、一代にして數萬金の財を蓄積した意志堅固な、實に努力の士であつたし、先代の豐次氏は町に合併される前に、區長及び村會議員に推舉されて、村の發達のため多大の功勞があつた。

當主伊三郎氏はかくのごとく光輝ある家柄に、明治二十年十月十日、豐次氏の次男として呱呱の聲を擧げたのである。

資性豪放磊落、その反面人に接すに温厚なる君子として、人々の尊敬を受けてゐる。氏は幼少の頃燕高等小學校を卒業し明治四十年には、騎兵第十三聯隊に入營し無事兵役の義務を果したるのみならず

現役在役中に同四十一年韓國暴徒事件勃發し、その鎮壓に對して、拔群の功あるに依り、勳八等に叙せらるゝの光榮に浴した。

氏は前に、國勢調査員に任命され、國勢の資料調査に努力をなしたのみならず、軍人副分會長、亦是軍人分會長として、多年青年訓練及び教育に貢献するところ甚大であつた。

氏は常に公正なる立場に於て、事柄を處理し、政治的方面にも中立の態度を以て臨むことは、氏の豪放磊落な性格の反面、温厚な氣風の然らしむところであつて、高潔な武人としての氣宇を保つてゐる人である。

氏の現在家庭に於ける子女は長女さんは、農業に従事し、次女トエ子さんは家政女學校に在學勉強中であり、三女トシエさんは小學校に通學中であつて、裕福な資財と、子女の順調なる成長と相伴つて、家庭は常に圓滿和樂をきはめ、春風駘蕩の感がある。

浦濱村五ヶ濱

信用組合長 遠藤 虎太郎

當家は、本縣屈指の舊家名門である。



遠藤家の分家にして、遠き祖は、日蓮上人佐渡流罪の

際、身命を賭して守護したる、遠藤左衛門尉と言はれてゐる。代々農を以つて家業とし、村内に重きを爲してきた。

當主虎太郎氏は、明治三年五月四日の誕生、先代一郎兵衛氏の長男である。資性温厚にして篤實、謙讓の美德を備えた人格高潔の氏は夙に村治に意を注ぎ、學校改修、道路改善、産業伸展に貢献著しきものがある。明治三十五年以來村會議員として村政の中樞に執筆して村勢發展に夙夜盡瘁して好評噴々たる氏は、また

區長三年、信用組合長、漁業組合長、學務委員を兼ねる當村切つて有力者である

尙その外氏は西浦原賣藥行商人組合長をも兼ねて名聲隆々たるものがある。特筆すべきは、大正年間、縣道卷浦濱線開通に盡力せしこと今尙、衆より多大の感謝を寄せられてゐる。

日蓮宗に深く歸依してゐる。次男氏は目下中支方面に轉戦中の勇士で、家庭は頗る圓滿、春風駘蕩の感がある。

米納津村佐渡山

學務委員 瀬戸 澤次郎

氏は資性温厚の徳望家にして高潔なる



人格者である。先代佐忠治氏長男として慶應三年

呱呱の聲を擧げた。多年に亘り信用組合の理事を務め、同村信用組合の今日あるは



實に氏の功勞に負ふ處が多く、又二期に互り役場の収入役として勤め、現在は老年の爲健康を害し學務委員にのみ續勤してゐるが、氏は永年の間教育事業に多大なる關心を示し時局多事なる折柄、我國の國運はひとえに第二國民の相肩にあると言つてもよく常に信實を愛し、徳育に意を用ひて益々薫育の實をあげ、健全なる第二國民を養成せんとしてゐる。瀬戸家は其の家系數百年前より連綿と續き、彌榮日に月に増してゐるが、詳細なる同家の歴史は記録焼失により詳かでないのは惜しまれてゐるが、歴代當地に住し、舊家であり名望家として信望ある家庭である。長男は壯年期に惜しくも死亡し、その子即ち氏の令孫は中學校卒業後家庭にあり、父祖の生業たる農業に従事してゐるが、その天性實直温厚にして模範的青年であり、益々一家發展の爲協力して事に當つてゐるが、その前途洋々たるものがある。

尙、同家は淨土眞宗に歸依してゐる。

### 漆山村漆山

消防組頭 田邊 庄衛門

庄衛門氏は明治十四年、現住地に於て



先代惣治氏の長男として生まる。當家は現在に至るまで十三代、連綿として續く家系で、村内の名望高き一家であつて、田邊姓の本家である。同家は代々郷土開發に多大の貢獻をなして來たものであるが、先代惣治氏は漆山區長及助役に推擧されて、その功績みるべきものが多かつた。

當主庄衛門氏は篤信の人であつて、郷土子弟の精神教育方面には、その功勞は非常に多いのみならず、氏は多年に亘る育英事業に専念しつゝ、今日に至るまで三十年間不斷の努力をなしつゝある。氏は前に於ては、村會議員に推擧され

て、村政の改善に一心を打ち込み寢食を忘れて貢獻するところ多く、また、村青年團分會長として十一年間、同會の生みの親であるのみならず、その生長に我子の育成を樂しむ如く、實にその活躍振りは村民の等しく感謝するところである。その他農會役員に擧げられ、郷土産業開發に努め、永年神社氏子總代としての氏は、その高潔な人格として、常に人の師表として尊敬されてゐる人である。

現職として特に三十年に亘る長期間の盡瘁は至大なるものがあり、殊に特筆されるべきものは、消防事業に於ける功勞であつて、氏に報いるに、消防組頭より受けたる表彰は、枚擧にいとまなきものがある。そればかりでなく、氏は漆山神社及び彌彦神社の氏子總代として、氏の信念及び人格は村民の信任最も厚きものがあつて、先年新潟縣知事より、多年氏が氏子總代としてつくしたる功勞に對して表彰されたことは、今日まで積成したる氏の功勞についても、錦上富に華を添へ

たるものであつた。

氏は一面、政友會系に屬して、永年村民の政治教育に、その蒙を啓くのみならず、氏自ら實踐しつゝある多角的努力の士である。

氏の家庭には中學一年に在學中の長男庄一君及び次男俊保君の外、女學校在學中の令嬢があつて、子弟の成長を樂んでゐる。一家はつねに圓滿和合の中に繁榮してゐる。

### 漆山村漆山

軍人分會長 小林 清三郎

氏は温厚篤實なる資性を有し、前軍人分會長幹事として至誠その職に當り、功勞大なるものがあり、亦産業組合獎勵委員として同村の經濟に盡瘁し、その寄與するところ大である。氏は現在軍人分會長として信望厚く、終始日本軍人精神に立脚して事に當り、功績甚大である。縣牛馬商庶務會計係として勤続せるも、常に獻身的態度を以てその職にのぞみゐる

人望家であり、軍人分會より感謝狀を受けたことがある。

當家は舊家にして名望あり、代々農業を營み、村内に徳望あり、氏は先代庄八氏の五男として明治三十三年四月十日當地に呱呱の聲を擧げ、爾來村政に盡瘁し來れるものであり、その家庭は長男一郎氏十八歳の外に、男子四人、女子二人あり長一郎氏は聰明にして前途ある青年である。

### 味方村味方

在郷軍人分會長 陸軍航空兵少尉 小林 九之七

氏は、明治十三年九月二十三日、南浦



原郡に於いて生まる。當家は本籍が南浦原郡にあるが、氏に依つて、現住地に移住して來た。

氏はかつて、明治三十七、八年、日露兩國間に、風雲急を告げ、遂に干才を交ふるに至るや、勇躍出征し、奉天會戰に参加、皇軍の武威を中外に宣揚した、名譽ある勇士である。

軍人出身である氏は、軍友會長として昭和二年より現在に至りて、また在郷軍人分會長として、聯合分會役員として青年の體位向上、團體訓練、情操教育に一意専心育強に努めて來た近來稀にみる篤志家である。

氏は武人として、天分を有し、その資性は温厚の反面、剛毅沈着の士であつて多年統後軍務に貢獻したる業績多大に依つて在郷軍人會長より表彰された武人である。

武人の家柄として、相應はしく、内助の功多き夫人シフさんは、味方愛國聯合婦人會長、國防婦人會長に推されて、統後家庭の婦人として、その任務を全うしてゐる。軍國の家として、郷村民の絶大なる信任を受けてゐる名譽ある家柄であ



る。

### 大原村上大原 部落總代 大關久次

當大關家は、家系二百五十年、連綿と



續く舊家名門であるが、開祖以來現住地の開拓に貢献

したるのみならず、永住の地として、郷土の文化及産業開發に努めるところ多かつた。

當主久次氏は我國文物の黎明期であり、播磨期と云ふべき、物情騒然たる、元治元年の生まれであつて、當年七十二歳の老齡であるが、壯者をしのぐ元氣で、今尙、郷土の發展に盡瘁されてゐて、村の元老であり、後進のよき師表として、指導の衝に當つてゐるのみならず、四十年の永きに亘つて、部落民の總代として、

其の外、氏の公務に於ける功勞は、枚舉するにいとまなき程多數であるが、代表的なものを舉ぐれば、助役として、村會議員として、味方樋管用水路組合管理者並に議員として、多年の勞苦を惜まなかつたのみならず、村用水組合には永年間特別なる關係を有して、氏の爲したる功勞に對しては、各方面より表彰を受けるに至つた。その功勞表彰は誠に多數に上つてゐる。



此父を頂いてゐる子息達もまた家系は父の名譽を傷

つけることなく、悉くが村政に關與してゐて、氏の長男市太郎氏は現在村の收入役並に消防組頭として活躍してゐるのみならず、氏の愛孫である耐介氏は、現在軍人會長並に消防部頭として、努力されてゐるのであつて、文字通り、一家總動

員して、社會奉仕の精神と郷土文化の進展に貢献したる功勞は實に甚大なるものがあつた。  
之一家の至誠奉公の精神に基くものであつて、村内に於いても稀なる篤志の家として、徳望厚き名門である。

### 月瀉村釣寄

地區 長 野田 太郎吾



初めた、慶應二年に、當太郎吾氏は祐太郎氏の長男として出生した。

野田家は今より二百年前、信州より移住して、土地の開發に努め、そこを永住の地として、今日に至るまで、代々農業を主として、専ら家業に勵み、確固たる當家の基礎を築き上げたものであつて、

月瀉村隨一の資産家であり、大地主である。先代祐太郎氏は永年にわたり村會議員として村政に甚大なる貢獻をなし、水利組合議員としてまた治水事業に於けるその努力は誠に多々あつた。

當主太郎吾氏は、資性温和であり、村民の信望厚く、また大谷派に屬してその固き信仰は氏の人格陶冶に役立つて、思想穩健な、高潔なる紳士である。氏は政治方面に於いて政友會に屬し、郷土人士の政治教育に盡瘁されてゐる一面、現在區長の名譽職にあつて、老齡未だかくしやくとして壯者をしのご元氣で、區政の樞軸に活躍し、後進の師表として仰がれてゐるのみならず、前には村會議員に推選されて二期に亘り、村政の樞要に參劃して經綸を施したるのみならず、多年農會議員として、農事の改善進歩發達に十二分の活躍をなした。その業績は今尙村民の讚辭を受けてゐるのみならず、後輩に對するよき置土産として、よき手本として、村内に於ける大なる存在である。

かつて氏は、郷村の子弟の情操教育は何よりも幼き魂に美しき音律に依る音楽を以つてなすことが好適となし、大正十五年に、同村小學校に高價なピアノを一臺寄贈したことに依つても、如何に氏が子弟の教育に常に念頭を廻らしてゐるかを知らることが出来る。  
現在は比較的閑地にあつて、裕福な資財に依つて餘生を送り、後進の進みつゝある徑を見守つてゐる、村の元老格であり、相談役である。

### 松長村姥島 姥島區長 田村寅吉



氏は先代源三吉氏の長男にして、慶應三年に生を享け資性溫良にして寛大また剛毅にして夙に村政發展に献身努力し、殊に教育方面

には先代より關係深く、貢獻寄與するところ甚だ多いのである。故に村民の信望厚く、既に區長として三十年の永きに亘り、六期間村會議員として盡瘁し、殊に十年間學務委員として銳意精勵、よくその重責を果したる功績はまことに偉大である。故に縣知事及び教育會長より表彰された名譽の士にして、現在七十二歳の高齡を以て區長の要任にあり、尙は壯年をしのご矍鑠たる状態である。

田村家は約三百年前、當村田村家より分家獨立せるものにして、代々家業たる農業に精勵し、篤農家としての開え高く先代源三吉氏は家業の傍ら自治方面、教育方面に盡力し、戸長代理として、また學校事務係りとして功勞甚大であつた。子息虎太郎氏は、東京府會議員として盛んなる活動を續け、また浴場組合理事として有力なる人物である。  
寅吉氏は政友系に屬し、一家は氏の人格反映して、春風駘蕩、圓滿な家庭である。



小中川村小牧

動區 八等長 櫻井三省

明治三年出生、櫻井家は家系詳らかでないが當家の開祖は今を距る三百餘年前中頸城郡より移住て來たるものにして代々農業に従事し現在に至つた。氏は若き時代に蠶糸學校講習會を終了した。また明治三十七、八年



の日露戰爭には應召出征し、その勳功に依つて勳八等に叙せられた勇士である。氏は明治四十一年以後十年間、宮城内紅葉山御養蠶所に御養蠶助手として献身奉仕したことがあつたが大正六年畏くも皇后宮職より熱誠御奉公申上げた廉に依つて御帛紗壹枚の御下賜品を拜受さるゝに至つた。

氏の高潔の士であることは前記の經歷

にみても明らか事であるが、一方村政にも氏の功績は著大なものがあつた。氏は嘗て、村會議員、小中川消防組頭、家屋調査員等の公職に在つて、郷土發展のため努力するとこ

ろ多く、現在小牧區長、信用組合理事、小牧實行組合長、増收實行組合長、私設消防組合長、小牧青年會長等、多數の公職に

小池村小池

産業組長 橘 虎次郎

陸軍軍醫少尉 橘 虎次郎  
橘家は代々醫師にして、先代三郎氏は村會議員として村政に關與貢獻せるとこ



ろ多く又村醫として村衛生に活動せる信賴厚き徳望家であつた。虎次郎氏はその子息三代目の當主として明治二十三年生を享け、資性温厚にして明朗、潑刺たる氣概を有し、金澤醫學專門學校を大正二年卒業した俊才である。また兵役は陸軍少尉三等軍醫である。

現在學務委員、學校醫、學校醫會役員として、教育醫學方面に盡瘁貢獻し、又産業組長長の要職に在り、水害豫防組合委員などを歴任し、その功績頗る多大である。さきには村會議員として村治に參與し、在郷軍人分會長を八年間勤続したこともある。氏のなすところどこでもその銳意熱烈なる努力は、よくその責任を果し穩健なる思想と徳義に厚い天性と相俟つて衆望擔ふところ多く、當村屈指の

有力なる人物と目されてゐるのである。家族は母堂と令閨、及び子供三人の和やかな家庭をつくつてゐる。

島上村横田

軍人分會長 長谷川 越郎

元助役 長谷川 越郎



長谷川家は、今より約三百年以前、信濃の國川中島方面から上杉氏を慕つて遙々越後の國に來つたので、現在で十六代目に當る。創家當時は農業を生業としてゐたが、現今は地主であり、土地の名望家として知られてゐる。越郎氏は明治十五年四月十九日の生れ、實父信太郎氏は自治功勞者として本年内務省より表彰された譽れある人である。

越郎氏は縣立長岡中學を卒業したが、當時紅顏の少年であつた現山本海軍次官

と同級生であつた。氏はまた騎兵第一聯隊に配屬する騎兵中尉であり、明治三十七八年の日露戰役に出征し、奉天大會戰に戰功を立てた護國の勇士であるが、これは實に三百年前の古武士の血が脈々と氏の胸底に波打つてゐるからであらう。常に氏は不言實行の人、温厚篤實ではあるが、眞の帝國軍人肌であり、剛健なる意志の持主である。

氏は十餘年の間島上村役場助役を勤め現在は軍人分會長、島上村農會評議員として村の中心人物であるが、氏の經歷の示す如く、清廉潔白あくまで帝國軍人的人格の持主である。

氏が在郷軍人分會の出來る以前に軍人團を組織した先覺者である事は特筆すべきであり、村の中心人物として重きをなしてゐるのも決して偶然ではない。

家庭は十一名の大家族であるが、氏の性情の示す如く、その家庭も清潔にして常に春風を孕んで圓滿をきはめて羨望されてゐる。

米納津村西横

學務委員 本田 久治郎

當家は數百年來の舊家にて連綿たる家系を有してゐる家柄である。父祖代々農を業として知られて、また村役として村政に盡瘁して來た。

氏は先代多七氏の長男として慶應二年七月一日當地に岳降したるものにして、資性實直にして篤實、夙夜淬勵、公益を圖つて倦まず、功績愈々顯著なるものがある。氏は明治二十六年以來村會議員として二期に亙り盡瘁し、當村の發展今日有るは實に氏の献身的努力に依るものである。當村の長老として長期に亙り數多の公職に在り村治に盡力せられ、高齢にも係らず鑿として壯者を凌ぐ元氣さである。尙村政の改革、村内産業の發展に就いて大なる抱負と主張とを持つて居り現在は區長として日夜席の温まる暇なく村政に盡力し、學務委員として教育に關與し大に教育の實を擧げるなど、氏の人



格的感化は絶大なものがある。  
當家は代々淨土宗を信奉し、氏は崇祖敬神の念に厚く、家庭は圓滿にして和樂を極めてゐる。

### 漆山村赤館 赤館區長 笹川 市太郎



當家は約一百年以前に創家されし名望家にして  
始祖以來  
五代をか  
ぞへ、代  
代農耕の  
業に従事

して生業となす傍ら、社會公共の事に盡  
瘁し來つた。

氏は先代忠七氏の長男にして、明治七  
年七月二十四日を以て健かな呱呱の一聲  
をあげた。夙に赤館耕地整理組合評議員  
赤館火葬場創立委員長等を歴任し、火葬  
場設置には特に功勞多く、主唱發起人中  
隨一の功勞者である。同火葬場は昭和十

年七月に完成し、工費一千圓餘を費せし

もの、地方稀に見る完全な火葬場として  
有名である。氏は溫和堅實にして徳望あ  
り、村民尊敬の的となつてゐる人格者で  
ある。すでに十數年間赤館區長として今  
日に至る他、現に二期目の方面委員を兼  
ね、功績いよ／＼顯著なるものがある。  
立憲政友會系の材幹である。曩に區長永  
年勤續の功により表彰せられた。信仰は  
曹洞宗。

なほ家族は七名あり、常に霽々たる和  
氣、堂に満ち、慶福をつづけてゐる。

### 漆山村下郷屋 下郷屋區長 佐藤 平八郎



當家は漆山村に於ける最大の舊家と稱  
されるが  
創立年代  
は遺憾な  
がら詳細  
なるを得  
ず、たゞ

約八百年前のことのみ傳へられる。今か  
ち八百年前と言へば、人皇第七十六代近  
衛天皇の頃で、平安朝の夢圓らかに平家  
の一門が榮華の限りを盡してゐた時分  
保元の亂も平治の亂もなく、況してや壇  
の浦の戦ひに平家一族が海の藻屑と消え  
やうなどは夢にも考へられなかつた遠  
い昔のことである。その頃から當地に居  
住し、この邊一帶の開発に力を用ひ、舊  
幕時代には漆山近郷一圓の庄屋として代  
代重きをなし、今も庄屋様と當家と呼ぶ  
ことのやうに習慣づけられてゐる。人氣  
の高い家柄といふべきである。

當主平八郎氏は先代佐平太氏の長男に  
して、明治四十一年二月四日の出生であ  
る。資性濃厚篤實、若き實力家として著  
聞し、區長に推され、部落のため種々奔  
走盡力してゐる。政友會に屬し、その將  
來は多大の期待をかけられてゐる。家業  
は農、現に五町歩を耕作し、漆山村に於  
ける第一番の耕作者である。家族は六名  
をかぞへ、他に三人の使用人がゐる。

### 味方村吉江

青年團長  
高念寺住職

### 廣川 知恩



氏の祖先是、代々武家として、また學  
者として

村内著名  
な名望家  
であつて  
氏は徳恩  
氏の子息  
として生まる。氏は天性剛毅、豪放磊落  
なるものがあるが、その反面強固なる精  
神力と緻密細微な頭腦の持主であるばか  
りでなく、敬神の念が實に厚く、慈悲博  
愛の心情の厚き人である。

氏の天性を最も表現してゐることは、  
關係されてゐる多くの公職及その他殘さ  
れた業績に依つて、窺ひ知ることが出來  
るが、かつて、氏が中學に於いて學を修  
めてゐる頃、氏の體育の鍛錬は實に見事  
なものであつて、中學五年生のときには  
既に柔道師範と同段者となり生徒であり

乍ら同時に柔道の教師として俸給を受く  
るに至つたことは、一つの逸話である。  
後ち中學卒業後大谷大學に於いて學を磨  
きたへた秀才であつて、一方柔道では五  
段の猛將である。

氏は先づ何よりも先きに青少年の身心  
鍛錬と體位向上に着眼留意して、之をな  
し遂げるには古來より傳はる我國の武術  
である柔道に依らねばならぬことを確心  
し、爾來村内の青少年に柔道の教授を爲  
す他、村内數ヶ所に道場を設けて、専ら  
斯道の向上を計つて、此の功績は全く他  
の追従を許さぬものがある。氏の功績は  
今事變に際して、同氏の教へ子の中より  
聖戰に勇躍出征した軍人が多かつたが、  
此聖戰に於いて柔術の實際に役立つたと  
の感激をこめた多數禮狀は氏を欣喜させ  
るものがある。

同氏多年に亙る青少年體育向上に盡し  
た功勞を召され、畏くも宮家より精練賞  
を拜受したことは有名な話である。  
かくの如く氏は體育方面のみならず、

青年團長、高念寺住職、有段者會支部長  
方面委員等多數の公職にあつて、隣保事  
業に掌つてゐると思へば、青年の情操教  
育に、或はその他、郷村の發展向上のた  
めならば、日夜をわかつた、奔命の努力  
なしつゝあつて、郷村民間の信望厚く、  
青少年間に於いては氏の人格を尊敬され  
て、人の師表たるべき高潔高邁の人格者  
と稱されてゐる。

### 月潟村釣寄

在郷軍人分會長  
歩兵伍長

### 間 島 吉治



義仲の家  
臣某氏が  
今より約  
七百五十  
年前木曾  
より落ち

來り、現在のところに居を定め、其の後  
幾代かの後が不明なるも、代々農業を營  
みて、今日に至つた舊家である。尙現在



の住居は、約六百年前の建築に係るものにして、古代建築物として、珍重されてゐる。

當主吉治氏は明治二十七年七月二十九日生を享け資性溫和にして寛大、活動的俊敏さを有してゐる。

大正三年新發田歩兵第十六聯隊に入隊し、大正五年同隊を退營した。現在、在郷軍人分會長として十六年間盡力し、青年學校指導員として二十年間、また非常時に直面するや衆の輿望を擔つて、國防婦人會々長に推され、出征軍人後援會副會長、また月潟村軍友會々長等の重要な職務に選ばれ然して一意専心盡瘁貢獻せるところの功勞多くして、衆みな崇拜の念を以て、信頼おく能はざるところである。

昭和八年功勞章を受けて表彰されたほどである。

氏は史蹟研究に興味を持たれ、各地の史蹟を探求、研究心深くして貴重なる研究がなされてゐるのである。

### 米納津村

産業組合長  
農會會長 渡邊 仁一郎



當年四十一歳り仁一郎氏は活動力旺盛な奮闘の士である。當渡邊家は氏の嚴父に當る千代平氏を以つて、開祖以來丁度八代目に當つて、村内有数の舊家名門である。

當主千代平氏は當年六十一歳の老齡ではあるが、今尙壯者を凌ぐくわくしやくたるものであつて、現在村の助役として村の行政に努力されつゝあることは著名で、その功績もまた大きい。

當仁一郎氏は、かつて加茂農林學校に於いて、農事の研學を終へ、専ら家事の傍ら修むるところの學識と經驗とによつて、農事の改善、改良に一意専念されつゝあるのみでなく、前には西蒲原郡試験

所に於いて實地の研磨に勉勵したこともあり、または農會技術員として、實際に農事指導の衝に當つたこともあつて、その手腕力量は村民の感激と讚稱となつてゐる。その他現在には農會長、信用組合長産業組合長として、村内の生産機構の樞要の地位にあつて、實地に生産部門の増産擴充策に、その着實な手腕は、明晰なる數理的頭腦と共に益々業績の優良向上を彌が上にも増しつゝあつて、村民の氏に對する信念と尊敬は意想外強靱なものである。

尙氏の功績になる信用組合に於ける業績をみるに、昭和十二年度に於いて、同組合の資産總額は三十三萬餘圓の巨額に達するに至つた。

家庭には令息四名、令嬢五名であつて裕福な平和な家である。

### 漆山村柿島

柿島區長 樋口 巳之吉

地方共同の利益を發達せしめ、村民と

協力して郷土の發展躍進に邁進せんとす



るは氏の抱負であり、意欲である。戸數十七戸の當部落は平和なものであるけれども、消防組織無く、やがて村の發展に伴ふて消防組織の必要は必然的に要求される。一日も早くこれを組織したいといふのが、現在の意圖である。

氏は約百五拾年前創家せられた樋口家の五代目に當る。家業は代々農を業とし先代も長期間區長を勤めた。氏は數期に互り區長を勤め、土地賃貸價格調査委員としても長期間勤続した地方的逸材である。常に現實的立場に於て郷土を愛し、その發展を約束せんとする氏は、明治十五年に生を享けて以來、常に直く、正しく、しかも不言實行にして、資性濃厚篤實、近隣の徳望厚く、永年土地賃貸價格

委員勤續の故を以て、表彰されたことがある。

信仰は代々淨土眞宗を信奉し、その家族は八名、家庭は常に和樂に満ちてゐる。尙ほ柿島區長として着々とその信する路を邁進する氏は、村民の中心となつて將來に輝ける郷土發展を約束するであらう。

### 松長村羽黒

羽黒區長 高木 平次



當家は本村有数の舊家にして、古記録なきため祖先の由来に就て判明せざるも、いひ傳へに依れば五六百年以上經過したる舊家である。祖父平吉氏は字副總代を四十年以上を勤め、其の功に依つて藩侯より羽織着用を許されたるほどの名家にして、先代

平作氏も永年副總代を勤めた。

當主平次は、その長男にして明治三年の生れ、代々治村發展に寄與し、功勞多大であつたが、平次氏も夙に關與盡力をなし、先には水利組合議員として、また副總代として活躍し、現在は區長として既に六年に及ぶ。氏は天性濃厚篤實、圓滿潤達の人にしてよく職務を果し、信望頗る厚い。なほ長男平太郎氏は、現村會議員に選ばれ極めて有力視されてゐる。家族は平次氏夫妻、平太郎氏夫妻、孫夫妻のまことに恵まれたる家庭にして、常に圓滿和平に満ちてゐる。

### 小池村八王寺

消防小頭 熊谷 祿郎

祖先は今より三百五十年前、信州川中島より當地に移り來て、代々農を以て家業となし精農家の聞えある舊家である。先代勇太郎氏は當主の養父にして、家業の傍ら村政に寄與するところ多く、郡會議員、村會議員、區長等の要職に選ばれ



し熱烈なる努力家にして功勞甚大であつた。祿郎



氏は明治四十一年八月十日生れ、頭腦明晰に

して剛健尙武の氣に富み、また中々の活動家である。三條中學卒業後は、早くより村治發展に意をそそぎ、一意専心理想を以て盡瘁し、若くして消防部副頭に推され、現在は消防小頭に選ばれ、また青年團幹事として噴々たる業跡を残してゐるのである。

これら壯年の氣満ちてゐる人たちの手に依つて當村今後の發展が期待せられると同時に、また氏の双肩に擔はれた村民の信頼と共に、多いなる活動がなされるであらう。

剛毅な性格の半面に、よく人を容れる寛大を持つ氏は、まことにその適材といはなければならぬ。

### 漆山村 湯頭

湯頭區長 山田 玉市



氏は明治三十二年一月四日、現住地に於て誕生した。當山田家は

今より百五十年ほど前よりこの家柄であつて、現主玉市氏は丁度五代目に當るのである。當家は代々産業を営み、當地に移住、開墾してより現在に至つた。

氏は資性温厚篤實、勤勉努力の士であつて、信仰厚く、實行の人である。曾て新發田聯隊に入營し、現役中には、西比利亞へ出征し、勇名を擧げて凱旋した勇士である。

氏は常に、村の文化事業に留意してゐて、多年の抱負である當字に電話開設の運動を實行し、實現に努めてゐる。その

他、前に赤錆耕地整理組合評議員に推舉

されては、生産品の擴張増收の百年の計を樹て、その實行貢獻をなし、現在は湯頭區長を數期にわたつて業績を擧げ、農區長として三期の公務を社會奉仕の信念を以て、共存共榮を目標として健實な實行と貢獻をなしつつあることは、一に氏の人格の現はれである。また氏は信用組合の株主として活躍されており、家族五人の圓滿なる家庭を爲し、政治的には民政黨系の人材として、黨に盡してゐる人である。

### 島上村 横田

青年團長 若林 源次



た信州武士の血統を受け繼いだ名門の家柄である。代

若林家は三百年前、現地に移住して來

代農を營み、家業の傍ら、つねに公共事

業に對する奉仕の念あつき一家で、氏の嚴父爲次郎氏は横田區長及び島上信用組合の専務理事として、多年第一線に活躍し、その高潔なる人格と共に信望厚く、實に多くの功績を爲した人である。

當主源次氏は、縣立加茂農林學校に於て、農學科を専攻した秀才であるのみならず、恬淡な性格と、活動的な弾力性は模範青年として、郷土人士の讚稱を受けてゐる人である。

氏は趣味として武道及び文藝物に精進してゐるばかりでなく、地藏堂町に於て縣農産物検査員として非常なる活動をしてゐる外、多年抱いて來た理想である農業の多角的高度經營に就いて研究せるその道の大家であることは有名な話である。

信仰深き氏は、島上青年團長、青年團横田分會長、農區長、消防後援團長等の公職にあつて、郷村青少年の情操訓練と心身鍛鍊の指導に一意専心し、農事改良

改善について、博識を以て當つてゐる。若き氏の前途は誠に洋々として開け、春秋に富む人である。

氏は研學の士であり、公共事業及び團體訓練の第一線勇士として、村民の信望は全く厚きものあり、今後の活躍は各方面にわたつて期待されてゐる。

氏は明治四十二年十月五日、爲次郎氏の長男として生まれ、家庭には家族七名の他、使用人二名の大世帯である。

### 漆山村 横岡

横岡區長 間 宮 久市



當間宮家は、今より百七十餘年前、當地に移住し、専ら開墾事業に着手して、代々農業に従

事して來た。

當主久市氏は、先代源二郎氏の二男と

して、明治三十一年一月十七日の出生。

當家七代目に當り、村内の舊家であり名門でもある。氏の祖父氏は、永年間、字長として村の自治行政について、日夜奔命の努力をなし、村民尊敬の的となつてゐた人格者である。父君源二郎氏は、過ぐる明治三十七八年の日露の戰爭に勇躍出征し、皇軍の威武を宣揚し、勇名を馳せつゝあつたが、旅順港の激戦に参加、天晴れ榮譽ある護國の鬼と化した。氏のこの壯烈なる勇猛奮闘振りとは、一死報國の精神とは、郷土の模範となりまた子弟の教育上幾多のよき感化を與へたことを大とせねばならぬ。

當主は、資性温良であり、曹洞宗の信仰深き人格者であつて、氏の關係してゐる公職は、現在眞岡區長として數期に互り、その功勞は甚大であつたのみならず、並木外二ヶ字の耕地整理組合の評議員をも兼ねて、耕地整理に依る土質地形の改良、増産の計畫等、實にその努力振りは郷土の感激と讚稱に値するものがあつて



氏の活躍は非常に期待されてゐる現状である。  
また政黨人としての氏は、政友會系にあつて、當地方有数の闘士である。

### 小池村小池 篤農家渡邊堅作



當家は六百年前信州より來り小池村に土着、開墾事業を爲し、小池村建設の草分に於て村發

展に功多く、累代庄屋として苗字滯刀を許された舊家名門の家柄である。氏は先代清治氏長男として、明治二十二年十月十九日に生を享け、爾來篤農家として村民の信望厚く、先代は區長をなし、篤農家として郡長より表彰され、又日露戰役に従軍、勳八等を賜つた。當主堅作氏は資性堅忍不拔、良く部落民を統制指導し

農作改良の模範に依り郡農會長より昭和九年七月表彰され、又縣よりの命に依り新潟放送局に於て農事改良の放送をした事がある。サタ子夫人との間に長男春太郎氏あり、三條中學二年修業後農に従事し、馬能力競和牛會優等にて昭和十年五月縣知事より表彰されるなど、氏に追從せんとしてゐる。次男は實家に於て農業に精勵し、三男は小學校四年在學、長女次女共に小學校に在學中、三女涼子さんは學齡に滿たづ、その家庭圓滿にして和樂に充ち、篤農家として模範的家庭を建設してゐる。

### 島上村砂子塚

#### 砂子塚區長 梨本辰治

當梨本家は代々農を業とし、郷土開發に功績多き家柄である。氏は先代健次郎氏の二男として明治十五年二月二十五日出生、資性温厚、敬神の念篤く、現に區長として村民の信望を一身に受け、その治績は大に見るべきものがある。

氏は嚴正中立の人として、正邪判別の



理念明敏であり、關與してゐるところの、砂子塚區長

(數期)、方面委員、統計調査員、負債調定委員、貝田耕地整理組合庶務係等、多くの公職は氏の人格と信望を充分物語るものがある。氏は一面實業界に於ても島上信用組合株主として活躍して居り、家庭には夫人及び令息夫妻の他、令孫五名の平和な團欒振りである。

### 漆山村馬堀

#### 農區區長 富山覺一

當富山家の家系は詳細不明であるが、云ひ傳へられてゐるところに據れば、約五百年前、忠右衛門氏を開祖となし、代々農業を營んで來てゐる。當家は部落唯一の舊家である。

當主覺一氏は善徳氏の長男として出生し、爾來家業に専念されつゝある。家業である農事の傍ら



善徳氏の松

非常な信心深く、信仰の家として村民の尊敬を受けてゐる家柄であるが先代即ち實父に當る善徳氏は七十二歳の高齡にも拘らず、熱心なる日蓮

宗信者であつて、大正六年には藤平日學大僧正に就いて師事修業し、僧名を善徳と號して、専ら布教に従事し、現在に至つたのである。

捨場のところであつて、そこに周圍約七尺の一本の老松樹があり、この樹は、當家の吉凶禍福に大なる關聯があつて、その木の枝の折れ方の大小に依つて吉凶を豫知すると云はれる程、靈驗ある樹木であつたが、明治二十年の大雪にこの松の木は倒れ遂に枯死するに至り、その後は、代りの松の木を植えて、大正七年に、前記の釋迦堂を建立するに至つたのである。

かくの如く、同家の布教感化の大なる功績は言を俟つまでもないが、同家に傳はる靈驗物語は數多く、茲に特筆すべき事柄は、明治四十二年より昭和十一年にいたる間、當釋迦堂の靈驗を受くるに參拜した病患信仰者は實に三千五百餘名であつて、他宗より改宗された人々は當

村住民を始め、遠くは東京地方の人も多數を數ふるに至つた。  
尙ほ當家には家寶として、南無妙法蓮華經の日連上人の御眞筆が傳はり、毎年四月二十八日には開扉して、一般參拜者のため拜觀に供してゐる。  
氏はこれ等布教事業のみならず、現在農區長の公職にあつて、郷村の繁榮を計り、氏の高潔なる人格と共に、村民の信望日に厚きものがある。

### 小池村八王寺

#### 素封家 川崎佐一



當家の祖先は信州の人である。今より三百餘年前、戰國時代を飾る川中島の大合戦に際し、

戰火の難を逃れて當地に來り、土着して農業を營み、爾來連綿として今日に至れ



る舊家である。先代留作氏は村會議員に選出されて多年村政に盡瘁貢獻せるほか區長をつとめ、耕地整理組合會計主任に推され、村自治並に産業の發展に功績甚大であつた。當家の分家は村内に四戸、村外に五戸を有し、この一事より見ても如何に舊家であり、名門であるか、窺はれる。

當主佐一氏は先代の長男として明治四十四年五月七日に生を享けた。年齢未だ而立に及ばざるも、令名噴々として人望高く、濃厚篤實なる模範青年といはれ、將來を囑望されてゐる。教養、人格兩方面共素封家の當主たるに相應しく、現時消防組役員に任じ、一意奉公の誠を効してゐる。若き徳望家であり、銃後日本が必要とする精神力の旺盛な活動的人材である。因に家庭は圓滿を極めてゐる。

### 米納津村西楨

素封家 草野 廉平

明治二十六年以來村會議員其他各種

公共事業役員として三十年に亙り、活動しその功績甚大なるものがある氏は、元治元年九月七日生れにして先代喜人氏の息である。氏は各公共事業に關與し、その卓抜なる頭腦と才腕とを驅使し、常に多大なる實績を擧げてゐる材幹であり、特に和納線開通に關して功勞あり、同鐵道の開通は氏の力に依るものと言つても過言では無いであらう。氏は各種團體及村會等より數多の感謝状を受けたことあり、その氏の實績に鑑みて當然である氏は資性謙讓にしてしかも磊落であり、剛毅にして而も果斷、老齡にして尙壯者を凌ぐ元氣さであり、豐饒としてゐる。實に氏こそ村民の範として仰がゞに足りる人格者である。

當家は十三代前より土着せる舊家に於て、創家以來農を業として、土を愛し土に生きて、今日の發展をみるに至つた篤農の家であり、代々徳望ある素封家として知名である。氏は又崇祖敬神の念に篤く、代々淨土

眞宗を信仰して、朝夕佛前に合掌し國家の安體と、子孫の繁榮を祈るなど、氏の人格者としての徳望は實にこの德行より出發せるものであらう。氏の長男は東京に於て運送業を營み、着々發展、事業擴大をみてゐる事業家であり、實行の人として將來性がある。

### 漆山村馬堀

馬堀區長 富山 辰太郎

當家は今より約百八十年前に忠兵衛氏



が分家、現在のところ、住し、代農を營み、精

農家の名を擧げつゝ今日に至つたもので先代は家業精進の傍ら、村政に關與盡瘁し、村會議員を永年にわたつて務め、また區長たること數回に及んで刻苦精勵せる功勞者であつた。

當主は第六代目にして、明治二十六年生れ、本年四十六歳の壯年にして、既に區長四期を勤績し、現在馬堀區長として専心盡瘁貢獻し、なほ漆山信用組合株主となつてゐるが、資性廉直潔癖にして、思慮深き君子的人格者であり、村治發展に熱烈なる態度はまことに尊敬に値し、村民の信望厚く、氏の如き存在は當村の前途に、輝々たる輝きを與へてゐるのである。

氏は、この地方の地勢の關係上、水田よりの増收を得べく、研究努力中である。夜に日に、氏には村民の福祉増進以外の想念は無く、只管そのために心勞を練つてゐるのである。また庭園の築山に趣味を有し、餘裕綽々たる床しさを持つて居り、また日蓮宗の熱心者にして信仰頗る篤い人である。その卓越せる識見と、人間的豊かさ兼ねそなへる氏の將來こそ、期して目さるゝ多くのものがある。

家庭圓滿にして、氏の實弟は早稻田大

學文科卒業の秀才である。

### 米納津村米納津

村會議員 山崎 曾平

勳八等功七級 當山崎家は、村内に於いても、屈指の



舊家として知られ、四代前迄は酒造家として著名であつ

たが、以來農業に轉じて今日に至つた。當會平氏は、忠治氏實子であつたが、後に至つて、山崎寅平次氏の養子に迎へられて、現在家業に日夜奮闘努力してゐるが、氏はかつて、東京赤坂聯隊に入營中、日露の風雲急を告げ、遂に干戦を交ふるに至るや、勇躍出征し、帝國軍人として武威を發揮し、一死報國の忠誠を以つて東奔西走、轉戦連勝して、目出度く戦勝凱旋した勇士である。

氏はかくの如く武人としての風格を傳

へてゐるのみならず、その磊落豪毅な性格の反面には非常に繊細な頭腦の主であつて、氏は寄山と號し俳句を巧みにすると言ふことは同氏の一面を物語るものである。

氏は一度事物に就いて論ずる場合は、その理路整然たる論理は、博學と相伴つて、聞く人をして感嘆せしむるのみならず、その博識に驚ろかざるを得ない。それ程廣範に亙つての學識は、氏をして談論風發に際しても、決して論理に阻悟なく、一つの立派な體系を爲したものであつて、氏に接した人は誰しも尊敬の念を拂はぬものはない。

氏は前に、在郷軍人會分會長として、青年訓練に努め、消防組合長として災害防止に献身的奉公したのみならず、大正九年には村助役を一期間勤めて、村政に貢獻多大、また農會惣代として農事の改善にも努力されたことが多かつた。

現在氏は村會議員として、村政の概要に參照してゐるのみならず、學務委員と



して、子弟の育英事業に、鋭意努力され  
てゐるのみならず、信用組合理事として  
區長代理として、多方面に亙りて公職に  
盡夜兼務の多忙を極め、社會奉仕、共存  
共榮の精神の下に盡瘁されつゝあること  
は、村民の等しく感激感謝するところだ  
ある。

氏は前記日露戦争に従軍し、その軍功  
に依つて、長きより勳八等功七級に叙せ  
られた、村の有識名望家である。

### 漆山村寺潟

寺潟區長 有坂 惣太郎

當家は約三百年前の創始にして、代々



農業を営み、現耕地面積三町八反に及ぶ。先代又藏氏は濃厚篤實なる人にして信望あり、氏は又藏氏の二男として明治二十五年一月七

日、同村に呱呱の聲を擧げた。資性濃厚にして實直、しかも清廉の士にして、消防組頭として二十餘年勤続し、曾て近衛二聯隊現役済みの歩兵一等兵、漆山村在郷軍人會評議員として功績あり、後、寺潟區長として長期間に亙り勤続し、また四ヶ字普通水利組合評議員として盡瘁貢獻し、その業績顯著なるものがある。氏の抱負は常に愛郷の赤心より發するものであるが、近々中に寺潟附近の内水を改良すべく、新水路を開かんとする高大な抱負希望を持ち、それに向つて一路邁進してゐる。

氏は政友系にして眞摯なる政見を有しその家は代々日蓮宗を信奉して來た。曾て消防組二十年勤続の功に依り表彰を受けたることあり。

家族は七名、外に使用人二名の家族にして、氏の人格を反映し、家庭は常に圓滿をきはめ、氏を中心として、和氣霽々たるものがあり、附近村民より羨望されてゐる。



稱し、當

### 松長村眞木

眞木區長 廣川 吉太郎

當家は同村廣川彦三郎家より約百五十年前分家したるものにして

時木挽を業となしたるも、二代目より農業を営み、勤勉努力して心魂を傾け、漸次財を積み、當村有数の資産家となり、今日に至つたものである。先代吉次氏は専心一意農業に従事し、よく本分を守りて自家繁榮に努力した人である。

當主吉太郎氏は、その長男として明治十五年十月の生れ、資性温順にして篤實家業に精勵の傍ら、自治公共の事に竭し多年の努力空しからず、村民の信望頗る厚いものがある。推されて區長となり、現在既に六年目

にして盡瘁貢獻するところ甚大である。産業方面に於ては、採種組合役員として活躍し、その温厚誠意なる人格と相俟つて當村になくはならぬ人である。氏は民政黨に屬し、家庭は十一人の恵まれたる大家族で、一家和平福々たるものである。

### 漆山村山嶋

山嶋區長 小林 與太郎



小林家は約二百年前(寛政六年)初代與右衛門氏の創家にして、當村切つての舊家である。代

病没され、次いで長男である與太郎氏が八代目の當主となつた。氏は明治二年生れ、資性温良にして思慮深き人格者である。夙に村自治に懸念なる努力をし、現在既に七十歳であるが、尙ほ矍鑠たるものあり、一生を村民の福祉増進、自治發展のために盡瘁せる人にして、區長三期勤続の長きに亙つてゐる。村民何れも敬慕して措かぬものがある。

氏は、當地附近が水利不便のため、耕地整理をなし、新水路を作らんとする抱負を持つてゐる。氏等の熱烈なる努力により、やがて、達成される日も近いであらう。まことに氏こそは、當村にとつてなくてはならぬ有力の人材である。

### 味方村味方

阿部醫院長 阿部 重男

當家は現在九代に至る間、一連として醫業を営んで來た。

當主重男氏は、馨雪氏の子息として、明治三十一年、代々學者であり、醫者で



醫人として、温厚なる君子であるばかりでなく、醫は

ある、名望の家柄に生まれた。氏はこの家業を繼ぐに、天性を傳へ、仁術であり、鬼の佛心と言ふ、古來より刀圭界に傳へられてゐる言葉の如く、氏の人格をしたひて、遠近より醫療を受けるに來る患者の夥しき數は、氏の高潔な人格の反響である。

氏は夙に、家業を繼ぐべく、醫業に志し、日本醫科大學に學び、業を終へてより、横濱市立病院に於いて四ヶ年に亙り實地に臨床の経験と研究を積み、昭和七年歸郷し、共に現住地に開業するに至つた。氏の最も得意とする科目は、内科、小兒科、外科であつて、現在我國の農村醫療狀況の不均衡なるを考へるとき、氏の如き有爲高德の士が、専ら農村醫療に



日夜専心されつゝあることは、郷土人にとつて、意を強くするところ尠くなく、非常に感謝されてゐる。

氏の先代に當る馨雪氏は、開業の半面村會議員、及學務委員として、郷村の開発、育英事業に貢献するところ多かつたが、此の名門の出である當主も、今日、學校醫として、第二國民の體位及防疫等に一意努力されてゐるのみならず、醫師會評議員として、醫事に掌つて、郷土の衛生知識向上を計りつゝあることは、著名な事柄である。

今後に於ける、氏の農村醫療の合理化の信念と實行は大ひに期待されるべきもの多く、氏の御家庭は三男二女の圓滿な家庭である。

### 月 瀧村木滑 醫師大橋達一

當大橋家は、今より三百餘年前、宇左衛門氏に依つて創家された土地の名望家であつて、代々庄屋を勤めて來た。

は直ちに慶應病院に助手として二ヶ年間勤務し、その後、鐵道省治療所主任として二年を経、終に大正十五年、卓越せる識見と豊富なる經驗とを以て、現在のところ開業するに至つたのである。

海以來十三年間、たゆまざる努力と、誠實の一念とを以て斯界に貢献するところ多大にして、村民みな等しく深厚する信頼を捧げて居り、現在また村醫として、校醫としての要職にあり、信任を益々厚くして居るのである。氏は内科を専門とし、陸軍三等軍醫、正八位に叙されたる功勞者である。

當家は約二百五十年前、涼右衛門氏を開祖とする舊家にして、代々農業を営み夙に篤農家として知られ、先々代彦三郎氏は永年村長を勤め、その功勞に依り、勳八等に叙せられ、又先代實氏は鐵道省參事の要職にあり、鐵道省二十五年勤績の功勞者である。梨本家は斯様に代々優れたる人材を出してゐる名望家にして、武夫氏もまた梨本醫院を開業し、日に日

先代葆氏は、市町村制定さるゝ迄、戸



長を勤め郷政に盡瘁するところ多かつたが、後に新潟縣土木課に奉職し、六十七歳にて逝去された。

當主達一氏は、明治三十一年一月十四日の出生であつて、生まれ乍らにしてその慈愛心厚く、温厚なる性格は、今日杏林界に大をなすに至つた要因であると思ふべからぬ。

氏は新潟醫科大學を、大正十二年に卒業した、新潟醫學士である。

最も氏の得意とするところは、内科及小兒科一般であつて、その高潔なる人格と醫人としての手腕は、郷村民の醫療を擔當するに十二分適合した紳士である。氏は、現在開業の傍ら、公人として、村會議員、學務委員、木滑青年團長に推

舉されて、郷村政の自治に、または子弟の育英について經綸を施してゐるのみならず、昭和五年以來、學校醫をして、衛生、防疫等、目醒しき活動を續け、部落民の信望、徳高き紳士である。

氏は趣味の人として、旅行に、庭園に博學の士であつて、家庭には、老母を首め、夫妻の他、子息五人の平和圓滿なる徳望の家柄である。

### 松長村羽黒

梨本醫院長 梨本武夫

明治二十九年八月十六日、呱呱の聲を



あげた院長梨本武夫氏は、天性英敏頭腦明晰にして、

長ずるに及んで愈々その優秀なる性能を發揮し、東京帝大醫學部に入學、専心研究努力の果實を結び、大正十一年卒業後

に隆盛を極めてゐる状態である。尚ほ氏は、曾て大正十五年より昭和四年まで分會長として活躍した。現在家庭は母堂と氏夫妻及び子供六人の子福者にして、至極圓滿、笑聲堂に溢れるの感があり、羨むべき家庭である。また當主は寫眞に興味を有し、既に素人の域を脱したる技術をもつて居り、その道の造詣が深い。

### 道上村打越

醫師青木昌五郎

氏は、明治十一年三月十一日出生。



氏は明治四十二年、三島郡奥板町より現地に移住開業

し、今日に至つた。かつて氏は、東京中學に學び、後に千葉醫學專門學校を明治三十二年に卒業し

同校を終はるや、長岡市の甲野病院及び吉田町の吉田病院を各一年餘づつ勤務して、臨床の經驗を積み、現地にて開業するに至つた。

氏の福徳圓滿、高潔な人格は、醫人として全く天分の備はつた紳士で、當地杏林界にとり、氏は偉大なる存在である。氏は現在西蒲原郡醫師會評議員として二十餘年勤績し、醫政の向上に盡瘁して來た反面、縣方面委員に推舉されては、貧困患者及薄資疾患者の救済における、氏の献身的努力と功績は、郷村民の感謝の的である。

また打越小學校及漆山小學校の校醫として、子弟の體位向上と衛生防疫問題に關して、深甚の留意と、細心の努力は一般的衛生思想の向上、疾病減少の良成績を擧げるに至つた事は、偏に氏の献身的奉仕の功績に依るものである。

氏は杏林界の偉材であるのみならず、多趣味の人で、書畫及庭園に就いてはその道に精通してゐるのみならず、氏の書



畫藏品は珍品等秘藏の物が數多あるは著名な話である。

醫人として、高潔なる氏は村民の感謝の對照として、師表の人であつて、家庭には夫人及令息夫妻、令孫等圓滿なる團樂の家庭である。

尙氏の長男式氏は新潟縣立卷中學校卒業後、杏林界に志を立て、上京しては、東京醫學專門學校に學び、學を終へると同時に海軍に入り、現在では海軍々醫大尉として、我國海軍の第一線に立つて、軍隊醫務に關與努力されて、將來を囑望されておる人で、先年、畏きより、正七位勳六等に叙せられた。

氏は目下軍務の關係上、東京市大森區大井町に居を卜し、夫人との間に一女あつて、圓滿な家庭である。

### 米納津村佐渡山 素封家 加藤源治

源治氏は明治三年九月一日先代竹治氏の子息として、呱呱の聲を擧げたのである。

同家は村内に於ける舊家として、代



代農業を家業として營んで、土地の素封家と聞ゆ

名家である。氏は篤農家として、斯業の研究改良發展に専念されてゐて、先年生産検査の際には、その製品の優良の記念として銀杯を授與されたこともあつた。一方氏は、信用組合の現理事として組合事業の進展に非常なる努力をなし、また反面、前には村會議員一期、農會々長一期、學務委員一期、生産検査員を約十三年間等、之等の多くの公職に於いて、氏の名望と明快なる手腕は、村民の衆望を一身に集めて、長期に亘る公職中、非常に大なる功績が多かつた。氏の郷土の文化開發及農事の向上等に盡したる努力は、氏の人格の然らしむるところであつて、同氏は淨土眞宗の厚き

信仰の持主として、その信仰はまた人格に反影し、衆望の厚き信任を得るに足る村内に於ける素封家である。

### 漆山村山島 篤農家 阿部藤松



奥地より移住して専ら開墾事業に努め、農業を主とし

て來たのであるが、言ひ傳へられるところに依れば、當家の開祖は、平家落武者の後胤であると謂はれてゐる。當主藤松氏は當年五十三歳の圓熟せる活躍期に在る人であつて、漆山村大字河井の長谷川松三郎氏の實子であつたが、後ち阿部作藏氏の養子として迎へられ、阿部家を繼ぎ今日に至つたのである。氏の令息徳一氏は、永年紫雲草の研究

を續けて、當地方に於ける植物學者として有名であるのみならず、家庭には當主夫妻を始め、令息夫妻があり、常に他の羨望の的となる平和さを見せてゐる。因に氏は政治的には政友黨系に屬する人格者である。

### 小池村道金 篤農家 古川麟太郎



氏は先代吉郎氏の長男として、明治三十三年十月二日呱呱の聲を擧ぐ。當古川家は信州の川

中島より天平年間に現住地に移り、農業として、現在に至りし舊家であつて、その後分家せしも、古川家は舊家を繼承したものであつて、當主は九代目である先代吉郎氏は村會議員、區長等の公職を勤め、圓滿な高潔の士として郷村の信

任厚かつた人である。此父にして此子ありて、氏は先代の名譽を毀損することなく、生れ乍らにして天性すこぶる温厚篤實、言語は至極明快で、人に接するに禮を厚くし、氏の中立穩健なる思想は、郷土人士の師表たるべきものがある。

氏は現在青年支部長及消防小頭の公職にあつて、青少年の薫育に努める一方、村内の災害防止に献身的努力を爲しつゝある。かつて氏は小池村小學校に學び、業を終え、家業を受繼ぎ、今は家庭には一男、三女の幸福な家庭であり、村内の篤實家として名望が高い。

### 漆山村山島 篤農家 成瀬順作

當家は約百年前に創家されたもの、初代九衛門氏以來第四代目に當り、本家は大字漆山に在る。家業は農を主とし、代精勵し來つたので、現在は二町七反程度の耕作をしてゐる。順作氏は、先代晋吉氏長男にして、明



も内剛外柔、篤農家として多年の眞摯なる研究と精勵

治七年十月三日の出生、資性温厚なれどとは、よく氏を今日あらしめたのであらう。氏は政友系、今日まで既に十指に餘る表彰状を持つてゐる、農區長として現在活躍してゐる。令息一平氏も亦、温厚篤實なる資性を有し、本村の模範青年として生業に勵み將來を約束された人材である。同家は禪宗を信奉し、家族は六名であるが、其家庭は頗る圓滿、一家を擧げて家業に忠實勤勉である。父子揃つて篤農家であり人格圓滿なるため、村民の信望厚く、洋々たる前途を約束されてゐる。一平氏を得た氏は、更に新しい發展を企畫し、初代九衛門氏の靈魂を再び現實の世に再現せんとしてゐる。



篤農家成瀬家を持つことは、村の榮譽であり、村史すら篤農家の多くを出す事に依つて光輝あるものとなるのである。

### 小池村柳山

名望家 坂井正三

氏は理智の人であり、意志の人である義に重く情に厚く、千萬人と雖も吾往かんの勇氣を持つてゐる人である。

明治四十四年二月二十五日の出生にして、若冠とはいひ、社會百般の情勢に通じ、三條中學校の出身にして頭腦も明敏である。

しかも温厚篤實の一面を有し、小池村のホープと稱され、今後の活動は多大の囑望を寄せられてゐる。

因に當家は、先代隆造氏が分家獨立して、一家を創めしものにして、農を以て業とする。

本家は今より約五百年前、信州より來り、農業を營み、代々大庄屋として近村の名望家であつた。

### 漆山村山島

篤農家 佐々木與作

篤農家として徳望高い氏は、農業を生



業として現在では四町餘を耕作し、昭和十二年度は反

當り七俵餘の増收を示してゐる如く、多年の倦まざる努力と研究とに依つて土を生かし、土に生きて絶えざる精進を續けてゐる。氏は資性温厚篤實にて實直、私利私慾を棄て、常に農業國たる我が國の重要な地位を占むる篤農家である。同家は二百年の間農業を營み、着々として成績を擧げ、日に月に農業の發達に力をつくして現在與作氏は六代目に當る。

當家本來の家歴を觀るに、第二代與助氏が最も傑出してゐて、果斷にして剛毅當家をして遂に中興せしめて、今日あら

しめた。與作氏は大字山島の土木工事係長を勤め、實績を擧げてゐる。

令息與三郎氏は、父祖の業に精勵し、温厚にして勤直、農會長に表彰されたことがある。家族は與作氏及び令息夫婦等四名にして、家庭圓滿、常に和樂に満ちてゐる。氏はまた草花及び盆栽に興味をもち、その成果は既に趣味を卓越してゐる。政黨關係は政友系。

### 小池村八王寺

耕地整理組員 川崎三男治

川崎家は今より凡そ四百年前、當地に居を構ひし舊家にして、代々農を以て生業となし、世々庄屋の職をつとめた。先代は明治維新後戸長その他の公名譽職を歴任し、自治功勞者と謳はれて、その名遠近に普ねかつた。先代傳治郎氏また公事に盡すところあり、村會議員、區長たること永年、先々代同様自治功勞者として郷黨の尊敬を受けた。

當主は先代の二男にして、明治二十一

年十一月三日の出生である。夙に祖業を繼いで農業に従事し、傍ら區長をつとめしことあり、現在は耕地整理組合會計並に大堰組合委員を兼ねて東奔西走公共の事業に働いてゐる。性温厚篤實、政黨に掠はれず、自己の信する道に進んで行く意氣に燃えてゐる。家庭には一男一女を有す。

### 小池村柳山

舊家名門 坂井喜藏

當家は其の祖平家の殘黨にして、信州



に來り、大河内と名乗つて南浦原郡滯織に至り、是よ

り三百年前小池村大字柳山なる當地に土着し、開墾事業に従事し、當家を創立して姓を酒井と改め、一路繁榮の路を進んで來たが、明治維新當時に至り再度坂井

と改姓したものである。開祖以來累代大庄屋を勤めし舊家として、又村民の信望ある善政の家として榮譽有る歴史を有し尊父半藏氏の代に至り、明治維新の際戸長として村内第一の名門である。

當主喜藏氏は先代半藏氏の息、大正六年八月二十日生れにて未だ颯爽たる青年であり、輝かしい傳統と將來を相肩に背負つてゐる。縣立三條中學校卒業直後、縣立農事試驗場に勤め、一年間の間在職してゐた。

氏は資性温厚篤實なる君子、しかも村の將來に對する烈々とした抱負の主にして、政黨關係は中立、若き名門の當主である。

氏の兩親は惜しまれて長逝し、現在祖母履女と共に家庭を營んでゐる。氏を得て村は新しい發展を約束されるであらう。

その家も又古き家系の上に一層輝かしい榮譽を加へ、歴史は亦、新しい業積をその家系圖に印さなければならぬ。

### 漆山村櫻林

村會議員 大越長吉

當家は數百年以前よりの舊家名門にして、代々農を以て生業とした。

當主長吉氏は、明治五年十月十七日の岳降にして、先代嘉左衛門氏の長男にあたる。夙に漆山農會評議員たること數期に及びしほか、新潟縣米穀生産検査委員に任ずること數回、人望遠近に普く、事績また顯著なるものがある。また村會議員に任ずること十一期四十四ヶ年の長きにのぼり、現にその要職にあり、兼ねて櫻林區長、學務委員をつとめ、殊に區長は勤続多年に及び、名利を越え、一意部落民の福祉をのみ念じての努力盡瘁は、人々の深く感銘措く能はざるところである。政黨は立憲政友會に屬す。昭和十三年、自治制發布五十周年に際し、内務省よりその功を表彰して木杯一組を贈られた。現に氏は、近く耕地整理組合を結成すべく、目下努力奔走中である。



岩室村石瀨  
多寶山 青龍寺

眞言宗青龍寺は、大字石瀨三六七四番



住職 和田海應 師

地に建  
立、背  
後は峻  
嶺あり  
之を多  
寶山と

言ふ。

天平八年、行基菩薩北陸道巡察の砌、石瀨内宇田の平山林北端の頂上に創立せしと傳へらる。當寺は由緒頗る深く、創立以來、幾多度變遷興亡を重ねて現在に及ぶ。

本尊を藥師如來とす。之天平八年、行基菩薩北陸道巡察歸還の砌、親ら之を彫刻し、多寶山の中腹に堂宇を建立せられ之を安置したりと言ふ。

當寺は、藥師堂、客殿、庫裏、大黒堂、大日堂、鎮守堂、御供所、小屋等の建物

より成り、檀徒戸數百十一戸を數ふ。

現住職和田海應師は、宗教家として、常に不斷の努力を爲しつゝあり、性溫厚篤實にして、人格高潔なるを以て、村民並に檀徒の信頼と人望を集む。即ち、機會ある度に、或は説教に依り、或は自ら範を示して、村民並に檀徒の指導教化に努め、又西蒲原郡卷警察署慈照會常務理事、岩室村經濟更正委員、選舉肅正委員等の公職にありて、當村の福利増進のため多大の貢獻を爲しつゝあり。

樓堂、經藏等、整然と建ち並んでその昔を偲ばしめる。

今に遺る寶物には親鸞上人自作像、同作聖德太子像があり、毎年春秋の彼岸會報恩講、盆會その他が當山行事として執行されてゐる。

檀家は本村大字道金その他にわたり、總代に新潟市の宗村靜一氏が現任中である。現住職宗村智燈師あり、法運の隆昌に貢獻してゐる。

小池村道金

福王山 至德寺

當山は淨土眞宗本派本願寺派に屬する



住職 宗村阿彌陀

舊刹で阿彌陀如來を本尊となしてゐる。

境内は三百餘坪に及び、本堂、庫裏、鐘

南蒲原郡

見附町

縣會議員 山谷與一



山谷家は、本町屈指の舊家にして、開祖以來代を累ねること正に十四代目代々農を業とし、

見附町の前身たる嶺崎村の庄屋として郷土の福利増進の爲め、常に意を注いで土地開發に功勞のあつた家柄である。當家はまた本町屈指の資産家であり、歴代相繼いで産を治めつゝ現在に至つたもので、祖父與四郎氏は、勤勉實直の人にして、早くより庄屋を勤め、明治維新後、政府より御用掛、戸長の役などを命ぜられ、

挺身その職責を果した功績は、今も町民の等しく感謝しつゝあるところである。

先代の一治氏は銀行家として金融界に進出、幾多の業績を遺した人である。

當主與一氏は、先代一治氏の長男として、明治十八年九月二日、呱呱の聲を擧げ、夙に農業經營の刷新に留意し、長ずるに及んで、郷土の農學校に學び、更に進んで東京農業大學に業を修め、しかも農業に關する研究に餘念がなかつた。

同校を卒業して歸郷、磊落にして細心言語明晰、動作敏なる性格を以て村治に對し、早くも村民の敬慕を増し、推されて教育會長となり、更に婦人會長、軍人後援會長を兼任するに至つた。特に公平無私なる氏は、小作人並に地主の懇請する所に依り、兩者間の協調會長に就任、爾來常に全體主義の見地に立ちて、兩者

間の紛争の解決に當り、爲めに當地方に於ける兩者の關係は頗る圓滑に進行しつゝあるの現状におかれてゐる。

尙ほ本年二月、縣會議員候補者として出馬し、最高點を以て當選、また縣農會幹事に擧げられ、それ／＼活動盡瘁しつゝあつたが、今また町長に推薦されて、その任いよ／＼重きをなしてゐる。蓋し本町今後のこと、たゞ期して待つべきである。

見附町 概況

當町は、明治維新の際藩主堀氏が藩知事として爲政し居たるも、明治三年、新發田に引續き加茂出張所々管に屬し、同四年廢藩置縣と同時に、新潟縣所轄となつたのである。

當町内大字内町、嶺崎町、本所は各獨立村にして、戸代新田は新潟村より合併したものであり、明治六年大小區制を布かれ、第十七大區小七區に分割せられ、本所、新町、嶺崎町、内町は各戸長を置いた。その後明治二十二年市町村制實施



と同時に見附町と改稱し、昭和九年二月一日、隣村、庄川村を合併して現在の見附町となつたものである。

### 中之島村本村中條

縣會議員 山之島村長 山田 寬明  
中之島村長 正八位

當家は今より約四百年前、この地に居住、今日に至つたもので、相繼いで農に精進して來た。氏は長岡中學校を優秀なる成績を以て卒業せし後、一年志願兵として良く軍務に精勵し、工兵少尉に任官して除隊した。

氏は性温厚篤實、勤勉力行の人にして言語また明快なるを以て村民の尊敬する所頗る多大なるものあり、即ち推されて縣會議員、村耕地整理組合長、村信用組合長、村青年會長、教育會長、軍友會長等各種團體の長に就任、良く團體の指導團員の訓練に努力しつゝあるばかりでなく、これより先、當村長に就任して村政を視、從來の弊を矯め、刷新に力を致し

たる結果、新潟縣内第一の大村なるに拘らず、當村は村政よく整備し、諸施設よく完備するなど、これ全く氏に負ふところ大なるものがある。尙在郷軍人分會長として會員の指導に精勵してゐる。

### 中之島村 役場

本村役場は大字中之島腰巻に在り、星野通峯氏を初代村長に仰いでより

大久保嘉藏、星野次郎、吉原義雄、阿部勇太郎氏等の歴代村長の後をうけて、山之島明氏現任中である。氏を輔くるに助役に葦澤精一氏、収入役に岩本恒太郎氏があり、他に吏員があり、加ふるに二十四名の村會議員、八名の學務委員及び各種團體があつて、村民の福祉増進を圖りつゝあると共に、明朝なる村たらしむべく活躍貢献してゐる。

### 今町

今町町長 岡 忠 治  
開祖及び祖先の由來については詳細不明なるも、今より二百年以前より當地に

土着し、農及び商業を兼營して來た家柄である。先代庄吉氏は今町銀行取締役として永年勤績し、また町長として努力せしことあり、現在は同町に於ける大地主であり、また町の長老として重きをなしてゐる。

その長男として明治三十七年八月二十九日生れたる忠治氏は、温厚篤實なる君子的紳士なるを以て、町民の信望極めて厚く、今や町會一致の推薦によつて町長の要職に在り、挺身よく町自治に當り、その一舉一動、すべて各町民の期待に副うてゐる。

家庭には貞淑温良なるトミ子夫人との間に一男一女あり、當に春風洋々、和かさを見せてゐる。

### 今町 役場

當町はその創始遠く三百餘年前に溯り其後幾多の變遷を経て、舊幕時代は新發田藩主溝口氏の所領であつた。明治維新の後大小區制が布かれ、今町新田、上新田共に第十七大區小六區に屬

し、各戸長、用掛等を置き、獨立の行政區であつたが、その後明治十四年今町新田外一ヶ村戸長役場を今町新田に置き、上新田と同一行政区となり、同二十二年町村制が施行せられると同時に、今町新田、上新田の二ヶ村合併して一ヶ町とし今町新田と稱した。その後大正三年に至り更に今町と改稱し、同十四年四月隣村坂井村を合せて爾來町勢日に月に盛大となり、今日の隆盛をみるに至つたものである。

### 井栗村

井栗村長 渡邊 貞一

當家は三百餘年來、連綿として相繼ぎ來つた名門である。當主貞一氏は定治氏の養子に迎へられ、渡邊家を繼ぐに至つたもので、當年五十歳の名實共に村の指導者として、名望高き士である。氏は、資性温厚篤實にて言語動作、明朗潤達の人であつて、三條中學校出身の秀才であつた。

當家の先代、即ち定治氏は、明治十六年、栗村外七ヶ村の戸長となり、または同二十二年旭村長に推舉されたのみならず、耕地整理組合長等の公職にあつて、郷村の發展に、甚大な功績を残され人である。

その他、明治三十四年には栗林村組織なるや村長事務取扱に、同三十五年には村長に昇進して爲したる主な事業は、小學校舎の改築、悪水排除の業に貢献するところあつたが、後に郡會議員となるや、その議長として二期に亘り、郡政壇上に名聲を馳せ、明治四十年、村治に竭したる顯著なる功績と、同四十二年には教育獎勵の功を以つて、時の縣知事より表彰されたことがある郷土の開發の功勞者である。

當主貞一氏は、現村長として村政統治者の名望を背負つてゐるばかりでなく、農會々長に、産業組合長及び消防組頭等凡そ一村發達向上の樞要には必ず一つとて氏の理想と行動が表はれてゐない。

のではない位で、第一線の指導者として功績多き、徳望厚き人である。

### 大島村代官島 高井 權治

開祖及び先祖の由來に就いては古記録なきを以て不詳なり。先代



久平氏は村會議員區長の公職に就きて、良く村政に力を致したる人なり。

氏は久平氏の長男として、明治十五年四月五日生れ、快活にして温和、而も思想穩健なる資性を以て村民の信望を一身に集め、曩に村會議員に擧げられたが、遂に推されて村長に就任して夜に日に努力、良く村政の改善に力を致し、その他青年團長として、青年の指導訓練に當りつゝあり。



森町村牛野尾

森町村長 熊倉信一  
勳八等功七級

當家は村有数の舊家なるも、記録なく



随つて家系は不明であるが同村の熊倉家より分家し、

一家を創立、代々農業を営み、當主にし

て五代を累ぬる家柄である。

當主信二氏は明治十四年七月十八日、先代直藏氏の長男として生る。氏は同村高等小學校を卒業し、工兵第二大隊に入營、日露戦役には逸早く應召して、勇躍出征、赫々たる功勞を立て、工兵上等兵となつて凱旋す。在郷軍人分會長、消防組頭を歴任し、現在は農會長、村長の要職にあり、信用組合理事、株式會社の監査役をも兼任す。

資性剛毅果斷にして堅忍不拔、自治に

關して卓拔な手腕家であり、その功績は村民の驚嘆する處である。殿正中立の立場に立つて縣下の政界に雄飛し、その令名高きものあり。また日露戦役の拔群の功を以て勳八等に叙され功七級を賜はつてゐる。

夫人との間に一男四女あり、長男梅二郎氏は、父君の志を繼いで消防組頭、軍人分會長、青年團長を兼任してゐる。實剛健にして、前途春秋に富み、多大の期待を寄せられてゐる。

森町村役場

本村は明治二十二年四月、市町村制の施行せらるゝに當り、牛野尾及北

五百川區域十六ヶ村を合併して、本下田村、棚外三ヶ村は合せて四ツ澤村と改稱せられ、森町、田屋の二ヶ村は前谷村に編入せられた。その後明治三十四年十一月本下田村、四ツ澤村及前谷村の一部である森町、田屋の二ヶ大字を合併して森町村と改稱し、役場を大字北五百川地内字宮地に置いたが、大正元年十一月十

四日行政上の便宜を圖つて現在の大字庭月字中作に移轉したが、村勢の發展につれて廳舎狹隘を感じ擴張の必要を痛感して改築を爲し今日に至つたものである。

鹿峠村

鹿峠村長 渡邊

當渡邊家は本村有数の舊家として知られ、代々農を營んで來た篤農の家でありまた當村第一の資産家でもある。先代實司氏は、性明敏にして、三十歳の若さを以て、縣會に堂々出馬し、見事當選、縣政のため萬丈の氣焰を吐きつゝあつたが遂に病を得、三十三歳を以て早逝したるは、當村の爲め惜しみてもなほ餘りあるものであつた。

當主渡氏は、實司氏の長男として明治三十二年九月十一日、呱呱の聲を擧げたのであるが、その明敏なること殿父に劣らず、長じて三條中學校に入學するや、常に優秀なる成績を保持しつゝ、同校を卒業して、父の志をついで村勢發展の爲め

一生を捧げんことを誓ひ、その後は、親しく郷里青年と語りて、これを指導訓練することに鋭意盡力した。

間も無く推されて村會議員に就き、村道を開きて交通の不便を除き、農業の多角形的經營方針を獎勵して、當村を豊かに導くことに盡力したのである。

その資性濃厚なる紳士にして、村民の人望篤く、村民より慈父として仰がれてゐる。家庭には、夫人との間に一男二女あり、長男は小學校に、長女次女は共に女學校に夫々在學中である。

福島村 福島

福島村長 田中 國次郎

當家はその昔、上杉氏の臣下にして、



越後の國高田市外春日山に居たのであるが、藩主が米

澤に移封となつた時、藩主と共に出羽米澤に移住したのである。後ち再び高田市に戻つて、今より三百年前、故あつて現地に來りて土着し、代々庄屋を勤めて、その傍ら開墾事業に銳意従事したのである。その開祖はいま、田中神社として祀られ、當地方民の尊崇頗るあつた。

實父慮氏は、早くより推されて公職につき、最初戸長となり、續いて村長、農會長、消防組頭等を歴任し、よくその職責を果して、當村自治の爲め多大の貢獻を爲した人である。

氏は先代慮氏の長男として出生し、本年六十三歳の老境なれど、矍鑠壯者を凌ぐの概を以て活躍しつゝある。濃厚にして篤實、言語明快なる人物である。村民の人望高く、模範の村長として、近村に聞えが高い。初め郡會議員として、當地方政界に出馬、當選すること四回、その間、郡政の爲めに日夜奔走、常に郡政改革に關する具體案を提唱し、著々その改革の實績を擧げたのである。續いて村長

に推され、尙ほ消防組頭、農會長等の要職を兼ねて現在に至つて居るのである。

氏は從來民政黨の黨員として、政界に活躍して來たのであるが、政黨の情落と無氣力とを憎み、爲に現在は殿正中立の立場にあつて奔走してゐる。

家庭に於ては、夫人との間に二男三女あり、皆それ／＼社會上相當の地位にある。即ち長男は東京の高等工業學校を卒業し、目下名古屋にて官吏を、次男は大學を卒業して目下滿洲國官吏を、長女は目下北支にて活躍中の歩兵中佐大橋熊夫氏に嫁し、次女も同じく相當の所へ嫁ぎて、三女は家事の手傳をして居られる。

大面村

大面村役場

本村は明治初年に、大小區制の行はるるや第十七大區に屬して、明治十六年用戸掛長制の布かるるに當り、小瀧、高安寺、大面、北鴻等は、大面村外十ヶ村戸長役場に屬し、役場を大面(寶勝寺)に置



き、帯織、前谷内、その他四ヶ村は坂井村に屬し、明治二十二年四月町村制の實施と共に、小瀧より鴨ヶ池に至る七ヶ村は大瀧村と改稱、役場を大面に置き、その他十ヶ村は四王村と、帯織村とに改稱され、役場をそれ／＼の個所に置き、爾後明治三十二年十月四王村は大瀧村に合併し、更に明治三十四年十一月一日町村大合併の實施に際し、大瀧村、帯織村を合併して大面村と稱し今日に至つた。

### 村長

#### 大澤恭平



氏の祖先是、今より三百年前、現地に來り農業を営み舊家なるも時代の變遷に依り廢家となつたのである。その本家より二百年前、分家となり代

代農業を家業とし篤農家の譽高かつた。祖父豊造氏の代に至り、數萬の富をなし、村内有數の徳望

家として、又道路、教育、産業の功勞者として、村内の信望高かつたが、實父享造氏の代に至りて村内北方の山林内に石油鑛脈あるを知り此の採掘に従事、全財産を投じて失財した。氏は享三氏の長男にして、明治十七年に生を享けた。幼少より苦難の中に生立つたために資性意志強固にして、眞摯熱烈なる士にて、あくまでも確固たる信念を以て村政發展に意を用ひ、一身を挺して盡瘁せる多大の努力空しからず遂に村會議員として四期間勤続し、村民の信望厚く、推されて村長の要職につき、現に三期目にして献身盡瘁せる功甚だ多く、産業組合長、農會長村會議員をも歴任してゐる。更に獨力にて運送業及び製材工場を營み隆盛を見つゝある。氏は昭和六年四月選任以來、農會と産業組合の統一を計る爲に其の會長を兼任し、本村の住民の八割が農家にして、商工其他業者は農家の繁榮に隨從して榮え來りしを考へ、農會の指導計畫は村の衰盛を決定するものと信じ、産業

### 大崎村中新

#### 村會議員 竹石 虎次

長男與一氏は重砲兵大尉中隊長にして現在北支に出征奮闘中である。次男哲次氏は陸軍航空兵伍長にて現在恭平氏經營の運送業及び製材工場にて活動中、三男謙治氏は騎兵上等兵にて現時滿洲鐵道警備員として要務に就き、また長女は既に嫁し、次女は家事手傳中である。斯様に子息子女皆立派に成育してゐる惠まれた一家を講成して羨望の的になつてゐる。

竹石家は今より約百七十年前に、同郡本成李村より移住して來た六右衛門氏を以つて開祖とす。

當主虎次氏は、明治二十八年三月二十

五日、先代兵藏氏の長男として生まる。



先代兵藏氏は、明治三十七、八年かの日露戦争に勇

躍出征し、聖戦に参加してゐたが、旅順會戦に於いて、二十八歳を以つて名譽ある戦死をした。今は護國の鬼として靖國神社にまつられてゐる。そののみならず、當主郷次氏も近衛一聯隊に入營し、兵役の義務を果たした名譽の家庭である。氏は勤勉努力の士であつて、前には、大崎村収入役、軍人分會長として、公務に専念し貢獻するところあつたが、今は村會議員を三期間、大崎村農會副會長及五十嵐川水利組合議員勤続十七年間にわたつて、部落の發展向上に、氏の盡瘁するところ誠に多きものがあるのみならず郷政の今日あるは、氏に負ふところ甚大である。

氏は一方、農事研究家として著名であつて、農村の多角的高度經營と、特に有用動物の奨励、即ち馬、牛、豚、鶏、兎等の蓄産奨励等、身を以つて目下試驗施行中である、この研究の成果は各方面より刮目されてゐる。尙氏は眞宗大谷派の信仰の人で、政治的には政友系に屬する人である。

家族は、老母を初め、夫妻の他、子息六名の、圓滿福徳の家庭である。

### 田上村上野

#### 村會議員 吉津 武



當家は當村有數の名望家にして、開祖以來三百五十年を閑した舊家で、當主武氏は實に第十

代目に當る。  
明治十一年 明治天皇東海御巡幸の砌

九月二十一日、畏くも 陛下の御小休所となるの光榮に浴したる所にして、附近に御膳水の井あり、その碑「明治天皇田上御小休所」あり、尙ほ、文部省に於て該碑保存上の必要事項につき説明せるものを立つ。

氏は、先代貫一郎氏長男として、呱呱の聲を擧げ、明治七年十一月二日であつた。資性明敏にして將來を囑望せられ居たる處、果せる哉、氏は宮城縣立農學校に於て、常に優秀なる成績を保持し、その温厚なる性格は全校生徒の範であつた。同校卒業後は郷里にあつて、郷土青年の指導訓練に當り居りたる處、偶々日露戦役勃發するや、氏は勇躍國家の干城として聖戦に馳參じ、滿洲の野に於て、沈着にして果敢、よく奮闘したるを以て、從七位勳六等に叙せられ、赫々たる武勳を樹て、陸軍歩兵中尉として、堂々凱旋せられた。

爾來氏は、一層郷土發展の爲めに意を注ぎ、村民に推されて村會議員として公



職に就くこと實に三十三年、また學務委員として、兒童教育の爲め奔走しつゝあり、斯の如く氏が村治のために貢献せること、洵に大なるものありたるを以て、新潟縣知事よりその功を表彰せられ、且銀杯を授與せらるゝの光榮に浴した。

家庭にあつては、一男二女あり、長男氏は目下大學に於て、學理の蘊奥を極めつゝある。

大島村代官島

村會議員 星野 仲吉  
自治功勞者



當家は當地方由緒正しき舊家として繼承さるゝ家門であり又當村切つての資産を擁する素封家として知らる。惜むべきはその詳細なる記録を寺院の火災と共に烏有に歸せしめたことである。先代俊治氏は村

會議員其の他の公職に在つて、永年村治の爲めに盡力し、その功勞も尠くなかつた。殊にその温容の風格は村民の信認厚いものかあつた。

當主仲吉氏はその男として明治八年の岳降、嚴父の衣鉢を襲いて全く、はやくより齊家修身の徑程に精勵し、夙に村治産業經濟の打開伸展に思念する處あり、現に耕地整理組合長、區長、學務委員、村會議員の要職に在り。殊に村會議員として盡瘁すること三十有餘年に亘り、過這の自治五十周年記念に於て自治功勞者として木杯一個を受け表彰された當村治の元老的存在である。

實に村に及ぼせる各種多様の貢獻裨益は、枚擧に邊なきほどで、名實共に自治功勞者中の白眉である。

資性高潔にして温厚篤實、矜愍の情に厚く、村民の輿望他に比肩を見ない人格者である。

宗旨は淨土眞宗、家庭は八人、常に春風胎蕩として和樂の生活をなす。

本成寺村大曲  
村會議員 諸橋 勝次



居せるや詳細不明なるも、當地に來てから二百三十餘

年を経、代々農業を營み、現在は村内屈指の資産家である。祖父氏は漢方醫として著名、實父喜八氏は村會議員、區長を永年勤績し村政に盡力すること大なるものがあつた。

喜八氏の長男として明治十五年十二月二十日生れたる勝次氏もまた、村會議員農會幹事、水利組合長、區長等の公職を歴任し、良く村政の刷新に力を盡し居るのみならず、長男忠雄氏は在郷軍人分會長、青年訓練所指導員として良く在郷軍人、青年訓練所生徒の指導訓練に精勵し

居りたる處、日支事變勃發し、應召して



長男 忠雄 氏  
上海戰線に活躍中、不幸にして名譽の負

傷をなし、目下陸軍病院に入院加療中である。

氏は性温厚篤實にして言語明瞭、家庭に於てはシメ子夫人との間に長男忠雄氏(三十四歳)、次男眞氏幸枝家養子となり長女次女は嫁ぎ、三女タイ、四女米子は小學校に在り、尙ほ愛孫多數あり。

新潟村新潟

村會議員 小林 傳吉  
消防組頭

氏は、明治十七年二月十七日、當村落中最も古き家柄である。小林家の四郎治氏の子息に生まれ、同家は代々庄屋を勤めて今日に至つた。當家の家系はあまりにも古くして、詳細なる記録の保存はな

いが、舊家名門であることは疑ひなき事である。



氏はかつて、新發田十六聯隊に入營し國民

皆兵の義務を果した、歩兵出身の軍人であり、且つ温厚篤實な性格の人であつてつねに、事件の處理に當つては、大處高處より、嚴正中立の態度を以て臨むと云ふ、誠實の人である。前に農會長、區長、國勢調査員、村助役を四ヶ年、その他多種の公職を勤め、郷土村落の發展向上に就いては、人後に落ちず、氏の功績業績はみるべき多くのものがある。

氏の先代四郎治氏も區長、農區長として、多年郷民の福祉問題に關して、功勞者であつたが、當主傳吉氏また多くの公職を務め、今は、消防組頭に推舉されては、部落の災害防止に、または全五期間にわたる村會議員に推されては、村政の

樞要な地位にあつて、郷土の共存共榮に多大の貢獻をなしつゝあつて、部落民の感謝と信頼を集め、氏に對する徳望は實に大きなものがあつて、村有數の人望高き士である。

大崎村籠場  
村會議員 横山 惣吉

約五百年以前惣左衛門なる人、同郡并栗村塚の目より分家、本村に來つて土着し、現在惣吉氏は第十六代目である。代代農業を營み、先代惣平氏は當村に於ける最有力者の一人にして、永年村會議員、區長等の公職を勤めたる人格高潔の士であつた。

惣平氏の長男として、明治三十一年三月二十五日生れたる惣吉氏は、温厚篤實なる人格者にして、村民の人望を集め、區長を二期勤めたるのみならず、青年會支部長を十一年勤めたる後、更に押されて現在村會議員、農會議員、上井水々利組合委員、私設消防組合組頭の要職にあ



り、村民の負擔軽減及び農業の多角形的經營の抱負の下に、着々村政の改善に盡力しつゝあり、また民政黨員として政治方面に於ても、不斷の努力を致しつゝある。尙ほ庭園の手入を以てその趣味となし、劍道は二段に達してゐる。

### 田上村本田上

村會議員 伏見長藏

氏は、明治二十三年七月二十八日、現地に於いて道藏氏の長男に生まれる。因に伏見家は、開祖以來二百五十年、村有数の舊家名門である。氏は天性溫良謹直の人であつて、起舉動作、誠に高尚であるばかりでなく、人に接する、その眞面目な態度は、舊知の如く親しきものあり、一面犯す事の出来ぬ嚴肅なものがある。氏はかつて、縣立新發田中學校を卒業し、後新潟師範學校にて業を終へた篤學の人である。氏は學究的な人として、そ

の讀書欲は旺盛で、氏の趣味は讀むと言ふ如く、實に向學心の強きは、後輩のよき師表たるべきものである。

同氏の郷村發展に對する抱負は、學村平和を目的とし、嚴正中立、穩健なる理念正しき言動は、つねに村落民の指導者の地位にある。

公人としての氏は、三回目目の村會議員に擧げられ、多年の經驗と學識に依つて村政の開發進展に獻策し、學務委員に推薦されては、氏が師範學校出身であり、特に本問題に就いては専門大家としてその育英事業に對する抱負經驗が誠に鄉村子弟のため幸福なものであつて、九年に亘る永き間、その教育獎勵になしたる功勞は甚大である。

氏は公私を通じて、教育者であり、指導者としての人格の主で、神社氏子總代をも勤め、氏の抱負たる平和郷實現に残しつゝある功績は非常なものである。

家庭では村上中學校在學中の長男及び女學校出身の二令嬢あつて、家庭人として

も、子女教育の範を示した人である。

### 大島村井土卷

村會議員 澁木五郎作

澁木家は相當舊家なるを以て知られてはゐるが、古記録なきため先祖の由來に就いては詳かでないのが惜しい。代々農業を營み、先代常八氏は村會議員に選舉せらるゝこと二回、なほ水利組合の創立者にして、村政及び治水事業に盡力し、以て村民を指導せし功、大なるものがあつた。

常八氏の長男として明治十五年十一月十日に生れたる五郎作氏もまた、區長、消防小頭等を歴任し、村民の人望厚く、村會議員に選舉せらるゝこと三回にして現在に至り、尙ほ推されて水利組合議員の公務に就いてゐるがその盡瘁功勞多大である。

性溫順にして思想穩健、眞宗を信奉せらる。家族九人にして、すこぶる圓滿を極めてゐる。

### 新潟村新潟

村會議員 佐藤公平

公平氏は、明治三十七年九月六日先代



岩吉氏の息子として生まれる

當佐藤家は、開祖以來、あまりにも古き家柄であつて、家系に關する記録なく、詳細は不明であるが、代々農を家業として庄屋を勤めて來た。

尊父岩吉氏は村落のため功勞多き人であつて、村の助役及農會長を五、六年間奉職し、公務中郷土の行政に盡瘁するところ誠に多き功勞者であつた。

當主公平氏は、本年三十五歳の活動力最も旺盛なる、青年行政、實行家であつて、氏は協調組合長として前後十ヶ年、村會議員、農會代議員に推擧されては村政に、または農政に關して、郷土のため

努力してゐるのみならず、前には青年會

評議員新潟支部長、消防第一部長、其外數多の公職に就いて社會奉仕、共存共榮の精神の下に、日夜盡瘁するところ多しその功績は郷村民の稱讚の的である。

氏は曹洞宗の信仰人として篤信の人であり、その性格は理智に富んで、その反面、溫厚であり、事の處理に當つてはその立案及處断は、人々の驚異であつて、英斷力強き、實行家肌の人である。

氏の高潔なる人格と、その熱力は村民の信望と、春秋に富んだ將來を約束されてゐる人である。

### 大島村下須頃

村會議員 田卷源太郎

田卷家は、相當の舊家なるも、今より約二百年前、寺院燒失の際に過去帳その他古記録を失ひたるため、開祖の由來に就いて判明せざるも、代々農業を營み、先代重治氏は村會議員、助役、收入役等の要職を歴任し、多年村のため盡力せし

こと頗る大なるものあり、且つ三十七、



八年戰役當時の内治の功によつて、勤八等に叙され瑞

寶章を賜はつた。

氏もまた、十年間區長を勤めたのみならず、村會議員に當選すること三回、しかも現任中であり、その他方面委員、須頃郷小高樋管普通水利組合議員として日夜村のため盡力しつゝあり、その功績、父君に劣らぬものがある。

氏は性溫厚にして、村民の信望大なるものあり、淨土眞宗を信奉してゐる。

### 本成寺村長嶺

村會議員 西脇文藏

西脇家は元上杉の家臣であつたが、川中島の戰の時、當地に來つて一家を創立し、代々農業を營み、他面庄屋を勤めた



ほどの名門家であつた。家號を「其兵衛」と稱したが、西脇甚兵衛家より分家してより、當主を以てその十一代目とする。

先代榮藏氏は村會議員をはじめ區長等の公職につき、部落のため、將た一村の爲めに盡力せし功勞者であつたが、當主もまた在郷軍人分會理事、同評議員、國勢調査員等を歴任せしのみならず、現在村會議員、消防副組頭として、熱心村の爲めにと努力し、その功勞また尠からざるものがある。

氏は三條市の小學校を出て、明治四十一年近衛歩兵第一聯隊に入營、良く軍務に精勵し、一等兵として除隊した。性温厚篤實、事にあづかるや常に眞剣味を以てする人、村民の信望厚き、また故なしである。

家庭には母堂健在にして、淑徳の譽高きユウ子夫人は内助の勞すこぶる多く、その間に四男一女あり、其の圓滿なる家庭振りは、人の羨望するところとなつてゐる。

### 鹿峠村江口

江口區長  
青年會長  
元村長

蒲澤 藤太郎

當浦澤家の初代を藤右衛門と稱し、元祿十三年に逝去してゐるが、當家は實に眞田幸村の後裔、大阪城落城の際、落人となり、この地を永住の地と定め、爾來代々村松藩の庄屋として土地開發に盡して功があつた。

當家は村屈指の資産家であり、先代康次郎氏は村長に擧げられて永年勤績し、村自治のため、多大の功績あつた人である。當主藤太郎氏は、その長男として、明治二十一年四月二十三日に呱呱の第一聲を放つた人であつて、第三中學校の第一回卒業生である。第三中學校を卒業するや、更に進みて明治大學に入學、法律學を研究し、優秀なる成績を以て卒業するや、當村發展のために貢献せんと欲して歸郷した。

氏は温厚篤實、而も寡言實行の人であるところから、村民の信賴をあつめ、推

されて村長となつた。時に大正十二年であつた。

氏は豫ねてより、當村行政に關し、刷新すべき幾多の點あるを認めて居たので村長に就任するや、自治、産業、教育、水利、電燈等、各方面に互り、實にその改革を斷行し、大にその實績を擧げたのである。

特に氏が五十嵐川の河川班實施に關して致したる努力は、洵に没すべからざるものがある。氏は昭和四年、幾多の功績を残して勇退したのであるが、現在に於ては青年會長として、青年の指導教化に努めて居る。

氏は、青年が懦弱に流れることを憎み青年、特に農村青年は、宜しく質實剛健たらざるべからずとの、信念の下に、青年の嚴格なる訓練に努力して居る次第である。

その多年の努力せる功勞と、温厚なる人格は相俟つて人望すこぶる高く、村民等しく尊敬してゐるところである。

### 大崎村敦田

軍人分會長 布施 正市

當布施家は、今より百六十年前、須戸



の大家であつた人の、兄弟の一人である又衛門氏を以つて、開祖と謂はれ、當主は七代目である。當主正市氏は、先代又治氏の長男として、明治三十八年六月十三日生まれる。

當家は代々農を業として來、現在では二町歩程度の耕作に従事し、先代又治氏は家業の他、部落の協議員として部落の自治行政に盡瘁するところ多かつた。

正市氏は亦、かつて近衛歩兵二聯隊に入營して、歩兵伍長の軍人であるのみならず、氏は趣味として、園藝に、または讀書に、讀書は特に歴史關係書に非常に造詣深い人である。その抱負として、農

村の發展、質實剛健の主張を以て、郷土

に盡すところ多かつたが、昭和十一年四月、軍人分會長に就任し、亦は青年學校教練係として、青少年の訓育に、氏の振つてゐる努力は大、また熱情の人であるばかりでなく、その誠實剛健なる思想と人格は後輩の師表として尊敬されてゐる人である。

また一面、農區水稻部長としての氏は水稻の改良改善、増收の計畫等に關し、不屈不撓の研究と、實現に、郷土人士のよき指導者として、囑望されてゐる人である。

### 大島村上須頃

上須頃區長

小林 伊四郎

當家は元牛ヶ島に連綿の家系を傳へた由緒深き舊家であるが、水禍の爲めに先代祐右衛門氏の代に至り現所に移住せしものである。祐右衛門氏は庄屋としてその名望を稱された人で、先代祐治氏もまた、戸長、村長等、村治の中樞に閣座

して、多大の功勞を擧げた自治功勞者である。日



清戰爭に際しては内治功勞により、菊花紋章

木杯壹組を拜受してゐる。當主伊四郎氏は安政五年十二月祐治氏次男として呱呱の聲を擧げた。家門の血を受け繼ぎて、資性温厚篤實、且剛毅明快、殊に村治産業の開發に眞摯なる精勵を致し、其の永年に亘る終始一貫せる奉公誠心の態度は村民の澎湃たる信望と尊敬を博した人格者であり、現に八十一歳の高齡にして尙壯者を凌ぐ矍鑠たるものあり、元老的存在をなす。

氏は若き頃北海道廳に警官たる事二十五年、歸郷後擧げられて村會議員たること四期、現に區長七年中澤發動組合長須頃郷小高樋管普通組合議員、私設消防組頭(十五年)の要職に執掌して盡瘁して



る。宗旨は浄土真宗である。  
實に氏の如き高齡にして、尙其の多くの要職に責を果すは、我國自治界に於いても稀有のことである。政黨は政友會に屬す。

### 本成寺村東鱈田 農會副會長 坂井彌左衛門



本郡福島村の舊家、坂井清家より分家した家門である。

嚴父彌一郎氏は區長、村會議員等の公職に盡瘁貢獻した人であつたが、惜む可きは五十歳にして黄泉の客となつた。  
當主彌左衛門氏はその長男として、明治三十八年七月に生れ、十代目を襲つた

人、資性温良明朗にして篤實、村民の信任極めて厚い。加茂農林學校の出身にして、曩には青年團支部長、郡農會事務員(四ヶ年)、青年訓練所最初の指導員等に歴任して、夫々其の職責に全きものがあつた。現に村農會副會長の要職に在つて多年研鑽怠らなかつた、農村經營に農事の改善實際を村内に實踐なしつゝある。未だ三十四才の壯年、村治産業各般の上、その手腕と蘊蓄を傾倒するの春秋に富む。村民の期待する又多なるものがある。家族は四人、常に春風の如き和樂を以て知らる。

### 大面村山王 山王區長 小林 義三郎

當家は今より二百年前現地に來り、代農業を営みつゝ今日に至る。實父彌惣治氏は役場收入役、村會議員其他村内の要職にありて村政の爲め活動し、天壽を全うし、八十九才を以て逝去さる。その彌惣治氏の長男として明治九年四

月五日生れたる義三郎氏は、大面小學校卒業後、學究の念止み難く漢學を學び、性温厚篤實なるを以て村民の信望高く、爲めに村民に押されて、山王耕地整理組合長、消防小頭、村會議員、産業組合理事、學務委員、國勢調査員等の要職を歴任し後、現在區長、水理組會議員として村政の爲め盡力しつゝある。  
又氏は耕地整理組合長時代、殖産興業の功勞及び學務委員時代の學校増設のために活動し、全村の信望極めて厚いものがある。家は資産家、村内上流に位置し國民同盟の黨員として政治方面に於ても不斷の努力を致しつゝある。  
家庭に於てはツタ子夫人との間に長男準一、次男義一、三男敬作氏等あり、なほ長女千代さんは家事を手傳つてゐる。

### 中之島村中條 田邊 亮左久

在郷軍人分會長 正八位陸軍 輔重兵少尉  
當家は創家以來約五百年を経た舊家で

代々農業を営みつゝ今日に至つたもので代を累ぬること第十一代目、亮左久氏に及んでゐる。先代喜代作氏は、村の有力者にして信用組合長、耕地整理組合長、村會議員等を永年勤続し、村政の爲め盡力する所甚大なるものがある。  
當主亮左久氏は、その長男として明治三十一年一月二十日に生れた人、加茂農林農科の第十七期卒業生にして、本校を卒業するや、一年志願兵として輻重隊入營、輻重兵少尉に任官して除隊した。  
氏は性温和にして覇氣あり、除隊後、推されて昭和八年より在郷軍人分會長をはじめ、中條消防組頭、中條青年分團長として、良く全員並に團員の指導訓練に當りつゝあり、特に氏は中條第一の資産家なるも、滅私奉公の精神を以て銃後の護りに於て萬全を期しつゝあり。  
氏は更に推されて養豚組合長、その他の要職にあり、あらゆる方面に於て、多大の貢獻をなしてゐる。尙ほ氏は村農會常任幹事を十二年間勤務したる外、多く

兼職しをりたるも、嚴父病氣の爲め辭職した。

以上の如く氏は銃後國民として萬遺憾なきを期しつゝあると同時に、他面耕作地面積残少なる爲め、副業の多角形的經營を研究中である。斯の如く氏は力行の人なるを以て村農會、軍人分會より、それら其の功を表彰されてゐる。趣味は釣遊。

### 井栗村井栗

村 元村會議員 松川 甫恭



其の後累 記錄あり 死亡の由 二月三日 貞享三年 地に來り

當家は(里)祖が出羽國米澤市より現地に來り  
甫恭氏は金澤醫專の出身、既に七十二才の高齡であるが、永年この地方醫療衛生に盡せる功績は極めて大なるものあり村民の信望亦その人格と共に甚だ厚いものがある。曩に村會議員、村醫、郡會議員として、地方自治に及ぼせる功績も多大なるものあり、其聲譽徳望他に比肩を見ない當村の元老である。長男甫氏(三十八才)又日大醫科を卒業、既に氏を輔けて醫療にたずさはり、その臨床的手腕は既に定評がある。現に校醫、村會議員學務委員をも勤め、村治に盡す處亦頗る多く、その温容明朗の資性と共に人望が高い。家庭はシンコ夫人との間に長男甫氏を初め、次男輝武氏(目下、軍醫少尉として出征中)、三男勝吉氏(醫大卒後帝國醫大卒)、四男氏は滿洲國政府行政官、五男星吾氏(南京海軍病院醫師主任)、六男西吉氏(見習士官出征中)、七男法政



大學在學中、長女愛子さんは三條女學校卒業の才媛にして家に在るといふ。七男一女、皆夫々相當の地位を得てる稀有の子福者である。

### 中之島村中之島

青年分團長 西木 晴策



西木家は、開祖以來百五十年、當主は七代目を繼受してゐる。氏は明治四十二年二月二日、源伊氏の二男として生まれ、資性温厚篤實、勤勉眞摯、思想堅實の青年實業家である。

嚴父に當る源作氏も今尙かくしやくとして製紙業に従事して居る。晴策氏は、縣立三條中學を経て、長岡高等工業學校機械科を卒業した秀才であり、若き技術家として誠に春秋に富む人である。

氏は現在製紙事業を經營してゐて、従業員五十餘名を使用し、その盛大繁榮は他人の羨望するところであるのみならずその販路は、縣内は無論のこと全國に渡つてゐると云はれてゐる。

氏はかくの如く、若き實業家として成途上の人であるばかりでなく、常にいだいてゐる主義主張は、國民體位向上を目標し、青少年の體質的進歩と、人的要素を涵養することに留意してゐたが、これが實行に昭和十二年四月、中之島青年團分團長に就任するや、一意専心努力されてゐる。

氏は剣道をよくし、専門である機械工学については、日に夜に最新の學究につとめ、趣味として勉學にいそしみ、郷村民の氏に對する期待と信望は厚く、將來を囑されてゐる若き紳士である。

### 新瀨村下島

三條銀行 大橋 敬作

そもそも當大橋家は、上杉家の家臣大

橋彌五郎の次男が、故ありて今より三百年前、當地に來住せるを以てその創家となし、爾來累代當地方の代官を勤め、また大庄屋として連綿たる家系を連へる當地方切ての名門にして、また舊家たる家柄である。

先代一藏氏は稀に見る人格の高潔なる人物にして、また剛毅磊落、忠孝の志あつき人格者であつた。十五歳の若年を以て單身上京、専心漢學を學びてその蘊蓄を極め、のち前原一誠と親しき交はりあるを以て、明治初年秋の亂に参加し、無期の刑を受けしも、入獄後五年にして獄を出で、其の後は郷里に在りて漢學塾をひらき、専ら子弟の育成につとめ、遂に明治維新の志士として、篤學者として、郷黨の信望を一身に集め尊敬された。

當主敬作氏は明治六年石田傳治氏の三男として生を享けた。清廉また高潔なる資性を有する人格者にて、尙事業方面に卓越せる手腕ある材幹である。のち一藏氏の懇望によりて當家を嗣ぎ、學業は幼

時より頭腦明敏を以て優秀、縣立長岡農學校に修めた。卒業後は専ら事業方面に竭して、曾て南蒲原郡農事試驗場長として農事伸展上に尠からざる効を奏し、現在三條銀行頭取、新潟銀行三條支店長安田生命三條代理店長として縣經濟の樞機に參畫し、専心經濟の圓滿なる運行のために努力なしつつあり、その事業成績きはめて優秀、地方稀に見る手腕家と稱され、衆望の的となつてゐる。

家庭は圓滿にして、淑徳の譽高きノブ子夫人は村婦人會長、縣女子青年團副團長、縣婦人會副會長等の要責にあり、その寄與貢獻また頗る多大にして、表彰は社會事業功勞者として大正十二年宮内省より受け、その他内務省、文部省、逓信省等よりも受けて、縣婦人界の重鎮と稱されてゐる。敬作氏もまた銀行永年勤績に依り表彰を受けし事がある。

令息みな俊器英才にして、長男清藏氏は島根縣立松井農學校長の重任にあり、次男泰藏氏はカラフトトラック合同會社

長として活躍、三男三朗氏は神奈川縣葉山工場課長として手腕を顯はれ、四男長四郎氏は新瀨信託株式會社に勤務中に當家は村民羨望の的となつてゐる。

### 中之島村眞野代新田

眞野代 齋 藤 喜 一

眞野代 齋 藤 喜 一



當家は當村屈指の舊家にして、創祖作三郎氏は約五百年前に、中條新田齋藤家より分家した

當主喜一氏は、明治二十一年十二月五日の誕生。性温厚篤實なる人物にして、部落民一同より敬仰されてゐる。初め推されて農區長に就き、農に關する當區各種の施設を充實し、農業經營を改善して増收を計つた。特に當區に於ける農業の

多角形的經營方法は、氏の提唱にかゝるものである。氏は當區農業に關し、幾多の功績を残して、農區長を勇退したのであるが、現在なほ區長、耕地整理組合議員、信用組合員として奔走し、着々その實績を收めつゝある。

氏は田を二町五反を耕作し、昨年は反當り三石程度の増收である。以て、氏が篤農家たることの一端を知ることが出来る。氏は淨土眞宗を信奉し、信仰また頗る篤い。なほ政黨についても、多大の關心を有し、民政系であるが、常にこの黨の墮落を憂慮してゐる。また氏は、農村が都會に比し、その負擔の過重な點を指摘し、その負擔の公平なるべきことを絶叫して居る。

### 見附町

素封家 關本彦左衛門

當家は今より三百數十年前、同縣三島郡より移住し、農を營んでゐたが、中興の祖より、爾來庄屋を勤めて來た、舊家



名門である。當主彦左衛門氏は、明治三



十二年十月三日  
先代彦司  
氏の長男  
として生  
まれ、資

性温篤な、潤達之士である。

先代彦司氏は、町會議員及見附町産品組合専務として、永年勤続貢献するところ多かつたが、本春、村民の哀惜のうちに長逝された事は、實に郷土の一大損失であつた。當主はかつて、加茂農林學校に於いて農學を修めた秀才であつて、専ら家事の外に、農事に關し研究を爲してゐる篤學の人である。

氏は、人に接するに親和を以つて、その温厚なる人格は、村民人士の信望厚きものがある。氏は、郷政に於いても、つねに中立の立場にゐて、その正論は、他の敬服するところであつて、今後に於ける氏の活躍は期待されてゐる。

春秋に富む青年篤農家としての將來は隆々として遠大なものである。

當主は、村内有數の素封家出身だけであつて、小事に拘泥せず、大處高處より事物の批判と、その達眼の知識は、刮目に値すべき、村の有爲人士である。

### 中之島村中野西

信用組合  
常務理事  
杉本義榮

明治三十五年、杉本本治氏の子息として生まる。當杉本家は由緒ある家柄であつて、開祖は上杉氏の重臣杉本權太夫が並木新田に居城を構築するに始まり、その孫に當る人、當村の八幡神社の神官となり、爾後代々神職として奉仕し、河原の荒撫地たりし中野西開墾された時、當地に移住した。

當家の初代神官たりし、杉本大隅、藤原重次氏は天保年間、吉田殿より神官職を授けられ、延寶六年、杉本薩摩、藤原義守も同様、吉田殿より神官職を授けら

れて今日に至つた、村内きつての名門である。

先代杉本速門丈雄氏に次ぐ、義榮氏の實父本治氏は、現在村社大字中條日枝神社本務社掌及び無格社二十社の社掌を奉仕する身であり、前には神職の他に、中之島信用販賣購買利用組合常務理事として十ヶ年勤続、村の有識功勞の人で、現在七十の老齡にも拘らず、今尙壯者をして活動家で、理財に長けた人である。

當主義榮氏は、謹嚴にして理智に富める人格者であり、かつて八ヶ年間小學校に奉職し、子弟の薫育に當り、農會長、國勢調査員等を経て、現在は村社中之島諏訪神社本務社掌、中之島販賣購買利用組合常務理事として、活躍努力されてゐるのみならず、當家は敬神の念實に篤きものがあり、皇室中心主義の名門一家である。

氏が神職をしておられる、中ノ島にある村社諏訪神社は、承久二年三月村社となり、元祿十六年三月再建、明治六年造

營、境内約七百五十坪あつて由緒深く、昔より水口公の祈願の社として、當社寶物及び貴重品には水口公奉納の繪馬等あり、毎年八月二十六日、燈籠神事の行事をなす。この外村社の本務以外に、兼務をして居られる社だけでも十五社に近きものあつて、その高德人望は郷村民の師表たる人である。

なほ先代本治氏がいまなほ神職にいられる村社日枝神社は、天正年間の創建であつて、境内一反七畝餘、元祿二年再建をし、明治五年十月、村社として昇格した歴史古く、祭神には高見産靈神を祠つて、三百人に近き氏子等、誠に敬神の念厚きものがある。

### 福島村若宮 名門 田中秋藏

當家の祖先は、其の昔、上杉氏の臣下にして、越後春日山に居住しゐたるも、後、藩主と共に出羽米澤に移住、その後高田に來り、今より三百年前、當地に來

り、開墾事業に従事し、異常なる努力の後、遂に

現在の福島を建設  
その徳に  
依り、田  
中神社に  
祀られ、村民之を神として敬ひ、爾後累代、大庄屋として、近村一帯の取締に當つて來た。

當主秋藏氏は、温厚篤實の人にして、篤農家として、不斷の努力を續けつゝあり、又常に農業經營の進歩改良に留意しつゝある。

當家は、近郷第一の舊家にして、且名家たるのみならず、當村第一の資産家である。しかもその資産は百萬を超ゆるときへ云はる。

家庭にありては、キエ子夫人との間に長男稚次君あり、性明敏にして將來を囑望され、目下小學校に在學中。長女は既に他家に嫁し、二女、三女は目下家庭に

ありて、家事を手傳ひ、兩親の好き補助者なり。

### 中之島村西野 名望家 入澤敏太

當家は今より凡そ三百三十年以前、信州入澤村より來りて、當地に土着したる村内有數の舊家たると共に、また村内屈指の名門家なり。代々庄屋を勤めて、郷土發展の爲め貢献する所、頗る大なるものあり。

前代茂氏は、性温厚篤實、人格高潔の士にして、村民の信望を一身に集め、最初推されて信條村の村會議員となりて、種々村政の爲め、奔走し居りたる所、更に村民の渴望する所に依り、信用組合長の要職に就任し、爲めに本組合の發展、見るべきものありたり。然るに更に村民の推輓に應へて、遂に當村々長となり、永く村長の要職にありて、村政の刷新、村民の指導に力を致し、村民は氏を慈父として尊崇したり。



前代茂氏の二男として、明治七年十二月二十日に呱呱の第一聲をあげた。當主は、その温厚なるに於て、また篤實なるに於て、前代茂氏に劣らず、其の高潔なる人格は、自ら村民をして心服せしむる所なり。

氏は、第二高等學校を経て、帝大醫科に進み、同科卒業後は、中之島村に於て約六ヶ年間、開業したる後、三島郡寺泊町に於て約五十年間、醫師として盡瘁し郷土の衛生向上に資すること頗る大なり氏は、曾て信條、耕地整理組合長の要職に就きて、良くその明晰なる頭腦を以て當組合事業を指導せしのみならず、その慧眼は、信濃川堤防外の無毛地、百餘町歩を耕作することに依り、これを一變して美田となせり。

氏の令息保氏は、新潟醫科大學卒業後現在長岡市に於て醫院を開業せらる。また氏の近親に、東京帝大名譽教授入澤達吉氏あり、更に 大正天皇の侍醫たりし小池博士あり、入澤家の醫學界への業績

亦大なるものありといはねばならない。

### 福島村福島 舊家 關 成四郎

當家は今をさかのぼる二百五十年前に魚沼郡より來りて、此地に農業を始めた土地有数の舊家である。村内屈指の資産を以て稱する素封家である。

先代清四郎氏は稀れに見る眞摯の篤農家として、齋家の道に精勵した人で、その温厚な人格は人々の尊敬を得てゐた。

當主成四郎氏はその長男として明治七年に呱呱の聲を擧げた。嚴父の血をうけて天性温厚篤實、殊に無碍明朗の風貌は村内の人望自ずとあつまり、曩に村會議員たること二期、學務委員、區長、水利豫防組合委員等に推輓されて、普ねく盡瘁してその要職を果した材幹である。その功又尠からず、殊にその言説の中正にして矜憫の情に厚きことは、氏をして益益仁徳の厚きを收させしめてゐる。

長男仁吉氏(三十九才)も家に在りて農

事に精勵し、次男秀太郎氏は分家なし、長女針子さん、次女シユ子さん共に家事を手傳ひ一家團欒、常に春風駘蕩の和樂の家庭をなしてゐる。

## 東蒲原郡

### 上條村九島 村 社 熊野神社

當熊野神社は、仁徳天皇時代十六年八月當地合主許々彦なる者初め伊邪那拔尊人柱九野社と稱し、天平四年三月十五日社殿を再建したが、その折、三社を祭り久野社と改めた。その後、大同弘仁の年間、早空貝本地佛を置き熊野神社と改めたが、靈驗頗るあらたかにして、古來崇敬者多く、近在は勿論、遠隔の地に於ても聴き傳へ、參拜者ひきもきらず、明治五年十二月村社に昇格したものである。祭神は長くも伊邪那拔尊、車鮮男命、速玉男命をお祭りし社殿の面積十九坪七合五勺、境内の廣さ二反六畝二十一歩ある樹木鬱蒼と繁り、夏なほ冷氣を覺え、神殿の氣邊りに充ち／＼てゐる。當社の基

本財産は八百五拾九圓九拾九錢、債券參百六拾圓、例祭は毎年九月九日であるが盛大を極めてゐる。氏子數は現在百三十名、氏子總代は齋藤民太郎、江川良元の兩氏で、共に村民の信望厚い人格の持主である。氏子範圍は小川村、太度那村、常浪、廣澤、上條村、拂川、雲善寺、九島、長木、大門、野中の廣範圍に互つてゐる。

### 神主 齋藤吉榮

氏は故政吉氏長男として生を享け、先祖は代々農業を營み、篤農家であつた。氏は當社神主として六代目に當り温厚篤實なる人格の所有者であり、神ながらの道をしらしめず人として、村民の信望篤く、かつて日露戰爭に出征し譽れある大功を建て、勳六等從七位に敘せられた。氏は長期に互り郡役所に奉職し、

### 津川町 縣立津川農村學校

電話津川局四一

又、軍人分會長として拾餘年の間勤続した。同氏長男吉胤氏は、東京國學館出身の秀才にして、三八木陸軍歩兵少尉であり、目下新庄中學校教員として第二國民の黨育に當つてゐるが、新進氣鋭の教諭として生徒間に人望がある。

本校の沿革は古く、明治三十四年五月二十日に組合實業補習學校として設立され、同三十九年五月二十七日には、郡立農學校に、大正十一年には縣立として現在に至る間、茲に三たび、その所管主體の變更を見るに至つた。

本校の教育方針は、正直、勤勉を以つて、校訓となし、將來地方の中堅人物として確乎たる信念と農業精神を體得せしむるにある。

本校の特色または、特殊施設としては、羊毛加工施設があり、本施設に依つて年産七十着分のホームスパン服地及







いて、區政の著効を擧げられたのみならず、または信用組合組合長として共存共榮の實を結ぶに至つたことは、氏に負ふところ尠なくない。

氏は非常な事業家であつて、趣味即ち事業であり、事業、即ち趣味と云はれる位の活動家である。

氏の活動範圍は殊に廣く、公私共に繁忙を極めてゐるが、運送業を經營し、一方、木炭材木業をも兼ねてゐて、いづれも大をなしたのは、實に氏の活動力の賜物である。

氏は現在、第三期に互る村會議員として部落の自治行政に多大の貢獻をなしつつあるのみならず、前には、信用組合長として、部落民共營事業に、顯著なる業績をあげて、村民の敬意を受けたのみならず、青年團長、消防組小頭として、青少年の訓育に、災禍の防止等に就いての功勞者であつた。

尙忠治氏は政黨色としては、政友會系に屬してゐる。

### 上條村 拂川

村會議員 齋藤重次  
勳八等功七級  
當齋藤家より、開祖以來三百餘年、家系



連綿として繼承されて來た舊家名門であるのみならず

先祖代々より、區長、村會議員として、郷村の開發に貢獻多き家柄である。

當主重次氏は、明治十二年九月二十八日、先代長太郎氏の子息に生まる。天性温厚にして柔和な人格者として、人々の信望を荷擔つてゐるのみでなく、かつて氏は、明治三十七、八年、かの日露戰爭に際しては勇躍出征し、皇軍の威武を中外に宣揚し、聖戰遂行に功勞多きものがあり、後、戦功に依つて勳八等功七級、白色桐葉章の光榮に浴するに至つた、名譽ある勇士である。現在村會議員、農事

實行組合長、拂川消防組々頭の公職に推

舉されては、村政に關與し、農事の改善改良に災害防止策、部落開發の樞要に、氏の盡力せざるはなく、その功績誠に大なることは云ふまでもない。

氏は多年、村政に努力したる功績に依つて、各方面より表彰されたことは、枚擧するにいとまないものがあり、如何に氏が斯界の公人として、献身奉公したかを知るに足る。

### 小川村

村會議員 廣瀬 九八郎  
消防組頭

氏は加茂農林出身。旭川聯隊歩兵である。先代熊八氏長男として、明治二十二年呱呱の聲を擧げた。天性温厚にして篤實、しかも眞摯なる人格者であり、家業は、木炭仲買商を爲し、廣範に互り賣買の周旋をし、又木炭業組合長として活躍するなど、努力の人である。

先代熊八氏は、助役、村長、村會議員として永年の間歴任し、徳望あり、それ

を受け繼げる九八郎氏も又、助役、村長村會議員として自治事業に献身、自他を超えて公共事業につくし、信する處に依つて村の發展伸暢の爲に邁進した。同家は又六百年もの連綿たる歴史を有する家柄であり土地の名望家として知られてゐるが、氏の家庭は圓滿、常に春風の中に在る。

氏は亦趣味の人であり、中でも謡曲は既に玄人の境に在り、謡曲に依つて得た腹の坐りが氏の閱歷の上に精彩を放つてゐるのであらう。

### 揚川村 清川

村會議員 佐藤和輔  
勳六等



て、先代浪次氏の長男として生まれ

家は、代々庄屋を營んで來た名門で開祖以來十九代、連綿として繼續して來た舊家名門である。

氏は幼少にして、頗る温厚にして勤勉の資性を具備し、徳行の人であるばかりでなく、向學の念、人よりも強きものがあつて、早く青雲の志を立て東京の明治大學に於いて學を修めた。

學業なるや一年志願兵として、高田聯隊に入隊し、國民皆兵の義務を果し、爾來今日に至るまで、郷村の開拓發展に努力貢獻して來た活動の士である。

氏の嚴父に當る浪次氏は、村制實施當時より二十年以上の永きに亙つて、村長として郷關の發展に資した功績は實に大きなものであつて、後には縣會副會長として、縣政會に重要な役割をなしたことは有名なるのみならず、當村に於ける出世成功者の一人である。當主は先代の薫陶を受けつねに公共事業に關しては私心を滅して、蘊蓄深き學識と相俟て、人々の指導者として、信望を背負ひ來つた

のみならず、かの日露戰爭當時には、銃後任務に對して氏の活躍奮闘振り、村民の等しく感謝するところであつた。後になつて銃後任務の功績を召され、長くも青色桐葉章及金一封拜受の光榮に浴し後には勳六等の破格の光榮は、當氏にとつて感激恐懼おくあたはざるものがあつた。現在村會議員として、村政に關與してゐるのみならず、後輩のよき師表として、育英に留意されてゐる一方、山林事業にも關係してゐて、奔命の活動を爲しつつある。

氏は趣味として、公私事業の餘暇には一竿一糸に託して、世俗の邪念を流し、後の計畫にのりて思想の廻らずと云ふ如き釣道の趣味人である。

### 三川村 下網木

村會議員 飛田野 敬一郎

氏は、明治三十二年十月十日、飛田家の治太郎氏第五男として生まれた。氏は幼時より才童の聽え高く、非常に頭腦明



晰なるのみならず、資性温厚、今日の大を爲すに早くより、その天性を具備してゐた人である。當飛田家は、本下綱木では最も古き家柄であつて、代々農業を營んで来たばかりでなく、郷土開發に功勞多き名門一家であつた。

敬一郎氏は眞言宗の信仰深き人であつて、凡ゆる事業に於ても、この信仰は一つの燈明臺となつて暗示するものがあつた。當家曾祖父に當る和吉氏は、村會議員として、村の助役として、または收入役、學務委員、區長、其他の職を歴任した人であるが、村の行政に對しての氏の功績は、今日尙膾炙するところである。

敬一郎氏は、村の小學校を経て、兵役は第一乙種であつたが、この果せなかつた兵役義務の代りに、村落の開發に甚大なる努力をなしたつて、現に氏の關係して居る公職をみるに、村會議員として、現在は第四期目であるが、その行政手腕と高遠なる抱負は、つねに人の指導的地位にあるのみならず、また副區長と

して、農會評議員、消防部頭、部落民總代水稻組合長として、多方面にわたる郷政に盡瘁した氏の功勞は筆紙に盡せぬ程數々のものがあつた。

これ等公共事業のみでなく、氏は一面事業家として、植林事業の支配者としてまた木炭事業家として著名であるばかりでなく、氏の郷土に盡したる功績について、各方面より贈られた表彰状及び感謝状は枚舉に遑なき状態である。之等光輝ある記録は、勿論氏の功績に對する表現であつて、如何に活躍家であるかを知ることが出来る。

氏は公共事業に献身的奉仕をなすのみではなく、事業家としての活躍と、また政治家としては、政友會系に屬する人士であつて、部落の自治、または自治行政知識は、氏に負ふところ絶對なものがあつて、部族の自治、または自治行政と云つても過言ではない。それ程氏は社會人であり、活動のために生まれて來た人の如く、今後多方面にわたつて氏の飛躍は村民の大きな希望である。

### 上條村 九島

村會議員 齋藤

佐

當家は、現主に至るまで、七代を數へ



る名望家であつて、代々農業に従事して來た。

は明治十八年一月一日、佐喜次氏の長男として生まる。代々家事の傍ら、郷村のため盡瘁して來た家柄であり、先代佐喜次氏は、村會議員として三期間、その他の公職に在つて、郷村のため貢献するところ多かつた。

氏は、資性温厚なる勤勉努力の人であつて、篤信の士であり、現在村會議員として、郷土の開發に盡力されてゐるのみでなく、九島養蠶實行組合長として、地方蠶業の發達向上に、東蒲原消防組合評議員に推舉されては、村落の災害防止に

その抱負を實現實行してゐる篤志家として、郷民の信望厚き人格者である。

### 小川村

郵便局長 山口 節

氏は、新潟師範出身後、津川農林學校及び津川小學校その他に教員となり、後ち小學校長に榮進した。兒童は勿論、父兄間の敬慕厚く、且つ人格者にして眞摯圓滿なる資性の人である。現在は方面委員豐實郵便局長を勤め功績が有る。當家の宗教は曹洞宗にして同氏も信仰篤く、朝夕佛前に合掌するなど、教育家たる氏の面目躍如としてゐる。

當家は舊會津藩士、會津魂は連綿五百年に亘り、家系に光彩を添へて來たが、氏は先代才三郎氏の長男として明治二十八年八月三十一日同村に呱呱の聲を擧げ、先代も局長、方面委員として信望厚く、名門の家柄である。又氏は趣味多く風雅を愛し、動の極地たる靜の哲學より生れた俳句を好み、俳人として自他共に許さ

れた人であるが、その境地は、氏をして常に清廉の士であり、潔白の人である人格に寄與するところ大なるものがある。

### 揚川村

村會議員 神田 長三郎

當主長三郎氏は、神田家の先代直太郎



氏の千息として、明治十七年十一月十五日、現住地に

生まる。當家は現主を以て、三代であつて、農を以つて業となして來た。部落民の信望最も厚く、郷村一番の資産家でもある。

氏がかつて日露兩國間の風雲急を告げ不幸にして遂に干戈を相交ふるに至つた明治三十七、八年の日露戰爭には、名譽ある軍人として、勇躍出征、聖戰に参加して皇軍の威武を中外に宣揚し、凱旋し

た榮譽ある勇士である。後村の助役を勤めまた村長として、多年村政に參劃した樞要の人士であつて、その業績に多大の手腕力量を示した人であつた。現今では村會議員として郷村自治繁榮策につき、農會長としては、農産品の増收改善策に關し、または、郡産業組合の理事として、氏の多年にわたる體驗より生まれたるところの、立案獻策に依る各方面に於ける功績は、誠にみるべき多くのものがあつた。

當家は先代も、區長及村會議員として村政に盡瘁するところ多々あつたが、父子二代に續く自治行政の功績非常に多き家柄である。

氏は一面信仰の人として、淨土宗の信仰者であり、政治的には民政黨系の人士として活躍されてゐる。

### 三川村 新谷

村會議員 齋藤 正 吾

當齋藤家は、家系古く、建保年間、齋



藤外記正吉氏、上條村九島より三川村新



谷村に移住し現住地に定住するやうになつた氏を以つ

て當家の開祖とし、爾來農業に従事して來た。代々家業の他、地頭及び區長として郷民の指導と福祉を計つて來た名門である。

當主正吾氏は、明治二十七年四月二十七日、先代藤吉氏の三男として生まる。生まれ乍らにして、資性温厚、篤實な人であつて、氏の資性は、公私の事業に反響してゐて、信望を厚きものがある。

氏はかつて、網木高等小學校に學び、長じて村政の發展に専念するやうになつた、社會奉仕の精神強き人である。

現在氏は、村會議員として、村政に努め、學務委員に擧げられては、子弟の育英事業に、新谷消防組頭に推擧を受けて

は、村落の災害防止に、農會總代としての氏は、農事の開發、増産計畫等、實に多方面に亙つて氏の活躍と貢獻するところは誠に多く、郷村民感謝と、信望を集むるに至つた。

氏は公職として、育英事業に留意して來た人であるばかりでなく、家庭に於いても訓育に意を用ひ、長男廉造氏は、新發田中學を、二男正治氏は、新發田農學校、長女きち氏は新發田工藝女學校の出身者であつて、揃つて、才士の人である。その他四人の子息あつて、それぞれ學にいそしんでゐる、圓滿なる家庭をなしてゐることとは、村内の名門として、はじぬものがある。

### 小川村

區長杉崎 效

當杉崎家は、開祖以來一千年、連綿として繼いで來た家柄であつて、村内でも稀なる舊家名門である。當主效氏は先代勝太郎氏の子息として明治三年呱呱の聲

を擧げ、生まれ乍らにして温厚篤實な天性を具備してゐた。

氏は敬神の念篤く、この信仰の賜物として、年上者を敬ひ、年少者を指導するといふ、常に人に接してその温健なる情思と風采は、郷民の信頼を得るに十二分の天品を備えた人である。

氏は當村移住開祖以來、一世紀の長き亙つて、郷土の開發に功勞の多かつた名門の出にふさはしく、つねに村落の公共的の事業には、第一線の勇士として、その活躍は人々の稱讚の的となつてゐる人である。かつて氏が、村長として郷村民の信望を背負ひ、村政を掌握するやうになつてからは、氏は、村の開發と農産製品の改良改善、擴張、増收計畫案、矢張り早に最善の方策に基いて、多年の經驗と知識の蘊蓄を傾けての、その活動振りは實に目醒しき多くのものがあり、氏の功績は今日當村の繁榮をもたらすに至つたと云つても過言ではない。

そののみならず氏は、現在學務委員と

しては子弟の育英事業に、または區長に推擧されては、村勢の繁榮策に就いて晝夜わかつ奔命の努力をなし、その反面

には、方面委員として、隣人の救済に乗り出して、氏の人格と温情はこの方面事務の適任者にして、非常な好結果を擧て來た。かくの如く氏は郷土のために、社會奉仕の信念あつき、稀なる人格者として人の尊敬を受くるのみならず、その行ふところの計畫は、他人の追従を許さぬ程、健實なるものであつて、まったく氏は當村にとつて、よき指導者であり、よき師表として、大きな存在と云はねばならぬ。

### 三川村吉津

吉津區長 木村 勇 八

氏は、明治六年五月、先代直三氏の子息として生まる。當木村家は、當代に至る迄十九代、家系連綿として繼いで來た名家であつて、代々農業を營み、地頭として、郷土の開發にその功績多かつた。

先代直三氏は、區總代として十年、區長として



長として一年間、特に努力するところ多きものがあつた功勞者である。當主勇八氏は、十年餘に亙り、區長として今尙村行政を掌つてゐるのみならず、吉津養蠶實行組合相談役として、養蠶事業の改良改善に、その努力はみるべきものが多い。

氏は政黨人としては民政黨系に屬し、その温厚なる資性と高邁なる人格は、郷村民の政治教育啓發に資するところ多かつた。尙氏は、趣味として「馬」に就いて研究し、馬種の改良、畜産に關する氏の研究と蘊蓄は、他人の追従を許さぬものがある。

多年に亙る、氏の郷村政上各方面についての功績に依り、その衆望は厚く、信頼されてゐる。

### 揚川村

方面委員 須貝 吉次郎

當家は代々農を營み、氏は實に八代目に當る。明治二十四年十一月、先代市太郎氏長男として生を受け、資性温厚篤實圓滿なる人格者である。

先代市太郎氏は區長を爲し信望厚く、氏も又その血を承けて徳望の人であり、父より引繼ぎ區長の職に在ること昭和七年迄、後昭和八年より方面委員として現在に至る。氏は高田聯隊騎兵として軍務に服したる事あり、忠實勤勉にして果敢なる軍人として、上下より敬愛されてゐた。同家は代々浄土宗にして、その家庭は圓滿、常に和氣霽々としてゐる。

方面委員として氏の活動は目醒しきものがあり、貧しきを助け、強きものに抗し、土を愛するは氏の道徳であり崇高なる皇道精神の現れである。村の發達發展に氏の關心は絶えず注がれ、村と共に伸び育つとは氏の希求するところである。



三川村田川 忠太郎



當家は代々農を營み、精農家として知られてゐる。氏は六代目に當り、故竹松氏長男として

明治十二年十月三日本村に生る。

先代は區總代として功勞あり、當主も又村會議員、消防組頭として十年、白崎



養蠶實 行組合 支部長 支部長 養蠶實 行組合 支部長 支部長 養蠶實 行組合 支部長 支部長

て圓滿なる人として敬愛されてゐたが、現在は區長として十九年目、縣統計調査委員として功績あり、臺灣守備兵として

軍務に精勵してゐたことがある。

長男氏は農業に勵み、長女りよの子さは横須賀の海軍中島兵曹長に嫁いでゐるが、東京瀧野川區東京高等蠶絲學校に在學し、宮城内紅葉山養蠶所へ二回に互り奉仕の光榮に浴した。次女たいさん、(三十歳)は目下養蠶學校教婦長として勤務してゐる。

三島郡

與板町

與板町長 倉品廣吉

電話與板四十九番



當三島郡與板町は、現井伊子爵の舊城下にして舊郡役所の所在地であつて

に當與板村大字本與板を合併した、人口八、六七九名、一、六六七戸の郡有數の町である。

當町の指導者として、多大なる業績を爲しつゝある倉品廣吉氏は、明治十九年一月一日、定治郎氏の二男に生まる。

當倉品家は、郡内黒川村より移住して來たのであつて、開祖以來四代目、代々「定治郎」を襲名して來た名門の一家である。

同家の初代及二代の祖先は、郡内有數の雜貨商を營み、財を成した人であつて先代定治郎氏は、専ら政界に隱然たる勢力を有して、その方面に活躍し、代々功績多き家柄である。

當主廣吉氏は、明治四十五年東京帝國大學の法科出身であつて、當時代に於ける當地方切つての先進的重鎮である。

氏は、資性篤實にして、人格圓滿なる衆望高き、座談に長じた、高潔の士であつて、當時、帝國大學法科出身の多くが官界入を爲すに、氏はこれについて考ふるところあり、歸郷しては、先代の意志を繼承して、郷土のために粉骨碎身、そ

の功績は、實に筆紙に盡せぬ多くのものがある。

氏は先きに、町長就任前には與板銀行の頭取として、その學識と人格とをもつて、地方金融界發展に努めたるが、後に町村政をあづかるやうになつては後進に譲り、専ら町の行政にたづさはるやうになつた。

氏の關係してゐる公職は、實に十指にあまるものがあり、第五期間にわたる與板町長、三島郡町村長會長、三島郡農會長、與板町尙武會長、與板町皇軍會長、愛國婦人會顧問、黒川村水害防止組合會管理者等々、町村の行政について、氏の指導によらぬものはなく、私を減して、公人としての氏は、町の開發のための人であると言つても過言でない。

氏の町村に對しての功績は、他人の追従を許さぬものがあり、よき指導者として、亦よき師表たるべき高邁なる紳士である。公人として非常に多忙である氏は、ま



た趣味人として、園藝をよくし、旅行に出でてはつねに新しき文物に細心の観察を怠らない。

氏は地方政界の大なる存在であるのみならず、つねに不偏公正の態度を以つて事を處するのであるが、強ひて氏より政黨を求めらば、民政黨系の人と云ひ得らる。

家庭には、郡内脇野町名家の出身であるみさ子夫人の他三男あり、令夫人は長岡高女出身の才媛と云はれた人である夫人は生花、編物をよくし愛國婦人會分會長、前國防婦人會、現同會評議員として銃後の婦人として、萬全の奉仕をなしてゐるのみならず、内助の功すこぶる多き、令名高き夫人である。

令息の長男稔氏は新潟醫科大學に、次男義雄氏は山形高等學校に、三男春雄氏は長岡中學に在學し、勉學中であつて、同家は地方の資産家として、また功勞者として、郷村民の信望あつき、名門の家である。

### 塚山村

塚山村長 長谷川 潤二郎

當長谷川家の家系は古く、武人の末裔であると云ひ傳へられてゐるが、本家の外に就いては詳細不明である。本家は塚山村第一の資産家として、亦郡内屈指の舊家名門として聞える。

本家の當主は、内閣統計局長官として官界に功あり、名を遂げた人であるが、病を得て現在歸郷保養中であつて、同家は代々庄屋を勤めて来た家柄である。

分家としての長谷川家は、七代前に分家し、本家に次ぐ塚山村第二の資産家として何れも名門である。

當主は、明治三十二年十月三日、益人氏の子息として生まれ、明治大學經濟學部出身の材幹である。

氏は天性剛健にして、言語明快なる人であつて、村長、消防組頭、農會長、信用組合理事、青年團長に推舉されて、郷土の文化及自治事業に就いて、その豊富

なる學識と相俟つてその業績は實にみるべき多くのものがある。

氏は、若年にも拘らず、村長の要職にあつて村民の共存共榮の爲に實績を挙げその人格と手腕力量は、人の師表たるべく、今後のその活躍は大いに期待されてゐる。

家庭には、當年五十九歳を迎へ、かくしやくたる元氣ある、母堂を首めとして内助の功多きツヨ子夫人との間には三男二女あり圓滿なる家庭である。

### 與板町泉町

町會議員 木村 丑太郎

電話與板六一番



大河津郡馬越村の舊家木村與吉氏の四男として生る。

氏は明治四十三年、即ち二十四歳の時鉋の製造業を始め、以來三十餘年間、現住地に於いて、當地最大の鉋製造業家として大をなすに至りし勤勉努力の士である。その産額は年十二、三萬枚の多きに上り、販路は三條町の問屋を通じて、全國に行き渡つてゐると言はれてゐる位の盛大振りである。尙その製品銘は「村國」と稱し、最優良品として聲價を高めるに至つた。

事業家としての氏は、まづ家業の他に野村生命保險株式會社代理店を兼ねて業績をあげてゐる。また鉋製造工場を次ぎ次ぎに擴張し、昭和三年に第一工場を、昭和十二年に第二工場を増設して、従業員三十餘名を使備する、大事業を爲すに至つた。

之等實業方面のみならず、活動家である氏は、つねに郷土發展上に思ひを馳せ盡瘁するところ多大である。現在尙も、與板町會議員、町内委員、泉町區長に推舉され、町政の綱要に參じ、郷土の繁榮

について功勞をなしてゐるばかりでなく鉋製造業者の親睦團體である同親會長として、氏子總代として、郷村民の指導的地位にあるは、最適の人として申分なき士である。

氏はまた趣味として盆栽をよくし、その恬淡なる明敏な勤勉なる性格は、此道に於いても玄人の域に達するに至つた。

氏は之等に着手すれば、倒れても尙退かぬ性格の主であつて、之が今日の成功の因をなしてゐると云はねばならぬ。

當木村家は、同郡桐島村荒卷在の名望家出身である。のぶ夫人は内助の功多し長男信太郎氏は三條商工學校出身、秀才の人として模範的青年であつて、今は家業に努力されてゐる。

### 大河津村馬越

村會議員 黒川 與平次

黒川家は當村有数の舊家にて、又當村屈指の名望家なり。氏は村會議員其他の公職を多年歴任し、村内に隠然たる勢

力を有し、村政は常に氏の意見を考慮して決せられる所である。

長男與志雄氏は、歩兵少尉にして、郷土在郷軍人の指導訓練に當り、大いに其の事績を揚げつゝありたる所、偶々、暴支膺懲の聖戰勃發するや、勇躍召集を受けて北支に赴き、目下、彼地戦線に於て奮戦中なり。尙ほ氏は、乃木大將の崇拜者として著名なる所である。之に依り氏の人格の高潔なることの一端を知ることを得る。

斯の如く氏は、人格高潔にして、而も名門の出身なるを以て、自ら推されて幾多の公職に就く。即ち、嘗て學務委員として永年勤続したることあるのみならず現在、大河津村々會議員(當選三回)、區總代、馬越農區長、相助産業組合長等、幾多の公職を兼任し、當村の爲め貢獻する所、實に大なるものがある。

氏は又、常に進歩的なる見地より、當村の發展を企圖しつゝあり、例へば、明治四十三年七月、大河津村馬越、岩方、



田尻、入輕井、町輕井を區域とする相助産業組合を創立し、大正十年三月、保證責任に變更したるが如きは、其の顯著なる所なりとす。尙ほ氏は、國華徵兵保險の代理店をなしつつあり。

當主惇三氏は、明治四十三年十二月二十五日、故茂一氏の三男として、生をうけた。氏は天性柔和、溫厚勤勉の士であつて長兄及次兄の逝去にあひ、嚴父の後を繼ぎて、少壯乍らも斯界のため盡力するところ多く、氏を以つて同郵便局開設以來七代に亘る古き歴史を有す。

### 與板町

郵便局長 三輪 惇 三

當家は、元祿四年の開祖に係るものであつて、三輪潤太郎氏の分家として、町内有数の名家である。

先代茂一氏は、永年與板郵便局長として奉職して三等郵便局長會役員、部會長を歴任し、斯界に重きをなし、その信任まつたく厚きものがあつたが、今より七年前長逝された。のみならず當家一族はみな町内の有力者として、郷村の開発向上に盡力貢献するところ多き舊家名望の一門である。

### 與板郵便局

同局の集配受持區域は三島郡與板町、同下川西村、同黒川村の一町二ヶ

村の廣範圍に亘つてゐて、こゝに従事する人、二十餘名全員溫厚なる三輪局長の指導のもとに、隔和業務に勉勵しつつある。

尙與板町の自治功勞者として、令名高かつた故三輪振次郎氏は、現在、著名なる畫家として、將來を囑望されてゐる三輪晃勢氏と共に、同家の一族であつて、氏は此の名家の生れとして、大なる將來を約束されてゐるところの、若き努力の士である。

### 脇野町

六十九銀行 脇野町支店長 河内 道 教

氏は、明治十二年四月六日、脇野町大字上岩井、田口士部氏の男として、呱呱の聲をあげた。長じてのち、其の明晰なる頭腦の故を以て、脇野町の屈指の名望家、河内藤三郎氏の囑望する所となり、同家の養子となつた。

氏は仙臺騎兵第二聯隊に入營するや、良く軍務に精勵し、其の着實なる性格は上官の認むる所となり、優秀なる成績を以て除隊した。偶々日露戦争が勃發するや、召集を受けて下志津中央馬廠に入り己を空しくして、良く國家のため忠勤を勵み、騎兵伍長に進級して除隊した。

其の後大正七年、脇野町銀行に入るや只管精勵努力して、種々の行務に與り、迅速且つ適正に處理する點に於て、何人の追隨をも許さざるものあつた。その精進は遂に氏をして同行専務取締役の要職に就くに至らしめた。超えて同八年、同

行が六十九銀行に合併さるゝや、氏はその手腕を以て人々より囑望され、六十九銀行脇野町支店長となり、同町に於ける金融界の重鎮として現在に至つてゐる。

氏の實業界に於ける業績の大なることは、以上のことによつてその半面をうかがふことが出来る。尙ほ氏は脇野町學務委員として、それに勤続すること二十有餘年、其の教育界に効したる氏の盡力、また没すべからざるものがある。

當家長男義一氏は、三條中學出身の才幹にして、青年會副會長として、郷土青年の指導訓練に當りたることあり、また次男良治氏は長岡商業學校出身、長女みづさんは長岡高女在學中である。

### 與板町

學務委員 勝見 辰 治  
相互無盡 與板支店長

當家先代忠左衛門氏は、當町有数の有力者にして、しばしば推されて町會議員をはじめ、その他の公職に就き、良く町政の爲め、自己を滅し、公に奉ずるの誠

意を以て貢獻せし自治功勞者で、曾て表彰せらるゝの光榮に俗した。

その忠左衛門氏の四男として、呱呱の聲をあげたる當主辰治氏は、其の敏腕を以て聞えたる人にして、曾て明治二十九年より大正十三年まで與板銀行専務取締役として、或は與板町の資産家にして現町長の實父たる倉品定次郎氏の秘書として東奔西走し、與板町金融界に於ける蔭の人として、常に金融界に於ける指導的地位にありて、甚大の功績があつた。

殊に與板銀行が第四銀行と合併するまでに、氏の効したる盡力は、到底没せらるべきものでない。昭和三年、相互無盡會社與板支店設置せらるゝや、同支店長に就任し、中産階級以下に金融の圓滑を圖るの目的を以て、活動するところがあつた。

斯の如く氏の過去に於ける業績は、正に瞻目すべきものあり、現在尙ほも、與板町々會議員(當選四回)、學務委員、馬場區長等の公職にありて、當町發展の爲

に常に其の進歩的なる見地の下に、多大の貢獻を爲しつつある。同時に、實業界方面に於ても、隱然たる勢力を有してゐる。

なほ夫人は、縣立新潟高女出身の才媛にして、現町長倉品廣吉氏の令妹にして家庭圓滿なるは人の羨望する所である。因に氏は盆栽、書畫等を觀賞して、閑日月を樂しんでゐる。

### 關原町

筆墨製造 松 山 堂  
文具問屋

電話關原 五番



當松山堂は創業以來百十餘年に及ぶ老舗であつて、精練熟達せる五百餘人の職工を擁し、斯

界に君臨して廣く聞えてゐる。創業は文政年間、松田伊傳太氏に依つ